日本赤十字社診療放射線技師会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

電子会誌　第5号

６０周年　記念誌

Vol.54

2014. 5. 1　発刊

日本赤十字社診療放射線技師会　Vol. 5（電子会誌）
60周年記念号

目次

巻頭言・・・【時代をつなぐ】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
日本赤十字社診療放射線技師会　会長　清水　文孝

祝辞・・・創立60周年記念投稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
日本赤十字社　事業局長　富田　博樹

10年間の歩み
・世界の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
・歴代役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
・被表彰者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
・会員数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
・10年間の巻頭言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
・年度別　業務研修会・学術総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
・年度別　定期総会・各ブロック活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62

名誉会員　創立60周年記念寄稿
60年誌発刊をお祝いして・・・名誉会員　板橋　保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
60周年の刊行に寄せて・・・・名誉会員　横山幸夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
60周年記念に寄せて・・・・・名誉会員　星野保郎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
60周年記念寄稿・・・・・・・名誉会員　鈴木利夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211

平成25年度報告
平成25年度　日本赤十字社診療放射線技師学術総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212
日本赤十字社診療放射線技師会　学術担当理事　安彦　茂
プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
CT分科会講演「CTの被曝低減」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第49回日本赤十字社医学会総会報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・221

平成 25 年度　本会の動き

・分科会活動報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223

・ブロック活動報告

北海道ブロック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・226

東北ブロック・・230

東部ブロック・・238

中部ブロック・・241

特集・・・MRI

１．MRI 装置の最新技術と安全性

【MRI最新技術と安全性】

GEヘルスケア・ジャパン株式会社　Tipアプリケーション部　大野　俊秀、福原　大輔

MRセールス&マーケティング部　池田　陽介・・・・・・・242

【MRI 装置の最新技術と安全性】

東芝メディカルシステムズ株式会社　営業本部 MRI 営業部　山本貴雄・・・・・・・・・・・・257

【MRI 装置の最新技術と安全性】

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン

MR Modality Specialist　井上 泰吉

関東リージョン西東京ブロック 伊藤　千尋・・・・・・・・・・・262

【MRI の”ズーム撮像” *syngo* ZOOMit の原理と臨床上のメリットについて】

【吸着事後レポート】

シーメンス・ジャパン株式会社　MR ビジネスマネージメント部　石川 啓介

サービスオペレーション本部　川崎　亮・・・・・・・・・270

２．MRI 対応ペースメーカ・ICD について

【BIOTRONIK 社 条件付き MRI 対応植込み型デバイス～ ペースメーカ / ICD / CRT-D / CRT-P ～】

バイオトロニックジャパン株式会社　マーケティング部　小霜　彰・・・・・・・・・・・・・・・279

【Medtronic 社製条件付き MRI 対応ペーシングシステムについて】

日本メドトロニック株式会社　CRDM 事業部　マーケティング部・・・・・・・・・・・・・・・287

【MRI（Magnetic Resonance Imaging：磁気共鳴画像法）対応のペースメーカについて】

セント・ジュード・メディカル株式会社

フィールド・クリニカル・エンジニア　青木　公也・小西　正人・・・・293

医療安全知恵の輪～放射線部門安全編～

松江赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・301
富山赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・302
武蔵野赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・303
日本赤十字社長崎原爆病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・304
古河赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・305
日本赤十字社長崎原爆諌早病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・306
長浜赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・307
名古屋第二赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・308
函館赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・309
秦野赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・310
八戸赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・311
名古屋第一赤十字志賀病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・312
浜松赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・313
姫路赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・314
引佐赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・315
福岡赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・316
福島赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
舞鶴赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・318
広島赤十字・原爆病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・319
松山赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・320
水戸赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・321
横浜市立みなと赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・322
三原赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・323
盛岡赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・324
山口赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・325
伊勢赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・326
日本赤十字社和歌山医療センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・327
芳賀赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・328
益田赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・329
長野赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・330
沖縄赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・331
栗山赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・332
庄原赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・333
大森赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・334
山梨赤十字病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・335

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・336

時代をつなぐ（創立６０周年によせて）

日本赤十字社診療放射線技師会
会長　清水　文孝

振り返りみますと、昭和２８年１１月１５日に全日赤エックス線技師会が発会され、本年で創立６０年を迎えました。本会の発会に至るには、昭和２６年頃より日赤技師の横の連絡云々というのが始まりであり、本社衛生部のご指導をいただきながら数度の準備会が開催され、発会に至ったと伺っております。そして、昭和２９年３月３１日には全日本エックス線技師会誌が発行されました。それから６０年、伝統は脈々と受け継がれ、現在では日本赤十字社診療放射線技師会と改称され発展してまいりました。

エックス線技師法が昭和２６年に制定され、我々の身分が保証されるようになり、昭和４３年診療放射線技師及びエックス線技師法に改称され診療放射線技師の区分が新設となり、昭和５９年診療放射線技師法に改正されました。法律の内容も時事に応じて幾度となく見直されると共に学問としての位置づけも確立されたことは、言うまでありません。しかし、時事における労苦は、諸先輩方のお話を伺うにあたり、ひとえに大変だったと感じています。そして、諸先輩方の礎があったからこそ今があり、本会が未来に繋がっているものと推察いたします。

そして、６０年という区切りの年に本会の現在を担わせていただいている立場では、後輩に何が残せるか、本会の未来に何を残し、何を託せるか、それらを模索し会の活動を見つめていかねばならないと考えています。技師長という職制の名称は赤十字病院から産声を上げたと伺います。そんな伝統を踏襲し、役員一同未来に繋げて行きたいと思います。

創立５０年からのこの１０年は、正に変革の時代であったと思います。業務研修会から日本赤十字放射線技師学術総会への名称変更、日本赤十字本社から東京国際フォーラムへの会場移行、東日本を襲った大震災と津波、医療機器支援体制、政権交代から更なる政権交代と、正に変革の時代であったと思われます。そして、この時代を担っていただいた歴代の会長に敬意を表すと共に当時の役員の皆様に感謝申し上げたいと思います。また、特にＩＴの進歩は著しく、お金に替えがたい財産を構築していただいたことは、我々役員一同は更に未来を見据えた投資をしていかなければ、会員に対して情報は発信できないことも確信しております。より良い運営をめざし日々努力してまいる所存であり、そうあらなければならないと考え、実行してまいります。

赤十字での診療放射線技師としての残り少ない期間を、創立６０年の節目に携われた幸運と、これからの本会の発展を見届けて参りたいと思っております。

天の時、地の利、人の和、すべてが揃った日本赤十字社診療放射線技師会の益々の発展を祈念し、時代を繋ぐことといたします。

日本赤十字社診療放射線技師会　60 周年記念号投稿

日本赤十字社　事業局長　富田博樹

日本赤十字社診療放射線技師会創立 60 周年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。そして、日本赤十字社診療放射線技師会　60 周年記念号に寄稿をさしていただくことを光栄に存じます。

日本赤十字社診療放射線技師会の皆様は、全国の赤十字病院グループの臨床の現場で日々活躍をされておられることと存じます。我々赤十字病院グループは全国の公的病院グループの約 3 分の 1 を占めております。済生会病院グループ及び厚生連病院グループと共に日本の公的医療を支えてきております。われわれは公的病院として国から様々な支援をいただいております。その代表的なものは赤字であっても本来は払わなければならない固定資産税の免除です。さらに運営補助金、施設整備補助金などで多大な支援を国民からいただいております。これはまさに我々赤十字病院グループが国民から大きな期待と信頼をいただいている証になります。我々赤十字病院グループは人道、博愛、奉仕等の赤十字理念の下、災害救護、地域医療、救急およびへき地医療、国際支援、看護教育等を国民に約束して活動してきました。これらの活動に対する国民からの評価および信頼が我々の活動の心の支えになっています。赤十字病院グループのうち、その 40 パーセントが救命救急センターを有し、50 パーセントが、がん拠点病院、周産期センター、地域支援病院などの指定を受けています。これは他の公的病院グループと比べて 2 倍から 3 倍の病院数になり、極めて機能の高い急性期病院グループであることを示しています。また、赤十字病院グループの 1 病院平均病床数が約 400 床と他の公的病院グループよりも約 100 床多いことから、大規模高度急性期病院を多く有していることがわかります。さらに、大学病院本院の臨床実績を有すると認定された DPCⅡ群に 10 病院が選定されたことからも高機能病院が多いことが明らかです。一方へき地医療拠点病院にも 15 病院が指定を受けており、へき地医療を支える役割を果たしていることも特徴です。

このたびの診療報酬改訂の際の議論でも皆様確信されたと思いますが、世界最速のスピードで少子高齢化の世界に突入するわが国において、政府の医療費の増大への抑制への意思は強固なものであり、診療報酬の増額にはもはや多くを望めない現実があります。病院経営の効率化は待ったなしです。わが国の経済界に於いては、病院の経済状態の悪化は経営の失敗が主因であるとの意見が大勢を占めつつあります。これは公立である自治体病院を対象に述べられた意見のようですが、我々公的病院としてもしっかりと受け止めなければならない意見だと思います。公立および公的病院とほぼ同じ公的医療を行っていると見なされている社会医療法人の病院群が、しっかりとした経営を行っていることを見ての判断だと考えられます。また、民間の病院グループや国立病院機構が優れたグループ力を発揮して、良好な経営状態を維持していることも見逃すことができません。我々赤十字病院グループは、病院および病床規模、年間一兆円に迫る医業収益、5 万人を超える職員など日本最大最強の病院グループである事は間違いありません。このグループ力を生かして、さらに経営の効率化及び地域医療に対する貢献に力を注いでいかねばなりません。一昨年より本社医療事業部・看護部はさまざまな新しい取り組みを始めております。目的はただ 1 つ、グループ力の強化です。

一昨年に事業局長に就任して以来、全国の赤十字病院を訪問させていただいております。そこで各病院に共通に感じた事は、それぞれの赤十字病院が地域の人々から深い信頼を得ていることです。『安心と信頼』こそが我々赤十字病院が地域の人々からいただいている最も大切な宝物だと実感しました。
会員の皆様には、地域の人々からの安心と信頼をさらに高めていくために、診療放射線技師としての専門能力を大いに発揮し、院内におけるチーム医療に積極的に関わり、職場の業務の質の改善活動を活性化し、院外における市民たちとの交流により病院の機能そして健康や疾病の理解などにも貢献され、安心で安全な地域づくりに取り組まれることを期待しています。
私ども赤十字病院グループが目指す姿は『我が国随一の、国民からの期待に応え信頼され尊敬される病院グループ』です。皆様とともに赤十字病院全職員が力を合わせてこの目的を達成したいと願っています。

平成 15 年～平成 24 年の出来事（10 年を振り返って）

〈平成15年〉

3/19 米英によるイラク侵攻作戦開始（イラク戦争の勃発）

4/1 郵政事業庁が日本郵政公社に

6/6 戦後はじめて有事法制が成立

7/26 イラク特措法成立

9/15 プロ野球の阪神タイガースが18年ぶりにリーグ優勝

11/9 自由党が野党第1党の民主党に合流、新たに「民主党」となる。

第43回衆議院総選挙、投票即日開票

12/1 地上波デジタルテレビジョン放送が東京、大阪、名古屋で放送開始

〈平成16年〉

1/11 初の2038年問題によりATMの誤作動発生

1/12 山口県で日本国内79年ぶりの鳥インフルエンザが発生

1/19 自衛隊イラク派遣開始

4/7 イラク日本人人質事件発生

4/28 年金改革関連法案が与党賛成多数で可決

8/9 関西電力美浜原子力発電所（福井県）事故

8/13～29 アテネオリンピック

9/17・18 日本プロ野球選手会がプロ野球史上初のストライキを決行

11/1 日本で新紙幣発行

〈平成17年〉

3/25～9/25 愛知万博開催

4/25 JR福知山線で脱線事故により死者107名

9/14 郵政民営化法が可決・成立

11/15 天皇家の長女紀宮さまが黒田慶樹さんとご結婚

11/17 マンションなどの耐震偽装発覚

11/28 大相撲横綱の朝青龍が史上初の7連覇と年間6場所完全制覇を達成

〈平成18年〉

1/23 ライブドア事件で堀江貴文社長らが証券取引法違反容疑で逮捕

2/10～26 冬季トリノオリンピック、フィギュア荒川静香選手金メダル

3/20 第一回WBCで日本が優勝

7/14 ゼロ金利政策の解除

9/6 秋篠宮妃紀子さまが男子（悠仁「ひさひと」さま）ご出産

9/26 安倍晋三氏、第90代、57人目の内閣総理大臣に選出

〈平成19年〉

1/11 不二家で消費期限の偽装発覚

4/3 年金記録漏れが5千万件判明

5/28 松岡農相自殺

7/29 参院選で民主第一党に

9/12 安倍首相が退陣、後継に福田首相

〈平成20年〉

1/30 中国製ギョーザで中毒

4/1 後期高齢者医療制度がスタート

6/8 東京・秋葉原で無差別殺人

8/8～24 北京五輪で日本は金9、銀6、銅10、合計25のメダルを獲得

9/1 福田首相が退陣、後継に麻生首相

9/15 米国発金融危機が拡大

10/7・8 ノーベル物理学賞に南部、小林、益川氏、化学賞では下村氏が受賞

ノーベル賞 日本人3氏
物理学
南部氏
素粒子理
小

10/27 東京市場、バブル後最安値（7,162円）を記録

〈平成21年〉

1/20 オバマ米大統領就任

3/23 日本が決勝で韓国を破りWBC連覇

3/28 高速道の上限1千円がスタート

5/9 新型インフルエンザが流行

5/21 裁判員制度がスタート

6/4 足利事件で DNA 鑑定に誤りが判明し、菅家さん釈放

8/30 衆院選で民主党が圧勝、鳩山内閣発足

〈平成22年〉

4/20 宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」の発生を確認

6/13 小惑星探査機「はやぶさ」が帰還

6～8月 観測史最高の猛暑

7/11 参院選挙で民主党が大敗、ねじれ国会に

9/7 尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁の巡視船に激突

9/17 鳩山首相退陣、菅内閣発足

9/10 郵便不正事件で厚生労働省元局長に無罪判決

10/6 ノーベル化学賞に根岸栄一氏、鈴木章氏

〈平成23年〉

2/6 八百長が発覚し大相撲春場所の中止を決定

3/11 東日本大震災

3/12～15 福島第一原発で冷却不能になり原子炉建屋で爆発事故

7月～9月 東京電力と東北電力管内で電力使用制限令が出され、暑い夏に

7/17 なでしこジャパンがサッカーW杯で世界一に

7/24 テレビ放送が地デジに移行

9/2 野田内閣発足

9月 日本では台風、タイでは洪水による大規模な被害

11/27 大阪ダブル選挙で橋下大阪市長・松井大阪府知事誕生

〈平成 24 年〉

2/29 高さ634mを誇り、自立式鉄塔としては世界一となる東京スカイツリーが日本で竣工。

5/20 北太平洋上を中心に、中国、日本、アメリカなどで金環日食を観測

7月 九州北部豪雨。

7/27～8/12 ロンドンにて第30回夏季オリンピック開催。

10/8 山中伸弥医学博士のノーベル生理学・医学賞受賞決定。

12/2 笹子トンネル天井板落下事故

12/12 北朝鮮が人工衛星弾道ミサイルを発射

12/16 衆議院議員総選挙自民党が与党に返り咲き。

12/26 自民党の総裁・安倍晋三が内閣総理大臣に就任

歴代役員名簿

年度別	会長	副会長	監事	常任理事	地区理事	地区委員
平成 15,16 年度	星野　保郎	中村　覈郎 松尾　政明 森　正三	鈴木　利夫 黒田　順平	中里　明 岩井　計成 山縣　徳治 小川　正 川上　直志 並木　荘一 松山　繁 長永　徳秀	相澤　幹也 西村　章三 町田　充 増田　淑雅 服部　昭 益井　謙 一瀬　弘之	熊田　賢一 大隅　康之 佐藤　法行 星野　洋満 金子　彰 花岡　宏行 沢本　光正 中島　敏博 古川　裕正 西村　昭二 真貝　勝 松永喜一郎
平成 17,18 年度	松山　繁	黒田　順平 中里　明	鈴木　利夫 引屋敷聖晴	山縣　徳治 久保田利夫 川上　直志 並木　荘一 武田　宣明 益井　謙	相澤　幹也 大隅　康之 町田　充 花岡　宏行 辻　秀憲 佐藤　繁 松永喜一郎	谷川　道一 横山　高広 佐藤　法行 星野　洋満 金子　彰 月田　邦彦 沢本　光正 中島　敏博 古川　裕正 西村　昭二 真貝　勝 赤澤　武
平成 19,20 年度	益井　謙	黒田　順平 中里　明 山縣　徳治	松山　繁 鈴木　利夫	辻　秀憲 磯田　康範 久保田利夫 浅妻　厚 前川　栄寿 石田　智広 新美　孝永 清水　文孝 戸口　豊宏	川井　明彦 大隅　康之 林　智 花岡　宏行 井澤　秀恭 佐藤　繁 赤澤　武	相澤　幹也 横山　高広 佐藤　法行 星野　洋満 金子　彰 月田　邦彦 福吉　正利 森上　安一 勝間　明 西田　史生 真貝　勝 三谷　孝二

年度別	会長	副会長	監事	常任理事	地区理事	地区委員
平成 21,22 年度	益井　謙	清水　文孝 久保田利夫	鈴木　利夫 中里　明	辻　秀憲 磯田　康範 浅妻　厚 前川　栄寿 石田　智広 新美　孝永 戸口　豊宏	川井　明彦 新田　仁 林　智 山口　忠夫 中島　敏博 西田　史生 三谷　孝二	川井　明彦 横山　高広 星野　洋満 新井　一正 日置　竹志 満間　啓二 内橋　宣尚 浅妻　厚 梶谷　努 吉見　公作
平成 23,24 年度	清水　文孝	久保田利夫 石田　智広 辻　秀憲	中里　明 山縣　徳治	浅妻　厚 戸口　豊宏 前川　栄寿 山本　晃司 安彦　茂 竹安　直行 荒井　一正 牧内　正史	大沼　孝司 新田　仁 尾形　智幸 山口　忠夫 高津　安男 西田　史生 吉見　公作	川井　明彦 星野　洋満 若月　栄介 山下　光弘 満間　啓二 福田　勤也 谷口　憲二 梶谷　努 安部　一成 嶋田三賀佐

被表彰者名簿

平成 16 年

荒川　洋	水戸赤十字病院	功労賞	田村　悟郎	長岡赤十字病院	功労賞
長谷川　隆雄	松山赤十字病院	功労賞			
小林　篤	山田赤十字病院	奨励賞	施設	長浜赤十字病院	奨励賞
口井　信孝	和歌山医療センター	感謝状			

平成 17 年

増田　淑雅	名古屋赤十字病院	功労賞	服部　昭	長浜赤十字病院	功労賞
中村　裕貴	成田赤十字病院	功労賞	山本　祐司	大津赤十字病院	功労賞
石井　出一	石巻赤十字病院	功労賞	大関　魁造	長岡赤十字病院	功労賞
藤原　伸行	大分赤十字病院	功労賞			
有賀　英司	名古屋第二赤十字病院	奨励賞	西村　英明	福井赤十字病院	奨励賞
施設	福井赤十字病院	奨励賞			

平成 18 年

星野　保郎	足利赤十字病院	功労賞	松尾　政明	武蔵野赤十字病院	功労賞
森　正三	古河（猿島）赤十字病院	功労賞	中村　覈朗	名古屋第二赤十字病院	功労賞
濱本　隆明	鳥取赤十字病院	功労賞	西村　昭二	鳥取赤十字病院	功労賞
谷山　義信	福岡赤十字病院	功労賞			
高津　安男	大阪赤十字病院	奨励賞	施設	深谷赤十字病院	奨励賞
川村　佳生	和歌山医療センター	感謝状			

平成 19 年

花田　和夫	仙台赤十字病院	功労賞	小田切　楠夫	日本赤十字社医療センター	功労賞
神村　良雄	成田赤十字病院	功労賞	玉田　一	成田赤十字病院	功労賞
多賀　昭雄	岐阜赤十字病院	功労賞	永田　三千男	大阪赤十字病院	功労賞
岩見　守人	姫路赤十字病院	奨励賞	施設	松江赤十字病院	奨励賞
施設	横浜市立みなと赤十字病院	奨励賞			

平成 20 年

高橋　和弘	小清水赤十字病院	功労賞	花岡　宏行	諏訪赤十字病院	功労賞
池田　英二	伊達赤十字病院	功労賞	駿田　耕一	京都第二赤十字病院	功労賞
草田　行雄	名古屋第一赤十字病院	功労賞	林　正彦	松山赤十字病院	功労賞
中沢　正司	飯山赤十字病院	功労賞	一瀬　弘之	広島原爆病院	功労賞
施設	山田赤十字病院	奨励賞			
川村　佳生	和歌山医療センター	感謝状			

平成 21 年

関根　和正	深谷赤十字病院	功労賞	村田　稔	京都第二赤十字病院	功労賞
片岡　幸子	高知赤十字病院	功労賞	富田　啓二	福井赤十字病院	功労賞
室谷　正吾	富山赤十字病院	功労賞	道下　博行	益田赤十字病院	功労賞
西村　章三	石巻赤十字病院	功労賞	星野　憲司	釧路赤十字病院	功労賞
村山　正栄	長岡赤十字病院	功労賞	小田　秀人	函館赤十字病院	功労賞
			名倉　邦彦	引佐赤十字病院	功労賞
施設	松山赤十字病院	奨励賞	加賀　久喜	大阪赤十字病院	奨励賞
川村　佳生	和歌山医療センター	感謝状	西関　剛	長浜赤十字病院	奨励賞
			岡本　繁	京都第二赤十字病院	奨励賞

平成 22 年

小林　孝明	釧路赤十字病院	功労賞	木村　幸一	浜松赤十字病院	功労賞
市ノ渡　憲市	盛岡赤十字病院	功労賞	渡辺　和美	広島赤十字・原爆病院	功労賞
宮本　岩保	盛岡赤十字病院	功労賞	古川　和仁	和歌山医療センター	功労賞
冨原　弘之	福島赤十字病院	功労賞	中澤　直心	福岡赤十字病院	功労賞
桜井　守	小川赤十字病院	功労賞	木下　洋之	福岡赤十字病院	功労賞
友井　忠雄	横浜市立みなと赤十字病院	功労賞	山口　春雄	長崎原爆病院	功労賞
日尾　哲朗	金沢赤十字病院	功労賞	高橋　朗	長崎原爆病院	功労賞
金子　彰	髙山赤十字病院	功労賞	松山　秀夫	浜松赤十字病院	功労賞
足澤　登	日本赤十字社医療センター	功労賞			
施設	前橋赤十字病院	奨励賞	斎藤　幸夫	深谷赤十字病院	奨励賞

平成 23 年

西田　俊昭	北見赤十字病院	功労賞	松山　繁	津久井赤十字病院	功労賞
松本　幸夫	盛岡赤十字病院	功労賞	藤井　紀生	山田赤十字病院	功労賞
路野　俊雄	成田赤十字病院	功労賞	尾上　章	大阪赤十字病院	功労賞
岡庭　繁樹	前橋赤十字病院	功労賞	宮本　善夫	大阪赤十字病院	功労賞
黒田　順平	さいたま赤十字病院	功労賞	西谷　泰男	高松赤十字病院	功労賞
少路　進	武蔵野赤十字病院	功労賞	笠原　秀憲	松江赤十字病院	功労賞
鈴木　利男	日本赤十字社医療センター	功労賞	古賀　則夫	福岡赤十字病院	功労賞
川上　直志	横浜市立みなと赤十字病院	功労賞	古賀　博幸	福岡赤十字病院	功労賞
堀内　順一	秦野赤十字病院	功労賞	玉永　正博	熊本赤十字病院	功労賞
東　茂	伊豆赤十字病院	功労賞			
施設	成田赤十字病院	奨励賞	大町　繁美	長崎原爆諫早病院	奨励賞

平成 24 年

引屋敷　聖晴	武蔵野赤十字病院	功労賞	重松　味津雄	松山赤十字病院	功労賞
金子　弘孝	長岡赤十字病院	功労賞	宇野　二三代	成田赤十字病院	功労賞
大橋　正男	長岡赤十字病院	功労賞	田原　徳建	高知赤十字病院	功労賞
赤澤　武	熊本健康管理センター	功労賞	滝　健次	徳島赤十字病院	功労賞
柳澤　信男	長野赤十字病院	功労賞	川嶌　剛	長浜赤十字病院	功労賞
益井　謙	松江赤十字病院	功労賞	福島　良	小川赤十字病院	功労賞

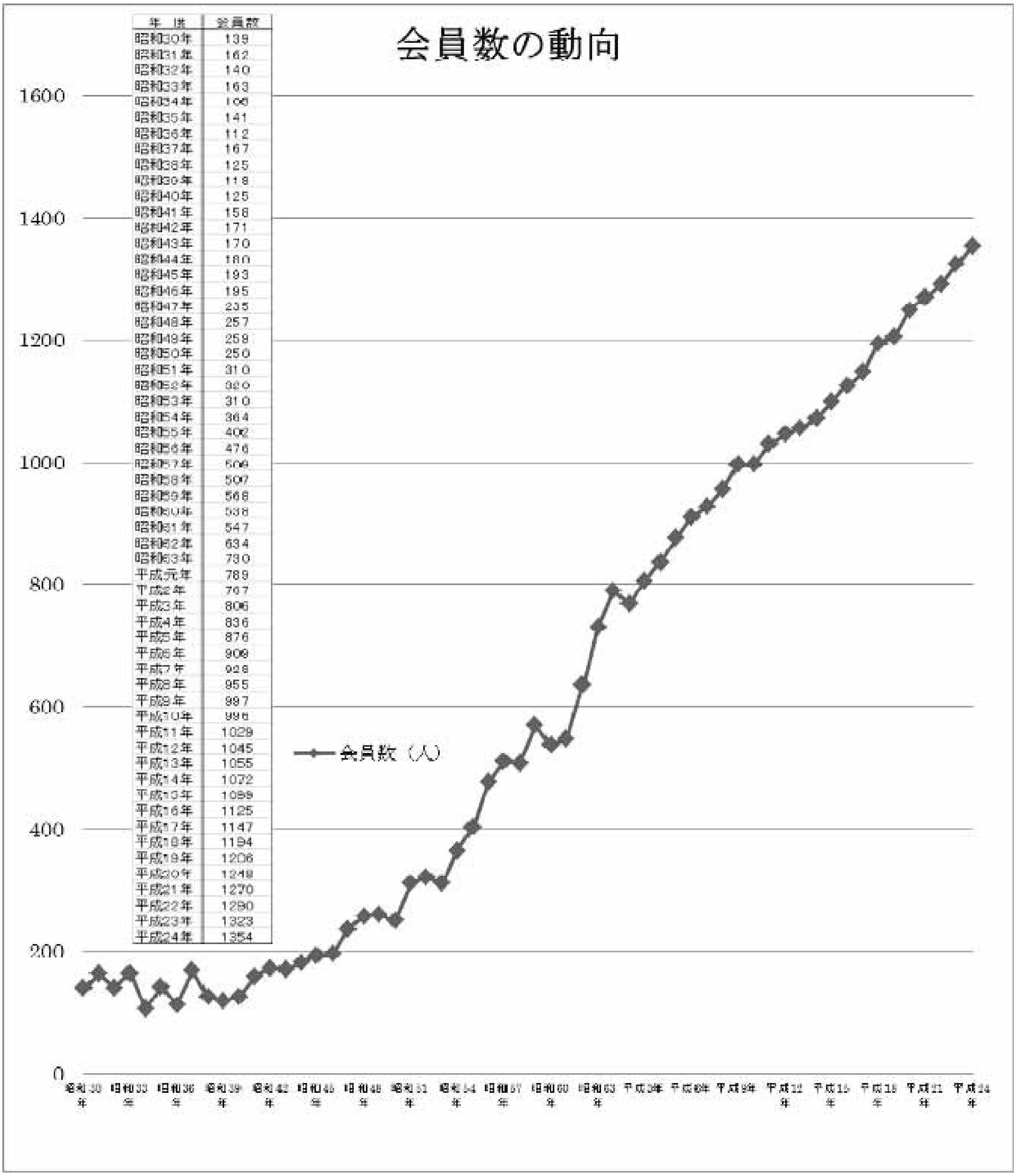
東日本大震災時日本赤十字放射線技師会に支援をしてくれた企業に対して

コニカミノルタヘルスケア株式会社	感謝状	株式会社ナナオ	感謝状
株式会社日立メディコ	感謝状	富士フイルムメディカル株式会社	感謝状
株式会社　保科製作所	感謝状		

名誉会員

益井　謙	松江赤十字病院	名誉会員	鈴木　利男	日本赤十字医療センター	名誉会員

会員数の動向



年　度	会員数
昭和30年	139
昭和31年	162
昭和32年	140
昭和33年	163
昭和34年	106
昭和35年	141
昭和36年	112
昭和37年	167
昭和38年	125
昭和39年	118
昭和40年	125
昭和41年	158
昭和42年	171
昭和43年	170
昭和44年	180
昭和45年	193
昭和46年	195
昭和47年	235
昭和48年	257
昭和49年	258
昭和50年	250
昭和51年	310
昭和52年	320
昭和53年	310
昭和54年	364
昭和55年	402
昭和56年	476
昭和57年	509
昭和58年	507
昭和59年	568
昭和60年	538
昭和61年	547
昭和62年	634
昭和63年	730
平成元年	789
平成2年	767
平成3年	806
平成4年	836
平成5年	876
平成6年	909
平成7年	928
平成8年	955
平成9年	997
平成10年	996
平成11年	1029
平成12年	1045
平成13年	1055
平成14年	1072
平成15年	1099
平成16年	1125
平成17年	1147
平成18年	1194
平成19年	1206
平成20年	1248
平成21年	1270
平成22年	1290
平成23年	1323
平成24年	1354

10 年間の巻頭言 平成 16 年度―巻頭言―

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

「高齢化社会を迎える病院」

日本赤十字放射線技師会
会　長　星　野　保　郎

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

世の中は IT 化の波が押し寄せている。いまさら言うまでも無いが我々が勤務する医療施設も例外ではない。しかし、これから迎える超高齢化社会、IT の波に飲まれて高齢者は身動きできなくなってしまうのではないかと危惧してしまう。

待合室に絵画をかざり、やわらかい照明とともに静かな BGM を流し、エスカレーターに乗って 2 階の診療待合室へ、これらの空間はホテルのロビーと間違うほど立派な病院が増えている。

慣れてしまえば清潔で機能的で受信しやすい病院かもしれないが、これから迎える超高齢化社会に生きる人たちが受診しようとしたとき、IT 化された病院が高齢者たちに本当にやさしい病院なのだろうか？

患者様が来院すると最初の関門が自動受付機（タッチセンサーなどに慣れていないため）、診察券を入れ受診科を押し確認を押す。第二の関門が受け付け終了後、小さい紙に受付番号がプリントされ診察券とともに返却される（紙が小さいため紛失しやすい、文字が小さく読みにくい）。
第 3 の関門が受診科の前でモニターに映し出される番号をじっと待つ（同じような英語や数字が出て解らなくなってしまう、患者様がなかなか入ってこないので看護師が待合室に出て診察室に呼び入れる）、やっと医師や看護師と話が出来る。この間 1~2 時間高齢者の不安は幾許のものだったか。
診察が終わって　ほ！　とする間もなく、次回の診察の予約・会計・院外処方、次から次へと IT の関門が待ち受けている。
多くの病院が総合案内等、初めて来院する患者様に不安不便のない様配慮しているが、混雑する時間帯に本当に患者サービスが出来る人員を配置しているか疑問が残る。

病院の機能を追求するあまり、来院する患者様の年齢を考えずに進める IT 化が、これから迎える高齢化社会に逆行しているように思えてならない。勿論、患者様から見えない部分の IT 化は効率性、正確性等を考慮すれば積極的に導入すべきと思う。

10 年前の病院は診察券を受付に提示し、受付の人が患者様に直に対応し「1 階の〇〇科の前で待っていてください。2 階の××科の前で待っていてください。今日は少し混んでいますから診察までに何十分くらいかかりますよ」と、日常的に人と人の会話があり、その中には人のぬくもりが感じられた。今はあまりに無機質で人間が癒しを求めてくる施設とかけ離れつつあるように思える。

私たち放射線技師の世界もデジタル化の波が怒涛のように流れ込んできている。しかし、私たちは患者様を相手にする職業であり、患者様へのサービスの一環として如何に正確で多くの情報を提供できるか、そのためにコンピューターが取り入れられていることを忘れてはならない。これからの時代患者様に話しかけ、手を添え、更衣を手伝い、時には患者様の愚痴を聞いて相談相手になる等、人間味豊かな放射線技師になることを心がけなければならない。
自分が 80 才、90 才になって受診した時、放射線技師にどんなことをしてもらえば嬉しいかを常に考えて行動すれば、自ずと患者様から信頼される放射線技師になると思う。

被　写　界　深　度

長野赤十字上山田病院

会　長　松山　繁

2005 年は元旦から全国で偽札騒ぎが起き、不安な幕開けの始まりでした。振り込め詐欺、ライブドア騒動、脱線事故、台風、誘拐、設計偽装等々と続き毎日、新聞・TV 等の報道があり不安定要素がたくさんありました。明るくうれしい話題としては、愛知万博の開催、黒田氏と清子様の結婚や、ヤンキース松井氏の 62 億円契約のニュース等もあり、目の離せない状態でした。

写真用語の中に被写界深度という用語があります。絞りの効果的な使用により手前のみにピントを合わせ、後ろをぼかす、真ん中にピントを合わせ、前後をぼかす方法です。全てにピントを合わせるには、絞りを最大限に絞れば可能となりますが、そこに相反則不軌の法則がはたらいて思い通りにはいかないものです。絞りの使い方により奥行きのある作品、フラットな作品等個性的な作品ができ上がります。

この被写界深度と同じように我々の業務内容も多岐にわたってきております。また、他職種と重複する部分も今後まだ出てきそうな雰囲気もあり、ある部分のみをとらえ業務を行っていく事の難しさがあるのではないでしょうか。

病診連携のように、医療の品質を向上させる仕組みで大規模病院と小規模病院でかかりつけ医機能を持つ診療所が密接に連携することの大切さ。EBM（根拠に基づいた医療）統計学的疫学をその信頼度に応じて分類し、より客観的判断をしようとするものやインフォームドコンセント、クリティカルパス、CS、MRM 等直接の業務ではなくても間接的に関わっていかなければならない部分の大幅な増加や、又現在、特定機能病院を中心で実施されている DPC（診断群分類別包括評価）等が実施された場合、少なからず影響が出てくる中で、今後前後左右どの方向にも気を配り、チーム医療の一員として自覚していかなければならない。政府が推奨している、クールビズ、ウォームビズも時期を見据えて行動参加の一部と思われます。

全国組織の技師会として今後の動向に常に関心をもち、会員 1 名 1 名が、有意義に参加のできる技師会となるよう努力に努め、足元をしっかりと見据えて行動していくように心がけていかなければならないと考えております。今後とも会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

「地　産　地　消」

長野赤十字上山田病院

会　長　松山　繁

平成 18 年度の幕開けも医療界にとって又大変な年となりました。「後期高齢者医療制度の創設」「公的医療保険の給付範囲の見直し」「診療報酬制度に連動した医療費適正化計画の策定」「公的医療機関と同等の機能を持つことができる社会医療法人の創設」となり今後の見通しの悪さが感じられます。全体 3.16％ダウンの医療点数の改訂となり細部にわたり揚々な改革が行われてきております。具体的には、CT の多列化による改訂や、MRI 磁場強度により点数に差が出るような改訂があり、今後の見通しが立たない施設も出てきているのが現状と思います。今後生き残りをかけていくためには、新しい発想と工夫が必要になるものかと思います。

明るい話題としては紀子様に男児が誕生し、経済効果は 1 兆円にもなるロイヤルプリンス効果が上げられます。悠仁様のご神木は、長野県の木曽 5 木の中の一つで、直径 1m で 30m 程まっすぐに育ち加工に際しても狂いが無く非常に利用価値が高く珍重されております。医療界もこのようにまっすぐのびてほしいと思います。

地産地消

地産地消という言葉は使用されて久しいが、各地域でも地場産業を大切にし、地元のものは地元での特色を強く打ち出してきております。

特に最近では、街のコンビニも全国統一した味ではなく、地方の味を取り入れて特色を出している現状があります。

医療界も同じではないでしょうか。各地域場所により医療の性質が異なるのではないでしょうか。

イミダスによる解釈では

①輸送コストの低減②鮮度の維持③生産者と消費者との信頼関係の構築④農業の担い手の育成⑤地域経済への貢献等が上げられます。

医療の現場にたとえると、①移動手段に頼らなくても通院できる近くの病院②疾病の早期発見、早期治療③地元に根付いた医師、医療従事者と患者様との信頼関係での成り立ちで安心医療④魅力的な医療施設による医師、医療従事者の確保⑤予防医学を充実する事で、健康で疾病が少なく地域に貢献できる。等とおきかえられるのではないでしょうか。安心　安全　信頼に足る医療を構築するための努力は地元生産　地元消費　地元でつくられたものを地元で消費する事が、常に必要で消費者からみると、新鮮・安心・それに安価であると思われます。

DPC も大切です。ただ何時、かけられたはしごがはずされてしまうかわかりません。その中で地元で医療をうける患者様を大切にし、地域に根付いた安心安全な医療機関として生き残っていかなければならないと感じる事が多々あると思われます。

今後の情勢を見ていき適切な判断力を身につけ無ければと思います。

建築業界での地産地消では、地元での談合に用いられ悪い意味で使用されてしまい大変残念に思います。

＊＊

日本赤十字放射線技師会
会 長　　益 井 謙

知 行 合 一

――我々の「もっとクロス！計画」――

時は幕末。元治元年（1864 年）8 月頃の事。幕末史を飾る英雄 3 人が残した有名なエピソード。勝海舟（当時 41 歳）に紹介され、京都の薩摩藩邸に西郷隆盛（当時 37 歳）を坂本龍馬（当時 29 際）が尋ねる。神戸の海舟の元に戻った龍馬は、西郷を評して「---　なるほど西郷というやつは、わからぬやつだ。少しくたたけば少しく響き、大きくたたけば大きく響く。もし、ばかなら大ばかで、利口なら大きな利口だろう---」（氷川清話）と報告。海舟は、「評する人も評する人、評される人も評される人。」と感嘆した。

英雄天才は往々にして間が抜けて見えるもの。当時の英傑漢をたくさん知る龍馬にして、大西郷が大ばかに見えた卓見は凄みがあるし、打てば響く西郷の鐘（器）の計り知れぬ大きさを、30 歳に届かぬ青年が定量化した洞察力に感心する。そして、龍馬が、西郷をどのくらいで撞けば、高らかに鳴るかを見切った（おそらく一瞬で）迫力がつたわってくる。そして 1 年半後、この青春真っ盛りの、幕臣と重臣と脱藩志士たちが築いた溶鉱炉から、薩長連合の熱き銑鉄が流れ出る。

しかし、大西郷とはいかないまでも、ひとは誰も打ち手と撞木によって、大きく打てば大きく響く可能性と容量を天性として持っている。また、小さく打っても大きく響く素地と組成を持っているものもいる、鳴らない鐘はないし、打たなければ鳴らない。

平成 19 年 8 月。日本赤十字放射線技師会は、今回、メーリングリスト（ML）の埃を払い、ホームページを（HP）を繕い直して、学術分科会（CT、MR、乳房画像）を立ち上げた。会員全員で編纂する JRCART－PEDIA（日赤放技ニュース 20 年第一号巻頭言参照）、「賢者の石垣」造りの端緒である。その石垣の上に、鐘楼を建て、各会員がそれぞれ鐘を鳴らす。技量の鐘、学術の鐘、（世話人からの）叱咤の撞である。そして、会員同士の共鳴により、自己の響きと他施設の音色を

聞き分ける。自分なりの撞木と、鐘の資質を相互で確認する音の狼煙（のろし）である。龍馬は西郷鐘をたたく撞木の小ささを自分に例えて謙遜したが、実に、薩長連合の大鐘鳴を天下に響かせる大撞木であった。当時、回天の最善策と誰もが知っていて、誰もが遺らなかった事を、その大撞木で撞き、全国に響かせた。薩長連合、大政奉還、船中八策（五箇条のご誓文の原風景）、みんな龍馬独りでやってのけた（と海舟は懐かしさを込めて言っている）。しかし、我々凡人は、心ひとつにして撞木縄をあつかい、大鐘を撞かなくては、全国にその活き活きとした音色を響かせられない。大同団結、心ひとつにする工夫が必要である。

芸術家や勝負師などその道のプロフェッショナルは、日毎その芸域と創造性を磨く為に命を削り、知的背水の陣を張り、自らを警鐘の場に曝す。限られた用具を使って、縛られたルールを遵守しながら。音楽家はたった5本の平行した線上・線間に音符を織り込み、無限のメロディーを創造する。演奏家は数本のピストン、絃を駆使して、無尽の音を創造する。画家は3原色を用いて、無量の色彩をカンバスに埋め尽くす。歌人は、限られた字数の中にその想念を絞り込んでゆく。力士はわずか 15 尺の土俵の内で、渾身でぶつかり白星を競う。ゴルフのクラブはきっかり 14 本で、広大な芝野の句読点のような穴をこじ開ける。チェスは64マス、将棋は81マス、碁盤は361マス、この閉塞次元で、無限で熾烈な工夫合戦を繰り広げる。

日本赤十字放射線技師会は、93施設、1200余名の会員を持ち、55年の歴史を重ねている。各施設、各会員と心ひとつにする我々の「もっとクロス！計画」を模索し工夫してきた。診療放射線技師のレゾンデートル（存在意義）とパラダイム（時代の枠組み）の認識と、時代の淘汰性への工夫を計る為に。

知恵を得、知識を溜め込み、実践し、世の為に具現化することを「知行合一」と言う。行わなければ知った事にはならないのである。知識の石垣を築いても、鐘楼の鐘を鳴らし、その響きを伝える、全国ネットの社会的活動が必要である。赤十字の使命と病者への義務と責任を果たすために。

学術分科会はその為のタスク・フォース（機動部隊）。ヒューマンネットワークをホットラインで結びつけ、普段着の付き合いを全国展開して行く。その為には限られた施設力、法的規制など限られたルールの中で、縛られた時代性の下で、創意工夫を凝らし、知恵のグローバリゼーション（集合智）を図って、知恵をスイング・バイする。現在、各施設の技師長・課長の主導管轄で教育と科部運営がなされ、ブロック単位での地域の連携の輪を広められている。が、さらに技師会が主管する学術分科会や ML、HP で、全会員をメディエート（仲介）し、時代の排他性にあらがい、適者生存の道を模索していく。本社のアクションプランである「もっとクロス！計画」とズレもブレもしていない。

270年間も続いた江戸時代。しかし、その閉鎖性、秘匿性、爛熟性により制度疲労を起こし、10余年で瓦解した。が伝統的教育文化は連綿として残った。数百年に亘って、藩校で武士の面目と誇りを指南したばかりか、村や郷では、郷校を設けて薫育した。寺子屋には幼子が集まり訓練を施され、それぞれの立場で読書階級を育て、教育育成文化を花咲かせた。その一大文化が幕末に、欧米列強の魔手からの防波堤になり、植民地化の浪を消波する布石となりえた。救国の礎となった。

学術分科会のジャンルはこれからも会員の要請を受けて増えて行き、赤十字の放射線技師教育を支え、医療を援護する。そして、封建国家、鎖国体制からの脱却のエネルギー源となった私塾のような存在になって行く気がしている。教育と医療が疲弊すると国が滅びる。そして、そのふたつを繋ぐものが、鳴り響く知行合一の鐘なのである。

＊＊
巻頭言　日本赤十字放射線技師会会誌　Vol.50
＊＊

日本赤十字放射線技師会　会　長　益井　謙

『守・破・離』

エベレスト。標高 8,848m。言わずと知れた世界の最高峰。エベレストは英名。チベット語でチョモランマ。霊峰である。山岳家の憧憬の聖山である。そのアルピニストが垂涎の体で見上げる、ピラミッド型の頂上付近は、黄金色に輝き、圧倒的荘厳さで魅了する。イエローバンドと呼ばれている。8,235m から 8,540m の 300m の幅で存在する。その南西壁を、チョモランマ層とノースコール層に挟まれて、厳然と光彩を放つ。5 億年前の大理石。テチス海の堆積物、ウミユリ、三葉虫、介形石の化石を閉じ込めている。5,000 万年前インド大陸がアジア大陸に衝突。かつて南半球にあった大陸棚は、10,000m 近く持ち上げられた。海中生物と共に。世界一高い山脈（ヒマラヤ）と世界最大の高原（チベット）の創造秘話伝説である。壮絶壮大な地球のドラマの一端である。地理学的地学的な進化論のドラマである。アルピニストはかつての海底を目指して登攀するのである。安逸な環境も、静謐な状況も何時かは一変すると言う、形而下的箴言を以ってイエローバンドは今日も燦然と輝いている。

時代は変節し、歴史はその上に堆積し、ヒトの足跡を化石として遺す。いつの時代でも、その節目は必ず存在し、歴史を補強する。「内平らかに外成る」「外平らかに天成る」と内外、天地ともに平和なれと希って付けられた『平成』も21回目の春を迎えた。そして、会員1,200余名の当会も齢55歳を超え、会誌も50号の記念を重ねる事となった。諸先輩が営々として築き上げ、連綿として継続し、粛々として活動が為されてきた証である。数々の制度的洗礼と、技術革新の波頭を越えて。病院の技術的活性の定礎となり、臨床画像のゴッドハンドとして、医療チームの要（かなめ）として、進化して来た。海底に潜んで、暗室暗黒空間で黙々と耐えてきた時代。技術革新的衝突、衝撃で、持ち上げられ、一気に陽の当たる表座敷に陣取る時代。医療経済逼迫で、巨体を持て余して滅びた恐竜伝説の轍を踏まない工夫を要する時代への変遷。変遷変革とともに適者生存を見出し、自然淘汰を未然に防ぐ智恵が必要である。HP（ホームページ）の技術的刷新、運用の機能化は、時代の節目を強化する攻めの姿勢。ホットクロス計画による、会員相互の連絡網補強。モットクロス計画による、管理者同士の結束。学術分科会（6分科会）の新設による、会員のスキル向上。本社の新機軸、「大型医療機器共同購入」への顧問的任務分担。赤十字医学会への根源的関与など、時代の揺さ振り、攪拌への柔軟対応対策。時代の趨勢、時代の表情を、会員全員で相互に洞察する時代でもある。

『人、城を頼らば、城、人を捨てん』織田信長の弁として伝承してきた言葉である。いかにも信

長が言いそうな凄味のある響きがある。群雄割拠、他の英雄豪傑の追従を超えた厳しさがある。「城を頼るにあらず」と。ケネディ大統領。『国があなたに何をしてくれるかでなく、あなたが国に何ができるか』とその就任演説で世界に問いかけた。即ち、戦国の世ならずとも、近世から鮮烈に覚悟を強いる言葉として活きている。信長やケネディの言を待たずとも、時代は、夫々の組織、各自の立場の自立と自活を促している。歴史は焦燥と憂慮を糧として、夢と希望の血肉を育てる。喧騒と戦慄の果てに、各施設の会員は赤十字の診療放射線技師の沽券を護らねばならない。HPやML（メーリングリスト）などのネットワークパワーを活かし、ネットワークパンチを時代に浴びせ続けねばならない。

ブケパロス。奔馬なれど暴れ馬。自分の影に怯える汗血馬。アレキサンドロス3世が唯一乗りこなした。智恵を凝らして。奔走、迷走する時代を乗りこなすには、智恵が必要。乗らなければただの田舎マケドニアのアレキサンドロス。乗りこなせば史上最大の帝国のアレキサンダー大王。時代を進取席巻できるか出来ないかは僅かの差。放射線科部。医療技術部放射線科。技術の粋を極めた高性能大型医療機器配備され、放射線技師が管理運用する。但し、スイッチマンに甘んじることなく、乗りこなす、使い切る事が出来ねばプロとは言えない。応用力と適応能力などが必須の条件となりうる。一方で、赤十字社の一員としての、幅広い役目がある。防災・災害救助・検診・救命救急・国際貢献等。各地各施設の取り組みは真摯になされても、大規模災害・広域救命救急体制は緊密な連携プレーが必要。又、情報ネットワーク（電子カルテ・PACSなど）を院内に網羅する役目も積極的に荷なければなら無いし、荷える立場にある。画像情報技師、コンピューター技師、そして各種認定技師など複数のライセンスを取得した会員が、又、医療技術学博士号を取得した会員がその任を積極的に背負って、現世のブケパロスを乗りこなす。技師会は、放射線科部の枠を超えた、院内組織的活動への進出と、全国の赤十字施設をその技術力と人的資源で繋ぐ準備とシステム構築の初期段階を終えたばかりである。古来、歩道や芸道では「守・破・離」とその技量や芸域の修行段階を 3文字で表す（先般、九州ブロックの若い会員が、スキルの物差しとして引用してプレゼンしていた。）。不立文字の世界を簡潔明瞭に現した言葉である。「守」は基礎。歩芸では型に相当。師匠や先輩がこの任に当たる。個や全の命運に関わる。「破」は応用。当日直や修羅場をくぐって独りで体得。技師会の関与は此処から。HPやMLの活用で自己啓発。「離」は思索、創造、自分の型。往々にしてヒトは、「守」を疎かにし「離」「破」を得ようと焦って、大成しないもの。或いは「守」だけで「破」「離」に境地があがらず、小成止まりの無念な例をひくものである。

日本赤十字社は「守」。その倫理はすべての根源。存在意義である。会員が所属する各施設は「城」。唯この「城」は自活、時立を促す「城」であり、日本赤十字放射線技師会はその会員を「破」に進化するため労を惜しまない。そして赤十字精神を内外に「離」散、突出させ、燦然と輝く会員を育てたい。エベレストのイエローバンドのように。

HP（ホームページ）を刷新。会員相互のコミュニケーションを図るホットクロス計画を打ち出して2年。諸先輩が必死で貯めた資金を足掛かりに、大いに飛翔する事が叶った。新機軸のCMS方式を導入して、会員の意見交換の場である掲示板の設置がようやく軌道に乗った。学術分科会もあらたに、情報、核医学、放射線治療を加えて6分科会に成長。
会員の学術スキルの向上の場として提供できた。

世情も医療界も平成どころか混沌騒然として来ている。会員 1,200 余名の当会も齢 56 歳を数え、会誌も 50 号の記念を迎えた。

平成 21 年度－巻頭言—

****

巻　頭　言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日本赤十字放射線技師会会誌　電子 1 号

****

『　我らのマグナカルタ　』

日本赤十字放射線技師会　会長　益　井　謙

竹富島は、沖縄県、八重山諸島。石垣島の南西 6.3km。東方には台湾が望める景勝の地。亜熱帯のサンゴ礁に囲まれた島。その岬に一本の立札が、島の意思を伝えるように立っている。『竹富憲章』である。我が国最南端から発せられているマグナカルタである。

曰く『1.売らない 2.汚さない 3.乱さない 4.壊さない 5.生かす』。島を守る住民の意思である。島を守り抜く気概が込められている。島への情念と愛着に血肉をつけた島民自身の憲章である。

人間の生命と尊厳を尊ぶ、日本赤十字社の理念に通じる覚悟でもある。博愛と人道の憲章を果たすため施すため、それぞれの施設の会員は、自らの座標を守る覚悟を強いられている。

曰く、愛する病院を、職場をむざむざ『身売りしない』、赤十字の名を『汚さない』、天変地異などによる災害への医療を『乱さない』、医療チームワークを『壊さない』、赤十字の人的資源を『生かす』。

日本赤十字放射線技師会は前期より、これらすべてが混然一体となって、我々赤十字放射線技師のマグナカルタとして、息衝くように、脈打てるように、技術的、精神的支援をしてきた。そして、HP（ホームページ）や技師長 ML（メーリングリスト）などのインフラの整備の第一ステップを終えた。我々のホット・スポットである HP は、我々の活動に協賛し、共同歩調を取るメーカーがバナーとして支援して、その機能を充実する事が可能となった。

これから一年、これらコミュニケーション・アイテムを駆使し、ソフトの充実を図り、分科会活動、日赤医学会など学術分野をエンジンにして、会員の利便性と機動力の活性化を図って行かねばならない。それが、年に一度の「全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会」を自立能動的な「全国赤十字診療放射線技師学術総会」と名実ともに進化させた事にも通じ、また、会員の研究に対して「研究助成金交付事業」に参画し、会員のスキルの正当な評価を公表公認する事に繋がっている。前期就任挨拶『Die Hard（不死鳥伝説）』で、惑星探査機「はやぶさ」の帰還 2010 年 6 月までに、我々の「新生技師会（Die Hard）」と、支柱である「会員（地上の星）」の取組みと成果を恥じることなく報告できるよう努めるつもり。と約束をした。

医療情勢は刻々と時代に試練を与えているが、我々は我々のコミュニケーションツールの活用で交流を果たし、それぞれの施設のマグナカルタを堅守出来るように、新チーム（理事会）と共に絆を深め、「はやぶさ」が漆黒の試練の旅を終える、その孤高の単機の凱旋帰還に報いたい。

****
巻 頭 言　　日本赤十字放射線技師会会誌　電子2号
****

一 所 不 住

日本赤十字放射線技師会会長 益井 謙

動植物には、その活動範囲や棲息環境に必ず南限、北限がある。或いは、高低差や気温差を許容できない脆弱性を持っている。何処でも棲める特質や、何処でも繁殖できる不遜さは持ち合わせてはいない。凍てつく季節毎に、約束の地を求め、何万キロの決死の自力の旅を強要される渡り鳥。乾季には、水を求めて大移動を強制される草原の野生。僅かな気温の差を捉えて、発芽し、陽光と風雨に傀儡されて、枝を伸ばし、葉を拡げる植物。水の中や、その塩分濃度に体液を制御されている魚類。

この地球上で、何処でも生きていけるものは稀。人類はその稀な、希有な存在として、そのコスモポリタン性を謳歌して居る。そして今、ITを駆使したユビキタス・ネットワークで、何時でも何処でも、誰とでもコミュニケーションを繋げる時代が到来した。

その優位性は、まさに「鬼に金棒」状態である。

日本赤十字放射線技師会も、その「金棒」にあたるユビキタス化の強化を図って、学術的に、管理的に、防災的に、ネットワークを繋ぎコミュニケーションの質と量を上げて来た。HP は、それぞ

れ粗野に飛び交うエネルギーを、分類、分割、整理、分析して、時代を動かし時代に副うように機能アップした。未完成ながらも時代を先取したその機能は、個々の会員の若さとエネルギーの突破力に貢献し、若さゆえの好奇心、向上心を刺激続けて来た。教育や、学ぶ身には、粘着性と柔軟性が必要で、伝える側は情報選別力と忍耐力が必須の資質であるが、医療の進取的本能は、教育関係者に均しく鮮度と志操を当たり前のように求めて来る。

幸い、病院施設のなかで、技術革新や科学ポテンシャルが頭抜けて高い放射線技師集団は、混沌とした技術革新や、錯綜した技術開発を嗅ぎつけ嗅ぎわける訓練を日々行っている為、配信される情報を、粘着的柔軟性を以って学んで行きさえすれば、スキルアップに伴う存在価値が高まるであろう。法的に守られた、受動的な職制団体で無く、自己刷新を、自己啓発を仲間同士でユビキタス的に行う大勢が整って行く筈である。

人類以外の生物は、独自の分布境界線が存在し、その生物相の境界線を様々に名付けられ区分されている。ウオーレス線、ウエーバー線、ブラキントン線、八田線、渡瀬線、宮部線、三宅線などなど、歴代の生物学者が生物分布を解明して居る。

人類は、それらの分布境界線に関係なく全地球的に、「鬼神」のように拡がって、そのコミュニケーションの境界さえも「金棒」によって取り払った。そしてその「金棒」の限界と虚構性も熟知し、コントロールをしなければならない時期でもある。

院内の分布境界線を越え、全国の施設の技術革新を柔軟にコントロールして護り得る技能集団として、我々赤十字放射線技師は、益々存在感を増していけると考えている。

揺＝ｙｕｒｅｒｕ＝

日本赤十字放射線技師会　会長
清水　文孝

平成 23 年 3 月、春の帳（とばり）が降りようとしているこの時期、麗らかな日々を覆すような大地震が東北を襲った。地震だけならば、この様な被害にはならなかったであろうに。地震後に訪れた巨大津波。何もかも呑み尽くすように、地を這い、ビルを破壊し、山を崩し、内陸まで到達した。その映像は、あたかも特殊撮影された映画を見ているようでもあった。この映像に、日本全国民がどれ程心（気持ち）を揺り動かされたであろう。そして、更に追い討ちをかけたのが原発の事故である。これは今後何年もかけ、終息に向かって対応して行くことになる。この様な中、揺り動かされたものは、これだけではなかった。私達が関与する各種学会が中止、先送りなどの対応をとる中、日本赤十字放射線技師会も揺り動かされたひとつとなっていた。

ほぼ震災 1 ヵ月間、メール会議で学術総会開催についての議論を行い、全国理事会にてその結論を導き出すことになった。しかし、開催、中止、いずれにしてもなかなか決まらなかった。最終的に本社より出していただく施設への案内が出せないこと、まだまだ余震が続く中、東京直下型地震や東南海沖地震への引き金になり大地震が起きた場合、会員の安否の責任を負えないこと、この二点が最大の要因となり中止の決定がなされたのは言うまでも無い。その後、中止に伴った定期総会の対応を協議し、ホームページでの資料閲覧、紙面決済となったのは会員の皆様の周知の事実。そして、最も揺れたのは、揺れていたのは、私自身だったのかも知れない。2 月の常任理事会にて会長に推薦していただき、院内の稟議を経て推薦立候補。4 月の全国理事会の席上にて選挙管理委員会より当選が決まり、定期総会において所信表明を申し上げることで有ったが、これも儘にならない状況となった。これも私自身が、揺れたままでの新体制の船出になった理由のひとつとして上げられる。また、新たに就任していただいた役員の方々も、この揺れは影響を与えてしまったのでないかと思われる。会長がしっかりしなければ、会の存続に影響を及ぼすであろうし、これまで本会を導いて下さった先達の皆様、特に益井前会長に申し訳が立たない。少しずつ心の軌道を修正し、役員の方々のバックアップのもと、今ではしっかりと大地を踏みしめられる様になって来ている。

平成 24 年を向かえ、学術総会の準備、定期総会の準備と各役員の皆様にはご足労をおかけするが、揺れ動いた一年が終わろうとする中、一緒に大地を踏みしめ行脚して行こう。

最後に、会を運営する私自身の持論は記させていただく。1 つが、「役員は会員のために何が出来るかを考え、会員は会の事業に積極的に参加していただく」。二つ目が、「会の活性化は、ブロックの活性化、分科会の活性化がその基礎となる」ということである。これからも、全国の会員各位のご意見をいただきながら、一歩ずつ、一歩ずつ、牛歩ではあるが会の運営を担って行きたい。

進＝susumu＝

日本赤十字放射線技師会　会長
清水　文孝

平成 23 年 3 月 11 日の大震災以降､各地にて様々な復興策がとられ､着実に前進していることだろう。昨年末の政権交代（いずれの政権を支持するつもりはないが）で、更に加速するかは今後の政策が問われるかもしれないが、そんな政策に関わりなく着実に一歩一歩進んで行くだろう。また、進んで行くと信じたい。

我々日本赤十字放射線技師会の役員も当方を含め、震災後の慌ただしさや喧騒の中での出帆となり、任期が終ろうとしている。1 年目は、震災の影響の余波を諸に受けての出帆であり、暗中模索の中進んで来た。周りが見えだした 2 年は、どっしりと腰を落ち着け会務を遂行しようと努力をして来た。これらは、役員すべての方々が、私事を犠牲にして成り立ってきたと思う。着実な一歩だったかわかるのは先の事であろうが、我々は進んだと信じてやまない。そして、本会は創立 60 周年を迎える。先達の遺産を顧みながら、時代の留まることを知らない流れの中に身を置き、乗るが如くに進んで行きたいと思っており､「揺=Yureru＝」から「躍＝Odoru＝」と託した言葉は、微力ではあったが本会の前進に寄与したものと思っている。

日本赤十字放射線技師会は、平成 25 年度に創立 60 年を迎える。その歩みの中で、我々は何を託されたか､何を残せたか､と自問自答しながら進んでいかなければならない｡先達の残した足跡を振り返り､石を積むが如く託された思いに我々が更に石を積み､後輩達に託して行きたいと思う｡我々が進む道は､会員諸氏が考えるより荊の道であるが、荊の道を少しでも平坦に安息の道に代えるよう進んでいきたい。60 年と、一言でいえば一瞬の言葉であるが、その積み重ねられた足跡は偉大なものであり、尊敬の念を持ち過去を振り返りながら進んで行きたいと思う。

日本赤十字放射線技師会は、変革の時を迎えている。アナログからデジタルに移行し、一昔前では考えられないことが現実となっている。そして、更に変革を進めていかなければならない。その手法の一つが、ホームページである。次年度は会員諸氏にもっとアクセスいただき、コミュニケーションツールとしての役割を担わせ、ホームページのリニューアルを考える。これも、留まることより進むための一助としたい。また、原点を踏みしめることから「診療」という文字に未来を託すため、本会の名称を替えていかなければならないと思っている。しかし、賛否両論あろう。会員諸氏のご意見を伺いながら進めていく所存である。

更に、全国の会員 1300 名以上が、ホームページを介して情報を膨らませ、情報を育み、共有して行くことが､本会の活路であり､進＝susumu＝ということに他ならないであろう｡会員諸氏と一緒に歩み､60 年を振り返り、原点を踏みしめ、未来に託すべく進んで行くには、分科会の活動、ブロック活動、これらの活性化が不可欠であり、ホームページ共々本会の命綱であると肝に銘じ、進んでいきたいと心より思う。

年度別業務研修会・学術総会

平成 16 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄　録　集

期　　　間　　平成 16 年 6 月 23 日（水）～24 日（木）

会　　　場　　日本赤十字社　本社 201 会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 16 年度　業務研修会　プログラム

6 月 23 日（水）

9 時 30 分～10 時 10 分：受付

（資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収）

10 時 10 分～10 時 20 分

開会挨拶　　　　　　会　長　星野　保郎　（足利）

本社挨拶　　　医療事業部　石澤　宣文　部長

10 時 20.分～11 時 00 分

本社講演

「平成 15 年度赤十字病院の決算について」

病院経営対策課　野口　良樹　課長

進行　星野　保郎（足利）

11 時 10 分～12 時 00 分：会員研究発表・第 1 部

座長　古川　晴美　（松江）

1）マンモグラフィ―ポジショニング

練習用ファントムの使用と効果

下山　可南子（さいたま）

2）当院におけるマンモグラフィ―の現状

辻本　梨香　（神戸）

3）ステレオガイド下マンモトーム生検の有用性について

櫻井　勝則　（舞鶴）

4）睡眠時無呼吸症候群におけるセファログラフィの有用性

陰山　真吾　（松江）

12 時 00 分～13 時 00 分：昼食

13 時 00 分～14 時 30 分

教育講演

「世界遺産に登録された日光東照宮」

日光東照宮　　禰宜　青山　隆生　先生

座長　星野　保郎　（足利）

14 時 40 分～15 時 30 分：会員研究発表・第 2 部

座長　松尾　政明　（武蔵野）

1）当院における脳梗塞急性期血栓溶解術の検証

林　隆宏　（名一）

2）イメージングプレートのフェーディング現象が濃度変化に与える影響

有賀　英二　（名二）

3）HIS／RIS 連携と FPD／CR 混在システムの構築の実際

西村　英明　（福井）

4）コニカミノルタハンディターミナルの使用経験

清水　邦昭　（深谷）

15 時 40 分～16 時 50 分：第 51 回　定期総会

6 月 24 日（木）

9 時 30 分～10 時 30 分

教育講演

「医療と放射線防護」

放射線医学総合研究所・医学物理部

赤羽　恵一　先生

座長　山縣　徳治　（水戸）

10 時 40 分～11 時 40 分：会員研究発表・第 3 部

座長　中村　覈郎　（名二）

1）FPDI を使用した前後方向における
セットアップエラーの検証

是平　美由紀　（広島）

2）唾液腺シンチの後面撮像の有用性

玉田　一　（成田）

3）血管造影検査における面積線量計の使用経験

池田　幸弘　（大田原）

4）IVR 検査時における皮膚表面吸収線量の測定

鷲見　直弘　（大津）

5）当科における機器管理の現状

前川　栄寿　（成田）

11 時 40 分～12 時 40 分：会員研究発表・第 4 部

座長　古河　望　（北見）

1）Volume Rendering 法の 3D 処理の検討

榎津　浩人　（松山）

2）4DAS マルチスライス CT における焦点サイズの切り替えによる画質の物理評価

白崎　憲治　（旭川）

3）兵庫県災害医療センターにおける 16 列 MDCT を用いた CoronaryCTA 検査について

中田　正明　（神戸）

4）当院における CTA の有用性について

中川　亮二　（金沢）

5）頭部 3DTOF MRA における QD コイルと 8chNV コイルの比較検討

雨森　美江　（福井）

12 時 40 分～12 時 50 分

閉会挨拶　会　長　星野　保郎　（足利）

平成 17 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄　録　集

期　　　間　　平成 17 年 6 月 14 日（火）～15 日（水）

会　　　場　　日本赤十字社　本社 201 会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 17 年度　全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会日程

【6 月 14 日（火）】

9 時 30 分～10 時 10 分　受付　資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10 時 10 分～10 時 20 分　挨拶　会長　足利赤十字病院　星野　保郎
日本赤十字社　医療事業部　部長　堀野　政則様

10 時 20 分～11 時 00 分　本社講演　医療事業部　経営指導課長　神波　豊　様
進行　足利赤十字病院　星野　保郎

11 時 10 分～12 時 05 分　会員研究発表　第 1 部
座長　日本赤十字社　長崎原爆諫早病院　森　幹司

１・管理運用「当院放射線科部での病院機能評価再受審への取り組み」
名古屋第一赤十字病院　小田　哲意（オダ　テツイ）

２・その他　「災害発生時における救急患者への対応　～航空機乱気流事故を経験して～」
成田赤十字病院　渡邉　一寿（ワタナベ　カズトシ）

３・管理運用「放射線画像システムの展開（既存システムから電子カルテへの統合・再構築）
松江赤十字病院　加藤　秀之（カトウ　ヒデユキ）

４・管理運用「遠隔画像診断システムの導入と使用経験」
長野赤十字上山田病院　神谷　直紀（カミヤ　ナオキ）

５・管理運用「マンモグラフィーアンケート結果の報告（第 1 報）
～これから何を読みとらなければならないのか～」
深谷赤十字病院　宮関　佳代（ミヤゼキ　カヨ）

６・管理運用「患者様に安全に検査を受けてもらおう」
武蔵野赤十字病院　佐藤　恒輔（サトウ　コウスケ）

12 時 05 分～13 時 05 分　昼食

13 時 15 分～14 時 45 分　特別学術講演　「PET による腫瘍診断」
国立国際医療センター　第 3 放射線科（核医学）　窪田　和雄　先生
座長　水戸赤十字病院　山縣　徳治

14時55分～16時25分　特別教育講演　「高線量被曝の病理と放射線診断」

東京大学附属病院　放射線科　中川　恵一　先生

座長　名古屋第二赤十字病院　中村　覈郎

16時35分～18時00分　第52回　定期総会

【6月15日（水）】

9時00分～9時30分　本社講演　医療事業部　管理係長　串田　裕一様

進行　武蔵野赤十字病院　松尾　政明

9時41分～10時25分　会員研究発表　第2部

座長　京都第二赤十字病院　辻　秀憲

１・X線撮影「骨密度測定における腰椎と大腿骨頚部の相関関係」

諏訪赤十字病院　長田　年生（ナガタ　トシオ）

２・X線撮影「臨床の現場におけるFPDシステムの利点と問題点」

福井赤十字病院　上坂　俊輔（カミサカ　シュンスケ）

３・X線撮影「新たに導入された血管造影X線診断装置の使用経験」

京都第二赤十字病院　山添　元士（ヤマゾエ　ゲンシ）

４・管理　「心臓カテーテル検査における被曝線量低減策の検討」

松山赤十字病院　波多野　有香（ハタノ　ユカ）

５・管理　「胸部正面単純撮影における患者表面吸収線量の測定」

松江赤十字病院　秋田　大輔（アキタ　ダイスケ）

10時35分～11時30分　会員研究発表　第3部

座長　横浜市立みなと赤十字病院　川上　直志

１・RI　「Attenuation　値がiSSP3.5に及ぼす影響について」

深谷赤十字病院　清水　邦昭（シミズ　クニアキ）

２・RI　「収集STEP数がもたらすSPECT画像の影響　－心筋SPECT画像を用いて－」

松江赤十字病院　磯田　康範（イソダ　ヤスノリ）

３・RI　「当院におけるセンチネルリンパ節シンチについて」

福井赤十字病院　村上　冬樹（ムラカミ　フユキ）

４・治療　　「当院におけるバセドウ病の放射線ヨード療法の 10 年」
長岡赤十字病院　　鈴木　光男（スズキ　ミツオ）

５・MRI　　「STIR 型 SENS・DWI の至適撮像条件の検討」
日本赤十字病院和歌山医療センター　加賀　久喜（カガ　ヒサヨシ）

６・管理運用「当院における新 MRI 導入による日常業務の考察」
大阪赤十字病院　　高津　安男（タカツ　ヤスオ）

11 時 35 分〜11 時 45 分　　閉会挨拶　　会長　足利赤十字病院　　星野　保郎

11 時 45 分〜12 時 00 分　　出席証明書授与　　終了

平成１８年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄　録　集

期　　　　間　　平成 18 年 6 月 8 日（木）～9 日（金）

会　　　　場　　日本赤十字社　本社 101 会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

◇◇

平成 18 年度
全国赤十字病（産）院診療放射線技師会業務研修会プログラム

◇◇

【6 月 8 日（木)】

9：30~10：00　受付　資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10：00~10：20　挨拶　会長　長野赤十字上山田病院　松山　繁

日本赤十字社　医療事業部　部長　堀野　政則　様

10：20~11：20　本社講演「赤十字の役割」

日本赤十字社　医療事業部　次長　見澤　泉　様

進行　長野赤十字上山田病院　松山　繁

11：30~12：20　会員研究発表　第 1 部

座長　長野赤十字病院　小林　実

1.^{123}I-IMP　Graphplot 法を用いた脳血流測定法の検討

金沢赤十字病院　坂庄　政輝（サカショウ　マサテル）

2.Tc-tetrofosmin 心筋薬剤負荷シンチにおける撮像開始時間の検討

横浜市立みなと赤十字病院　小峯　里香（コミネ　リカ）

3.当院における PCI とリスクファクターの関係

益田赤十字病院　永安　英正（ナガヤス　ヒデマサ）

4.当院における注腸 X 線検査の現状（見逃しについて）

深谷赤十字病院　斉藤　幸夫（サイトウ　ユキオ）

5.当院における【カイゼン】目標を利用した一般撮影部門管理の効果

小川赤十字病院　田中 達也（タナカ　タツヤ）

12：20~13：20　昼　食

13：20~14：40　特別学術講演　「診療放射線領域におけるリスク・マネージメント」

群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部　助教授　倉石　政彦　先生

座長　前橋赤十字病院　久保田　利夫

14：50~15：50　特別教育講演　「一冊の本との出合い」

イラストレーター　藤岡　牧夫　先生

座長　長野赤十字上山田病院　松山　繁

16：00~　第 53 回　定期総会

挨　拶

研修風景

【6 月 9 日（金）】

9：00~10：20　　　会員研究発表　　　第 2 部

座長　　原町赤十字病院　　萩原　健

1.デジタル断層画像における特性

深谷赤十字病院　　　富田　欣治（トミタ　ヨシハル）

2.IP（イメージング・プレート）の使用劣化についての評価

京都第二赤十字病院　　　西本　岳（ニシモト　タカシ）

3.先天性股関節脱臼のスクリーニングX線検査における性腺防護マスクの検討

松江赤十字病院　　　中島　清貴（ナカシマ　キヨタカ）

4.マンモグラフィ専用ドライ画像記録用フィルム（DI-ML）の検討

長浜赤十字病院　　　永原　誠子（ナガハラ　トモコ）

5.マンモグラフィにおける精度管理および被ばく線量に関する研究

松山赤十字病院　　　前田　恵（マエダ　メグミ）

6.乳房撮影における検査着の検討

福井赤十字病院　　　中丁　美和（ナカチョウ　ミワ）

7.耳鼻科領域の咽頭・喉頭撮影におけるバルサルバ法の有効性

松江赤十字病院　　　川中　弘之（カワナカ　ヒロユキ）

10：30~11：20　　　会員研究発表　　　第 3 部

座長　　大阪赤十字病院　　高津　安男

1.当直時における緊急 MR 検査

名古屋第一赤十字病院　　　小栗　卓也（オグリ　タクヤ）

2.肩関節疾患における MRI 静注造影検査の有用性について

広島赤十字・原爆病院　　　冨中　宗久（トミナカ　ムネヒサ）

3.多方向観察を目的とした 3DMRDSA の検討

大田原赤十字病院　　　井戸沼　佳明（イドヌマ　ヨシアキ）

4.近畿ブロック研修会で行った部門別アンケートの結果報告について　第一報

姫路赤十字病院　　　岩見 守人（イワミ　モリヒト）

5.近畿ブロック研修会で行った部門別アンケートの結果報告について　第二報

姫路赤十字病院　　　辻井 貴雄（ツジイ　タカオ）

11：30~12：30　　　シンポジウム「災害医療」

座長　日本赤十字社医療センター　鈴木　利男

災害時医療にどう取り組むか？－災害拠点病院での放射線技師の関わりと中越地震を体験してー

長岡赤十字病院　　　捧　　　和雄（ササゲ　カズオ）

当院における災害発生時の対応について　　成田赤十字病院　　　安部　沙優花（アベ　サユカ）

災害医療への取り組み（阪神淡路大震災の教訓）

神戸赤十字病院　　　浅妻　　厚（アサヅマ　アツシ）

12：30~13：30　　　昼　食（ブロック連絡会）

13：30~13：45	閉会挨拶	会長	長野赤十字上山田病院	松山　繁
13：45~14：00	出席証明書授与	終了		

情報交換会

表彰式

平成 19 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄　録　集

期　　　間　　平成 19 年 7 月 5 日（木）～6 日（金）

会　　　場　　日本赤十字社　本社 201 会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 19 年度　全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会日程

【7 月 5 日（木）】

9：30 ～ 10：00　受付　資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10：05 ～ 10：15　挨拶　会長　長野赤十字上山田病院　松山　繁
日本赤十字社　医療事業部　部長　神波　豊　様

10：20 ～ 11：15　本社講演「赤十字の現状と課題」
日本赤十字社　医療事業部　経営指導課長　亀井　勝見　様
進行　長野赤十字上山田病院　松山　繁

11：30 ～ 12：20　会員研究発表　第 1 部
座長　京都第二赤十字病院　辻　秀憲

１．内臓脂肪計測ソフト Fat Scan の導入
大田原赤十字病院　増渕　裕介（マスブチ　ユウスケ）

２．Z-sharpening algorithm の評価と有用性
日本赤十字社和歌山医療センター　加賀　久喜(カガ ヒサヨシ)

３．当院における SOMATOM Sensation Cardiac 64 の使用経験
―自動露出機構（care dose 4D）の特性
徳島赤十字病院　赤川　拓也（アカガワ　タクヤ）

４．X 線 CT 検査における照射録作成支援と被曝線量のデータベース化の試み
山田赤十字病院　松枝　孝次（マツエダ　コウジ）

５．造影 CT で使用されている静脈留置針の質問紙(アンケート)調査
「静脈留置針の耐圧と造影剤注入速度の関係について」
庄原赤十字病院　宇山　浩文（ウヤマ　ヒロフミ）

12：20 ～ 13：20　昼　食

13：20 ～ 14：30　教育講演
「患者様に信頼されるための正しいコミュニケーションとマナー」
NHK 学園講師　山岸　弘子　先生
座長　長野赤十字上山田病院　松山　繁

14：40 ～ 15：50　学術講演「MDCT－4 列から 64 列 CT までの使用経験」
東北大学病院　放射線診断科　高瀬　圭　先生
座長　前橋赤十字病院　久保田　利夫
16：00 ～　第 54 回　定期総会

【7 月 6 日（金）】
9：00 ～ 10：10　会員研究発表　第 2 部
座長　高松赤十字病院　西谷　泰男

1．当院における胃 X 線検査説明書の作成
深谷赤十字病院　斉藤　幸夫（サイトウ　ユキオ）

2．注腸X線検査における選択式前処置法の検討
置戸赤十字病院　谷川　道一（タニカワ　ミチカズ）

3．直接変換方式 FPD　Sonialvision Safire(X 線 TV)
―任意断層再構成 トモシンセシスのシステムと画像
京都第二赤十字病院　岡本　繁（オカモト　シゲル）

4．DR 装置における IVR の線量管理に関する基礎的検討
神戸赤十字病院／兵庫県災害医療センター　松村　光章(マツムラ　ミツアキ)

5．心臓カテーテル検査・LVG での使用造影剤量の検討
深谷赤十字病院　桐生 幸恵（キリュウ　ユキエ）

6．デリバリーFDG による PET 検査の実際
名古屋第一赤十字病院　四辻　万利子（ヨツツジ　マリコ）

7．供給 ^{18}F-FDG による PET-CT 装置収集時間の画像検討
松江赤十字病院　磯田　康範（イソダ　ヤスノリ）

10：30 ～ 11：40　会員研究発表　第 3 部
座長　唐津赤十字病院　宮村　定

1．マンモトーム生検装置の使用経験
日赤医療センター　宮崎　麻衣子（ミヤザキ　マイコ）

2．女性職員に対する乳がん検診の啓発（第一報）～事前アンケートをもとに～
長浜赤十字病院　西関　剛（ニシゼキ　タケシ）

３．女性職員に対する乳がん検診の啓発（第二報）～勉強会を終えて～

長浜赤十字病院　　西関　剛

４．PACS 運用上での画像修正の原因とその分析

日赤医療センター　　丸山　大樹（マルヤマ　ダイキ）

５．MLC を使用したマントル照射について

広島赤十字・原爆病院　　大胡　文彦（オオエベス　フミヒコ）

６．本絞り分割型 MLC における Half Field 法の検証

松江赤十字病院　　坂本　晴夫（サカモト　ハルオ）

７．当院の胸部定位照射の線量精度検証

福井赤十字病院　　上坂　忠敏（ウエサカ　タダトシ）

12：00 ～ 1：00　　閉会挨拶

ブロック連絡会議（昼　食）

出席証明書授与　　終了

平成 20 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄　録　集

期　　　間　　平成 20 年　6 月　2 日（月）～3 日（火）

会　　　場　　日本赤十字社　本社 201 会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 20 年度　全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会プログラム

【6 月 2 日（月）】

9:30～10:00　受付　資料配布・会議費徴収・スライド

10:00～10:15　挨拶　会長　松江赤十字病院　益井　謙

日本赤十字社　医療事業部長　神波　豊　様

10:15～11:15　本社講演　「これからの医療体制と赤十字病院にいついて」

日本赤十字社　医療事業部企画課長　大野　博敬　様

座長　松江赤十字病院　益井　謙

11:25～12:00　日本赤十字放射線技師会 HP の紹介　名古屋第二赤十字病院　新美　孝永

12:00～13:00　昼食

13:00～15:00　55 周年特別記念講演「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」

（社）日本画像医療システム工業会　野口　雄司　先生

座長　足利赤十字病院　中里　明

15:10～15:50　会員研究発表　第 1 部　一般演題　座長　北見赤十字病院　伊藤　卓也

1.PACS 導入及び運用時にあたっての問題点とその対策

京都第二赤十字病院　西本　岳（ニシモト　タカシ）

2.放射線業務における医療安全について

松山赤十字病院　大西　寛典（オオニシ　ヒロノリ）

3.三次元再構成ソフト Astonish の効果

広島赤十字・原爆病院　原本　康博（ハラモト　ヤスヒロ）

4.当院 MRI 検査での心肺停止時における対応についての一考察

大阪赤十字病院　高津　安男（タカツ　ヤスオ）

16:00～　第 55 回　定期総会

【6 月 3 日（火）】

9:20～10:50　学術講演「知っておきたい乳腺診断の流れ」

乳房画像分科会代表世話人　さいたま赤十字病院　尾形　智幸

座長　芳賀赤十字病院　武藤　美子

11:10～12:00　会員研究発表　第 2 部　要望演題　座長　深谷赤十字病院　川合　佳代

1.職員によるマンモグラフィ検診-----施設画像認定取得に向けて

名古屋第一赤十字病院　長谷　宏美（ハセ　ヒロミ）

2.当院における他職種を含めた合同乳がん症例検討会の現状

成田赤十字病院　阿部　真波（アベ　マナミ）

3.マンモグラフィに関わるインシデンド事例と対策

神戸赤十字病院　辻本　梨香（ツジモト　リカ）

4.データベースによる乳房 X 線撮影の技術管理

北見赤十字病院　伊藤　卓也（イトウ　タクヤ）

5.デジタル乳房撮影装置における自動露出制御の管理とその重要性

名古屋第二赤十字病院　村瀬　多美（ムラセ　タミ）

12:00～13:00　　　　　　　昼食

13:00～13:50　会員研究発表　第 3 部要望演題＋分科会報告　座長　芳賀赤十字病院　武藤　美子

1.マンモグラフィにおける客観的ポジショニング評価法－乳腺組織の伸展性－

松江赤十字病院　　　古川　春美（フルカワ　ハルミ）

2.マンモグラフィにおける客観的ポジショニング評価法の一提案

松江赤十字病院　　　古川　春美

3.MR 分科会アンケート報告「各施設における乳房 MRI 検査について」

姫路赤十字病院　　　岩見　守人（イワミ　モリヒト）

4 乳房画像分科会アンケート報告

長浜赤十字病院　　　西関　剛（ニシゼキ　ツヨシ）

14:00～14:30　　会員研究発表　　第 4 部　　一般演題　　　座長　秋田赤十字病院　三浦　司

1.FPD システムにおける自動露出制御の特性把握－放射線管理の精度向上を目指す－

名古屋第二赤十字病院　　　才賀　治（サイガ　オサム）

2.電子線のカットアウト照射野における MU 算出方法の検討

浜松赤十字病院　　　布施　拓（フセ　ヒラク）

3.腹部領域における 2D－Quantum　De－noising　Filter の物理的評価

日本赤十字社和歌山医療センター　　　加賀　久喜（カガ　ヒサヨシ）

14:30～15:00　　ブロック連絡会議、出席証明書授与

平成 21 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄　録　集

期　　　間　　平成 21 年 6 月 8 日（木）～9 日（金）

会　　　場　　日本赤十字社　本社 201 会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 21 年度　全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会日程

平成 21 年度　全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会プログラム

【6 月 8 日（月）】

9：30 ～ 10：00　受付　資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10：00 ～ 10：20　挨拶　会　長　松江赤十字病院　益井　謙
日本赤十字社　医療事業部長　神波　豊　様

10：30 ～ 11：30　本社講演「日赤病院を取り巻く医療環境について」
日本赤十字社　医療事業部企画課長　大野　博敬　様
座　長　松江赤十字病院　益井　謙

11：40 ～ 12：10　特別企画「ユビキタスで技師会活動はこう変わる！
～ HP と ML の有効活用術」
日本赤十字放射線技師会　企画担当
名古屋第二赤十字病院　新美　孝永

12：10 ～ 13：10　昼　食

13：10 ～ 14：10　会員研究発表　第 1 部
座　長　日本赤十字社和歌山医療センター　井澤　秀恭

1. 冠動脈 CT 撮影時の被写体位置が画質に及ぼす影響
(コントラスト分解能及び画像ノイズの物理的評価)
大阪赤十字病院　加賀　久喜
2. 当院の心臓ＣＴ撮影技師育成における見本解析画像の作成
深谷赤十字病院　齋藤　幸夫
3. CT による内臓脂肪面積測定ソフト Fatscan1000 例の経験と
肺気腫計測ソフト LungVision の使用経験
日本赤十字社 長崎原爆諫早病院　大町　繁美
4. OPE 室 CT の使用経験
名古屋第一赤十字病院　臼井　友彦
5. MV Cone　Beam　CT　の使用経験
横浜市立みなと赤十字病院　落石　祐一

14：20 ～ 15：10　会員研究発表　第 2 部

座　長　　水戸赤十字病院　　新藤　裕之

6. 大腿骨上顆軸撮影（Epicondylar View)の検討

松山赤十字病院　　栗田　幸

7. 頭部単純 X 線撮影法の検証と新しいポジショニング法の提案
－頬骨弓軸位法と Waters 氏法を対象として－

前橋赤十字病院　　長瀬　博之

8. MRI における手関節部機能撮影補助具作成および解析の試み

大阪赤十字病院　　高津　安男

9. デジタルマンモグラフィとアナログマンモグラフィにおける
低コントラスト分解能の比較

京都第二赤十字病院　　山本　絵美

15：30 ～ 17：00　定期総会

【6 月 9 日（火)】

9：00 ～　9：50　会員研究発表　第 3 部

座　長　　熊本赤十字病院　竹野　俊一

10. FPD オーバーチューブ透視装置における術者被ばく軽減への取り組み

広島赤十字・原爆病院　古西　健太

11. 当院放射線科におけるリスクマネージメントの取り組みと課題

横浜市立みなと赤十字病院　西山　和幸

12. 可搬媒体による診療情報提供の問題

日本赤十字社 医療センター　増田　明宏

13. 災害医療におけるコメディカルの必要性
～DMAT 研修でのアンケートより～

神戸赤十字病院　中田　正明

10：10 ～ 11：40　教育講演「災害医療における放射線技師の役割
―あなたにできることは何か？―」

兵庫県災害医療センター　副センター長　中山　伸一　様

座　長　　水戸赤十字病院　山縣　徳治

11：50 ～ 12：20　ディスカッション「今から始める災害医療（仮題)」

出席者　中山　伸一先生　及び DMAT 研修修了者

進　行　　神戸赤十字病院　浅妻　厚

12：20 ～ 13：20　昼　食

13：20 ～ 14：20　　学術講演「3T MRI の使用経験

－　Siemens 社製 Magnetom Trio 3.0T－　」

MR 分科会　 仙台赤十字病院　 安彦　茂　様

座　長　　　MR 分科会代表世話人

大阪赤十字病院　 高津　安男

14：30 ～ 15：30　　優秀発表賞の表彰、ブロック会議、出席証明書授与

平成 22 年度

日本赤十字放射線技師学術総会

抄　録　集

期　　　間　　平成 22 年 6 月 10 日（木）～11 日（金）

会　　　場　　東京国際フォーラム　G409 号会議室

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 22 年度　日本赤十字放射線技師学術総会プログラム

6 月 10 日（木）

9：30〜10：00　受付

10：00〜10：10　開会式　開会宣言　日本赤十字放射線技師会会長　益井 謙

10：10〜10：50　本社講演「赤十字を取り巻く医療環境について」

医療事業部 次長　竹内 賢治 様

座長　益井 謙（会長）

11：00〜12：10　学術講演「研究課題の見つけ方・すすめ方　−CT 造影法を中心として−」

長野赤十字病院　八町 淳 様

座長　藤村 貴順（CT 分科会 盛岡）

12：10〜13：00　ランチョンセミナー①

GE ヘルスケア・ジャパン KK 事業部長　神田 宗宏 様

座長　石田 智広（福井）

13：20〜14：10　学術研究発表①　座長　八町 淳（CT 分科会 長野）

① 冠動脈 CTA における造影効果に影響する要因の検討

大阪赤十字病院　加賀 久喜

② 「死亡時画像検査」所見からの撮影条件の検討

大田原赤十字病院　中野 繁明

③ OPE 室 CT の年間使用実績とその有用性の検討

名古屋第一赤十字病院　山﨑 絵莉

④ DPC 導入による CT 検査採算性の検討

名古屋第二赤十字病院　日置 竹志

14：20〜15：10　学術研究発表②　座長　安彦 茂（MR 分科会 仙台）

⑤ ファントム実験による Gd 造影後における、in-phase ・out-of-phase での脂肪評価の検証

松山赤十字病院　松村 茂

⑥ 頚動脈内膜剥離術（CEA）術前における非造影 MR 検査についての一考察

大阪赤十字病院　高津 安男

⑦ 四肢 MRI 検査におけるコイル選択と撮像条件設定の検討

大田原赤十字病院　大谷津 崇

⑧ 放射線技術課におけるインシデント事例の統計

和歌山医療センター　渡邊 真也

15：20〜15：50　国際活動　座長　久保田 利夫（前橋）

① 海外救援活動報告

日本赤十字社 和歌山医療センター　川村 佳生

② 海外救援要因として活動するためには

日本赤十字社 和歌山医療センター　口井　信孝

16：00～17：00　総会

17：00～　ナイトセミナー

東芝メディカルシステムズ

座長　清水 文孝（深谷）

6月11日（金）

9：00～10：00　学術研究発表③　座長　川合　佳代（乳房画像分科会 深谷）

⑨ STマンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング，ターゲッティング習得のための石灰化擬似ファントムの作成

さいたま赤十字病院　北山　早苗

⑩ 1 Shot Phantom における CNR の評価

京都第二赤十字病院　楠 理恵

⑪ マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討

鳥取赤十字病院　上田 阿希

⑫ ステレオガイド下マンモトーム装置導入の報告と検討

福岡赤十字病院　桑野 さゆり

⑬ 救急撮影における脊椎固定具が胸部画像に与える影響と画像評価

秋田赤十字病院　三浦 直樹

10：10～10：50　学術研究発表④　座長　口井　信孝（和歌山医療センター）

⑭ EPID を用いた IGRT における位置照合精度の検討

成田赤十字病院　大山 淳一

⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応した MU 値検証プログラムの開発

神戸赤十字病院　西海 哲也

⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み～電子カルテ端末（RIS 端末）の有効利用～

福井赤十字病院　西川 由梨

11：00～12：10　分科会報告　座長　浅妻　厚（神戸）

①乳房検査の標準化について　MR 分科会　岩見　守人（姫路）

②検査説明用 DVD 製作について　MR 分科会　高津　安男（大阪）

③アンケート結果報告　CT 分科会　藤村　貴順（盛岡）

12：10～13：00　ランチョンセミナー②

メジフィジックス

座長　清水 文孝（深谷）

13：30～14：50　教育講演「放射線部における医療安全管理について」

京都大学医学部附属病院 放射線技師長 東村 享治 様

座長　辻　秀憲（京都第二）

15：00～15：20　ブロック連絡会議

15：20～15：40　優秀発表賞表彰式

15：40～16：00　出席証明書授与および閉会式

平成22年度　日本赤十字放射線技師学術総会
学 術 総 会 報 告

総務部　　辻　秀憲

平成22年6月10日（木）～11日（金）の2日間、会員109名（71施設）出席のもとに、東京国際フォーラムG409号室にて第1回学術総会が開催されました。今回は、本社が工事の関係で、東京国際フォーラムで開催。

挨拶には、日本赤十字放射線技師会　益井謙会長、そして、本社講演として医療事業部次長　竹内賢治様による「赤十字病院を取り巻く医療環境について」、学術講演は、CT分科会世話人　長野赤十字病院　八町淳様による「研究課題の見つけ方・すすめ方　－CT造影法を中心として―」、教育講演は、京都大学医学部付属病因技師長　東村享治氏による「放射線部における医療安全管理について」、この他に、国際活動をされている和歌山医療センターの2人による、海外救援活動報告、各分科会による報告、そして、今回、業者3社による、ランチョンセミナーやナイトセミナーを企画、GEヘルスケアジャパン社大越厚氏による「医療におけるデータ共有の現状と将来」、日本メジフィジックス社高谷佳秀氏による「平成22年度DPC改定の概要と核医学検査の位置づけ」、東芝メディカルシステム社淀健治氏による「Everyday clinical Use ～日常臨床で有用な新しい領域の3テスラVantage Titan3T～」のそれぞれの講義であった。今回も、インターネット環境を準備し、会員に提供してHPの理解をしていただいた。また、参加者に、学術総会におけるアンケートを取り、今後の総会をさらに充実させるために協力をお願いした。

会員研究発表は、16演題あり、CT、MRI、マンモ、治療その他とバラエティにとんだ研究発表で、それぞれ活発な質問や意見交換が飛びかわされ、有意義な研究発表であった。今年度も最優秀発表賞、優秀発表賞の最終選考が行われ、以下の4名の方々が受賞されました。また、今回、特別賞として、日本赤十字社の医療事業部次長賞を設け、海外救援活動の和歌山医療センターの2人が受賞されました。

最優秀発表賞

楠　理恵氏（京都第二赤十字病院）

優秀発表賞

加賀　久喜氏（大阪赤十字病院）

高津　安男氏（大阪赤十字病院）

西海　哲也氏（神戸赤十字病院）

次長賞

和歌山医療センター　川村　佳生氏、口井　信孝氏

10日（木）の午後4時からは、第57回定期総会が行われました。11日（金）の午後3時30分には、研修会が終了し、その後、各ブロック別連絡会議が行われ、午後4時には、全行程を終了しました。

以上

日本赤十字放射線技師学術総会の船出

日本赤十字放射線技師会　会長　益井　謙

その日、平成 22 年 6 月 10 日、東京国際フォーラムは、陽光を閉じ込め、多湿の東京湾の浜風を、その船型の美体になびかせていた。この日、我々の日本赤十字放射線技師学術総会は、この母船に姿を遷して新たな青史を刻む処女航海に出帆するのだ。その日、梅雨前線北上直前の天は、抜けるような青空で我々に微笑んでいた。

従来の業務研修会の旧名を廃し、学術総会として新生船出した航海日誌の一頁目は、東京フォーラム G409 より始まると記されたのである。

時代は、大航海時代の再来の如く、風雲と嵐を呼び、その荒天波乱に人々を怖気付かせていたが、フォーラムの艦橋の G409 会議場に集結した会員は、上気しながらも至って平静平穏であった。荒海を恐れぬ時代を担う者の気概は、何時でも湿れる松明を燃やすように静かな凪の様相を帯びるものなのである。

そこでは、全国の赤十字病院の担い手や舵取りが、100 名以上参集して、赤十字医学総会と棲み分けを目指した自立した新システムを理解し、能動的機能的に刷新されたパフォーマンスを、自ら淡々と努めていくのである。

そこは自然科学世界の大海原、その波頭を乗り越え、各々が積極的に活用運営勇躍する場であり、舞台なのである。学術発表は、学術分科会の長（おさ）が、航海長として取り仕切る。本社講演は燈台。眩しいが航路を照らす。学術講演や教育講演は羅針盤。知的好奇心の方向性を示し、航路の学術的方向性を確保する。災害救護や分科会報告はバラストやキール。船体を安定させ、実学の荷崩れを防ぐ。

役員である各理事は、水面下の船底で煮えたぎった内燃機関に油を注ぎ、パワーを加減する海技機関士であり、全国の通信網を制御する IT 通信士でもある。喫水線を挟み、水面上と水面下と運命共同体（船体）の協調に拠り、航跡の乱れを補正する。

今や 57 年利用した懐かしの埠頭の岸から離れ、雄々しいチームスピリットの汽笛を響かせて学問の水平線の彼方に向かって船出した。

船出の夜、7 階の最上艦橋では、満天の星の如き大都の夜景に眼を瞠りながら、向上無限の航海の安全を各々が祈願したのである。

平成 23 年度

日本赤十字放射線技師学術総会

東日本大震災のため中止となる

全国赤十字放射線技師学術総会の中止について

日本赤十字放射線技師会　会長　益井　謙

3. 11 東日本大震災は、1000 年に 1 度の未曾有さと、その被災地の広域性に因り、瞬時に多くの犠牲者と被災者を伴う大惨事となりました。此処に、深い哀悼の念とお見舞いを捧げるものであります。

日本赤十字社は、災害救助法　第 31 条に基づく災害救助の責務を担っていますが、我々赤十字放射線技師会の会員も、DMAT や救護班の一員として被災現場で引き続き救助活動を行っています。

特に、震災で誘発された福島第一原子力発電所の事故に対処する為、日本赤十字社長崎原爆病院や広島赤十字・原爆病院は、当初より福島に腰を据え、放射線被曝や放射能汚染に懸命に対処して来られました。

歴史的にどんな災禍であっても、常に救助、救済、復興、振興の順を踏み出し雄々しく再建されるものですが、今回は救助から救済までの本戦が長期化の様相を呈して来ています。そういった現状下で今後も、赤十字の一員として、診療放射線技師として、その専門性を活かした救済活動の一翼を担うことが想定されています。

当会は、例年 6 月に全国赤十字放射線技師学術総会を恒例行事とし、学術の振興と組織の運営を報告し、その活動を精査して戴いて来ました。大震災の影響が色濃く反映する時局に直面する中、4 月 22 日、全国理事会を臨戦下の赤十字本社で開催致し、様々な観点から、我々の活動について、多様な可能性を全員で協議しました。その結果、学術総会を以下の如く決議致しました。

有事の際の特例として、有事に叶った覚悟を示す決議だと思っています。時節柄、各位のご理解とご協力、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

1,平成 23 年度　全国赤十字放射線技師学術総会（23.6.7～8）は、開催中止する。
2,学術発表は、日赤医学総会（23.10.20～21）に登録の移籍を依頼するか、又は JRCART の HP 上で web 発表を奨励する。
3,第 58 回定期総会（23.6.7 予定の）は、JRCART の HP 上で web 開催とし、活動報告を審議し、会計報告は会員への周知徹底と理解を求める為、ネットワークとあらゆる通信手段を用いて行うこと。
4,今回の一連の特例事案について、常任理事並びにブロック理事は、手段と方法を尽くして会員に説明し、得心して戴くこと。

以上

平成 24 年度

日本赤十字放射線技師学術総会

期　　　間　　平成 24 年 5 月 31 日（木）〜6 月 1 日（金）

会　　　場　　東京国際フォーラム　ホール D5

日　本　赤　十　字　放　射　線　技　師　会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 24 年度　日本赤十字放射線技師学術総会プログラム

【5 月 31（木）】

9:00～9:30　受付

9:40～9:40　開会式　開会宣言　　　　　　日本赤十字放射線技師会会長

9:40～10:20　本社講演　　　　　　座長　日本赤十字放射線技師会　会長　清水　文孝（深谷赤十字）

「赤十字病院の現状と課題」

医療事業部次長　　飯嶋　喜史　様

10:30～11:30　特別講演　　　　　　座長　副会長　久保田　利夫（前橋赤十字）

「東日本大震災における石巻赤十字病院の対応」

石巻赤十字病院　第 1 放射線技術課長　及川　順一　先生

11:50～12:40　ランチョンセミナー①　　　　　　座長　加賀　久喜（大阪赤十字）

「ZIOSTATION の最新技術紹介」

13:00～14:00　災害医療分科会活動報告　　　　　　座長　副会長　久保田　利夫（前橋赤十字）

1.医療機器支援活動報告　　　　　　駒井　一洋　（名古屋第二赤十字病院）

2.放射線被ばく医療支援活動報告 1　　　　坂井　征一郎（唐津赤十字病院）

3.放射線被ばく医療支援活動報告２　　　　森　幹司　　（日本赤十字社　長崎原爆病院）

4.災害医療アンケート報告　　　　　　坂井　征一郎（唐津赤十字病院）

14:10～14:50 学術研究発表①　　　　　　座長　宇田　暢樹（小川赤十字）

1.手指の撮像における自作 Sat Pat の検討

松山赤十字病院　　高橋　奈津樹

2.静音化技術が SE 撮像へ及ぼす影響の基礎的検討

名古屋第一赤十字病院　　村井　康史

3.手術中 MRI 導入時の安全確保についての取り組み

伊勢赤十字病院　　谷貞　和明

4.安全な検査をおこなうために－3.0 テスラ MRI－

大田原赤十字病院　　佐藤　統幸

15:10～16:10　総会

16:10～17:00　イブニングセミナー　　　　　　座長　副会長　辻　秀憲（京都第二）

「医用モニタの品質管理と最新技術」

株式会社ナナオ　品質保証部　技術管理課　医療規格グループ　橋本　憲幸　先生

17:30～　　　情報交換会　7F ラウンジ

【6 月 1 日（金）】

9:00～9:30　学術研究発表②　　座長　加藤　秀之（松江赤十字）

5.画像データ外部保管サービスの導入

深谷赤十字病院　　富田　欣治

6.CT 検査予約の現状と今後への対策

和歌山医療センター　　川嶋　宏樹

7.MRI 検査業務内容の見直しをおこなって（1.0T から 1.5T、3.0T へ）

足利赤十字病院　　中室　智之

9:40～10:20　学術研究発表③　　座長　細川　博明（松山赤十字）

8.X 線防護衣の QC

武蔵野赤十字病院　　藤岡　由紀

9.体検出器を用いた X 線アナライザによる品質管理の有用性について

神戸赤十字病院　　野山　恭旦

10.診断用 CT を用いた肝機能測定ソフトの検討

伊勢赤十字病院　　森嶋　毅行

11.治療台回転精度の検証

広島赤十字・原爆病院　　渡邊　良彦

10:40～11:30　分科会報告　　座長　竹安　直行（医療センター）

1.分科会　　河本　勲則（京都第二赤十字病院）

2.情報分科会　　加藤　秀之（松江赤十字病院）

11:30～11:50　ブロック連絡会議

12:10～13:10　ランチョンセミナー②　　座長　安彦　茂（仙台赤十字）

「シーメンスの MR 最新技術」

シーメンスジャパン（株）MR ビジネスマネージメント部　　諸井　貴　先生

13:30～15:00　教育講演

「チーム医療におけるノンテクニカルスキルの重要性」

大阪大学医学部付属病院　中央クオリティマネジメント部　部長・病院教授

中島　和江　先生

15:20～15:40　優秀発表　表彰式

15:40～16:00　出席証明書授与および閉会式

年度別　定期総会

平成１６年

第51回定期総会資料

日　時　　平成16年6月23日（水）午後3時40分より

会　場　　日本赤十字社　本社201会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表　　彰
来賓挨拶
議長選出
議　　事
　1・平成15年度　会務報告
　2・平成15年度　事業報告
　3・平成15年度　決算報告
　4・平成15年度　監査報告
　5・平成16年度　事業計画案
　6・平成16年度　予算案
　7・その他
閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

平成 15 年度　会務報告

１．会員数

前年度会員数	1,086 名
新入会員数	50 名
退会会員数	37 名
現在会員数	1,099 名

２．会議ならびに事業

平成 15 年度全国赤十字病（産）院 診療放射線技師業務研修会開催	平成 15 年 6 月 3 日～4 日	日本赤十字社 201 会議室
第 50 回定期総会開催	平成 15 年 6 月 3 日	日本赤十字社 201 会議室
平成 15 年度監査(会計,会務)	平成 16 年 4 月 22 日	日本赤十字社 202 会議室
平成 15 年度理事会開催	平成 16 年 4 月 22 日	日本赤十字社 202 会議室
常任理事会　第 1 回	平成 15 年 4 月 22 日	日本赤十字社医療センター内会議室
第 2 回	平成 15 年 7 月 26 日	日本赤十字社 202 会議室
第 3 回	平成 15 年 10 月 3 日	日本赤十字社 202 会議室
第 4 回	平成 16 年 3 月 12 日	日本赤十字社 202 会議室
表彰委員会	平成 15 年 10 月 3 日	常任理事会開催時推薦事項確認
	平成 16 年 3 月 31 日	推薦締め切り
	平成 16 年 4 月 22 日	理事会開催時表彰者決定
学術部	中村副会長を中心に山縣理事による学術活動	
広報部	松尾副会長を中心に岩井理事による会誌編集活動	
	平成 16 年 2 月 1 日	会誌発行(vol.45)
企画部	松尾副会長を中心に小川理事によるアンケート分析報告 日本赤十字放射線技師会のホームページ開設に向けて	
組織調査部	森副会長を中心に川上理事による会員台帳調査活動	
財務部	森副会長を中心に長永理事による会費徴収と財務管理	
総務部	星野会長を中心に松山理事による会議運営と議事録作成	
事務局	星野会長を中心に中里理事による会務事務処理	
日赤放技ニュース発行	平成 15 年 8 月 20 日	No.1 日赤放技ニュース発行
	平成 15 年 12 月 15 日	No.2 日赤放技ニュース発行
	平成 16 年 3 月 19 日	No.3 日赤放技ニュース発行
慶事(祝電)	平成 16 年 12 月 8 日	横山　幸夫様(名誉会員)瑞宝双光章受賞祝賀会
	他 2 通	

ブロック活動報告

第 13 回北海道ブロック学術研修会	平成 15 年 9 月 27 日～28 日	当番病院　伊達赤十字病院
第 4 回九州ブロック学術研修会	平成 15 年 10 月 4 日～5 日	当番病院　長崎原爆病院
第 16 回東部ブロック学術研修会	平成 15 年 11 月 29 日～30 日	当番病院　長岡赤十字病院
第 12 回近畿ブロック学術研修会	平成 16 年 2 月 21 日～22 日	当番病院　京都第赤十字病院

各部事業報告

【広報部】　岩井　計成　(日本赤十字社　和歌山医療センター)

(1) 会誌発行について

本年度の会誌は、予定通り 2 月 1 日に発行しましたが、発送作業に手間取り会誌発送が遅れましたことをお詫
申し上げます。

(2) 会誌配布先

例年通り、会員・施設長・広告掲載社をはじめ国立国会図書館・日本放射線技師会及び広告掲載見送り会社等に配布しました。

内容は以下の通りです。

会員　1,109 部、名誉会員　7 部、施設長　92 部、日赤本社医療事業部　6 部、関係諸団体　2 部
原稿依頼者　2 部、広告掲載業者　15 部、その他　10 部　(配布部数 1,243 部、印刷部数　1,300 部)
その他は、広告未掲載会社(会誌を見て再検討していただくため)に配布し、また残りは、来年度に原稿を依頼する方々に参考として見て頂くため配布する予定です。

(3) 会誌内容

研修会報告を始め各ブロックの活動報告を掲載しました。施設紹介では、6 施設の投稿協力が得られました。そして、診療放射線技師の教育について、現在教育の現場に携わっておられる駒澤大学教授の山本先生と名誉会員・会員の方から意見を頂きました。また、多方面からの見解に耳を傾けられるように民間の先生から原稿 を頂きました。

(4) 会誌編集委員会は必要時随時開催して計画を練りました。

(5) 会誌発行に関する経費は会計決算報告の通りです。

以上

【学術部】　山縣　徳治（水戸赤十字病院）

(1)平成 15 年度全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会･50 周年記念大会において以下の様に行いました。

1・創立 50 周年記念講演　『四年制大学の診療放射線技師教育について』
駒澤大学医療健康科学学部教授　　山本　裕右先生

2・学術講演　『ヒューマンファクター工学からみた医療システムの安全性』
東京電力株式会社　技術開発研究所主管研究員　　河野　龍太郎先生
教育公演　『グレートジャーニー　地球を這って考えたこと』
武蔵野美術大学教授・医師探検家　　関野　吉春先生

3・創立 50 周年記念シンポジウム
『アナログからデジタルへ～マンモグラフィーの現状と将来』
座長：名古屋第 2 赤十字病院　　新美　孝永

シンポジスト：

福井赤十字病院	西郡　克寛氏	小川赤十字病院	田中　達也氏
益田赤十字病院	栗山　靖之氏	伊達赤十字病院	千葉　真貴子氏
大津赤十字病院	本田　真理子氏	日赤医療センター	青山　恵巳氏

4・各分野から 10 題の演題発表がありました。多忙な業務にもかかわらず、会員の皆様のご努力に深く感謝いたします。

(2) 学術表彰

奨励賞に値するとして 5 施設を表彰委員会に推薦しました。

(3) 長期活動テーマ

「CR での小児科・産婦人科系の撮影条件の最適化」としてパラメータと撮影条件の調査を行った。しかし、認識不足のため一社に偏った調査方式となり、他の二社ユーザーの施設にはご不快思いをさせてしまい、お詫び申し上げます。また、全施設から回答が得られなかった点とお聞きした点と別回答をした施設があったため、以上の三点については来年度、再調査いたします。

メーリングリスト

全国赤十字病院 96 施設の会員間の学術上、業務上の情報交換を目的としたメーリングリストを名古屋第二赤十字病院様のご厚意により開設しております。会員であればどなたでも参加できます。

申し込み方法：申込者の氏名及び所属施設を明記したメールを下記までお送りください。

art-ac-admin＠nagoya2.jrc.or.jp

以上

【企画部】　小川　正（大津赤十字病院）

今年度実施した業務・組織アンケート調査の結果を分析し、各施設における放射線部門の実態を比較検討しました。今回は救急部門をはじめ多くの項目についてお伺いいたしました。

結果集約を理事会にて報告し、会員皆様のお手元にお届けいたしました。

放射線部門業務体制の多様化への課題

学士資格取得者の待遇改善推進

各施設開催委員会等への放射線部責任者の積極的な参加推進

放射線部門の電子化への情報提供

このような課題を技師会活動に取り込んで頂くよう理事会にて提案いたしました。

また日本赤十字放射線技師会のホームページ開設に向けての検討を行いましたが、アンケートの結果からも多く会員が開設を希望しており、方向性を見出すことができました。

以上

【組織調査部】　川上　直志（横浜赤十字病院）

会員台帳の整備を目的に調査しました。広報、財務、事務局と連絡を取り合って調査をし、年度ごとに 1 枚のフロッピーで保管、管理をしました。

尚、会員の皆様には、調査にご協力いただき感謝申し上げます。

以上

【表彰委員会】　並木　荘一（成田赤十字病院）

会員及びブロック理事、各施設技師(課)長を通じて幅広く調査し、表彰規定に基好き表彰者の推薦をいただきました。

4 月 22 日の理事会で、本年度表彰対象者を下記のとおり決定いたしました。

1・功労賞 (第 2 条の 1)

荒川　洋　(水戸赤十字病院)　長谷川　隆雄　(松山赤十字病院)

田村　悟郎　(長岡赤十字病院)　敬称略　順不同

2・奨励賞 (第 2 条の 2)

［個人］　小林　篤　(山田赤十字病院)

［施設］　長浜赤十字病院　放射線科部　敬称略

3・感謝状 (第 2 条の 3)

［個人］　口井　信孝　(和歌山医療センター)　敬称略

［施設］　該当施設なし

一般会計決算報告書

収　入　の　部					支　出　の　部				
科　目	15年度予算額	15年度決算額	増　減	備　考	科　目	15年度予算額	15年度決算額	増　減	備　考
会費	3,258,000	3,264,000	6,000	3,000円×1,088名	総会研修会費	500,000	412,425	△ 87,575	総会研修会運営費
過年度会費	63,000	36,000	△27,000	3,000円×12名	会議費	1,500,000	1,211,195	△ 288,805	常任理事会・理事会費
入会金	20,000	50,000	30,000	1,000円×50名	役員活動費	119,000	115,500	△ 3,500	3,500×33名
雑収入	1,000	0	△1,000		ブロック活動費	350,000	200,000	△ 150,000	50000×4ブロック
前年度繰越金	1,112,573	1,112,573	0		表彰費	150,000	119,438	△ 30,562	賞状副賞・活動費
					学術部費	200,000	22,640	△ 177,360	活動費
					財務部費	50,000	36,116	△ 13,884	活動費
					組織調査部費	50,000	15,200	△ 34,800	活動費
					広報部費	50,000	48,520	△ 1,480	活動費
					企画部費	100,000	45,200	△ 54,800	活動費
					会誌発行費	500,000	500,000	0	会誌特別会計へ繰出し
					事務局費	400,000	315,399	△ 84,601	活動費
					慶弔費	30,000	1,050	△ 28,950	祝電その他
					基金積立金	30,000	30,000	0	特別積み立て基金へ繰出し
					予備費	425,573	0	△ 425,573	
合　計	4,454,573	4,462,573	8,000		合　計	4,454,573	3,072,683	△1381890	

残金1,389,890円は次年度へ繰越し

以上のとおり報告いたします。　財務部　長永徳秀

平成15年度会誌特別会計決算報告書

平成16年3月31日現在

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	473,934		会誌印刷・郵送費	850,500	印刷、発行費
利息収入	6	銀行振り込	通信費	43,310	切手、はがき代・送料
会誌(44号)未納広告料	130,000	5万円×1社・8万円×1社	事務消耗品費	23,556	事務用品代
会誌(45号)広告料	780,000	5万円×14社・8万円×1社	原稿依頼費	106,200	現金及び図書カード
会誌(46号)前払広告料	50,000	5万円×1社			
会誌発行費	500,000	一般会計より	次年度繰越金	910,374	
	1,933,940			1,933,940	

上記のとおり報告いたします

日本赤十字放射線技師会

広報部長　岩井　計成

平成15年度全国赤十字放射線技師業務研修会決算報告書

平成15年6月3日、4日

収入の部			支出の部		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
会費	1,160,000	10,000円×116名	通信費	43,594	抄録誌発送費
			印刷費	184,800	抄録誌印刷代
			食費	308,437	弁当代、飲料水等(2日分)
			雑費	69,550	記念品代
			会議費	207,060	会場使用料
			研修費	310,000	3名の講師謝礼
			準備調査費	36,559	
合計	1,160,000		合計	1,160,000	

総務部　松山繁

監査報告書

平成 16 年 4 月 22 日（木）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

1・平成 15 年度特別積立金

2・平成 15 年度会誌特別会計

3・平成 15 年度業務研修会決算

4・平成 15 年度一般会計決算

5・平成 15 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した結果、いずれも適正に行われていたことを認めます。

平成 16 年 4 月 22 日

監事　　鈴木　利男　(印)

監事　　黒田　順平　(印)

各部事業計画案

【広報部】　岩井　計成　(日本赤十字社　和歌山医療センター)

(1)昨年同様グローバルな見解に耳を傾けられるよう多方面からの方々に原稿を依頼するとともに、幅広い分野から今一度自分たちを見直すことが出来る会誌作りを行います。今年も、私達診療放射線技師の職務に関連した内容を取り上げ、それについて各方面の方々から意見を頂きたいと考えています。

(2)研修会や学術発表等、会としての方向性がわかるような会誌作りを行います。

(3)各委員会やブロックからの情報、各部からの報告等を十分考慮し掲載します。

(4)会員間の情報提供の場として、活用してもらえるよう考慮します。

(5)会誌発行は平成 17 年 2 月を目処に作成します。

以上

【学術部】　山縣　徳治（水戸赤十字病院）

(1)全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会における会員研究発表と教育学術講演は、会員の資質向上に役立ちその意義は大きく、平成 16 年度についても次の事項を従来通り継続していきます。

・会員の研究発表及び会誌投稿の機会を与えます。

・会員の学術表彰を受けられる機会を与えます。

(2)前年度、不備のあった［CR での小児科・産婦人科系の撮影条件の最適化］について調査内容・項目等を検討し再調査します。

(3)メーリングリストへの参加を促進し、活発な意見・情報の交換の場としていきます。会員の皆様のご協力をお願いします。

以上

【企画部】　小川　正（大津赤十字病院）

今年度は日本赤十字放射線技師会ホームページ開設を行います。

昨年度実施アンケート結果をもとにホームページが果たす役割を再検討し、会員が期待する情報が提供できるものとなるよう企画するとともに、新鮮な情報がすばやく反映できる体制を検討していきます。

なおこの分野にたけた会員でご協力いただける方がおられましたらお知らせください。

今年度より独立行政法人となった国立病院での現状を、今まで企画部にて実施したアンケート調査を基に当会活動に生かせるよう比較検討を行います。

以上

【組織調査部】　川上　直志（横浜赤十字病院）

平成 16 年度も継続して会員台帳の整備と充実を図ります。

会員の皆様のご協力をお願いします。

以上

【表彰委員会】　並木　荘一（成田赤十字病院）

表彰対象者の方は本会の名誉であり、また本会の活動のアピールともなります。本年度も表彰規定に該当する方を会員各位のご協力をいただき漏れなく調査いたします。　以上

平成16年度一般会計予算(案)

収入の部					支出の部				
科　目	15年度予算額	16年度決算額	増 減	備　考	科　目	15年度予算額	16年度決算額	増 減	備　考
会費	3,258,000	3,357,000	99,000	3,000円×1,119名	総会研修会費	500,000	500,000	0	総会研修会運営費
過年度会費	63,000	60,000	△ 3,000	3,000円×20名	会議費	1,500,000	1,500,000	0	常任理事会・理事会費
入会金	20,000	20,000	0	1,000円×20名	役員活動費	119,000	119,000	0	3,500×34名
雑収入	1,000	196,950	195,950	50周年記念事業残金	ブロック活動費	350,000	350,000	0	50000×4ブロック
前年度繰越金	1,112,573	1,389,890	277,317		表彰費	150,000	200,000	50,000	賞状副賞・活動費
					学術部費	200,000	200,000	0	活動費
					財務部費	50,000	50,000	0	活動費
					組織調査部費	50,000	50,000	0	活動費
					広報部費	50,000	50,000	0	活動費
					企画部費	100,000	200,000	100,000	活動費
					会誌発行費	500,000	700,000	200,000	会誌特別会計へ繰出し
					事務局費	400,000	400,000	0	活動費
					慶弔費	30,000	30,000	0	祝電その他
					基金積立金	30,000	50,000	20,000	特別積立基金へ繰出し
					予備費	425,573	624,840	199,267	
合　計	4,454,573	5,023,840	569,267		合　計	4,454,573	5,023,840	569,267	

平成 17 年

第 52 回定期総会資料

日　時　　　平成 17 年 6 月 14 日（火）午後 18 時 45 分より

会　場　　　日本赤十字社　本社 201 会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表　　彰
議長選出
議　　事

1・平成 16 年度　会務報告
2・平成 16 年度　事業報告
3・平成 16 年度　決算報告
4・平成 16 年度　監査報告
5・平成 17 年度　事業計画案
6・平成 17 年度　予算案
7・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

16年度事業報告

平成16年度は国の内外を問わず、自然災害が多発した年でした。技師会員の中にも被災した方がいると思いますが、心よりお見舞い申し上げます。

赤十字放射線技師会の16年度事業計画を基に事業を進め、本社研修会では日光東照宮禰宜による教育講演と、放医研の赤羽先生による放射線防護についての講演を企画実行しました。又会員の研究発表も18演題と最近になく多いとともに、10月の長野県で開催された日本赤十字医学会総会でも、放射線技術部門で17演題と年々増加しており会員の職業倫理の高揚をうかがわせます。

企画部の努力により、懸案であった赤十字放射線技師会のホームページも12月には開設されました。開設間もないためまだ不備の点もあると思いますが、徐々に充実して行こうと思います。これには会員の皆様の情報提供が必要不可欠ですので、是非ご協力をお願いします。

また医療事業部企画課長と話し合いの場を持ち、放射線技術部の必要性を訴えましたが、本社側では各赤十字病院を参考にして、各部門の標準を作成するとのことで特に進展はありませんでしたが、企画部で行なった独立行政法人国立病院機構のアンケートを参考に、今後の話し合いに望みたいと思います。

１．　会員の職業倫理の高揚に関する事業

本社医療事業部との話し合いの場を持ち、放射線技師が関与した医療訴訟、国際救援、職制等について話し合いました。

日光東照宮の　青山隆生　禰宜を講師に招き教養の向上に努めました。

２．　学術講演ならびに研究発表会に関する事業。

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を平成16年6月23日・24日の2日間本社201会議室で開催し73施設113名の参加があり、18演題の発表がありました。

又、長野で開催された日本赤十字医学会総会に多数の参加を見ると共に17演題の発表がありました。

３．　放射線安全管理の徹底及び被曝軽減に関する事業。

放射線医学総合研究所の　赤羽恵一　先生を講師に招き放射線防護について聴講しました。

４．　会誌・日赤放技ニュース・その他印刷物の発行事業

計画どおりに発行しました。

５．　会員相互の福利厚生に関する事業。

慶弔規定に則り対応しました。

６．　その他本会の目的達成に必要な事業。

ブロック研修会は4ブロックで開催しました。

平成16年12月にホームページを開設しました。

各部事業報告

【広報部】　岩井　計成　（日本赤十字社　和歌山医療センター）

（1）会誌発行について

本年度の会誌は、予定通りに平成 17 年 2 月 1 日に発行いたしましたが、会誌発送の際の不手際により、会員の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

（2）会誌配布先

例年どおり、会員・施設長・広告掲載会社をはじめ国立国会図書館・日本放射線技師会及び広告掲載見送り会社等に配布しました。

内容は以下のとおりです。

会員 1.133 部、　名誉会員　8 部、　施設長 92 部、　日赤本社医療事業部　6 部、

関係諸団体 2 部、　原稿依頼者 5 部、　広告掲載業者 14 部、　その他 11 部

（配布部数　1,271 部、　印刷部数　1,300 部）

その他は、広告未掲載会社（会誌を見て再検討していただくため）に配布しました。

（3）会誌内容

研修会報告を始め各ブロックの活動報告を掲載しました。施設紹介では、6 施設の投稿が得られ、そして、OB、会員の方から多くの投稿協力を頂きました。

特別寄稿として、武蔵野赤十字病院　医療安全推進室長・矢野先生に、「医療事故防止マニュアル不要論」と題しまして、日常の業務における我々医療スタッフの安全に対する心掛け等について原稿を頂き、泉州救命救急センター・技師長の坂下先生には、「診療放射線技師の教育について思うこと」と題しまして、実際に専修学校において学生を教えておられる教師の立場から、これからの診療放射線技師教育に必要な事を投稿して頂きました。また、グローバルな見解に耳を傾けられるよう智弁学園和歌山高校　野球部監督・高嶋先生より原稿を頂戴しました。

（4）会誌編集委員会は必要時随時開催して計画を練りました。

（5）会誌発行に関する経費は会計決算報告のとおりです。

以上

【学術部】　山縣　徳治　（水戸赤十字病院）

（1）　学術部技術報告集（1988～2002）を新美孝永氏・真野晃浩氏・日置竹志氏・中村覈郎氏（名古屋第二赤十字病院）が編集され、各施設へ配布していただきました。

（2）　平成 16 年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において以下の様に行いました。

1・教育講演　『世界遺産に登録された日光東照宮』

日光東照宮　禰宜　　青山　隆生　先生

学術講演　『医療と放射線防護』

放射線医学総合研究所　医学物理部　　赤羽　恵一　先生

2・各分野から 18 題の演題発表がありました。多忙な業務にもかかわらず、会員の皆様のご協力に深く感謝いたします。尚、各演題の抄録・スライド原稿は日本赤十字放射線技師会ホームページに掲 載いたしました。

（３）　長期活動テーマ「CR での小児胸部撮影および産婦人科骨盤計測の撮影条件と処理パラメータ」の再調査を行いました。

（４）　全国赤十字病（産）院の会員間の学術上、業務上の情報交換を目的としたメーリングリストを名古屋第二赤十字病院様のご厚意により開設しております。会員であればどなたでも参加できます。

申し込み方法：申込者の氏名及び所属施設を明記したメールを下記までお送り下さい。

art-ac-admin＠nagoya2.jrc.or.jp

以上

【企画部】　小川　正　（大津赤十字病院）

今年度は昨年行った日赤医療施設へのアンケート調査をふまえ同じ厚生労働省管轄の全国組織である国立病院機構医療施設へのアンケート調査を行い集約をレポートとしてまとめ理事会にて報告するとともに、ご協力頂きました国立病院医療施設および全国赤十字医療施設放射線科部責任者に送付致しました。

また日本赤十字放射線技師会ホームページを立ち上げ、会員への情報提供の場として活用できる土台作りを行いました。内容も新しい情報があり次第掲載し充実するように更新しています。また各ブロック情報を掲載できるよう現在各ブロックに情報提供を呼びかけています。ご協力をお願い致します。

日本赤十字放射線技師会ホームページ

HTTP　　：www．jrcart．jp

Mail Address：info@jrcart．Jp

以上

【組織調査部】　川上　直志　（横浜市立みなと赤十字病院）

平成 16 年度は会員台帳の調査開始を 4 月下旬から開始しました。総会までに今年度の会員数の把握につとめました。お手数を掛けすみませんでした。尚、会員の皆様には、調査にご協力いただき感謝申し上げます。

以上

【表彰委員会】　並木　荘一　（成田赤十字病院）

（１）　データベースにより表彰委員会にて確認した奨励賞の推薦者について各個人、施設について表彰委員にて確認を行いました。

（２）　平成 17 年 1 月に全国の日赤病院の放射線科部の技師長・課長宛と、取りまとめをお願いする日赤技師会ブロック理事・委員宛に郵送した表彰の推薦書の返信を確認してまとめました。

4 月 22 日の理事会で、本年度の表彰対象者を下記のとおり決定しました。

功労賞（第 2 条の 1）

増田　淑雅（名古屋第一赤十字病院）	服部　昭　（長浜赤十字病院）
中村　裕貴（成田赤十字病院）	山本　祐司（大津赤十字病院）
石井　出一（石巻赤十字病院）	大関　魁造（長岡赤十字病院）
藤原　信行（大分赤十字病院）	

敬称略　順不同

奨励賞（第 2 条の 2）

[個人]有賀　英司（名古屋第二赤十字病院）　　西村　英明（福井赤十字病院）

[施設]福井赤十字病院　放射線科部

敬称略　順不同

感謝状（第 2 条の 3）

個人、施設とも該当者なし

以上

平成16年度一般会計決算報告書

平成17年度3月31日現在　金額(円)

収入の部					支出の部				
科目	16年度予算額	16年度決算額	増減	備考	科目	16年度予算額	16年度決算額	増減	備考
会費	3,357,000	3,375,000	18,000	3,000×1125名	総会費	500,000	150,170	△349,830	総会運営費
過年度会費	81,000	81,000	0	14年度分-9名、H15年度分-18	会議費	1,500,000	1,099,246	△400,754	常任理事会・理事会費
入会金	20,000	42,000	22,000	1,000×42名	役員活動費	119,000	112,000	△7,000	3,500×32名
雑収入	196,950	292,086	95,136	0周年記念事業残金、研修会残金	ブロック活動費	350,000	200,000	△150,000	50,000×4ブロック
前年度繰越金	1,389,890	1,389,890	0		表彰費	200,000	75,070	△124,930	賞状副賞・活動費
					学術部費	200,000	117,395	△82,605	活動費
					財務部費	50,000	43,095	△6,905	活動費
					組織調査部費	50,000	15,300	△34,700	活動費
					広報部費	50,000	49,490	△510	活動費
					企画部費	200,000	112,564	△87,436	活動費
					会誌発行費	700,000	700,000	0	会費特別会計へ繰出し
					事務局費	400,000	316,201	△83,799	活動費
					慶弔費	30,000	2,700	△27,300	祝電その他
					基金積立費	50,000	50,000	0	特別積み立て基金へ繰り出し
					予備費	645,840	0	△645,840	
合計	5,044,840	5,179,976	135,136		合計	5,044,840	3,043,231	△2,001,609	

（平成16年度収入5,179,976-支出3,043,231＝残金2,136,745）　残金　2,136,745円は次年度へ繰越し

上記の通り報告致します　　日本赤十字放射線技師会　会長　星野　保郎（印）

財務部　森　正三（印）

平成16年度会誌特別会計決算報告書

平成17年3月31日現在

収入の部			支出の部		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	\910,374		会誌印刷・郵送費	\850,500	印刷、発送費
利息収入	\5	銀行振込	通信費	\36,480	切手、はがき代・送料
会誌(46号)広告料	\680,000	5万円×12社・8万円×1社	事務消耗費	\6,691	事務用品代
会誌発行費	\700,000	一般会計より	原稿依頼費	\130,500	現金及び図書カード
			次年度繰越金	\1,266,208	
	\2,290,379			\2,290,379	

上記の通り報告いたします　　日本赤十字放射線技師会　　広報部　岩井　計成(印)

平成16年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

平成17年3月31日現在

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	\1,098,588	内 1,000,000円は定期預金
16年度積立金	\50,000	一般会計より繰り入れ
利息収入	¥4	
合 計	¥1,148,592	次年度繰越金

上記の通り報告いたします　　日本赤十字放射線技師会　　会長　星野　保郎(印)

平成16年度全国赤十字放射線技師業務研修会決算報告書

平成16年6月23,24日

収入の部			支出の部		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
会 費	\1,110,000	10,000円×111名	通信費	\53,490	事前資料印刷、送付
			印刷費	\181,960	抄録集印刷代
			会場　機器使用料	\474,640	食費2日分、記念品代
			研修費	\190,000	2名の講師謝礼
			ネーム入れ　名札	\53,025	修了証印刷代
			準備調査費	\71,777	
	¥1,110,000			¥1,024,892	

残金85,108円(一般会計へ繰越)

上記の通り報告いたします　　日本赤十字放射線技師会　　総務部　松山　繁(印)

各部事業計画案

【広報部】　岩井　計成　（日本赤十字社　和歌山医療センター）

（１）昨年同様グローバルな見解に耳を傾けられるよう多方面からの方々に原稿を依頼するとともに、私達診療放射線技師の職務に関連した内容を取り上げ、それについて各方面の方々からの意見を頂戴したいと考えています。

（２）研修会や学術発表等、会としての方向性がわかるような会誌作りを行います。

（３）各委員会やブロックからの情報、各部からの報告等を十分考慮し掲載します。

（４）会員間の情報提供の場として、活用してもらえるよう考慮します。

（５）会誌発行は平成 18 年 2 月を目処に作成します。

以上

【学術部】　山縣　徳治　（水戸赤十字病院）

（１）　全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会における会員研究発表と教育学術講演は、会員の資質向上に役立ちその意義は大きく、平成 17 年度についても次の事項を従来通り継続していきます。

・会員の研究発表及び会誌投稿の機会を与えます。

・会員の学術表彰を受けられる機会を与えます。

（２）　メーリングリストへの参加を促進し、活発な意見・情報の交換の場としていきます。
会員の皆様のご協力をお願いいたします。

以上

【企画部】　小川　正　（大津赤十字病院）

企画部が立ち上がり早 4 年となります。今まで行った 3 回のアンケート調査をもとに赤十字医療施設の現状把握、また組織編成を行った国立病院機構医療施設との比較検討課題を再検討し、当会活動に取り入れていけるよう企画検討致します。

また昨年度開設したホームページの活用法を検討し、会員各位に有効利用して頂けるよう企画するとともに、一般市民への啓蒙情報も掲載していく予定です。会員からの投稿も歓迎します。

以上

【組織調査部】　川上　直志　（横浜市立みなと赤十字病院）

平成 17 年度も継続して会員台帳を充実させていきます。
会員の皆様のご協力をお願いします。

以上

【表彰委員会】　並木　荘一　（成田赤十字病院）

表彰に該当する会員の情報をできるだけ表彰委員に伝えやすいやり方を考えております。具体的には、今後検討していきたいと考えております。

以上

平成 17 年度予算（案）

金額(円)

収入の部					支出の部				
科目	16年度予算額	17年度予算案	増減	備考	科目	16年度予算額	17年度予算案	増減	備考
会費	3,357,000	3,447,000	90,000	3,000×1149名	総会費	500,000	650,000	150,000	総会運営費
過年度会費	81,000	12,000	△69,000	3000×4名	会議費	1,500,000	1,500,000	0	常任理事会・理事会費
入会金	20,000	20,000	0	1,000×20名	役員活動費	119,000	119,000	0	3,500×34名
雑収入	196,950	20,000	△176,950		ブロック活動費	350,000	350,000	0	50,000×7ブロック
前年度繰越金	1,389,890	2,136,745	746,855		表彰費	200,000	200,000	0	賞状副賞・活動費
					学術部費	200,000	200,000	0	活動費
					財務部費	50,000	100,000	50,000	活動費
					組織調査部費	50,000	50,000	0	活動費
					広報部費	50,000	100,000	50,000	活動費
					企画部費	200,000	200,000	0	活動費
					会誌発行費	700,000	700,000	0	会誌特別会計へ繰出し
					事務局費	400,000	500,000	100,000	活動費
					慶弔費	30,000	30,000	0	祝電その他
					基金積立費	50,000	250,000	200,000	特別積立基金へ繰出し
					予備費	645,840	686,745	40,905	
合計	5,044,840	5,635,745	590,905		合計	5,044,840	5,635,745	590,905	

以上、日本赤十字放射線技師会 平成17年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会　会長　星野 保郎（印）

財務部 森　正三（印）

平成18年

第53回定期総会資料

日　時　　　平成18年6月8日（木）午後0時00分より

会　場　　　日本赤十字社　本社201会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表　　彰
議長選出
議　　事

1・平成17年度　会務報告
2・平成17年度　事業報告
3・平成17年度　決算報告
4・平成17年度　監査報告
5・平成18年度　事業計画案
6・平成18年度　予算案
7・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

平成 17 年度　会務報告

１．会員数　（平成 18 年 3 月 31 日付け）

前年度会員数	1,129　名
新入会員数	45　名
退会会員数	24　名
現在会員数	1,150　名

２．会議ならびに事業

平成 17 年度全国赤十字病（産）院 診療放射線技師業務研修会開催	平成 17 年 6 月 14 日～15 日	日本赤十字社 201 会議室
第 52 回定期総会開催	平成 17 年 6 月 14 日	日本赤十字社 201 会議室
平成 17 年度監査(会計,会務)	平成 18 年 4 月 28 日	日本赤十字社 202 会議室
平成 17 年度理事会開催	平成 18 年 4 月 28 日	日本赤十字社 202 会議室
常任理事会　第 1 回	平成 17 年 4 月 22 日	日本赤十字社 202 会議室
第 2 回	平成 17 年 7 月 29 日	日本赤十字社 403 会議室
第 3 回	平成 17 年 10 月 28 日	日本赤十字社 403 会議室
第 4 回	平成 18 年 2 月 17 日	日本赤十字社 403 会議室
表彰委員会	平成 17 年 10 月 28 日	常任理事会開催時推薦事項確認
	平成 18 年 3 月 31 日	推薦締め切り
	平成 18 年 4 月 28 日	理事会開催時表彰者決定
学術部	中里副会長を中心に久保田理事による学術活動	
広報部	黒田副会長を中心に益井理事による会誌編集活動	
	平成 18 年 3 月 1 日　会誌発行(vol.47)	
企画部	黒田副会長を中心に武田理事によるホームページ情報提供	
	日本赤十字放射線技師会のホームページの更新	
組織調査部	松山会長を中心に川上理事による会員台帳調査活動	
財務部	松山会長を中心に並木理事による会費徴収と財務管理	
総務部	中里副会長を中心に山縣理事による会議運営と議事録作成	
事務局	松山会長を中心に中里副会長による会務事務処理	
日赤放技ニュース発行	平成 17 年 8 月 26 日	No.1 日赤放技ニュース発行
	平成 17 年 12 月 6 日	No.2 日赤放技ニュース発行
	平成 18 年 3 月 22 日	No.3 日赤放技ニュース発行

ブロック活動報告

第 15 回北海道ブロック学術研修会	平成 17 年 9 月 10 日～11 日	当番病院　北見赤十字病院
第 6 回九州ブロック学術研修会	平成 17 年 10 月 22 日～23 日	当番病院　日赤熊本健管センター
第 18 回東部ブロック学術研修会	平成 17 年 11 月 12 日～13 日	当番病院　芳賀赤十字病院
第 14 回近畿ブロック学術研修会	平成 18 年 2 月 25 日～26 日	当番病院　姫路赤十字病院

平成 19 年

第 54 回定期総会資料

日　時　　平成 19 年 7 月 5 日（木）午後 4 時 00 分より

会　場　　日本赤十字社　本社 101 会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表　　彰
議長選出
議　　事

1・平成 18 年度　会務報告
2・平成 18 年度　事業報告
3・平成 18 年度　決算報告
4・平成 18 年度　監査報告
5・平成 19 年度　事業計画案
6・平成 19 年度　予算案
7・役員改選
8・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

平成 18 年度　各部事業報告

【広報部】　益井　謙　（松江赤十字病院）

（1）会誌発行について

平成 19 年 3 月技師会誌を発行。

（2）会誌配布先

以下のとおり配布。

総部数　1500 部

会員　1199 部、名誉会員　9 部、施設長　95 部、日赤医療事業部　5 部

日赤医療事業部長　1 部、国立国会図書館　1 部、日放技会長　1 部

原稿依頼者（会員外）7 部、広告依頼社　19 部、その他　163 部（会長、各部）

（3）会誌内容

理事会の決議を元に、レイアウト・会員名簿の変更・特集の印刷を行う。

（4）会誌編集会議

スケジュールに従って、随時開催。

（5）会誌発行に関する経費は、会計決算報告として財務に提出済み。

【学術部】　久保田　利夫　（前橋赤十字病院）

（1）平成 18 年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において以下の様に行いました。

1．教育講演　『1 冊の本との出会い』

イラストレーター　藤岡　牧夫　先生

学術講演　『診療放射線領域におけるリスク・マネージメント』

群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部　助教授　倉石　政彦　先生

2．シンポジウム　『災害医療』

座　長	日本赤十字社医療センター	鈴木　利男
シンポジスト	長岡赤十字病院	捧　和夫
	成田赤十字病院	安部　沙優花
	神戸赤十字病院	浅妻　厚

3．各分野から 17 題の演題発表がありました。会員の皆様の御協力に感謝いたします。

なお、シンポジスト及び研究発表者の了解を得たスライド原稿を日本赤十字放射線技師会のホームページに掲載いたしました。

（2）ヒヤリハットのアンケート調査結果を会誌に掲載しました。御協力ありがとうございました。

（3）会員間の学術上、業務上の情報交換を目的としたメーリングリストを名古屋第二赤十字病院のご厚意により開設しております。昨年度は、何度か情報交換が行われましたが、まだアクセス数がそう多くありません。

会員の方ならどなたでも参加できますので、是非活用してください。

申込み方法：申込者の氏名および所属施設を明記したメールを下記までお送り下さい。

art-ac-admin@nagaya2.jrc.or.jp

【企画部】　武田　宣明　（大津赤十字病院）

昨今、放射線検査や放射線治療の資質の向上と専門性の統一的な展開を図るため、各種認定技師制度が関係学会や関係団体の協力のもと設立されています。日本赤十字放射線技師会として、全国の赤十字医療施設内の各種認定制度への取り組みや資格取得状況などを調査し、現状と問題点を考察し結果を平成 18 年度日本赤十字放射線技師会会誌に掲載しました。会員の皆様にご協力いただいたことに感謝いたします。

また、ホームページでは、業務研修会時の会員発表掲載などを行うと共に、会員よりの意見メールや質問メールに対応しました。

【組織調査部】　川上　直志　（横浜市立みなと赤十字病院）

平成 18 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を開始しました。総会までに今年度の会員数の把握につとめました。

なお、会員の皆様には、調査にご協力いただき感謝申し上げます。

【表彰委員会】　川上　直志　（横浜市立みなと赤十字病院）

平成 18 年 12 月に全国の赤十字病院の放射線科部技師長・課長宛と、取りまとめをお願いする技師会ブロック理事・委員宛に郵送した表彰の推薦書の返信を確認してまとめました。

平成 19 年 5 月 11 日の全国理事会で、表彰対象者を下記のとおり決定しました。

表彰受賞者

功労賞　（第 2 条の 1）

花田　和夫氏	（仙台赤十字病院）	平成 19 年 3 月退職
小田切　楠夫氏	（日赤医療センター）	平成 19 年 3 月退職
神村　良雄氏	（成田赤十字病院）	平成 19 年 3 月退職
玉田　一氏	（成田赤十字病院）	平成 18 年 12 月退職
多賀　昭雄氏	（岐阜赤十字病院）	平成 19 年 3 月退職
永田　三千男氏	（大阪赤十字病院）	平成 19 年 3 月退職

奨励賞　（第 2 条の 2）

個人

岩見　守人氏　（姫路赤十字病院）

施設

松江赤十字病院　放射線科部

横浜市立みなと赤十字病院　放射線科部

順不同

平成 18 年度　会務報告

１．会員数　（平成 19 年 3 月 31 日付）

前年度会員数	1149	名
新入会員数	77	名
退会会員数	10	名
現在会員数	1186	名

２．会議ならびに事業

平成 18 年度全国赤十字病（産）院		
診療放射線技師業務研修会開催	平成 18 年 6 月 8 日～ 9 日	日本赤十字社 101 会議室
第 53 回定期総会開催	平成 18 年 6 月 8 日	日本赤十字社 101 会議室
平成 18 年度監査(会計,会務)	平成 19 年 5 月 11 日	日本赤十字社 403 会議室
平成 18 年度理事会開催	平成 19 年 5 月 11 日	日本赤十字社 403 会議室
常任理事会　第 1 回	平成 18 年 4 月 28 日	日本赤十字社 202 会議室
第 2 回	平成 18 年 8 月 4 日	日本赤十字社 403 会議室
第 3 回	平成 18 年 12 月 1 日	日本赤十字社 403 会議室
第 4 回	平成 19 年 2 月 9 日	日本赤十字社 403 会議室
表彰委員会	平成 18 年 12 月 1 日	常任理事会開催時推薦事項確認
	平成 19 年 3 月 31 日	推薦締め切り
	平成 19 年 5 月 11 日	理事会開催時表彰者決定
学術部	中里副会長を中心に久保田理事による学術活動	
広報部	黒田副会長を中心に益井理事による会誌編集活動	
	平成 19 年 3 月 1 日　会誌発行(vol.48)	
企画部	黒田副会長を中心に武田理事によるホームページ情報提供	
	日本赤十字放射線技師会のホームページの更新	
組織調査部	松山会長を中心に川上理事による会員台帳調査活動	
財務部	松山会長を中心に並木理事による会費徴収と財務管理	
総務部	中里副会長を中心に山縣理事による会議運営と議事録作成	
事務局	松山会長を中心に中里副会長による会務事務処理	
日赤放技ニュース発行	平成 18 年 7 月 25 日	No.1 日赤放技ニュース発行
	平成 18 年 12 月 18 日	No.2 日赤放技ニュース発行
	平成 19 年 3 月 16 日	No.3 日赤放技ニュース発行
ブロック活動報告		
第 16 回北海道ブロック学術研修会	平成 18 年 9 月 23 日～24 日	当番病院　北見赤十字病院
第 7 回九州ブロック学術研修会	平成 18 年 9 月 30 日～10 月 1 日	当番病院　鹿児島,筑前山田 唐津赤十字病院
第 19 回東部ブロック学術研修会	平成 18 年 11 月 11 日～12 日	当番病院　原町赤十字病院
第 15 回近畿ブロック学術研修会	平成 19 年 2 月 24 日～25 日	当番病院　大阪赤十字病院 日赤大阪府支部

平成18年度一般会計決算報告書

平成19年3月31日現在　　金額(円)

収入の部					支出の部				
科目	18年度予算額	18年度決算額	増減	備考	科目	18年度予算額	18年度決算額	増減	備考
会費	3,462,000	3,597,000	135,000	3,000×1199名	総会費	650,000	139,776	△510,224	総会運営費
入会金	20,000	77,000	57,000	1,000×77名	会議費	1,500,000	895,237	△604,763	常任理事会・理事会費
雑収入	20,000	11,262	△8,738		役員活動費	119,000	105,000	△14,000	3,500×34名
業務研修会費	880,000	832,000	△48,000		ブロック活動費	700,000	400,000	△300,000	100,000×7ブロック
会誌広告収入	700,000	421,102	△278,898		表彰費	200,000	87,870	△112,130	賞状副賞・活動費
前年度繰越金	4,011,347	4,011,347	0		学術部費	200,000	36,305	△163,695	活動費
					財務部費	100,000	39,762	△60,238	活動費
					組織調査部費	50,000	15,200	△34,800	活動費
					広報部費	200,000	195,940	△4,060	活動費
					企画部費	200,000	60,834	△139,166	活動費
					事務局費	500,000	262,796	△237,204	活動費・慶弔費
					業務研修会開催費	880,000	913,950	33,950	
					会誌発行費	1,400,000	1,090,799	△309,201	会誌発行費
					基金積立費	50,000	50,000	0	特別積み立て基金へ繰り出し
					予備費	2,344,347	0	△2,344,347	
合計	9,093,347	8,949,711	△143,636		合計	9,093,347	4,293,469	△4,799,878	

(収入8,949,711－支出4,293,469＝残金4,656,242)　　残金4,656,242円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会　会長　松山　繁　(印)

財務部　並木　荘一(印)

平成18年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

2007/3/31現在

科目	金額	備考
前年度繰越金	¥1,398,603	内　1，300，000円は定額貯金
18年度積立金	¥50,000	一般会計より繰り入れ
利息収入	¥98	
合計	¥1,448,701	次年度繰越金

上記の通り報告いたします　　日本赤十字放射線技師会　会長　松山　繁　(印)

監査報告書

平成 19 年 5 月 11 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

1・平成 18 年度特別積立金

2・平成 18 年度会誌特別会計

3・平成 18 年度業務研修会決算

4・平成 18 年度一般会計決算

5・平成 18 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した結果、いずれも適正に行われていたことを認めます。

平成 19 年 5 月 11 日

監事　　鈴木　利男　　　印

監事　　引屋敷　聖晴　　印

平成19年度事業計画案

赤十字放射線技師会の存在感や、会員相互間のつながりにくい中で、飛躍的な変化を望む事が不可能に近いと思われるが、会誌の変化、理事会へのブロック理事、ブロック委員の理事会への間接的な参加も少しずつではありますが浸透してきておりますので、充分に活用のできる状態に近づけていく必要があります。　本社医療事業部との話し合いを充分に持ち、最新情報をいただけるよう綿密な関係を築き会員に最新情報等が提供できるような体制作りをさらに目指していきます。　日本赤十字社医学会総会への積極的な参加により今年度より技師会からの評議委員会への参加が認められました。今後も、医学会総会への積極的な参加ができるように啓蒙していきます。

1．会員の職業倫理の高揚に関する事業

理事会時本社医療事業部との話し合いを機会あるごとに設定し、最新の情報を会員にすみやかに提供ができるようにします。日本赤十字社医学会総会への積極的な参加を引き続き推進します。

2．学術講演ならびに研究発表会に関する事業

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催し本社講演、学術、教育講演、研究発表を基本とし、会員の向上を目指します。

3．放射線安全管理の徹底及び被曝軽減の促進に関する事業

安全な放射線管理及び、リスクマネージメントの実践を推進いたします。

4．会誌、日赤放技ニュース、その他印刷物の発行事業

会誌は年1回、日赤技放ニュースは年3回、その他必要に応じて印刷物を発行します。

5．会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規定に則り対応致します。

6．その他

ブロック研修会の開催を推進し会員相互間の信頼関係の充実を図ります。

充実した内容のホームページの作成を図ります。

平成19年度　各部事業計画案

【広報部】　益井　謙　（松江赤十字病院）

会誌発行について

特集をより充実し、各方面からの色々な意見、情報を頂戴し掲載していきます。

各部、各ブロックの活性活動を盛り込みます。

発行は平成20年2月を目指します。

【学術部】　久保田　利夫　（前橋赤十字病院）

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において、会員研究発表および教育学術講演など会員皆様の資質向上に役立つ事業を継続します。

メーリングリストへの活発な活用に努めていきます。

【企画部】　武田　宣明　（大津赤十字病院）

平成 18 年度企画部にて行なったアンケートの結果、赤十字医療施設に従事する放射線技師の入会率が最も高かった放射線関連団体は日本赤十字放射線技師会であり、本会に対する関心の高さが伺えます。過去のアンケートを再分析すると共に HP 等を利用し、会員のニーズに応えられる様な内容を企画し、当会活動に取り入れていけるよう検討致します。

【組織調査部】　川上　直志　（横浜市立みなと赤十字病院）

平成 19 年度も継続して会員台帳を充実させていきます。
会員の皆様の御協力をお願い致します。

【表彰委員会】　川上　直志　（横浜市立みなと赤十字病院）

表彰に該当する会員の情報を出来るだけ表彰委員会に伝わりやすい方法を、今後検討していきたい。

平成19年度一般会計予算(案)

金額(円)

収入の部					支出の部				
科目	18年度予算額	19年度予算案	増減	備考	科目	18年度予算額	19年度予算案	増減	備考
会費	3,462,000	3,600,000	138,000	3,000×1200名	総会費	650,000	650,000	0	総会運営費
過年度会費	0	15,000	15,000		会議費	1,500,000	1,500,000	0	常任理事会・理事会費
入会金	20,000	20,000	0	1,000×20名	役員活動費	119,000	119,000	0	3,500×34名
雑収入	20,000	20,000	0		ブロック活動費	700,000	700,000	0	100,000×7ブロック
業務研修会費	880,000	880,000	0	8,000×110名	表彰費	200,000	200,000	0	賞状副賞・活動費
会誌広告収入	700,000	400,000	△300,000	会誌広告料	学術部費	200,000	150,000	△50,000	活動費
前年度繰越金	4,011,347	4,656,242	644,895		財務部費	100,000	100,000	0	活動費
					組織調査部費	50,000	50,000	0	活動費
					広報部費	200,000	300,000	100,000	活動費
					企画部費	200,000	150,000	△50,000	活動費
					事務局費	500,000	500,000	0	活動費・慶弔費
					業務研修会費	880,000	880,000	0	8,000×110名
					会誌発行費	1,400,000	1,400,000	0	会誌発行費
					基金積立費	50,000	50,000	0	特別積み立て基金へ繰り出し
					予備費	2,344,347	2,742,242	397,895	
合計	9,093,347	9,591,242	497,895		合計	9,093,347	9,491,242	397,895	

以上、日本赤十字放射線技師会　平成19年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会　会長　松山　繁　(印)
財務部　並木　荘一　(印)

第 55 回定期総会資料

日時　平成 20 年 6 月 2 日（月）　 午後 4 時 00 分より

会場　日本赤十字社　本社 201 会議室

総会次第
　開会の辞
　会長挨拶
　表彰
　総会議事運営報告
　議長選出
　議事録署名人選出、書記、採決係任命

【第 1 号議案】　平成 19 年度事業経過報告
【第 2 号議案】　平成 19 年度決算報告
【第 3 号議案】　平成 19 年度監査報告
【第 4 号議案】　平成 20 年度事業計画（案）
【第 5 号議案】　その他

役員挨拶
議長解任
閉会の辞

日本赤十字社放射線技師会

表彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会長　益井　謙
表彰委員長　戸口　豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

1.功労賞（第 2 条の 1 ）
　高橋　和弘（小清水赤十字病院）
　池田　英二（伊達赤十字病院）
　草田　行雄（名古屋第一赤十字病院）
　中沢　正司（飯山赤十字病院）
　花岡　宏行（諏訪赤十字病院）
　駿田　耕一（京都第二赤十字病院）
　林　　雅彦（松山赤十字病院）
　一瀬　弘之（日本赤十字社長崎原爆病院）

2.奨励賞（第 2 条の 2）
　【施設】山田赤十字病院（計 10 回）

3.感謝状（第 2 条の 3）
　川村　佳生（日本赤十字社和歌山医療センター）

敬称略・順不同

平成 19 年度事業報告

（総括）

医療を取り巻く環境は、医療経済的にも、様々な問題を内包し、葛藤の結果、諸所に膿として滲出してきています。厄介な事に、膿は出ても芯はしっかり残り、病根の根深さを物語っています。技術職である診療放射線技師は、新技術に即応する柔軟性と研鑽が必須であります。そして赤十字に属する一員として、災害・救命救急に寄与できる体質を備えねばなりません。本技師会は、本年度もその使命に即して活動を継続してきました。

業務研修会では、各施設から寄せられた 19 演題で、日頃の研鑽振りを公にされました。学術講演は多列化 CT の使用経験を、教育講演では接遇で時代の要請に応えようとしました。新執行部に移行した 7 月以降、3 分科会の立ち上げ、HP（ホームページ）の改定に取組み、会員相互の連携と連帯を図る基盤整備に費やしました。

1.会員の職業倫理の高揚に関する事業

日本赤十字社医学会の評議員として会長・各理事参加。諸職能と積極交流しました。

本社医療事業部と意思の疎通を図り、会員への還元を旨としました。

2.学術講演ならびに研究発表に関する事業

平成 19 年 7 月 5 日、6 日業務研修会を行いました。（会員発表内容など詳細は HP で供覧）

3.放射線安全管理の徹底及び被ばく軽減の促進に関する事業

第 49 号会誌にて、医療従事者の被ばくの現状を掲載しました。

放射線安全管理台帳の統一管理を図る為の新組織「文書管理」（副会長担当）を設置しました。

4.会誌、日赤放技ニュース、その他印刷物の発行事業

会誌は年 1 回、日放技ニュースは年 2 回配布しました。

5.会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規定に則り対応いたしました。

6.その他

学術分科会（CT・MR・乳房画像）を立ち上げました。

HP の改訂を行いました。

平成 19 年度事業報告

1.総務事項報告

（1）平成 19 年度役員は次のとおりである。

役職名	氏名	施設名
会長	益井　謙	松江赤十字病院
副会長	中里　明	足利赤十字病院
副会長	黒田　順平	さいたま赤十字病院
副会長	山縣　徳治	水戸赤十字病院
常任理事（総務）	辻　　秀憲	京都第二赤十字病院
同（事務局）	磯田　康範	松江赤十字病院
同（学術部）	久保田利夫	前橋赤十字病院
同（学術部）	浅妻　厚	神戸赤十字病院
同（財務部）	前川　栄寿	成田赤十字病院
同（組織調査部）	石田　智広	福井赤十字病院
同（企画部）	新美　孝永	名古屋第二赤十字病院
同（広報部）	清水　文孝	深谷赤十字病院
同（表彰委員会）	戸口　豊宏	大分赤十字病院
ブロック理事（北海道）	川井　明彦	函館赤十字病院
同（東北）	大隅　康之	秋田赤十字病院
同（東部）	林　　智	長岡赤十字病院
同（中部）	福吉　正利	静岡赤十字病院
同（近畿）	井澤　秀恭	和歌山医療センター
同（中・四国）	佐藤　繁	岡山赤十字病院
同（九州）	赤澤　武	熊本健康管理センター

創立 55 周年記念事業担当

黒田順平（兼務）　山縣徳治（兼務）　中里明（兼務）

役職名	氏名	施設名
監事	松山　繁	長野赤十字上山田病院
監事	鈴木　利男	日本赤十字社医療センター

ブロック委員

役職名	氏名	施設名
北海道ブロック	相澤　幹也	北見赤十字病院
東北ブロック	横山　高広	仙台赤十字病院
東部ブロック	佐藤　法行	山梨赤十字病院
々	星野　洋満	前橋赤十字病院
中部ブロック	金子　彰	髙山赤十字病院
々	月田　邦彦	名古屋第一赤十字病院
々	福吉　正利	静岡赤十字病院
近畿ブロック	森上　安一	高槻赤十字病院
々	勝間　明	長浜赤十字病院

中・四国ブロック	西田　史生	松山赤十字病院
々	真貝　勝	徳島赤十字病院
九州ブロック	三谷　孝二	今津赤十字病院

広報委員会委員

役職名	氏名	施設名
広報部長	清水　文孝	深谷赤十字病院
事務局長	中山　進	々
会計主査	飯島　秀信	々
委員	川合　佳代	々
々	斉藤　幸夫	々
々	富田　欣治	々
々	清水　邦明	々
々	桐生　幸恵	々

（2）会議開催状況

ア．総会

平成 19 年度定期総会を平成 19 年 7 月 5 日（木）、本社 101 会議室において会員 109 名が出席（委任状提出 1023 名）して開催した。総会では平成 18 年度事業報告および平成 18 年度会計報告ならびに平成 19 年度事業計画（案）および平成 19 年度収支予算（案）等について審議し決議した。

理事、監事が任期満了となるのでその後任選任について、議長は選挙管理委員長より、会長理事候補者に益井謙氏（松山赤十字病院）1 名および監事候補者に松山繁氏（長野赤十字上山田病院）、鈴木利男氏（赤十字医療センター）2 名、副会長候補に黒田順平氏（さいたま赤十字病院）、（兼務）中里明氏（足利赤十字病院）、山縣徳治氏（水戸赤十字病院）3 名の立候補推薦届出あり、議長は執行部をして、下記のとおり会長理事並びに監事の候補者を提案させた後、その賛否を諮ったところ、全員異議なく候補者はいずれも選任された。尚、常任理事、ブロック理事については下記のとおり選任された。

会　　長　　　益井　謙
副　会長　　　黒田　順平、中里　明、山縣　徳治
常任理事　　　磯田　康範、辻　憲、久保田　利男、浅妻　厚、前川　栄寿、
　　　　　　　石田　智広、新美　孝永、戸口　豊宏、清水　文孝
ブロック理事　河相　明彦、大隅　康之、林　智、花岡　宏行、井澤　秀恭、
　　　　　　　佐藤　繁、赤澤　武
監　　事　　　松山　繁、鈴木　利夫

イ．理事会（全国）は下記の通り 1 回開催し、重要案件について審議し決議した。

	年　月　日	開催場所
1	平成 19 年 7 月	本社 403 会議室

ウ．常任理事会は下記の通り 6 回開催し、理事会、全国理事会への提案議題の審議並びに決定事項について処理した。

	年　月　日	開催場所
1	平成 19 年 8 月 3 日	本社 403 会議室
2	平成 19 年 10 月 11 日	大分赤十字病院
3	平成 19 年 11 月 30 日	本社 203 会議室
4	平成 20 年 1 月 25 日	本社 403 会議室
5	平成 20 年 3 月 14 日	本社 403 会議室
6	平成 20 年 4 月 11 日	本社 403 会議室

エ．その他　広報委員会開催状況（広報部）

年　月　日	開催内容
平成 19 年 8 月 8 日	委員会開催：技師会ニュース第 1 号発刊について
平成 19 年 8 月 15 日	〃：技師会ニュース校正作業・入稿
平成 19 年 8 月 27 日	〃：技師会ニュース発送準備・作業
平成 19 年 8 月 28 日	〃：技師会ニュース発送持込
平成 19 年 9 月 3 日	〃：会誌発刊について
平成 19 年 9 月 7 日	〃：原稿依頼状発送作業
平成 19 年 9 月 14 日	〃：広告依頼状発送作業
平成 19 年 11 月 12 日	〃：技師会ニュース発刊第 2 号について
平成 19 年 11 月 14 日	〃：技師会ニュース校正作業
平成 19 年 11 月 22 日	〃：技師会ニュース入稿
平成 19 年 12 月 3 日	〃：技師会ニュース発送準備・作業
平成 19 年 12 月 4 日	〃：技師会ニュース発送持込
平成 20 年 1 月 4 日	〃：会誌編集会議開催、進捗状況について
平成 20 年 1 月 10 日	〃：会誌校正作業
平成 20 年 1 月 17 日	〃：会誌原稿初回入稿
平成 20 年 2 月 16 日〜18 日	〃：校正作業
平成 20 年 2 月 18 日	〃：会誌入稿
平成 20 年 2 月 22 日	〃：会誌会長校正送付
平成 20 年 3 月 3 日	〃：会誌印刷、製本作業
平成 20 年 3 月 15 日	〃：技師会ニュース第 1 号校正・入稿
平成 20 年 3 月 27 日〜29 日	〃：会誌発送作業・準備、発送持込

(3) 表彰

叙勲（敬称略）

瑞宝双光賞　益戸達夫（名誉会員：元葛飾産院技師長、元日本赤十字放射線技師会会長）

(4) 物故者（敬称略）

斎藤　一秀（足利赤十字病院）

(5)会員の動向（平成 20 年 3 月 31 日現在）（事務局）

項目	会員数
平成 18 年度末　　　会員数	1,186 名
平成 19 年度　　新入会者数	53 名
同　　　　　　　再入会者数	0 名
同　　　　　　　　退会者数	41 名
平成 19 年度末　　　会員数	1,210 名

(6)平成 19 年度広告協賛　29 社（五十音順）

安西メディカル株式会社
エーザイ株式会社
株式会社エルクコーポレーション
株式会社カイゲン
株式会社島津製作所
株式会社千代田テクノル
株式会社根本杏林堂
株式会社バリアンメディカルシステムズ
株式会社日立メディコ
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ
株式会社マエダ
コニカミノルタヘルスケア株式会社
産業科学株式会社
シーメンス旭メディテック株式会社
GE 横河メディカルシステム株式会社
住友重機械工業株式会社
第一三共株式会社
タイコヘルスケアジャパン株式会社
東芝メディカルシステムズ株式会社
東洋メディック株式会社
日本放射線防禦株式会社
日本メドラッド株式会社
日本メジフィジックス株式会社
バイエル薬品株式会社
富士製薬工業株式会社
富士フィルム RI ファーマ株式会社
富士フィルムメディカル株式会社
堀井薬品工業株式会社
ラドセーフテクニカルサービス株式会社

2.学術教育活動報告（学術部）

学術部は会員の資質向上のため業務研修会を開催しました。また、会員相互の連携と連帯を広域的かつ継続的に可能となるように、ML（メーリングリスト）と HP（ホームページ）の活用を推進してきました。さらに、会員相互の業務上・学術上の情報交換を通して、会員の技術・学術的研鑽と赤十字放射線医療の標準化を目指して、学術分科会を立ち上げました。詳細は以下の通りです。

(1)学術講演ならびに研究発表に関する事業として、平成 19 年度全国赤十字病（産）院

診療放射線技師業務研修会を下記のように行いました。

1.教育講演『患者様に信頼されるための正しいコミュニケーションとマナー』

NHK 学園講師　　　　山岸弘子　先生

2.学術講演『MDCT－4 列から 64 列までの使用経験』

東北大学病院　　放射線診断科　高瀬圭　先生

3.各分野から 19 題の演題発表がありました。会員皆様のご協力に感謝いたします。

また、研究発表者の了解を得たスライド原稿を、日本赤十字放射線技師会のホームページ（HP）に掲載しました。

(2)活動を開始した学術分科会は、以下の通りです。

1.CT 分科会	代表世話人	長野赤十字病院	八町　淳
	世話人	盛岡赤十字病院	藤村　貴順
	世話人	京都第二赤十字病院	河本　勲則
2.MR 分科会	代表世話人	大阪赤十字病院	高津　安男
	世話人	仙台赤十字病院	安彦　茂
	世話人	姫路赤十字病院	岩見　守人
3.乳房画像分科会	代表世話人	さいたま赤十字病院	尾形　智幸
	世話人	芳賀赤十字病院	武藤　美子
	世話人	深谷赤十字病院	川合　佳代
	世話人	長浜赤十字病院	西関　剛

昨年度の各分科会登録者数は、CT15 名、MR12 名、乳房画像 13 名でした。

(3)従来、業務研修会の研究発表に応募された演題の採否は学術部内で検討していましたが、応募演題の採否などを審議するため、新しく研修会プログラム委員を設けました。

なお、同委員会の構成員は会長、副会長、常任理事です。

平成 20 年度の応募演題について、計 9 回、演題採否等について審議を実施しました。

研修会プログラム委員会開催日は次の通りです。

第 1 回　平成 19 年 11 月 30 日
第 2 回　平成 20 年 1 月 25 日
第 3 回　平成 20 年 2 月 21 日
第 4 回　平成 20 年 2 月 25 日
第 5 回　平成 20 年 2 月 26 日
第 6 回　平成 20 年 2 月 27 日
第 7 回　平成 20 年 3 月 2 日
第 8 回　平成 20 年 3 月 3 日
第 9 回　平成 20 年 3 月 4 日

3.広報部活動報告（広報部）

平成 19 年度広報部活動は、日赤放技ニュースの発行を第 1 号から第 2 号まで計 2 回発行いたしました。会告、お知らせ、本会の動きなど多岐にわたった情報を会員に提供いたしました。
また、これまでの技師会ニュースの作成を冊子形式といたしました。

日本赤十字放射線技師会会誌 2008.　Vol.49 を発刊いたしました。本社寄稿、学術特集、55 周年特別寄稿、本社研修会、施設紹介、新入会員紹介、会員名簿など会員に有益な情報を提供いたしました。

しかしながら、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても今後は検討を重ねると共に、会員の皆さまのご意見を頂戴し、より有意義な会誌や技師会ニュースを発刊していきたいと考えます。

1)日本赤十字放射線技師会会誌 2008.　Vol.49 を発行した。
2)日赤放技ニュース第 1 号から第 2 号まで計 2 回発行した。
3)会誌の広告協賛会社は、29 社であった。

4.福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規程に基づき、祝電 2 名、弔電 1 名について行った。

5.企画部活動報告（企画部）

新執行部に移行した 7 月以降、ホームページ（HP）の改訂やメーリングリスト（ML）の整備、登録者数の増強に取り組み、会員相互の連携と連帯を図る基盤整備を実施した。また、本会の将来発展を願うべく機能的で会員参加型のあらたな HP 立ち上げに積極的に取り組んだ。

(1)日赤技師会 HP リニューアル化
・原稿 HP を技師会の目的に合わせて限りなく機能的にするための整備・改修を実施した。
具体的には
・会員への迅速な情報提供に向けた速報欄の毎月の更新を実施した。（平成 19 年 9 月より）
・学術部の分科会活動への参加を促す環境作り（入会申し込みの簡素化など）を実施した。
・次年度の業務研修会演題申し込みの環境作り（演題申し込みの簡素化）を実施した。
・マンモグラフィ検診施設画像認定取得施設を HP 上で公開することにより赤十字病院に勤務する放射線技師のマンモグラフィへの積極的な取り組みをアピールした。
・ML へ登録を促す環境作り（登録の簡素化など）を実施した。

(2)技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進
・技師会 ML の管理・運営を実施した。
・電子メールを利用して会員への ML の紹介および勧誘を積極的に実施した。登録会員数は 120 名程度（2 月上旬時）に達し、現在も着実に増加している。

(3)日赤技師 HP の全面改正に向けての企画・提案
・日赤技師会の将来を見据えた機能的で会員参加型の HP の（次年度）立ち上げに向け積極的に取り組んだ。
・学術部をはじめとする各部との意見交換を積極的に実施し、当技師会に最も相応しい HP の次年度導入に向けての見通しが立った。

6.組織調査活動報告（組織調査部）

(1)平成 19 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛てに会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新加入者（予定者）と施設毎会員数の現状把握を行った。

(2)平成 19 年 12 月に全国赤十字病院の放射線技師の「認定資格取得調査」を行った。本会員における認定資格の取得状況を把握し、現在の医療環境に求められる取得動向や、今後赤十字病院として必要とされる認定技師資格取得の方向性判断資料としたい。

(3)平成 19 年 12 月に日本赤十字病院の組織再編成としての「医療技術部動向」についてアンケート調査を行った。今後動向結果を元に本会と各施設の共同歩調化検討の判断情報としたい。

7.表彰部報告

表彰該当者（功労賞）

花田　和夫（はなだ　かずお）	氏	東北ブロック	仙台赤十字病院
小田切　楠夫（おだぎり　くすお）	氏	東部ブロック	日本赤十字社　医療センター
神村　良雄（かみむら　よしお）	氏	東部ブロック	成田赤十字病院
玉田　一（たまだ　はじめ）	氏	東部ブロック	成田赤十字病院
多賀　昭雄（たが　あきお）	氏	中部ブロック	岐阜赤十字病院
永田　三千男（ながた　みちお）	氏	近畿ブロック	大阪赤十字病院

以上の方々を功労賞として表彰しました。

奨励賞

個人

岩見　守人（いわみ　もりひと）	氏	近畿ブロック	姫路赤十字病院

学術発表が個人として 3 回に達した為表彰しました。

8.ブロック報告

第 17 回北海道ブロック学術研修会	平成 19 年 9 月 29 日～30 日	北見赤十字病院担当
第 20 回東部ブロック学術研修会	平成 19 年 10 月 27 日～28 日	山梨赤十字病院担当
第 8 回九州ブロック学術研修会	平成 19 年 11 月 3 日～4 日	熊本赤十字病院担当
第 16 回近畿ブロック学術研修会	平成 20 年 2 月 23 日～24 日	高槻赤十字病院担当

9.平成 19 年度決算報告

平成 20 年 3 月 31 日現在　金額（円）

収入の部				
科目	19 年度予算額	19 年度決算額	増減	備考
会費	3,600,000	3,663,000	63,000	３，０００×１，２２１名（但し１８年度分５名を含む）
入会金	20,000	53,000	33,000	1,000×53 名
雑収入	20,000	9,377	△10,623	
業務研修会費	880,000	872,000	△8,000	
会誌広告収入	400,000	620,000	220,000	
前年度繰越金	4,656,242	4,656,242	0	
合計	9,576,242	9,873,619	297,377	

支出の部				
科目	19 年度予算額	19 年度決算額	増減	備考
総会費	650,000	299,463	△350,537	総会運営費
会議費	1,500,000	2,611,657	1,111,657	常任理事会・理事会費
役員活動費	119,000	119,000	0	3,500×34 名
ブロック活動費	700,000	400,000	△300,000	100,000×7 ブロック
表彰費	200,000	91,512	△108,488	賞状副賞・活動費
学術部費	150,000	94,611	△55,389	活動費
財務部費	100,000	51,869	△48,131	活動費
組織調査部費	50,000	41,058	△8,942	活動費
広報部費	300,000	303,579	3,579	活動費
企画部費	150,000	213,000	63,000	活動費
事務局費	500,000	264,423	△235,577	活動費・慶弔費
業務研修会開催費	880,000	802,787	△77,213	
会誌発行費	1,400,000	1,520,915	120,915	会誌発行費
基金積立費	50,000	50,000	0	特別積み立て基金へ繰り出し
予備費	2,827,242	0	△2,827,242	
合計	9,576,242	6,863,874	△2,712,368	

（収入 9,873,619－支出 6,863,874＝残金 3,009,745）　**残金　3,009,745　円は次年度に繰越し**

日本赤十字放射線技師会　会　長　益　井　　謙　（印）

財務部　前　川　栄　寿（印）

平成１９年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書　　２００８年　３月３１日現在

科　目	金　額	備　考
前年度繰越金	¥1,448,701	内¥1,300,000 は定額貯金
１９年度積立金	¥50,000	一般会計より繰り入れ
合計	¥1,498,701	

上記の通り報告いたします　日本赤十字放射線技師会　　会　長　益　井　謙（印）

監査報告書

平成 20 年 4 月 11 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、
日本赤十字放射線技師会会則第 3 章 15 条に基づき、

1.平成 19 年度特別積立金

2.平成 19 年度会誌特別会計

3.平成 19 年度業務研修決算

4.平成 19 年度一般会計決算

5.平成 19 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した結果、いずれも
適正に行われていたことを認めます。

平成 20 年 4 月 11 日

監事　鈴木　利夫　　印
　　　松山　繁　　　印

平成 20 年度事業計画案

（総括）

本社のアクションプランである「もっとクロス！計画」は、赤十字の存在意義（レゾンデートル）を職員が理解し、社会的責任を果たすために説明と同意を求める努力を促すものであります。本会もチーム医療におけるレゾンデートルをより確かなものにする為に、会員相互が「もっとクロス！」し、連繫と連帯を深める「計画」のモデルとして、ML（メーリングリスト）を活用した電子的運営をさらに推進します。HP の全面改訂は、会員の連繫と連帯を推進し、（赤十字病院の）医療の質向上へむけて有益な情報媒体として更なる充実を計ります。

1.会員の職業意識の高揚に関する事業

本社医療事業部と協議し、赤十字事業の動向を共有し、会員に対し説明責任が果たせるようにします。

日本赤十字社医学会への積極果敢な参加を引き続き推進します。

2.学術講演ならびに研究発表会に関する事業

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催し、本社講演、学術、教育講演、研究発表を基本とし、会員のスキルアップを目指します。

3.会員相互の連携に関する事業

HP を充実させ、情報の窓口としての役割を果たせるよう推進します。

ML の登録を増やし、情報交換の場を充実させます。

ブロック研修会の開催運営を支援します。

4.会員の資格・学術向上に関する事業

分科会活動を通じ、資格や学術向上を支援します。

5.会誌・日赤放技ニュースに関する事業

会誌は年 1 回、日放技ニュースは年 3 回発行します。発行部数の見直しを図り、掲載主媒体を HP への移行を模索します。

6.会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規程に則り、速やかな対応を致します。

1.学術教育活動計画案

(1)全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催し、会員研究発表及び教育学術講演など会員皆様の資質向上に役立つ事業を継続します。

(2)HP・ML など活用した学術分科会活動を推進し、会員相互の連携と会員皆様の資質・学術向上に努めます。また、治療分科会、RI 分科会、医療情報分科会の設立に努めます。（会員皆様の分科会登録および ML 登録をお願いいたします。これらの登録は、HP からできます。皆様の参加をお待ちしています。）

2.広報部活動計画案

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュースの発行を第 1 号から第 3 号まで計 3 回発行いたします。会告、お知らせ、本会の動き、分科会活動など多岐にわたった情報を会員に提供いたしたいと考えております。

日本赤十字放射線技師会会誌 2009.Vol.50 の発刊をいたします。内容は、本社寄稿、学術特集、本社研修会、施設紹介、新入会員紹介、会員名簿など会員に有益な情報を提供いたしたいと考えておりますと共に、50 号という節目を踏まえ、記念号の企画を取り入れていきたいと考えております。

これまでの会誌等の印刷物の発行は、一部各部において発行しておりました。これらを一元化し、経皮節減を目標に予算化し、広報部において発行を予定しております。予算については財務資料を参照下さい。

1)日本赤十字放射線技師会会誌 2009.Vol.50 の発行

2)日赤放技ニュース第 1 号から第 3 号まで計 3 回発行

3)総会資料及び研修会抄録の発行

4)発刊物の一元化による経費削減

5)ホームページとの情報の共存による、会員への有益な情報発信

6)会誌、技師会ニュースの電子化を推進し、データベース構築の実施

3.福利厚生案（総務部・事務局）

会員およびブロック理事、委員との連携を図るために、技師会 HP を活用し ML を構築して情報の効率化を目指し、速やかな対応を行う。

4.企画部活動案（企画部）

ホームページ（HP）の全面改訂により会員の連繋と連帯を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計る。また、メーリングリスト（ML）を活用した電子的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施する予定である。

(1)日赤技師会ホームページ（HP）の全面改正

・現行の HP は、閲覧型であるが全国 93 施設に散在する会員の英知を集結し、赤十字病院の質の向上に貢献できるようにコンテンツマネージメントシステム(CMS)導入による参加型 HP に切り替える。

・今年度は、学術部と事務局へ CMS を導入し、会の機能的運営を実施する。

・今後、技師会ニュースや業務研修会抄録集などの紙面印刷配布から HP への全面移行を視野に入れ、広報部も同様なシステムを導入することを提案していく。

(2)HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

・電子情報媒体を有効活用し ML 登録者の更なる増加を計る。

・学術部と連携し、分科会活動の機能的運営の推進を計る。

・組織調査部と連携し、アンケート調査等の効率運営化を計る。

(3)理事会メーリングリスト（ML）の構築と機能的活用の推進

・新たに理事会 ML を構築し、理事同士の意見交換を積極的に行う。

・理事会を円滑かつ機能的に実施し、次世代に適合した運営および本会の活動を企画する。

5.組織調査活動案（組織調査部）

(1)平成 20 年度も継続して、会員台帳を充実させていきます。平成 20 年 4 月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）および会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

(2)平成 19 年度のアンケート「認定資格取得調査」、「医療技術部動向調査」の結果報告について早期にホームページ等で公表いたします。

(3)医療技術部設置における本会と各施設の共同歩調化としての要望集約資料の作成を目指します。

6.表彰部活動案

第 2 条の 1 ：功労賞

本会の発展に関し、功績が抜群である者または顕著な功績があった者

髙橋　和弘（タカハシ　カズヒロ）氏	北海道ブロック	小清水赤十字病院
池田　英二（イケダ　エイジ）氏	北海道ブロック	伊達赤十字病院
草田　行雄（クサダ　イクオ）氏	中部ブロック	名古屋第二赤十字病院
中沢　正司（ナカザワ　ショウジ）氏	中部ブロック	飯山赤十字病院
花岡　宏行（ハナオカ　ヒロユキ）氏	中部ブロック	諏訪赤十字病院
駿田　耕一（スルタ　コウイチ）氏	近畿ブロック	京都第二赤十字病院
林　正彦（ハヤシ　マサヒコ）氏	中四国ブロック	松山赤十字病院
一瀬　弘之（イチノセ　ヒロユキ）氏	九州ブロック	日本赤十字社長崎原爆病院

第 2 条の 2 : 奨励賞

放射線技術学の研究奨励に値する者

施設（奨励賞）

山田赤十字病院　　中部ブロック

第 2 条の 3 : 感謝状

表彰該当者（感謝状）

川村　佳生（カワムラ　ヨシキ）氏　　近畿ブロック　　日本赤十字社和歌山医療センター

7.平成 20 年度予算（案）

収　入　の　部				
科目	１９年度予算額	２０年度予算案	増　減	備考
会費	3,600,000	3,630,000	30,000	3,000×1210 名
入会金	20,000	20,000	0	1,000×20 名
雑収入	20,000	20,000	0	
業務研修会費	880,000	880,000	0	8,000×110 名
会誌広告収入	400,000	400,000	0	会誌広告料
前年度繰越金	4,656,242	3,009,745	△1,646,497	
合計	9,576,242	7,959,745	△1,616,497	

支　出　の　部				
科目	１９年度予算額	20 年度予算案	増減	備考
総会費	650,000	500,000	△150,000	総会運営費
会議費	1,500,000	2,200,000	700,000	常任理事会・理事会費
役員活動費	119,000	119,000	0	3,500×34 名
ブロック活動費	700,000	700,000	0	100,000×7 ブロック
表彰費	200,000	150,000	△50,000	賞状副賞・活動費
学術部費	150,000	200,000	50,000	活動費
財務部費	100,000	80,000	△20,000	活動費
組織調査部費	50,000	40,000	△10,000	活動費
広報部費	300,000	300,000	0	活動費
企画部費	150,000	300,000	150,000	活動費
事務局費	500,000	400,000	△100,000	活動費・慶弔費
業務研修会費	880,000	880,000	0	8,000×110 名
会誌発行費	1,400,000	1,550,000	150,000	会誌発行費
サーバー管理費	0	252,000	252,000	セキュリティ管理費
基金積立費	50,000	50,000	0	特別積み立て基金へ繰り出し
予備費	2,827,242	238,745	△2,588,497	
合計	9,576,242	7,959,745	△1,616,497	

以上、日本赤十字放射線技師会　平成２０年度予算（案）を報告します

日本赤十字放射線技師会　会　長　　益　井　　謙　（印）

財務部　　前　川　栄　寿（印）

平成 21 年

第 56 回定期総会資料

日　　時　　平成 21 年 6 月 8 日（月）午後 4 時 00 分より

会　　場　　日本赤十字社　本社 201 会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表　　彰
総会議事運営報告
議長選出
議事録署名人選出、書記、採決係任命
選挙管理委員会報告
議　事

【第一号議案】　平成 20 年度事業経過報告
【第二号議案】　平成 20 年決算報告
【第三号議案】　平成 20 年度監査報告
【第四号議案】　平成 21 年度事業計画（案）
【第五号議案】　平成 21 年度予算（案）
【第六号議案】　その他

役員選挙
新旧役員挨拶
議長解任
新入会員の紹介
閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表　　彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会　　長　　益井　　謙
表彰委員長　戸口　豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

１．功労賞（第 2 条の 1）第 2 条の 1　功労賞

片岡　幸子　　高知赤十字病院

室谷　正吾　　富山赤十字病院

西村　章三　　石巻赤十字病院

村山　正栄　　長岡赤十字病院

村田　稔　　京都第二赤十字病院

冨田　啓二　　福井赤十字病院

道下　博行　　益田赤十字病院

星野　憲司　　釧路赤十字病院

小田　秀人　　函館赤十字病院

関根　和正　　深谷赤十字病院

名倉　邦彦　　引佐赤十字病院

２．　奨励賞　（第 2 条の 2）

【施　設】松山赤十字病院　　（計 10 回）

【個　人】加賀　久喜　　大阪赤十字病院

西関　　剛　　長浜赤十字病院

岡本　繁　　京都第二赤十字病院

３．　感謝状（第 2 条の 3）

川村　佳生　　　和歌山医療センター

敬称略・順不同

平成 20 年度事業報告

（総括）

平成 20 年の世相を現す今年の漢字に、「変」が選ばれた。あらゆる物象が、状況が、刻々変化するのは世の常であるが、グローバル的変化は、医療を取り巻く環境を大きく変革させようとしている。その変化を、察知し、推測を立て、状況に応じた備えをしなければならない。55 周年を迎えた当技師会は、その記念事業のひとつとして、HP を会員同士の連繋を図る新しい活動拠点とするべく、限られた予算内で刷新改変した。会員相互の意見交換（学術的）や、施設毎の文化の紹介（日当直体制）など、その活動の全般に亘って展開していく新機軸を提示した。学術分科会はさらに 3 部門を立ち上げ、意思の疎通の利便性を高めた。今後、時代が、社会が、「変」化し、閉塞感と、焦燥感に包まれたとしても、当会の会員は、各施設の英知を集結し、共有し、改善に繋がる拠点を得たと思っている。業務研修会や分科会が主催する活動とも共鳴して、赤十字理念の実践の場として、放射線技師の存在意義の発露として多いに利用して戴きたい。

１．会員の職業倫理の高揚に関する事業

・HP の全面改訂を図り、会員相互のコミュニケーションを図るインフラの整備を行った。

・技師長・課長 ML を新設し、施設長間の連携がリアルタイムで行える環境を整備した。

・　本社医療事業部と意思の疎通を図り、特に「大型医療機器共同購入」のアドバイザーとして関与した。

・　日本赤十字社医学会総会の評議員として会長が参加、学術・企画理事が学会発表および発表者の後見視察を行った。

２．学術講演ならびに研究発表に関する事業

・平成 20 年 6 月 2 日、3 日業務研修会を本社で開催した（会員発表など詳細は HP で供覧）。

３．放射線安全管理の徹底に関する事業および分科会活動

・　業務研修会で 55 周年特別記念講演「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」を行った。

・　乳房画像分科会講演会を開催した（平成 20 年 7 月 19 日：深谷赤十字病院）。

・　3 分科会追加設立（治療・RI･医療情報）

４．会誌、日赤放技ニュースなど発刊事業

・　会誌は部数削減し、年 1 回、ニュースは（HP 上）年 3 回発刊した。

５．会員相互の福利厚生に関する事業

・慶弔規程に則り対応した。

平成20年度事業報告

1．総務事項報告

（1） 平成20年度役員は次のとおりである。

役　職　名	氏　　名	施　設　名
会　　長	益井　　謙	松江赤十字病院
副　会　長	中里　　明	足利赤十字病院
副　会　長	黒田　順平	さいたま赤十字病院
副　会　長	山縣　徳治	水戸赤十字病院
常任理事　（総務）	辻　　秀憲	京都第二赤十字病院
同 (事務局)	磯田　康範	松江赤十字病院
同　（学術部）	久保田利夫	前橋赤十字病院
同　（学術部）	浅妻　　厚	神戸赤十字病院
同　（財務部）	前川　栄寿	成田赤十字病院
同　（組織調査部）	石田　智広	福井赤十字病院
同　（企画部）	新美　孝永	名古屋第二赤十字病院
同　（広報部）	清水　文孝	深谷赤十字病院
同　（表彰委員会）	戸口　豊宏	大分赤十字病院
ブロック理事（北海道）	川井　明彦	函館赤十字病院
同（東北）	大隈　康之	秋田赤十字病院
同（東部）	林　　智	長岡赤十字病院
同（中部）	福吉　正利	静岡赤十字病院
同（近畿）	井澤　秀恭	和歌山医療センター
同（中・四国）	佐藤　　繁	岡山赤十字病院
同（九州）	赤澤　　武	熊本健康管理センター

創立55周年記念事業担当

黒田順平（兼務）　山縣徳治（兼務）　中里　明（兼務）

役　職　名	氏　　名	施　設　名
監　　事	松　山　繁	長野赤十字上山田病院
監　　事	鈴木　利男	日本赤十字社医療センター

ブロック委員

役 職 名	氏　名	施　設　名
北海道ブロック	相澤　幹也	北見赤十字病院
東　北ブロック	横山　高広	仙台赤十字病院
東　部ブロック	佐藤　法行	山梨赤十字病院
々	星野　洋満	前橋赤十字病院
中　部ブロック	金子　　彰	高山赤十字病院
々	月田　邦彦	名古屋第一赤十字病院
々	福吉　正利	静岡赤十字病院

近　畿ブロック	森上　安一	高槻赤十字病院
々	勝間　　明	長浜赤十字病院
中・四国ブロック	西田　史生	松山赤十字病院
々	真貝　　勝	徳島赤十字病院
九　州ブロック	三谷　孝二	今津赤十字病院

広報委員会委員

役　職　名	氏　　名	施　　設　　名
広　報　部　長	清水　文孝	深谷赤十字病院
事　務　局　長	中山　　進	々
会　計　主　査	飯島　秀信	々
委　　　　員	川合　佳代	々
々	斉藤　幸夫	々
々	富田　欣治	々
々	清水　邦昭	々
々	桐生　幸恵	々

（２）　会議開催状況

１．総会

第 55 回定期総会を平成 20 年 6 月 2 日（月）本社 201 会議室において、会員 108 名が出席（委任状提出 1032 名）して開催した。総会では、会長挨拶、表彰につづき、議長 2 名選出、古賀則夫（福岡）、松山秀夫（浜松）、両議長にて進行する。平成 19 年度事業報告および平成 19 年度会計報告ならびに平成 20 年度事業計画（案）および平成 20 年度収支予算（案）等について審議し承認され決議した。

２．常任理事会、全国理事会は下記のとおり 4 回開催し、各理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

	年　月　日	内　　容	開　催　場　所
1	平成 20 年　7 月　4 日（金）	第 1 回常任理事会	京都第二赤十字病院
2	平成 20 年 10 月 31 日（金）	第 2 回常任理事会	本社 403 号室
3	平成 21 年　2 月 27 日（金）	第 3 回常任理事会	福井赤十字病院
4	平成 21 年　4 月 10 日（金）	全 国 理 事 会	本社 401 号室

３・広報委員会開催状況（広報部）

年　　月　　日	開　　催　　内　　容
平成 20 年　4 月 18 日	委員会開催　：技師会ニュース第 1 号発刊準備
平成 20 年　4 月 24 日	々　　　　：技師会ニュース発送準備・作業・会議
平成 20 年　4 月 25 日	々　　　　：技師会ニュース発送持込
平成 20 年　5 月　7 日	々　　　　：総会資料・学術抄録発送準備・作業
平成 20 年　5 月　9 日	々　　　　：総会資料・学術抄録発送持込
平成 20 年　5 月 12 日	々　　　　：総会資料・学術抄録発送準備・作業・発送持込
平成 20 年　5 月 13 日	々　　　　：広報委員会編集会議（会誌編集について）
平成 20 年　8 月 20 日	々　　　　：技師会ニュース校正作業・HP 掲載
平成 20 年　9 月 10 日	々　　　　：原稿依頼状等発送準備
平成 20 年　9 月 18 日	々　　　　：原稿依頼状等発送持込
平成 20 年 12 月　9 日	々　　　　：広報委員会編集会議（原稿割振、レイアウト等）
平成 20 年 12 月　9 日	々　　　　：広告掲載費請求書発送作業
平成 20 年 12 月 15 日	々　　　　：入稿原稿校正作業
平成 20 年 12 月 22 日	々　　　　：会誌初回入稿
平成 21 年　1 月 21 日	々　　　　：会誌原稿校正作業
平成 21 年　1 月 23 日	々　　　　：会長校正依頼発送
平成 21 年　1 月 26～30 日	々　　　　：校正原稿随時入稿
平成 21 年　1 月 31 日	々　　　　：会誌会長校正終了原稿入稿
平成 21 年　2 月 6～9 日	々　　　　：会誌校正作業・入稿
平成 21 年　2 月 12 日	々　　　　：会誌最終校正作業・入稿
平成 21 年　3 月 10～13 日	々　　　　：会誌発送作業・準備、発送持込
平成 21 年　3 月 27 日	々　　　　：　広報委員会編集会議及び残務整理

（2）表　彰

叙　勲等は特になし。

（3）会員の動向（平成 21 年 3 月 31 日現在）（事務局）

項　　　目	会　員　数
平成年 19 度末　　会員数	1,210　名
平成年 20 度　　新入会者数	55　名
同　　　再入会者数	3　名
平成 20 年度末　　会員数	1,244　名
同　　　退会者数	26　名

4）平成 20 年度広告協賛　25 社（五十音順）

№.	会　　社　　名
1	エーザイ株式会社
2	株式会社　AZE「アゼ」
3	株式会社エルクコーポレーション
4	株式会社カイゲン
5	株式会社千代田テクノル
6	株式会社根本杏林堂
7	株式会社日立メディコ
8	株式会社マエダ
9	コニカミノルタヘルスケア株式会社
１０	シーメンス旭メディテック株式会社
１１	GE 横河メディカルシステム株式会社
１２	タイコヘルスケアジャパン株式会社
１３	第一三共株式会社
１４	テルモ株式会社
１５	東芝メディカルシステムズ株式会社
１６	東洋メディック株式会社
１７	日本化薬株式会社
１８	日本放射線防禦株式会社
１９	日本メドラッド株式会社
２０	日本メジフィジックス株式会社
２１	バイエル薬品株式会社
２２	富士製薬工業株式会社
２３	富士フィルム RI ファーマ株式会社
２４	富士フィルムメディカル株式会社
２５	堀井薬品工業株式会社

２．学術教育活動報告（学術部）

１．業務研修会での学術活動

平成 20 年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において、下記の学術活動を行いました。参加人数 109 名（69 施設）

①55周年特別記念講演「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」

（社）日本画像医療システム工業会　野口　雄司　様

②学術講演「乳房の診療から治療まで」

乳房画像分科会代表世話人　さいたま赤十字病院　尾形　智幸　氏

③本社講演「これからの医療体制と赤十字病院について」

日本赤十字社　医療事業部企画課長　大野　博敬　様

④会員研究発表（要望演題 7 題、一般演題 7 題、分科会報告 2 題）

2．新たな学術分科会の設立

19 年度に設立した「MR・CT・乳房画像」各分科会に続き、新たに「治療」「核医学」「医療情報」の 3 分科会を設立しました。

各分科会の世話人は以下の通りです。（◎は代表世話人、敬称略）

治療分科会　◎田中　啓一（医療センター）
〇入川　富夫（鳥取）
〇河原　貴史（京都第一）
〇小山　登美夫（長野）

核医学分科会　◎門前　一（大津）
〇荻野　真博(旭川)
〇星野　洋満（前橋）

医療情報分科会　◎秋田　直昭（福井）
〇竹安　直行（医療センター）
〇千葉　美洋（石巻）
〇高本　研二（松山）

3．日本赤十字技師会ホームページ活動の推進

HP 講座の展開を推進し、会内外に技師会の学術活動をアピールしました。

ホームページ上に掲示板を設立して会員相互の情報交換の場を設け、分科会に絡む内容の質問・調査依頼については、各分科会が積極的に携わり活性化を促しました。

以下のように、ホームページ活動を行いました。

HP 講座

①シリーズ「Excel を利用した MU 独立検証　第 0～6 章（最終章)」【治療分科会】
②CT 造影技術講座 I 【CT 分科会】
③医療情報システムの手引き 【医療情報分科会】

アンケート報告

①乳房撮影等に関するアンケート報告 【乳房画像分科会】
②乳房 MRI 検査等に関するアンケート報告 【MR 分科会】
③検査着に関するアンケート報告 【乳房画像分科会】
④フィルムレスに伴うデータの持ち出し及び取り込みについてのアンケート報告 【医療情報分科会】

掲示板

①インプラントについて【乳房画像分科会】
②EOB プリモビストについて【MR 分科会】
③検査着について【乳房画像分科会】
④体重入力について【MR 分科会】
⑤乳房生検認定技師について【乳房画像分科会】
⑥分科会主催研究会およびポイント付与について
⑦CT 造影ライン確認方法について【CT 分科会】
⑧放射線部門内における静脈注射について
⑨電子カルテによる RI の予約の運用方法について【核医学分科会】
⑩S 値は臨床現場で線量の指標になるのでしょうか
⑪PACS サーバーへの外部画像入出力に関して【医療情報分科会】

4．分科会主催研修会

第 1 回乳房画像勉強会 in FUKAYA を、7 月 19 日、深谷赤十字病院にて開催しました。
参加人数 30（6 施設）
講演 1　「知っておきたい乳腺診断の流れ」　さいたま赤十字病院　尾形　智幸
講演 2　「デジタル乳房撮影装置における自動露出制御の管理とその重要性」
名古屋第二赤十字病院　真野　晃浩
講演 3 「MMG（マンモグラフィー）の基礎」　深谷赤十字病院　川合　佳代
読影実技及び解説　尾形　智幸、　川合　佳代

5．業務研修会プログラム委員会の開催

研修会研究発表応募演題の採用審議のため、業務研修会プログラム委員会を、
3 月 2～5 日、3 月 6～9 日、3 月 12～13 日、計 3 回メールにて開催しました。

3．広報部活動報告（広報部）

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュース第 1 号を冊子として発行しました。また、ホームページの充実に伴い、日赤放技ニュース 2 号、3 号をホームページ上に掲載を行いました。内容は、会告、お知らせ、本会の動きなどの情報を会員に提供いたしました。次に、日本赤十字放射線技師会会誌 2009. Vol. 50 を発刊いたしました。本社寄稿、本会の動き（本社研修会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告、日赤医学会報告、施設紹介、新入会員紹介等）、学術特集、創刊 50 号記念特集（本社寄稿、特別寄稿、創刊からの歩み、名誉会員投稿）、トピックス、会員名簿など会員に様々な情報を提供いたしました。また、本会印刷物の一元化を図り、総会資料、学術抄録を広報部にて取り纏め、印刷製本を依頼しました。会誌、日赤放技ニュースの印刷、発送業務費用等を含めた一元化に取り組み、経費の削減化を図りました。

しかし、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても充分な情報を提供できたかは不明です。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

１）日本赤十字放射線技師会会誌 2009．Vol．50 を発行しました。

２）日赤放技ニュース第 1 号発行しました。

３）日赤放技ニュース第 2 号・3 号をホームページ上に掲載しました。

４）会誌の広告協賛会社は、25 社でした。

５）広報委員会にて、編集会議、校正作業、発送作業などの年度に渡り業務を遂行しました。

６）本会の発行する印刷物の一元化を図り、経費削減に努めました。

４．福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規定に基づき、祝電 3 名、弔電 2 名について行った。

５．企画部活動報告（企画部）

ホームページ（HP）の全面改訂により会員の連繋と連帯を推進し，赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計った．また，メーリングリスト（ML）を活用した電子的運営をさらに推進し，技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施した．

具体的な活動報告を以下に記す．

(1)日赤技師会ホームページ（HP）の全面改正

・現行の HP は，閲覧型であるが全国 93 施設に散在する会員の英知を集結し，赤十字病院の質の向上に貢献できるようにコンテンツマネージメントシステム（CMS）導入による参加型 HP に切り替えた．

・今年度は，学術部と事務局の部分へ CMS 導入し，会の機能的運営を実施した．

・導入した CMS を有効活用し，技師会ニュースを紙面印刷配布から HP への全面移行を実施した．

・HP 上にホットラインコーナを設置し，学術に限らず会員からのいかなる質問にも常時対応できるようにした．

(2)理事会および技師長・課長メーリングリスト（ML）の構築

・理事会 ML を構築，活用し，理事同士の意見交換を積極的に行った．

・技師長・課長 ML を構築，活用し，施設長同士の意見交換を積極的に行った．

(3)HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

・理事会を円滑かつ機能的に実施し，次世代に適合した技師会運営を推進した．

・学術部と連携し，HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進した．

・組織調査部と連携し，技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率運営を推進した．

６．組織調査活動報告（組織調査部）

(1) 平成 19 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。

(2) 新ホームページ運用の開始に合わせ、会員の IDNO.を割り当てた。

(3) 平成 19 年度の調査アンケート「認定資格取得調査」,「医療技術部動向調査」の結果報告についてホームページへ公表した。

（4）技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。
（5）ホットクロス ML で協議された①各施設の造影注射体制の状況調査 ②日当直体制の現況調査について集約版としてホームページ上へ掲載した。

７．表彰部報告

功労賞

北海道ブロック　　小清水赤十字病院
　　高橋　和弘（タカハシ　カズヒロ）氏
　伊達赤十字病院
　　池田　英二（イケダ　エイジ）氏
中部ブロック　　名古屋第一赤十字病院
　　草田　行雄（クサダ　イクオ）氏
　飯山赤十字病院
　　中沢　正司（ナカザワ　ショウジ）氏
　諏訪赤十字病院
　　花岡　宏行（ハナオカ　ヒロユキ）氏
近畿ブロック　　京都第二赤十字病院
　　駿田　耕一（スルタ　コウイチ）氏
中四国ブロック　　松山赤十字病院
　　林　正彦（ハヤシ　マサヒコ）氏
九州ブロック　　日本赤十字社長崎原爆病院
　　一瀬　弘之（イチノセ　ヒロユキ）氏

以上 8 名の方を功労賞として表彰しました。

第 2 条の 2　奨励賞
　施設　山田赤十字病院
　学術発表が施設として計 10 回に達したため表彰しました。

第 2 条の 3　感謝状
　日本赤十字社和歌山医療センター
　　川村　佳生（カワムラ　ヨシキ）氏

平成 19 年度定年退職者・次年度退職者を該当者として推薦させていただきました。

８．ブロック報告

【北海道ブロック】

第 18 回北海道ブロック学術研修会　平成 20 年 9 月 27～28 日　函館赤十字病院担当

【東部ブロック】

（1）第 1 回　東部ブロック　乳房画像勉強会 in　Fukaya

今回初めての試みでした。学術部、分科会世話人と深谷赤十字病院の協力で精中委認定を目指す方、スキルアップの方などの勉強会との報告（詳細は担当病院に）

平成 20 年 7 月　　深谷赤十字病院担当　　分科会世話人、学術部

（2）第 21 回　東部ブロック研修会　平成 20 年 11 月 8 日～9 日　前橋赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第 17 回近畿ブロック学術研修会　　平成 21 年　2 月 28 日～3 月 1 日
長浜赤十字病院担当

【九州ブロック】

（1）　第 9 回学術研修会　　福岡赤十字病院担当

開催日時：平成 20 年 9 月 27 日（土）～28 日（日）

開催場所：日本赤十字社九州ブロック研修センター『アソシエート』

特別講演 1、教育講演 1、会員研究発表 9 演題

９．平成 20 年度決算報告

１０．平成 20 年度監査報告

監 査 報 告 書

平成 21 年 4 月 10 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

１・平成 20 年度特別積立金
２・平成 20 年度会誌特別会計
３・平成 20 年度業務研修決算
４・平成 20 年度一般会計決算
５・平成 20 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した。

平成 21 年度事業計画案

（総括）

時代は変革を求めていて、本社の「もっとクロス！計画」やアメリカ合衆国の新リーダーの選挙用のキャッチ・フレーズ「YES WE CAN」に先駆けて、『ホットライン計画』や『ホットクロス計画』を推進し、『WE CAN TOO』して来た。今年は愈々、その改革路線、変革線路上に夢を乗せて走らせねばならない。先ず、HP の機能強化、利便性へのスキルアップを図り、会員個々との連繫・連絡網の整備を強化する。技師長・課長 ML の運用充実は、本社とのパイプを強化し、各施設長とのコミュニケーション・ツールとして進化させるもの。各ブロック活動や分科会活動を通じて、全体の技術レベルの向上を、協議しながら推進する。「大型医療機器共同購入」、「医療技術部」、「勤務評定」など、本社が推進する制度やアクションプランに呼応できる態勢作りを行う。一方で、施設における放射線技師の有効活用（電子カルテ・PACS など医療情報関係）を喧伝して行き、国際救援や災害救援活動など、我々の存在感を誇示するためにも、我々自身の存在意義への学術的研鑽の場を広く設けたい。

１．会員の職業意識の高揚に関する事業
- 本社医療事業部と連繫を密にし、赤十字事業の展開に、我々が関与協力できる態勢の充実をより推進したい。
- 日本赤十字医学会への参加を促すと共に、質の向上をより目指したい。

２．学術活動に関する事業
- 業務研修会を開催し、会員のレベル向上を推進したい。
- 学術分科会活動を支援し、会員相互のスキルアップを図りたい。

３．会員相互の連携に関する事業
- HP の充実を図り、情報交換の窓口としての利便性の向上を推進したい。
- 技師長・課長 ML の登録を促し、意見交換の場として機動性の向上を目指したい。
- ブロック研修会がより活性する為の支援を推進したい。
- 災害救援活動とそのネットワークを構築し推進したい。

４．会誌・日赤放技ニュースに関する事業
- 会誌は年 1 回、ニュースは年 4 回発刊したい。掲載主媒体は HP に置き、発行部数は最小限に抑えたい。ニュースは HP に掲載。

５．会員相互の福利厚生に関する事業

・慶弔規定に則り、速やかな対応を促したい。

１．学術教育活動計画案

１．平成 21 年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会開催にあたり、会員皆様の資質向上に役立つ研修会を企画いたします。

２．本年度は、掲載内容をより一層充実させ、会員間の情報交流の場となるようなホームページを目指します。

３．各分科会活動のさらなる活性を推進いたします。

昨年度、新たに 3 分科会が発足して、6 分科会が活動を始めていますが、まだ発展途上です。HP 講座の継続や新規企画等、各分科会活動のさらなる活性を推進いたします。

２．広報部活動計画案

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュース第 1 号を冊子として発行しました。また、ホームページの充実に伴い、日赤放技ニュース 2 号、3 号をホームページ上に掲載を行いました。内容は、会告、お知らせ、本会の動きなどの情報を会員に提供いたしました。次に、日本赤十字放射線技師会会誌 2009．Vol．50 を発刊いたしました。本社寄稿、本会の動き（本社研修会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告、日赤医学会報告、施設紹介、新入会員紹介等）、学術特集、創刊 50 号記念特集（本社寄稿、特別寄稿、創刊からの歩み、名誉会員投稿）、トピックス、会員名簿など会員に様々な情報を提供いたしました。また、本会印刷物の一元化を図り、総会資料、学術抄録を広報部にて取り纏め、印刷製本を依頼しました。会誌、日赤放技ニュースの印刷、発送業務費用等を含めた一元化に取り組み、経費の削減化を図りました。

しかし、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても充分な情報を提供できたかは不明です。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

１）日本赤十字放射線技師会会誌 2009．Vol．50 を発行しました。
２）日赤放技ニュース第 1 号発行しました。
３）日赤放技ニュース第 2 号・3 号をホームページ上に掲載しました。
４）会誌の広告協賛会社は、25 社でした。
５）広報委員会にて、編集会議、校正作業、発送作業などの年度に渡り業務を遂行しました。
６）本会の発行する印刷物の一元化を図り、経費削減に努めました。

３．福利厚生案（総務部・事務局）

会員およびブロック理事、委員との連携を図るために、技師会 HP を活用し技師長・課長 ML を構築して情報の効率化を目指し、速やかな対応を行う。

４．企画部活動案（企画部）

平成 20 年度は、技師会活動の基盤整備が中心であったが、基盤がおおよそ整備された今年度は「ユビキタスネットワークを活用し、診療および災害支援を目的とした 21 世紀型職域団体をめざす」という目標達成させるべく基盤の機能強化を図る。

具体的な活動計画を以下に記す。

(1)日赤技師会ホームページ（HP）の機能強化
・HP の改善を通して、利便性へのスキルアップを図る。
・HP の活用を推進し、会員個々との連繋・連絡網の整備を強化する。
・国際救援や災害救援活動のコーナの充実を図る。

(2)メーリングリスト（ML）の活用推進
・理事会 ML を活用し、積極的な意見交換の実施によりユビキタスな技師会運営を推進する。
・技師長・課長 ML の活用推進を図り、各施設長とのコミュニケーション・ツールとして進化させる。
・日赤技師会 ML の活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させる。

(3)HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進
・HP および ML の活用によりユビキタスな技師会運営を推進する。
・HP および ML の活用によりブロック研修会運営のサポートを推進する。
・学術部と連携し、HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進する。
・組織調査部と連携し、技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率運営を推進する。

(4)学術部メーリングリスト（ML）から技師会 ML への移行
現在、名古屋第二赤十字病院のサーバを利用して構築している「学術部 ML」をムツダ商会のサーバに移行し、「日赤技師会 ML」として再構築する。日赤技師会 ML は、学術のみならず会員同士の意見交換ツールとして活用していく予定である。

５．組織調査活動案（組織調査部）

（1）平成 21 年度も継続して全国赤十字病院施設へ会員台帳確認の調査を行います。
H21.４月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）及び会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。なお、今年度より変更がない場合はメール返信も可能と致します。
（2）会員台帳調査に合わせて技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）の未登録施設へ登録を促します。
（3）技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）を活用して各施設の抱える問題について定期的にその状況調査を進めます。

６．表彰部活動案

第 2 条の 1　功労賞
高知赤十字病院　片岡　幸子
富山赤十字病院　室谷　正吾
石巻赤十字病院　西村　章三
長岡赤十字病院　村山　正栄
京都第二赤十字病院　村田　稔
福井赤十字病院　冨田　啓二

益田赤十字病院　道下　博行
釧路赤十字病院　星野　憲司
第 2 条の 2　奨励賞　施設　松山赤十字病院
奨励賞　個人
大阪赤十字病院　加賀　久喜
長浜赤十字病院　西関　　剛
京都第二赤十字病院　岡本　繁
第 2 条の 3　感謝状
和歌山医療センター　川村　佳生

今後の方向
退職者（死亡退職者）のなかで、日本赤十字放射線技師会に入会し勤務 25 年以上・年齢 55 歳以上の会員も対象としますので、組織調査部との連携を密に図り、漏れの無いよう推し進めていきます。また、奨励賞に関しても学術と連携し、推薦いただいた会員を理事会にはかり決める方向で考えております。会員の皆様からの表彰対象情報を、ホームページまたは ML で啓蒙することを考えています。
いままでは、12 月初旬に表彰に関する広報をしていましたが、もう少し早い時期での HP 上でお知らせを考えております。推薦書に於いても、推薦者の捺印があったのですが、これを廃止しメールもしくは FAX で受け付けようと考えています。また、奨励賞に関しても発表の中で、偉大な技術・功績で社会に貢献できたと学術部が認めた場合は、1 回でも表彰することを考慮する。日赤医学会総会における発表も奨励賞の対象にすることを会員に総会時にもう一度お知らせすると同時に、日赤医学会の発表に関しては、会員の自己申請とすることも認識していただく。以上の表彰委員会で選考を行い、理事会の承認を得るものとする。

７．平成 21 年度予算（案）

８．ブロック活動案
【北海道ブロック】
学術研修会
【東部ブロック】
第 22 回学術研修会　水戸赤十字病院担当
【近畿ブロック】
第 18 回近畿ブロック学術研修会　　神戸赤十字病院担当
【九州ブロック】
第 10 回学術研修会　今津赤十字病院担当（三谷　孝二氏）

第 56 回　定期総会　議事録

１．日　 時　：平成 21 年 6 月 8 日（月）　午後 3 時 30 分　～　5 時
２．会　 場　：日本赤十字社　本社 201 号室
３．出席者　：日本赤十字放射線技師会　会員　116 名
４．議事録作成人　　　常任理事　総務担当　辻　秀憲
５．総会次第

① 開会の辞
② 会長挨拶
③ 表　　彰
④ 総会議事運営報告
⑤ 議長選出
⑥ 議事録署名人・採決係り任命
⑦ 議事
　　第 1 号議案　　平成 20 年度事業経過報告
　　第 2 号議案　　平成 20 年度決算報告
　　第 3 号議案　　平成 20 年度監査報告
　　第 4 号議案　　平成 21 年度事業計画(案)
　　第 5 号議案　　平成 21 年度予算（案）
　　第 6 号議案　　その他
⑧ 役員改選　選挙管理委員会報告
⑨ 議長解任
⑩ 閉会の辞

上記の総会次第に基づいて、当技師会　益井会長の挨拶にはじまり、表彰に移る。

表彰委員長の戸口理事により紹介される
　功労賞は、11 名　　　奨励賞は、施設　1　、個人　3 名　　　感謝状は　1 名

表彰後、次に、総会議事運営報告（資格審査報告）を事務局の磯田理事より報告
　本日の出席者　116 名、委任状提出者　1081 名、合計　1197 名（96%）の
　確認より、会則第 20 条の規定に基づき本総会は成立しますと報告。

次に、議長選出となる。会場より立候補がないため、執行部より 2 名を推薦した。
　　大田原赤十字病院　手塚　章一様　　　福岡赤十字病院　山口　英雄様

議長より、議事録署名人・採決係りを会場より4名を任命

議事録署名人は、	神戸赤十字病院	中田　正明
	足利赤十字病院	蓼沼　志織
採決係りは、	前橋赤十字病院	長瀬　博之
	大分赤十字病院	凍田　淳平

議長の進行により議事に入る。
第1号議案から第3号議案まで一括して執行部より報告。
報告後、質問に入る

☆Q： 基金の決算報告がないのは、なぜか
A： 昨年の総会でも説明があったように、郵便貯金法による会計を一本化したため、予備費に掲載している。
☆Q：決算報告で、繰越金が年々減っている関係上、今後、赤字になるのではないか
A：会誌発行料や会議数を減らす方向でいるため、今のところ懸念はありません。
☆Q：組織率について、教えていただきたい
A：組織率は、現在、95％です。会費の納入率は、100％です。
☆Q：決算報告で、会誌売却費とは、何か
A：メーカーさんより、会誌購入の申し出があり、1冊1,000円で、30冊の売却となった費用です。

採決にはいり、第1号議案から第3号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第4号議案から第5号議案まで一括して執行部より報告。
報告後、質問に入る。

☆Q：21年度予算案で、会誌広告収入が、20万円と減額になっているのはなぜか
A：19年度は62万円、20年度は49万円と、年々減っており、社会情勢や企業の経営事情により、各企業の広告収入の削減があります。本年度は、期待できないと考えております
☆Q：ブロック活動費、各10万円の予算があるが、これは、強制なのか
A： 7ブロック全てに活動をお願いしておりますが、やはり、地域性もあるため、検討はしていただいているが強制はできません。活動していないブロックの分を削減するわけにはいかない。活動しているブロックを目標にして、それぞれ、活発に活動していただきたいと思います。
☆Q：事業計画の中の分科会活動の目的を明確にしたらどうか
A：各分科会の世話人に一任のため、現在のところ、明確になっていませんが、今後、目的を明確にして、ホームページ（HP）に掲載していく予定です。
☆Q：メーリングリスト（ML）とHPの活用方法についてはどのようにされているか
A：HPを中心に掲載するだけでは、情報伝達力不足のため、今後、HPとMLの2本立ての発信を考えています。
☆Q：MLの内容をチェックしているのか
A：現段階では、社会的問題もありますので、チェックせざるを得ないです

採決にはいり、第 4 号議案から第 5 号議案までは、賛成多数で承認された。
次に第 6 号議案の報告・承認があり、賛成多数で承認された。

次に、役員改選が行なわれ、選挙管理委員長より報告された。
立候補者の定数を満たしているため、立候補者の当選と報告があり、承認されました。
平成 21、22 年度の役員は以下のとおり

会　　長：益　井　謙　　　（松江赤十字病院）
副 会 長：清　水　文 孝　　（深谷赤十字病院）
　　　　　＊広報担当兼務
副 会 長：久保田　利 夫　　（前橋赤十字病院）
　　　　　＊学術担当兼務

監　　事：鈴　木　利 男　　（赤十字医療センター）
　々　　：中　里　明　　　（足利赤十字病院）
常任理事
事 務 局：磯　田　康 範　　(松江赤十字病院）
総　　務：辻　　　秀 憲　　（京都第二赤十字病院）
学　　術：浅　妻　厚　　　（神戸赤十字病院）
財　　務：前　川　栄 寿　　(成田赤十字病院）
組織調査：石　田　智 広　　（福井赤十字病院）
企　　画：新　美　孝 永　　（名古屋第二赤十字病院）
表　　彰：戸　口　豊 宏　　（大分赤十字病院）

以上にて、議事を終了したので、議長は解任となった。

最後、中里副会長に閉会の辞をもって、総会は終了となった。

平成 22 年

第 57 回定期総会資料

日　　時　　平成 22 年 6 月 10 日（月）午後 3 時 40 分より

会　　場　　東京国際フォーラム　会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表　　彰
総会議事運営報告
議長選出
議事録署名人選出、書記、採決係任命
議　事

【第一号議案】　平成 21 年度事業経過報告
【第二号議案】　平成 21 年決算報告
【第三号議案】　平成 21 年度監査報告
【第四号議案】　平成 22 年度事業計画（案）
【第五号議案】　平成 22 年度予算（案）
【第六号議案】　その他

議長解任
閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表　　彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会　　長　　益井　　謙
表彰委員長　戸口　豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

１．功労賞（第 2 条の 1）第 2 条の 1　功労賞

片岡　幸子　　高知赤十字病院

室谷　正吾　　富山赤十字病院

西村　章三　　石巻赤十字病院

村山　正栄　　長岡赤十字病院

村田　稔　　京都第二赤十字病院

冨田　啓二　　福井赤十字病院

道下　博行　　益田赤十字病院

星野　憲司　　釧路赤十字病院

小田　秀人　　函館赤十字病院

関根　和正　　深谷赤十字病院

名倉　邦彦　　引佐赤十字病院

２．　奨励賞　（第 2 条の 2）

【施　設】松山赤十字病院　　（計 10 回）

【個　人】加賀　久喜　　大阪赤十字病院

西関　　剛　　長浜赤十字病院

岡本　繁　　京都第二赤十字病院

３．　感謝状（第 2 条の 3）

川村　佳生　　和歌山医療センター

敬称略・順不同

【　第一号議案　】

平成 21 年度事業報告（総括）

変革の時代には、必ず後押しする「文明」を伴うものである。蒸気機関然り、石油内燃機関然り。その文明の利器を補助にして時代はこじ開けられるのである。その開かれた状態を、いわゆる「文明開化」と云う。IT 文明の申し子であるユビキタス社会の到来に当たり、当技師会は『ホットライン計画』や『ホットクロス計画』を実践して来た。各施設の技師長・課長のトップリーダーとの情報網の連結、本社や医学会との緊密態勢を堅固に推進して来た。その基軸になったのは、諸先輩が礎を築いてくれた「会誌」や「ニュース」であり「HP（ホームページ）」の情報媒体である。各会員の協力により HP は今や、電子会誌として当会の『文明開化』をもたらそうとしている。今年度の事業の主眼は、HP の充実にあって、6 分科会の活動拠点となり、又、災害医療にも新基軸を籠めて編纂した。一方、スキルアップ著しい会員の足がかりとして、従来の「業務研修会」を「日本赤十字放射線技師学術大会」として、『学術的文明開化』の証とする事とした。受動的なお仕着せの研修会から、能動的な自覚自立した学術集団への文明開化である。今年度、我々の文明開化の足跡は以下の通りである。

平成 21 年度事業報告

１．総務事項報告

（1）　平成 21 年度役員は次のとおりである。

役　職　名	氏　　　名	施　設　名
会　　長	益井　　謙	松江赤十字病院
副　会　長 （災害・文書兼務）	久保田利夫	前橋赤十字病院
副　会　長 （広報兼務）	清水　文孝	深谷赤十字病院
常任理事 （総務・安全推進兼務）	辻　　秀憲	京都第二赤十字病院
同 (事務局)	磯田　康範	松江赤十字病院
同　（学術部）	浅妻　　厚	神戸赤十字病院
同　（財務部）	前川　栄寿	成田赤十字病院
同 （組織調査部・IT 兼務）	石田　智広	福井赤十字病院
同　（企画部・IT 兼務）	新美　孝永	名古屋第二赤十字病院
同　（表彰部・IT 兼務）	戸口　豊宏	大分赤十字病院
ブロック理事（北海道）	川井　明彦	函館赤十字病院
同（東北）	新田　　仁	盛岡赤十字病院
同（東部）	林　　　智	長岡赤十字病院
同（中部）	福吉　正利	静岡赤十字病院

同（近畿）	中島　敏博	姫路赤十字病院
同（中・四国）	西田　史生	松山赤十字病院
同（九州）	三谷　孝二	今津赤十字病院

役　職　名	氏　　　名	施　設　名
監　　　事	鈴木　利男	日本赤十字社医療センター
監　　　事	中里　　明	足利赤十字病院

ブロック委員

役 職 名	氏　　名	施　設　名
北海道ブロック	川井　明彦	函館赤十字病院
東　北ブロック	新田　　仁	盛岡赤十字病院
東　部ブロック	星野　洋満	前橋赤十字病院
中　部ブロック	金子　　彰	高山赤十字病院
近　畿ブロック	内橋　宣尚	中町赤十字病院
々	浅妻　　厚	神戸赤十字病院
中・四国ブロック	真貝　勝	徳島赤十字病院
々	梶谷　努	岡山赤十字病院
九　州ブロック	吉見　公作	鹿児島赤十字病院

広報委員会委員

役　職　名	氏　　名	施　　設　　名
広　報　部　長	清水　文孝	深谷赤十字病院
事　務　局　長	中山　　進	々
会　計　主　査	飯島　秀信	々
委　　　　員	川合　佳代	々
々	斉藤　幸夫	々
々	富田　欣治	々
々	清水　邦昭	々
々	桐生　幸恵	々

（２）　議開催状況

１．総会

第 56 回定期総会を平成 21 年 6 月 8 日（月）本社 201 会議室において、会員 116 名が出席（委任状提出 1 1032 名）して開催した。総会では、会長挨拶、表彰式、議事運営報告につづき、議長 2 名、手塚章一（大田原赤十字病院）山口英雄（福岡赤十字病院）を選出して、両議長にて議事進行する。平成 20 年度事業報告および平成 20 年度会計報告ならびに平成

21年度事業計画（案）および平成21年度収支予算（案）等について審議し、決議した。
理事・監事が任期満了になるのでその後任選任について、選挙管理委員長、鈴木繁氏（前橋赤十字病院）より報告された。会長理事立候補者に益井謙氏（松江赤十字病院）1名、および監事候補者に鈴木利男氏（日本赤十字医療センター）、中里明氏（足利赤十字病院）の2名、副会長候補者に清水文孝氏（深谷赤十字病院）、久保田利夫氏（前橋赤十字病院）2名の立候補推薦届けがあり、会員全員異議なく候補者は選任された。尚、常任理事、ブロック理事については、下記のとおり選任された。

会　　長	益井　謙
副 会 長	清水　文孝、久保田　利夫
監　　事	鈴木　利男、中里　明
常任理事	磯田　康範、辻　秀憲、浅妻　厚、前川　栄寿
	石田　智広、新美　孝永、戸口　豊宏
ブロック理事	川井　明彦、新田　仁、林　智、福吉　正利
	中島　敏博、西田　史生、三谷　孝二

2．常任理事会、全国理事会は下記のとおり4回開催し、各理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

	年　月　日	内　容	開 催 場 所
1	平成21年　7月　3日（金）	第1回常任理事会	本社203号室
2	平成21年 11月　3日（金）	第2回常任理事会	神戸赤十字病院
3	平成22年　2月 12日（金）	第3回常任理事会	東京国際フォーラム
4	平成22年 4月　16日（金）	全 国 理 事 会	東京国際フォーラム

（3）表彰
第2条の1　功労賞
高知赤十字病院　片岡　幸子
富山赤十字病院　室谷　正吾
石巻赤十字病院　西村　章三
長岡赤十字病院　村山　正栄
京都第二赤十字病院　村田　稔
福井赤十字病院　冨田　啓二
益田赤十字病院　道下　博行
釧路赤十字病院　星野　憲司
函館赤十字病院　小田　秀人
深谷赤十字病院　関根　和正
引佐赤十字病院　名倉　邦彦

第 2 条の 2　奨励賞　施設　松山赤十字病院
　　　　　　奨励賞　個人
　　　　　　　大阪赤十字病院　加賀　久喜
　　　　　　　長浜赤十字病院　西関　　剛
　　　　　　　京都第二赤十字病院　岡本　繁
第 2 条の 3　感謝状
　　　　　　　和歌山医療センター　川村　佳生

（4）物故者（敬称略）
　　　松山　秀夫（浜松赤十字病院）

（5）会員の動向（平成 21 年 10 月 31 日現在）（事務局）

項　　目		会　員　数
平成年 20 度末	会員数	1,244　名
平成年 21 度	新入会者数	57　名
同	再入会者数	2　名
平成 21 年度	会員数	1,286　名
同	退会者数	31　名

３・広報委員会開催状況（広報部）

年　　月　　日	開　　催　　内　　容
平成 20 年　4 月 18 日	委員会開催　：技師会ニュース第１号発刊準備
平成 20 年　4 月 24 日	〃　　　　：技師会ニュース発送準備・作業・会議
平成 20 年　4 月 25 日	〃　　　　：技師会ニュース発送持込
平成 20 年　5 月　7 日	〃　　　　：総会資料・学術抄録発送準備・作業
平成 20 年　5 月　9 日	〃　　　　：総会資料・学術抄録発送持込
平成 20 年　5 月 12 日	〃　　　　：総会資料・学術抄録発送準備・作業・発送持込
平成 20 年　5 月 13 日	〃　　　　：広報委員会編集会議（会誌編集について）
平成 20 年　8 月 20 日	〃　　　　：技師会ニュース校正作業・ＨＰ掲載
平成 20 年　9 月 10 日	〃　　　　：原稿依頼状等発送準備
平成 20 年　9 月 18 日	〃　　　　：原稿依頼状等発送持込
平成 20 年 12 月　9 日	〃　　　　：広報委員会編集会議（原稿割振、レイアウト等）
平成 20 年 12 月　9 日	〃　　　　：広告掲載費請求書発送作業
平成 20 年 12 月 15 日	〃　　　　：入稿原稿校正作業
平成 20 年 12 月 22 日	〃　　　　：会誌初回入稿
平成 21 年　1 月 21 日	〃　　　　：会誌原稿校正作業
平成 21 年　1 月 23 日	〃　　　　：会長校正依頼発送
平成 21 年　1 月 26～30 日	〃　　　　：校正原稿随時入稿
平成 21 年　1 月 31 日	〃　　　　：会誌会長校正終了原稿入稿
平成 21 年　2 月 6～9 日	〃　　　　：会誌校正作業・入稿
平成 21 年　2 月 12 日	〃　　　　：会誌最終校正作業・入稿
平成 21 年　3 月 10～13 日	〃　　　　：会誌発送作業・準備、発送持込
平成 21 年　3 月 27 日	〃　　　　：　広報委員会編集会議及び残務整理

（4）平成20年度広告協賛　25社（五十音順）

No.	会　　社　　名
1	エーザイ株式会社
2	株式会社　AZE「アゼ」
3	株式会社エルクコーポレーション
4	株式会社カイゲン
5	株式会社千代田テクノル
6	株式会社根本杏林堂
7	株式会社日立メディコ
8	株式会社マエダ
9	コニカミノルタヘルスケア株式会社
１０	シーメンス旭メディテック株式会社
１１	GE横河メディカルシステム株式会社
１２	タイコヘルスケアジャパン株式会社
１３	第一三共株式会社
１４	テルモ株式会社
１５	東芝メディカルシステムズ株式会社
１６	東洋メディック株式会社
１７	日本化薬株式会社
１８	日本放射線防禦株式会社
１９	日本メドラッド株式会社
２０	日本メジフィジックス株式会社
２１	バイエル薬品株式会社
２２	富士製薬工業株式会社
２３	富士フィルムRIファーマ株式会社
２４	富士フィルムメディカル株式会社
２５	堀井薬品工業株式会社

２．学術教育活動報告（学術部）

（1）業務研修会での学術活動

平成21年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において、下記の学術活動を行った。

① 教育講演　「災害医療における放射線技師の役割－あなたにできることは何か？－」
兵庫県災害医療センター　副センター長　中山　伸一　様

② 学術講演　「3T MRIの使用経験　－　Siemens社製Magnetom Trio 3.0T－　」
MR分科会　仙台赤十字病院　安彦　茂　様

③ 本社講演　　「日赤病院を取り巻く医療環境について」

日本赤十字社　医療事業部企画課長　　大野　博敬　様

④ パネルディスカッション　「今から始められる災害医療支援」

DMAT 研修修了者　名古屋第二赤十字病院　　駒井一洋氏

鳥取赤十字病院　　山根晴一氏

兵庫県災害医療センター　　中田正明氏

神戸赤十字病院　　小川宗久氏

⑤会員研究発表（13 演題）

優秀発表賞等の表彰を実施した。

（2）学術分科会規定作成

日本赤十字放射線技師会　学術分科会規定を作成し施行した。

（3）分科会活動

各分科会において、下記の活動を行った。

① 【医療情報分科会】　医療情報システムに関するアンケートを実施し、結果をホームページに掲載した。

医療情報システム導入の手引きを作成し、ホームページに掲載した。

医療情報分科会＠wiki を立ち上げ、運用を開始した。

② 【CT 分科会】　各ブロックの CT 担当者と共に、CT プロトコルアンケートを実施した。

③ 【MR 分科会】　乳房 MR 検査の標準化を検討した。

MRI 検査における説明用 DVD の作成を行った。

④ 【乳房画像分科会】　地域の乳房研究会の紹介を行った。

⑤ 【各分科会】　以下のホームページ掲示板の質問に対し、回答を行った。

MRI の問診・安全対策に関して

人名漢字の規格について

ジャパン・マンモグラフィサンデーについて

3D-CT リンパ管造影について

マンモグラフィ健診無料クーポン券について

肺がん検診認定技師制度について

医療安全に掛かる患者情報について

マンモグラフィモニタ診断について

３．広報部活動報告（広報部）

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュースの発行を第 1 号から第 2 号まで計 2 回発行いたしました。会告、お知らせ、本会の動きなど多岐にわたった情報を会員に提供いたしました。また、これまでの技師会ニュースの作成を冊子形式といたしました。

日本赤十字放射線技師会会誌 2008．Vol．49 を発刊いたしました。本社寄稿、学術特集、55 周年特別寄稿、本社研修会、施設紹介、新入会員紹介、会員名簿など会員に有益な情報を提供いたしました。

しかしながら、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても今後は検討を重ねると共に、会員の皆様のご意見を頂戴し、より有意義な会誌や技師会ニュースを発刊していきたいと考えます。

１）日本赤十字放射線技師会会誌 2008．Vol．49 を発行した。

２）日赤放技ニュース第 1 号から第 2 号まで計 2 回発行した。

３）会誌の広告協賛会社は、29 社であった。

４．福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規定に基づき、祝電 2 名、弔電 1 名について行った。

５．企画部活動報告（企画部）

平成 20 年度は、技師会活動の基盤整備が中心であったが、基盤がおおよそ整備された 21 年度はさらなる基盤強化を図った。

(1)ホームページ（HP）の機能強化

・HP の改善を通して、利便性へのスキルアップを図った。
　HP 上に日赤技師会メーリングリスト（ML）の簡易的入会を推進するべくコーナを造設した。

・掲示板の活用を推進し、会員個々との連繋・連絡網の整備を強化した。

・国際救援や災害救援活動のコーナの充実を図るべく改善を企画推進した。（HP 改善は、22 年度予定）

(2)学術部 ML から技師会 ML への移行による ML の機能強化

・名古屋第二赤十字病院のサーバを利用して構築していた「学術部 ML」をムツダ商会のサーバに完全移行し、「日赤技師会 ML」として再構築した。

・サーバ管理者の設置により会員情報のセキュリティー強化を推進した。

・入会登録の簡易化を推進した。

(3)HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

・HP および ML の活用によりユビキタスな技師会運営を推進した。

・広報部と連携し、HP を活用した電子広告の機能的な運用を企画推進した。

・学術部と連携し、HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進した。

・組織調査部と連携し、技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率運営を推進した。

(4) ML の活用推進

・理事会 ML を活用し、ユビキタスな技師会運営を推進した。

・技師長・課長 ML の活用推進を図り、各施設長とのコミュニケーション・ツールとして進化させた。

・日赤技師会 ML の活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させた。

６．組織調査活動報告（組織調査部）

1. 平成２１年４月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。
2. 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。
3. 日赤業務研修会についての調査を行い、その結果についてホームページへ公表した。
4. 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。
5. 旧学術 ML の整理を行い、新日赤 ML の登録管理を行った。

７．表彰部報告

１）功労賞（第 2 条の 1）

片岡　幸子	高知赤十字病院
室谷　正吾	富山赤十字病院
西村　章三	石巻赤十字病院
村山　正栄	長岡赤十字病院
村田　稔	京都第二赤十字病院
冨田　啓二	福井赤十字病院
道下　博行	益田赤十字病院
星野　憲司	釧路赤十字病院
小田　秀人	函館赤十字病院
関根　和正	深谷赤十字病院
名倉　邦彦	引佐赤十字病院

以上 11 名の方を功労賞として表彰しました。尚、平成 21 年度定年退職者・次年度退職者を該当者として推薦させていただきました。

（２）奨励賞　（第 2 条の 2）

【施　設】松山赤十字病院　（計 10 回）

学術発表が施設として計 10 回に達したため表彰しました。

【個　人】

加賀　久喜	大阪赤十字病院
西関　　剛	長浜赤十字病院
岡本　繁	京都第二赤十字病院

学術発表が個人として計 10 回に達したため表彰しました。

（３）感謝状（第 2 条の 3）

川村　佳生　和歌山医療センター

敬称略・順不同

８．ブロック報告

【北海道ブロック】

第 18 回学術研修会　平成 21 年 9 月 26～27 日

【東部ブロック】

第 22 回学術研修会　平成 21 年 11 月 28～29 日（白亜紀荘）水戸赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第 18 回近畿ブロック学術研修会　神戸赤十字病院担当

【九州ブロック】

第 10 回学術研修会　平成 21 年 9 月 26～27 日　アソシエート　大分赤十字病院担当

【　第二号議案　】
９．平成 21 年度決算報告

【　第三号議案　】
１０．平成 21 年度監査報告

監 査 報 告 書

平成 21 年 4 月 10 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社 401 会議室において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

１・平成 20 年度特別積立金
２・平成 20 年度会誌特別会計
３・平成 20 年度業務研修決算
４・平成 20 年度一般会計決算
５・平成 20 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した。

【　第四号議案　】
平成 22 年度事業計画案
平成 22 年度事業計画案（総括）

ご多分にもれず、医療業界も時代の洗礼を受け、その煽りは波状的に各施設に影を落としている。医療経済の破綻から、医療制度の彷徨癖まで、暗い影が忍び寄って来ている。しかし日陰があれば、日向があるように、我らが技師会は足掛け 3 年の活動で、時代の波に乗り、時代性の軌道に沿って、後れを取らずにユビキタス技師会を構築して来た。天に向かって葉を繁らす巨樹は、その地面下に葉が繁る範囲以上に、根を張って居るものである。大地に翼々と根ざし、滋養と地精を全方位的に探って吸収し、蓄えて、天に向かって樹勢を伸ばす。今、我々の技師会は、ネットワークと云う根を張り、各地の各施設の知恵を吸収し、その学識文明を技術的文化の滋養として、太陽に向かって大いに伸びて学術の葉を繁らせる。その顕在化する根に当たるのが各部。その各部が主根、側根、不定根、支柱根、塊根、吸水根のどれに当たり、会員が葉を繁らすための滋養を供給できるか、事業計画案をしっかり洞察し検証して戴きたい

１．学術教育活動計画案

（１）本年度より、全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会から日本赤十字放射線技師学術総会と名称が変更となりました。開催するにあたり、学術総会という名に恥じない、会員皆様の資質向上に役立つ会を企画することを目指します。

（２）各分科会活動のさらなる活性を推進いたします。
6 分科会それぞれの活動状況は様々ですが、会員皆様に有用な情報を提供できるようにバックアップをしていきます。

２．広報部活動計画案

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュース第 1 号を冊子として発行しました。また、ホームページの充実に伴い、日赤放技ニュース 2 号、3 号をホームページ上に掲載を行いました。内容は、会告、お知らせ、本会の動きなどの情報を会員に提供いたしました。次に、日本赤十字放射線技師会会誌 2009．Vol．50 を発刊いたしました。本社寄稿、本会の動き（本社研修会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告、日赤医学会報告、施設紹介、新入会員紹介等)、学術特集、創刊 50 号記念特集（本社寄稿、特別寄稿、創刊からの歩み、名誉会員投稿)、トピックス、会員名簿など会員に様々な情報を提供いたしました。また、本会印刷物の一元化を図り、総会資料、学術抄録を広報部にて取り纏め、印刷製本を依頼しました。会誌、日赤放技ニュースの印刷、発送業務費用等を含めた一元化に取り組み、経費の削減化を図りました。

しかし、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても充分な情報を提供できたかは不明です。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

１）日本赤十字放射線技師会会誌 2009．Vol．50 を発行しました。
２）日赤放技ニュース第 1 号発行しました。
３）日赤放技ニュース第 2 号・3 号をホームページ上に掲載しました。
４）会誌の広告協賛会社は、25 でした。
５）広報委員会にて、編集会議、校正作業、発送作業などの年度に渡り業務を遂行しました。
６）本会の発行する印刷物の一元化を図り、経費削減に努めました。

３．福利厚生案（総務部・事務局）

(1)本社医療事業部と連繫を密にし、赤十字事業の展開に、我々が関与協力できる態勢の充実をより推進したい。

(2)HP の充実を図り、情報交換の窓口としての利便性の向上を推進したい。
技師長・課長 ML の登録を促し、意見交換の場として機動性の向上を目指したい。
ブロック研修会がより活性する為の支援を推進したい。
災害救援活動とそのネットワークを構築し推進したい。

(3)会員相互の福利厚生に関する事業
慶弔規定に則り、速やかな対応を促したい。

４．企画部活動案（企画部）

平成 21 年度は、ホームページ（HP）、メーリングリスト（ML）の基盤強化を図り、活動の電子化をさらに推進した。22 年度は、電子広告の増加および広告欄の充実を図りユビキタス化をさらに推進する。

(1)ホームページ（HP）の機能強化

・HP の改善を通して、利便性へのスキルアップを図る。
　技師会目標の一つである国際救援や災害救援活動欄を掲示板から独立させ、閲覧の利便性を図る。また、記事掲載・本社を含む各種団体へリンクや掲載記事の内容に応じて公開・会員専用に使い分けができるように改善を図る。
・掲示板の活用を推進し、会員個々との連繋・連絡網の整備を強化する。
・電子広告の効果的な運用ができるように改善を図る。

(2)日赤技師会 ML の活用推進

・サーバ管理者と協力して会員情報のセキュリティー強化を推進する。
・入会登録者数の増加を推進する。

(3)HP および ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

・広報部と連携し、HP を活用した電子広告の機能的な運用を企画推進する。
・学術部と連携し、HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進する。
・組織調査部と連携し、技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率的運用を推進する。
・ML の活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させる。

(4)ユビキタス技師会発展のための新企画の提案

・例えば、事業仕分け。

５．組織調査活動案（組織調査部）

(1)平成 22 年度も継続して全国赤十字病院施設へ会員台帳確認の調査を行います。
H22.４月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）及び会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。なお、今年度より変更がない場合のみメール返信を可能と致します。

(2)会員台帳調査に合わせて技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）の未登録技師長へ登録促進を継続します。

(3)ホットクロス ML と日赤 ML の登録管理を引き続き行います。

(4)技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）を活用して各施設の抱える問題について定期的にその状況調査を進めます。

６．表彰部活動案

第 2 条の 1　功労賞

平成 22 年度の表彰者は以下のとおり推薦をいたします。（順不同、敬称略）

第 2 条の 1　功労賞

釧路赤十字病院　小林　孝明

盛岡赤十字病院　市ノ渡　憲市

盛岡赤十字病院　宮本　岩保
福島赤十字病院　冨原　弘之
小川赤十字病院　桜井　守
横浜市立みなと赤十字病院　友井　忠雄
金沢赤十字病院　日尾　哲朗
高山赤十字病院　金子　彰
浜松赤十字病院　松山　秀夫
長浜赤十字病院　木村　幸一
広島赤十字・原爆病院　渡辺　和美
日本赤十字社和歌山医療センター　古川　和仁
福岡赤十字病院　中澤　直心
福岡赤十字病院　木下　洋之
日本赤十字社長崎原爆病院　山口　春雄
日本赤十字社長崎原爆病院　高橋　朗
第 2 条の 2　奨励賞　施設　前橋赤十字病院
奨励賞　個人
深谷赤十字病院　斉藤　幸夫

昨年全国理事会で表彰規定の改正が行われ、今回、死亡退職者を初めて功労賞の表彰をすることが出来ました。今後も表彰部として各施設の方々、ブロック理事との連携を技師長・課長メーリングリストなどを利用し、表彰対象者漏れの無いよう推し進めていきます。
さらに、組織調査部とも連携を密に図り、表彰対象者漏れの無いよう推し進めていきます。
次に、できる限り連絡はメールとし、通信費等の経費を削減します。

【　第五号議案　】
7．平成 21 年度予算（案）

8．ブロック活動案
【北海道ブロック】
第 18 回学術研修会　平成 21 年 9 月 26〜27 日
【東部ブロック】
第 22 回学術研修会　平成 21 年 11 月 28〜29 日（白亜紀荘）水戸赤十字病院担当
【近畿ブロック】
第 18 回近畿ブロック学術研修会　　神戸赤十字病院担当
【九州ブロック】
第 10 回学術研修会　平成 21 年 9 月 26〜27 日　アソシエート　大分赤十字病院担当

第 57 回　定期総会　議事録

１．日　時　：平成 22 年 6 月 10 日（木）　　午後 4 時　～　5 時
２．会　場　：東京国際フォーラム　G409 号会議室
３．出席者　：日本赤十字放射線技師会　会員　108 名
４．議事録作成人　　　　常任理事　総務担当　辻　秀憲
５．総会次第

①　開会の辞
②　会長挨拶
③　表　　彰
④　総会議事運営報告
⑤　議長選出
⑥　議事録署名人選出、採決係り任命
⑦　議事

第 1 号議案　　平成 21 年度事業経過報告
第 2 号議案　　平成 21 年度決算報告
第 3 号議案　　平成 21 年度監査報告
第 4 号議案　　平成 22 年度事業計画(案)
第 5 号議案　　平成 22 年度予算（案）
第 6 号議案　　その他

⑧　議長解任
⑨　閉会の辞

上記の総会次第に基づいて、当技師会　益井会長の挨拶にはじまり、表彰に移る。

表彰委員長の戸口理事により紹介される
　功労賞は、17 名
　奨励賞は、施設　1　、個人　1 名

表彰後、次に、総会議事運営報告（資格審査報告）を事務局の磯田理事より報告
　本日の出席者　108 名、委任状提出者　1081 名、　合計　1189 名を確認し、
　会則第 20 条の規定に基づき本総会は成立しますと報告。

次に、議長選出となる。会場より立候補がないため、執行部より 2 名を推薦した。
　山口赤十字病院　中川　明様　　　仙台赤十字病院　高橋　和義様

議長より、議事録署名人・採決係りを会場より 4 名を任命

議事録署名人は、	姫路赤十字病院	岩見	守人様
	大阪赤十字病院	加賀	久喜様
採決係りは、	名古屋第二赤十字病院	堀部	良美様
	福井赤十字病院	西川	由梨様

議長の進行により議事に入る。

第 1 号議案から第 3 号議案まで一括して執行部より報告。
報告後、質問に入るが、質問はなかった。
採決にはいり、第 1 号議案から第 3 号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第 4 号議案から第 5 号議案まで一括して執行部より報告。
報告後、質問に入るが、質問はなかった。
採決にはいり、第 4 号議案から第 5 号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第 6 号議案の報告を執行部より報告。

・事務局の磯田理事より、"日本赤十字放射線技師会慶弔規定の第 4 条"の省略を報告。
"金品については、近年来、出していないため、省略する"
報告後、質問に入るが、質問はなかった。
採決にはいり、賛成多数で承認された。

・報告事項として、表彰部の戸口理事より、表彰規定の改定を報告された。
4 月 16 日の全国理事会で、承認されているため報告のみであった。

議長より、議事以外で、他に発言を求められる方許可するで、1 名の発言があった。

Q：医療技術部があるが、放射線科が、部に入ったり、入らない施設があるが、本社としては、どう対応するのか。（和歌山医療センター　口井）

A：医療技術部について、本社でも、検討中。施設ごとに事情があり、施設に委ねられているのが現状。このままだと、混乱する可能性がある。技師長という立場についてなど本社と密に協議していく。(会長)

以上にて、議事を終了したので、議長は解任となった。

最後、清水副会長に閉会の辞をもって、総会は終了となった。

以上

平成 23 年

第 58 回臨時定期総会資料

議案内容

【第一号議案】　平成 22 年度事業経過報告
【第二号議案】　平成 22 年決算報告
【第三号議案】　平成 22 年度監査報告
【第四号議案】　平成 23 年度事業計画（案）
【第五号議案】　平成 23 年度予算（案）
【　その他　　】　役員改選　選挙管理委員会報告

日本赤十字放射線技師会

表　彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会　　長　益井　謙
表彰委員長　戸口　豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

３．功労賞（第 2 条の 1）

西田　俊昭	北見赤十字病院
松本　幸夫	盛岡赤十字病院
路野　俊雄	成田赤十字病院
岡庭　繁樹	前橋赤十字病院
黒田　順平	さいたま赤十字病院
少路　進	武蔵野赤十字病院
鈴木　利男	日本赤十字社医療センター
川上　直志	横浜市立みなと赤十字病院
堀内　順一	秦野赤十字病院
東　茂	伊豆赤十字病院
松山　繁	津久井赤十字病院
藤井　紀生	山田赤十字病院
尾上　章	大阪赤十字病院
宮本　善夫	大阪赤十字病院
西谷　泰男	高松赤十字病院
笠原　秀憲	松江赤十字病院
古賀　則夫	福岡赤十字病院
古賀　博幸	福岡赤十字病院
玉永　正博	熊本赤十字病院

順不同

２．　奨励賞　（第 2 条の 2）

【施　設】成田赤十字病院（計 10 回）

【個　人】大町　繁美　　長崎原爆諫早病院

【　第一号議案　】

平成 22 年度事業報告（総括）

平成 23 年 3 月 11 日、午下の安寧を破って古今未曾有の大震災が東国列島を揺るがした。
東北の強靭で耐酷な尊厳も、天然自然の恐懼がひと呑みにした。
国内外を問わず災害支援のベクトルが東日本に注がれる中、医療の支援現場も、赤十字精神で染められて、昼夜 24 時間救護救援が行われている。
当技師会では、HP に『日本赤十字放射線技師会はユビキタスネットワークを活用し，診療および災害支援を目的とした 21 世紀型職域団体をめざす』とその活動の指針を掲げて来た。今年度より災害医療分科会も立ち上げ、その世話人各位は現在進行形で救護救援活動に任じているし、救護活動の一員として任務を全うしている。

加えて、医療機器貸し出し支援も行って居り、ポータブル装置（CR セット）や高精細モニターなど、仮診療所などに貸与出来た。また、その情報は独自のネットワークと HP を通じ、即刻周知可能となって来た。ネットワーク・インフラは今後改善進化させることはあっても、整備は完成域まで達している。所謂、診療は無論、災害支援とユビキタスが結び付いた年度であった。

そして、ブロック毎の研修会や講習会を開催し、臨床実証の先鋒として、共に学びながら医療を支えることが出来た。本社の提唱する「もっとクロス」運動は、我々の「ホットクロス」運動に昇華して、全国の隅々までその意思を人口に膾炙した年度でもあった。

平成 22 年度事業報告

１．総務事項報告

（３）　平成 22 年度役員は次のとおりである。

役　職　名	氏　　　名	施　設　名
会　　長	益井　　謙	松江赤十字病院
副　会　長（災害・文書兼務）	久保田利夫	前橋赤十字病院
副　会　長（広報兼務）	清水　文孝	深谷赤十字病院
常任理事（総務・安全推進兼務）	辻　　秀憲	京都第二赤十字病院
同 (事務局)	磯田　康範	松江赤十字病院
同　（学術部）	浅妻　　厚	神戸赤十字病院
同　（財務部）	前川　栄寿	成田赤十字病院
同（組織調査部・IT 兼務）	石田　智広	福井赤十字病院
同　（企画部・IT 兼務）	新美　孝永	名古屋第二赤十字病院

同　（表彰部・IT 兼務）	戸口　豊宏	大分赤十字病院
ブロック理事（北海道）	川井　明彦	函館赤十字病院
同（東北）	新田　仁	盛岡赤十字病院
同（東部）	林　智	長岡赤十字病院
同（中部）	山口　忠夫	高山赤十字病院
同（近畿）	中島　敏博	姫路赤十字病院
同（中・四国）	西田　史生	松山赤十字病院
同（九州）	三谷　孝二	今津赤十字病院

役　職　名	氏　名	施　設　名
監　事	鈴木　利男	日本赤十字社医療センター
監　事	中里　明	足利赤十字病院

ブロック委員

役 職 名	氏　名	施　設　名
北海道ブロック	川井　明彦	函館赤十字病院
東　北ブロック	横山　高広	仙台赤十字病院
東　部ブロック	星野　洋満	前橋赤十字病院
々	新井　一正	武蔵野赤十字病院
中　部ブロック	日置　竹志	名古屋第二赤十字病院
々	満間　啓二	富山赤十字病院
近　畿ブロック	内橋　宣尚	多可赤十字病院
々	浅妻　厚	神戸赤十字病院
中・四国ブロック	真貝　勝	徳島赤十字病院
々	梶谷　努	岡山赤十字病院
九　州ブロック	吉見　公作	鹿児島赤十字病院

（２）会議開催状況

１．総会

第 57 回定期総会を平成 22 年 6 月 10 日（木）東京国際フォーラム G409 会議室において、会員 108 名が出席（委任状提出 1,082 名）して開催した。総会では、会長挨拶、表彰式、議事運営報告につづき、議長 2 名、中川明（山口赤十字病院）高橋和義（仙台赤十字病院）を選出して、両議長にて議事進行する。平成 22 年度各部事業報告および平成 22 年度会計報告を審議、次に、平成 23 年度各部事業計画（案）および平成 23 年度収支予算（案）等について審議し、両方とも決議した。

２．常任理事会、全国理事会は下記のとおり 4 回開催し、各理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

	年　月　日	内　　容	開　催　場　所
1	平成 22 年　7 月　9 日（金）	第 1 回常任理事会	松山赤十字病院
2	平成 22 年 11 月 19 日（金）	第 2 回常任理事会	日本赤十字社 203 号会議室
3	平成 23 年　2 月 10 日（木）	第 3 回常任理事会	松江赤十字病院
4	平成 23 年　4 月 22 日（金）	全 国 理 事 会	日本赤十字社 203 会議室

（３）物故者

2 名

（４）会員の動向（平成 23 年 3 月 31 日現在）（事務局）

項　　　目	会　員　数
平成年 21 度末　　会員数	1,276　名
平成年 22 度　新入会者数	65　名
同　　　再入会者数	1　名
平成 22 年度　　会員数	1,286　名
同　　　退会者数	44　名

２・広報委員会開催状況（広報部）

平成 22 年度の広報部活動は、ニュースの発刊、電子会誌をホームページに掲載し、会員に情報を提供いたしました。また、新たな情報の入手に伴い、メールニュースとして時事に応じてホームページへの閲覧の促し、最新の情報を提供してまいりました。

ニュース及び電子会誌の内容は、巻頭言、本会の動き（学術総会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告等々）、日赤医学会報告、施設紹介、特集（フィルムレスを取り巻く環境）等でした。またメールニュースは下記資料のとおりでした。

一昨年度よりユビキタス技師会の命題の基、ホームページを会員との最大の接点となるよう努力すると共に、経費節減を実施いたしました。しかし、担当者の不慣れなことは否めず、会誌や技師会ニュースの内容についても充分な情報を提供できたかは不明でありますが、今後の課題といたします。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供してまいりたいと考えております。一昨年度より始まりましたバナー広告につきましては、23 社の各企業の皆様に賛同をいただき、ホームページ会員欄に掲載しております。応募いただきました各企業においては、本会の趣旨をご理解いただいたものと感謝しております。

a）日本赤十字放射線技師会会誌 2011．Vol．2 を電子会誌としてホームページ上に掲載いたしました。

b）日赤放技ニュース第 1 号より 2 号まで、ホームページに掲載いたしました。

c）メールニュースス別紙のとおり配信をいたしました。（資料－1）

d）バナー広告は、23 社でした。（資料－2）

e）広報にて発刊する印刷物は本年度より全て電子化となりました。

資料－1（メールニュース配信状況）

日本赤十字放射線技師会（JRCART） mail news

The Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists mail news

news No.1	DMAT 研修とアンケート協力の願い	2010.05.18
news No.2	岡庭 繁樹氏 群馬県総合表彰受賞	2010.06.08
news No.3	学術総会速報	2010.06.17
news No.4	情報エクスプレス記事	2010.06.24
news No.5	MR 分科会報告	2010.07.07
news No.6	新美氏、（財）政策医療振興財団の研究助成金を受給など	2010.07.20
news No.7	放射線治療アンケート集計結果、CT 分科会報告など	2010.07.27
news No.8	予防規程	2010.08.13
news No.9	予防規程修正版	2010.08.19
news No.10	兵庫県合同防災訓練など	2010.09.02
news No.11	兵庫県合同防災訓練レポート	2010.09.09
news No.12	北海道地区会第 20 回総会及び研修会の案内	2010.09.22
news No.13	ニュース欄の「理事の独り言」	2010.10.01
news No.14	第 46 回日本赤十字社医学会総会の案内	2010.10.14
news No.15	第 46 回日本赤十字社医学会総会演題抄録	2010.10.22
news No.16	医療機器管理に関する資料	2010.10.28
news No.17	東部ブロック研修会の案内	2010.11.05
news No.18	第 46 回日本赤十字社医学会総会速報	2010.11.12
news No.19	第 46 回日本赤十字社医学会総会速報 2	2010.11.12
news No.20	放射線作業者の被ばくの一元管理に関する資料	2010.11.25
news No.21	東部ブロック研修会速報	2010.12.01
news No.22	「マンモグラフィ検診施設 画像認定取得施設」確認願い	2010.12.08
news No.23	埼玉県における放射線部門の機能強化に係る資料	2010.12.15
news No.24	労働安全衛生法の届出に関する資料など	2010.12.28
news No.25	益井会長の年頭挨拶及び 平成23年度全国赤十字放射線技師学術総会研究発表演題の募集案内	2011.01.04
news No.26	掲示板「CT検査の被ばく線量」	2011.01.07
news No.27	日本赤十字放射線技師会会費負担の現況調査報告	2011.01.16
news No.28	中国・四国ブロックモニタ管理講習会報告 平成23・24年度日本赤十字放射線技師会役員選挙告示	2011.01.25
news No.29	掲示板「グリッド比とアルミ本数（CR専用）」	2011.02.01
news No.30	掲示板「他院画像の出力について」	2011.03.02

news No.31 研究助成課題等の募集案内など 2011.03.07

news No.32 テストメール配信のお詫び 2011.03.09

news No.33 赤十字各施設の被害状況・救援状況 2011.03.15

news No.34 急報「ポータブル型X線装置及び超音波装置の貸し出し」 2011.03.18

news No.35 モニタ貸出支援 2011.03.18

news No.36 スクリーニング済証 2011.03.24

平成 23 年 3 月末までの JRCART mail news 発信は以上の通りです。

資料－2（バナー広告掲載企業一覧）順不同

1	東芝メディカルシステムズ株式会社	13	朝日レントゲン
2	東洋メディック株式会社	14	ユーロメディテック株式会社
3	GE ヘルスケア・ジャパン株式会社	15	株式会社ミットメディコ
4	エーザイ株式会社	16	富士製薬工業株式会社
5	テルモ株式会社	17	シーメンス株式会社
6	日本メジフィジックス株式会社	18	睦田商会
7	富士フィルム RI ファーマ株式会社	19	株式会社ナナオ
8	中外テクノス株式会社	20	コニカミノルタヘルスケア株式会社
9	石黒メディカルシステム K．K	21	富士フィルムメディカル株式会社
10	コヴィディエンジャパン株式会社	22	（株）島津製作所
11	バイエル薬品株式会社	23	株式会社栗原医療機器
12	第一三共株式会社		

３．学術教育活動報告（学術部）

平成22年6月10・11日の両日にかけて、平成22年度　日本赤十字放射線技師学術総会が東京フォーラムにて開催されました。これは、昨年までの業務研修会から名称が変わるだけでなく、本社とは違う会場で開催し、内容も名前負けしないよう学術的内容の充実を目指しました。しかし、不慣れな対応で不手際も多く、会員の皆様に多大なご迷惑をお掛けしましたことを、深く反省し、今後の糧としていきたいと思っております。

今回は、本社・学術・教育の 3 講演、15 の会員研究発表の他に、国際活動の報告、分科会活動報告、ランチョンセミナにイブニングセミナと盛りだくさんな内容となりました。

本社講演は「赤十字病院を取り巻く医療環境について」と題し、医療事業部次長の竹内賢治様に講演いただきました。他人事ではない、私たちの身近な問題として傾聴いたしました。学術講演は CT 分科会世話人代表の八町淳氏に「研究課題の見つけ方・すすめ方－CT 造影法を中心として－」と題して講演いただきました。八町氏の豊富な研究発表の実例を示し、若手会員に対して研究の取り組み方を指南してくれたと思います。教育講演は「放射線部における医療安全管理について」と題し、京都大学医学部附属病院放射線技師長の東村享治様に講演いただきました。安全管理は重要ですが、中々取り組みにくいのも事実です。今回、ミスから学ぶ姿勢で情報共有した安全システムを整備することの重要性を学べたと思います。

国際活動報告は、和歌山医療センターの川村佳生氏と口井信孝氏による、実際の活動報告と、海外救援要員になるためには何をすべきかを報告してもらいました。国際活動は赤十字の重要な活動の一環ですが、私たちにはあまり関係が無いものと思いがちです。そのような思いを払拭させる内容でした。
分科会報告は、MR 分科会　岩見守人氏の「乳房 MRI の標準的撮像法」高津安男氏の「MRI 検査における説明用 DVD 作成について」、CT 分科会　藤村貴順氏の「アンケート結果報告」と、それぞれが昨年から取り組まれていた分科会活動を報告しました。
会員研究発表は、後述の各座長の要約でまとめさせてもらいます。
最後になりましたが、各演者及び座長の皆様には、ご多忙中にもかかわらずご協力いただき、厚く御礼申し上げます。又、各施設におきましても、参加者にご協力いただき、感謝申し上げます。まだまだ途上の会ですが、皆様のご協力の下、発展させていきたいと思いますので、宜しくご指導のほどお願いいたします。

学術研究発表①　座長　八町 淳（CT 分科会 長野）

① 冠動脈 CTA における造影効果に影響する要因の検討
　大阪赤十字病院　加賀 久喜
② 「死亡時画像検査」所見からの撮影条件の検討
　大田原赤十字病院　中野 繁明
③ OPE 室 CT の年間使用実績とその有用性の検討
　名古屋第一赤十字病院　山埼 絵莉
④ DPC 導入による CT 検査採算性の検討
　名古屋第二赤十字病院　日置 竹志

6 月10 日から11 日の2 日間、東京国際フォーラムにおいて開催された平成22 年度 日本赤十字放射線技師学術総会において、学術研究発表演題番号1番から4 番までの座長を務めました。
演題番号1番 大阪赤十字病院 加賀さんによる「冠動脈CTAにおける造影効果に影響する要因の検討」につての発表であった。CT装置の多列化が加速的に進むなか、造影検査において造影剤使用量を体重あたりヨウド量を採用する施設が増えてきている。今回、64列MDCTによる心臓造影検査において身長・体重など被験者パラメタとCT値の関係を、臨床データをもとに解析した結果、体重による相関が認められたとの発表であった。
演題番号2番 大田原赤十字病院 中野さんによる「死亡時画像検査所見からの撮影条件の検討」についての発表であった。 現在、死因の判定に画像診断を積極的に使用して流れが出てきており、発表施設において約3年間、350症例のデータから、死因の判定が可能であった症例を分類されておりました。また、合わせて撮像時の画質SDを指標に検討されていた。しかし現在、責任の所在など法的整備がされておらず、今後整備がまたれるとのまとめであった。私もまだこの分野に積極的に参加するには解決しなければならない問題が多いと考える。
演題番号3番 名古屋第一赤十字病院 山﨑さんによる「OPE室CTの年間使用実績とその有

用性の検討」についての発表 であった。手術後CT検査の時間短縮および効率化を目的に、手術室に24列MDCTを設置したことで、術中・術後のCT検査が効率良くできるようになったとの内容であった。会場から効率化を考えた場合、診断用として撮影部門に設置した方が、より効率・経済性に富んでいるのではないかとの意見がだされた。私もそう思う。ただ、各施設において、実力のある科の意見が反映し、装置が設置されてしまうのも現実であると思われる。

名古屋第二赤十字病院 日置さんによる「DPC 導入によるCT検査採算性の検討」についての発表であった。DPC導入により、放射線部門において入院患者さんにおける収益性の向上をはかるため、使用造影剤を後発品に変更することで収益性を増すことが可能であった。また、技師においても収益性を把握しておく必要性を感じたとの内容であった。DPCにおいて、造影剤変更による収益性に加え入院検査率を小さくする努力も必要ではないかと考える。

以上4演題から、検証目的・発表構成・学術性・解析法などを考慮し優秀賞として、演題番号1番 大阪赤十字病院 加賀氏とさせていただきました。みなさんそれぞれ着眼点は良いものをお持ちだと思います。今後も、「どうして！」を大事に研究を進めていただきたいと思います。なお、研究発表においてひとつアドバイスを、せっかくの発表なのは分かりますが、多くの内容をひとつの発表に詰め込まないことです。それには、演題名を大切にすることだと思います。

学術研究発表②　座長　安彦 茂（MR分科会 仙台）

⑤ ファントム実験によるGd造影後における、in-phase.out-of-phaseでの脂肪評価の検証松山赤十字病院　松村 茂

⑥ 頚動脈内膜剥離術（CEA）術前における非造影MR検査についての一考察

大阪赤十字病院　高津 安男

⑦ 四肢MRI検査におけるコイル選択と撮像条件設定の検討

大田原赤十字病院　大谷津 崇

⑧ 放射線技術課におけるインシデント事例の統計

和歌山医療センター　渡邊 真也

このセッションは、MR に関する発表4題とインシデント事例の統計分析1題で構成され、どの発表も日常の業務に関連した興味深いものであった。

演題5.松山赤十字病院、松村氏の発表は、EOB・プリモビスト造影剤を用いた肝細胞相でのdual FFE シーケンスで、in-phase・out-of-phase を撮像・比較することにより、脂肪を含む組織の評価が可能かどうか検討した内容であった。Paradoxical Suppression の影響のため脂肪の存在を完全に明らかにすることができない結果になっていたが、検査時間の制限で単純・ダイナミックを撮影できないとのことであった。施設の都合もあるかと思うが、肝炎が背景にある場合など対象を絞って単純・ダイナミック撮影を追加されるのが望ましいと考えられた。

演題6.大阪赤十字病院、高津氏の発表は、造影CTA の検査ができない患者について頚動脈内膜剥離術

施行に必要な情報を、非造影MRA を主としたMRI で得ることが可能か検討したものであった。乱流等の影響を受けにくいBalanced TFE のMRA にて狭窄率や潰瘍の有無，周囲の血管の状態を従来のTOF 法MRA より高精度に把握することができ、またT2WI 矢状断で病変の高位（頚椎との位置関係）を得ることで頚動脈内膜剥離術施行に必要な情報が得られるという内容であった。Balanced TFE は、流速が早い部位に関しては多少問題があるが実用上は影響なさそうであり、今後の実証報告が期待される。

演題7. 大田原赤十字病院、大谷津氏の発表は、四肢MR 撮影で担当技師により適切なコイルが選択されていないためSN の悪い画像が散見されたため、自作ファントムを用いて使用コイルの標準化を検討した内容であった。この自作ファントムを使った評価であるが、実際の臨床画像での比較と自作ファントムを使用した評価が同一になっているか確認しながら、実験方法（画像を外に出してImage J などを使い、放射線技術学会のSNR の算出方法を参考にして計算する）を再確認する必要があると思われた。また、四肢の撮影では、マグネット中心で撮影できないことが多くある為、この点も考慮が必要と考える。

演題8. 日本赤十字社和歌山医療センター、渡邊氏の発表は放射線技術課での医療事故（インシデント事例）における統計報告をCT・MR 検査を中心に述べた内容であった。インシデント事例の改善策、対応策に取り組むことが事故再発防止に大きく役立つとのことでしたが、インシデント報告に対する個人間の意識差があり、軽微な内容でも報告する技師がいる部署ではインシデントの件数が多くなる結果になっており、今後の検討課題と思われた。

（協議の結果、このセッションの中から大阪赤十字病院、高津氏の発表が検討内容や臨
床応用の実用性などの点で優れているとされ、優秀発表として推薦されました。）

学術研究発表③　座長　川合 佳代（乳房画像分科会 深谷）

⑨ STマンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング，ターゲッティング習得のための石灰化擬似ファントムの作成
さいたま赤十字病院　北山 早苗
⑩ 1 Shot PhantomにおけるCNRの評価
京都第二赤十字病院　楠 理恵
⑪ マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討
鳥取赤十字病院　上田 阿希
⑫ ステレオガイド下マンモトーム装置導入の報告と検討
福岡赤十字病院　桑野 さゆり
⑬ 救急撮影における脊椎固定具が胸部画像に与える影響と画像評価
秋田赤十字病院　関谷 千春

平成22年6月11日（金）、学術研究発表③は5演題ありました。最初はさいたま赤十字病院、北山さんの「STマンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング習得のための石灰化疑似ファントムの作成」でした。生検精度向上のためファントムを作成されました。シミュレーションすることで不測の事態に対応できるファントムであったという報告でした。作成にはいろんな素材を用いて試行錯誤され

たそうで、結果として、ジェル状クリーナーと卵の殻を混ぜて作成されました。平成21年12月の導入以来事前のシミュレーションで実際の検査や、装置の不具合にも対応できたそうです。次は京都第二赤十字病院、楠さんの「1 Shot Phantom におけるCNR の評価」でした。この Phantom を用いることで幾つかの項目のチェックができます。今回の実験ではCNR 測定を1 Shot 法と2 Shot 法の方法で行われていました。その結果を比較検討されています。現在アナログ装置を使用されているとのことですが、デジタルとは平均乳腺線量なども異なってきます。将来導入される装置の特徴や特性を理解し、今後とも日々装置の管理をしていただきたいと思いました。発表の流れと丁寧に精度管理を行っていたと考え、最優秀発表賞に選ばせて頂きました。
3演題目は鳥取赤十字病院、上田さんの「マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討」でした。マンモトーム生検は微細石灰化を確実に採取するためのポジショニングが非常に重要になってきます。今回の発表は採取困難な部位にあった4症例についての報告でした。採取部位によっては座位を側臥位のすることで、患者様が穿刺部位を見えないようにしたり、胸壁に近い部位では座位にすることにより穿刺が容易にできたことなどが紹介されました。また、スペーサを挿入することで、十分な乳房厚の確保と固定をしていました。患者様の視線近くで行う検査は不安や苦痛を与えてしまう恐れがあります。技師の迅速な対応で検査時間の短縮は可能となってきます。
4演題目は福岡赤十字病院、桑野さんの「ステレオガイド下マンモトーム生検装置の導入と検討」でした。発表では導入に際しての検討事項がハード、ソフト両面で紹介されていました。導入からまだ日が浅いため、検討課題がいくつかあるようですが、検査に関してはDCIS の病理結果が得られるなど成果がでているようでした。引き続き良い成果として情報提供して頂きたいと思います。
最後の演題は、秋田赤十字病院、関谷さんの「救急撮影のおける脊椎固定具が胸部撮影に与える影響と画像評価」でした。緊急を要する患者様の撮影では、時に様々な状況下での撮影を余儀なくされることがあります。そんな中、写真に異物が映し込まれれば、読影の妨げになることもあります。今回の発表は、搬送に使用されるバックボードの映し込みが胸部に与える影響を検証されました。材質によっては影響を受けることもあるとの見解でしたが、X線透過性の材質が普及しつつある中、不透過性の物をできるだけ排除した形で撮影をすることで、Primary Survey には対応できることが述べられていました。救急撮影の多い施設ではこのような確認は大切だと感じました。

学術研究発表④　　　　　　座長　口井 信孝（和歌山医療センター）

⑭ EPID を用いたIGRTにおける位置照合精度の検討
　成田赤十字病院　　大山 淳一
⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応したMU値検証プログラムの開発
　神戸赤十字病院　　西海 哲也
⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み
～電子カルテ端末（RIS端末）の有効利用～
　福井赤十字病院　　西川 由梨

⑭ EPID を用いたIGRTにおける位置照合精度の検討
EPID、MV-CBCTを用いた前立腺IGRT(画像誘導放射線治療)における技師の位置照合精度、作業時間

の比較、検討についての報告である。他の研究会、学会等でよく紹介されているが、位置照合マニュアルを作成し、一週間のトレーニングを実施した前後で比較検討している点がユニークである。一週間のトレーニングで照合作業時間の短縮、ばらつきの低減がはかられており、結果としてより正確な治療に繋がっていると思われる。当然ハード面での精度が担保された後の技師間のばらつきを評価していると考えられるがEPID、MV-CBCTでは、テクニカル上骨構造をランドマークとした照合が基本になり、organmotionが照合に反映されない問題もある。前立腺内の石灰化部位を照合基準にした研究も散見されるが現時点においてはやはり骨構造を基準にしたセットアップが主流である以上、蓄尿、ガス処理または日々の治療開始時間を一定にすることで対応していくのが適切と考える。位置照合マニュアルについては、他施設にとっても有用と思われるため日本赤十字社放射線技師会ホームページの分科会欄で紹介していただけないでしょうか。

⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応したMU値検証プログラムの開発

放射線治療計画システム（RTPS）から算出されるMU値のスプレッドシート（エクセルベース）を用いた独立検証の研究発表である。もともとこの計算方式はESTROで報告されたものを群馬県立県民健康科学大学の保科氏が2000年の日本放射線技術学会総会において紹介したものである。日本赤十字社放射線技師会ホームページでは、長野日赤の小山氏がそのプログラム作成手順、注意点を詳細に紹介していることより既に採用されている施設も多いのではと推察する。当センターでも小山氏に指導いただき数年前にスプレッドシートを検証ツールの一つとして導入したが、実際の運用は一人がOHPシートを読み取り、あと一人がエクセルに入力するもので放射状半径計測の自動化が課題であった。今回の発表ではその自動化により作業効率の向上、計測誤差の低減が実現されている。ホームページでもウエッジ係数の取扱について説明されているように評価点が軸外の場合はウエッジ厚が変わるため対応できない。またメーカーにもよると思われるが計算アルゴリズムによりウエッジ係数の算出方法が異なるため注意が必要である。全ての状況に対応できるとは言い難いものの、多くの症例をカバーできるツールであること、この作業自体が測定データのコミッショニングになること、ここまで仕上げるまでに実測、エクセル処理に相当な時間を要したことは自身の経験より明らかで、これらを総合的に判断し優秀演題と決定した。先の報告同様、EXCEL-VBAマクロによる自動化について、より詳細かつ具体的なプログラム作成手順を紹介していただきたく思います。

⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み～電子カルテ端末（RIS端末）の有効利用～

情報の早期共有化に関する発表で、様々な制限により情報共有がうまく機能していなかった状況を、フリーソフトWiki（ウィキ）の採用が閲覧頻度、利用率の向上に寄与した報告である。研究というより紹介といえる内容ではあるもののフリーソフトを利用し早期情報共有化に繋がるのであれば有用といえる半面、施設によっては運用規程に接触する可能性がある。実際のところ和歌山医療センターでは認められていない。またソフトの不備が原因でHIS、RIS に問題が波及した場合などフリーであるがゆえに補償等は受けられるとは考えられず、院内でのコンセンサスが得られたとしても運用面になお不安は残るかもしれない。

４．災害医療

１．国の内外における災害医療への積極的参加を啓発するため、HP や学術総会を通じて、以下の活動をしました。

H22.5.14　「平成 22 年度日赤 DMAT 及び日本 DMAT 研修」の案内を HP に掲載

H22.6.11　平成 22 年度 日本赤十字放射線技師学術総会において、海外救援活動に関する講演会を開催

「海外救援活動報告」

日本赤十字社 和歌山医療センター 川村 佳生　氏

「 海外救援要員として活動するためには」

日本赤十字社 和歌山医療センター ロ井 信孝　氏

H22.7.28　上記講演会のスライドを HP に掲載

H22.9.9　災害現場に X 線撮影装置を持ち込んで行なわれた平成 22 年度兵庫県合同防災訓練のレポートを HP に掲載

２. 東日本大震災に関して、当会では DMAT 活動や日本赤十字社医療救護班の一員としての人的支援、更には医療機器メーカーの協力を得て、被災地赤十字病院及び救護所等に対し、医療機器等の貸し出し支援を行なっています。これらの活動報告をホームページに掲載しておりますが、以下のように日付順にホームページ掲載記事を纏め、平成 23 年 4 月末までの当会の東日本大震災関連の活動報告とさせていただきます。

2011 年 03 月 15 日(火)　赤十字各施設の被害・救援状況を掲載

2011 年 03 月 17 日(木)　原発事故に伴う健康相談の対応状況を連載

松江・浜松（18 日）・山田（22 日）・前橋（23 日）

2011 年 03 月 18 日(金)　ポータブル X 線装置及び超音波装置貸出を案内

超音波装置貸出（25 日・28 日）

2011 年 03 月 18 日(金)　高繊細モニタ貸出を案内

高繊細モニタ貸出（4 月 5 日、耐震ゴム付 4 月 12 日)、耐震ゴムの紹介

2011 年 03 月 18 日(金)　第 1 回災害お見舞い文を掲載

2011 年 03 月 22 日(火)　DMAT 活動報告を掲載

2011 年 03 月 24 日(木)　福島県発行のスクリーニング済証などを掲載

2011 年 03 月 29 日(火)　東北関東大震災　災害救護活動報告

土肥氏（富山)、坂井氏（唐津 4 月 7 日）

武田氏（下伊那 4 月 13 日)、戸ロ氏（大分 4 月 19 日 ）

2011 年 03 月 30 日(水)　FCR 機能付加したポータブル X 線装置貸出を案内

nonCR 型ポータブル X 線装置＋FCR セットを貸出（30 日）

2011 年 03 月 30 日(水)　修正災害お見舞い文を掲載（人的支援を加味）

2011 年 03 月 30 日(木)　日赤救護活動と放射線技師を掲載

2011 年 04 月 08 日(金)　災害医療分科会紹介を掲載

2011 年 04 月 13 日(水)　nonCR 型ポータブル X 線装置＋FCR セット追加貸出を案内

2011 年 04 月 21 日(木)　nonCR 型ポータブル X 線装置＋FCR セットを貸出

５．文書管理

昨年度 HP 文書管理コーナーに掲載した諸文書は以下の通りです。

H22.7.23　病院機能評価 Ver.6 に関する資料

H22.8.11　松江赤十字病院の改正予防規程（案）

H22.10.13 障害防止法変更許可申請書における「常時立ち入る場所」の記載例

H22.10.28 医療機器管理に関する資料

H22.12.15 埼玉県における放射線部門機能強化事業に関する資料

H22.12.27 労働安全衛生法の届出に関する資料

貴重な資料やご意見等のご提供くださった方々に感謝申し上げます。

６．福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規定に基づき、祝電 2 名、弔電 4 名について行った。

７．企画部活動報告（企画部）

ホームページ（HP）の機能改善により会員との連繋を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計った。また、メーリングリストを活用した電子的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施した。両情報媒体を駆使することによりユビキタス技師会としてブロック活動を活性化させ、組織力の向上に努めた。

具体的な活動報告を以下に記す。

１．HP の機能的改善

(1)HP 上での入会案内及び異動・退会システムの構築

(2) HP 上での災害医療、文書管理コーナの構築

(3) HP 上でのバナー広告の常設コーナの構築

(1)から(3)を担当ベンダであるムツダ商会と協議のうえ実施した。(1)のシステム構築により本会の電子化は終了し、完全電子化した状態で次期体制への引き継ぎが可能となった。

２．モニタワークショップ in 赤十字の企画開催とブロック研修会の活性化

第 1 回（8 月 28 日、福井日赤　担当：企画、IT 組織調査、学術）

今回は、第 1 回中部ブロック研修会として開催した。

9 施設 29 名の参加があった。（詳細は HP で）

次年度の第 2 回中部ブロック研修会は、高山日赤で開催予定。

第 2 回（11 月 6 日、神戸日赤　担当：企画、学術）

7 施設 21 名の参加があった。（詳細は HP で）

第 3 回（1 月 15 日、岡山日赤　担当：企画、学術、事務局）

今回は、第 1 回中四国ブロック研修会として開催した。

11 施設 27 名の参加があった。（詳細は HP で）

・第 1 回から 3 回の開催にあたり協力メーカの技術者と内容についての協議を重ね、メーカ及び会員講演者との間のパイプ役として活動した。

・活動休止中であった中部ブロックおよび中四国ブロックの開催を実現した。

３．メール会議から Web 会議へ

担当ベンダであるムツダ商会と協議を重ね日赤技師会に適したシステムを提案し、次年度からの Web 会議システム利用における道筋を作成した。学術分科会等での活用が期待される。

８．組織調査活動報告（組織調査部）

1. 平成 22 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。
2. 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。
3. 日赤技師会学術総会についての調査を表彰委員会と伴に行なった。
4. アンケート調査として日赤技師会費の負担現況調査をおこなった。
5. 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。
6. 日赤 ML の登録率を増やす為に HP の見直しを図った。

９．表彰部活動報告

表彰部報告

<平成 22 年度事業報告>

１．功労賞（第 2 条の 1）

小林　孝明	釧路赤十字病院
市ノ渡　憲市	盛岡赤十字病院
宮本　岩保	盛岡赤十字病院
冨原　弘之	福島赤十字病院
桜井　守	小川赤十字病院
足澤　登	日本赤十字医療センター
友井　忠雄	横浜市立みなと赤十字病院
日尾　哲朗	金沢赤十字病院
金子　彰	高山赤十字病院
松山　秀夫	浜松赤十字病院
木村　幸一	長浜赤十字病院
渡辺　和美	広島赤十字・原爆病院
古川　和仁	日本赤十字社和歌山医療センター
中澤　直心	福岡赤十字病院
木下　洋之	福岡赤十字病院
山口　春雄	日本赤十字社長崎原爆病院
高橋　朗	日本赤十字社長崎原爆病院

以上 17 名の方を功労賞として表彰しました。

２．　奨励賞　（第 2 条の 2）

【施　設】前橋赤十字病院

学術発表が施設として計 10 回に達したため表彰しました。

【個　人】斉藤　幸夫　深谷赤十字病院

学術発表が個人として計 3 回に達したため表彰しました。

各表彰出席者は、総会時に賞状・記念品手渡し、欠席者に関しては、自宅に郵送しました。
平成 23 年度功労賞対象者に関しては、昨年 12 月に各ブロック理事連絡し、各ブロック理事から 19 名の対象者が推薦されました。

１０．ブロック報告

【北海道ブロック】

平成 22 年度 技師長・課長（職務代行者）会議

開催日時：平成 22 年 4 月 24 日（土）

開催場所：北海道放射線技師会研修センター

第 20 回北海道地区会総会並びに研修会

開催日時　：　平成 22 年 10 月 2 日（土）　13:00～16:30
　　　　　　　平成 22 年 10 月 3 日（日）　9:30～12:00

開催場所　：　北海道放射線技師会研修センター

第 20 回北海道地区会総会並びに研修会を 10 月 2（土）・3（日）日の両日にわたり、道内全 10 施設 18 名の参加のもとに北海道放射線技師会研修センターにおいて開催しました。
初日の技術情報交流は施設規模の違いを乗り越えて、参加全施設において興味の持てる題材を取り上げて互いに「教え合おう」というものです。今回の「医療安全への取り組み」においても日頃の研鑽から生み出された文書が紹介され、会場からは「ナルホド」、「それいいネ」等々の声が揚がっていました。会員研究発表は 9 題で、いずれも臨床に即したとても興味深い演題であり活発な討議がなされていました。2 日目は最近何かと元気な「放射線治療」について会員によるレクチャーをおこないました。道内 10 施設のなかで放射線治療を行っているのは北見 1 施設のみで、他施設においても知っておくべき基本的事項についてのお話がありました。特別講演は『CT 技術はまだまだ進歩する』と題して GE ヘルスケアジャパンからお話がありました。CT アプリケーションの最新情報を提供していただき、皆真剣に聞き入っていました。

【東部ブロック】

平成 22 年度研修会は小川赤十字病院（埼玉県）主催にて、平成 22 年 11 月 27、28 日の両日、熊谷市ホテルヘリテージリゾートにて開催された。晩秋のため熊谷市における日本一の暑さを肌で感じられなかったが、今回の研修会は夜遅くまで情報交換の熱気を肌で感じた。
（夏だけが「暑く」はないこと。「熱く」なること、なれることもある。）
東部ブロック 20 施設中 14 施設から 59 名が参加した。1 日目は講演 2 題、特別講演 1 題、パネルデスカションや業務連絡会議・情報交換会を行い、2 日目は会員発表 9 題、教育講演 1 題をプログラム化した内容の濃い研修会であった。

小川大会長講演ならびに益井日本赤十字技師会長講演は、赤十字技師の使命や技師会の進む道標などを四季の自然に例えた会長らしい講演が印象に残りました。今後の技師会活動やブロック研修会の糧となり、研修会参加者は意識を統一できたと思う。
特別講演とパネルデスカッションはチーム医療をテーマに言葉だけではなく、具体的に実践し行動していくことの重要性で締めくくった「共感しあう」ことが印象でした。
教育講演は技師より講演の方が趣味というくらいの名調子の語り口で「医療ひばく相談の対応」でした。ことばの重要性はもとより対話の『こつ』など普段の接遇以上の相談者心理を追及しなければならないことを痛感した。
会員発表は業務多忙の中、技術の向上のため日々研鑽されている会員並びに施設の問題点等の発表が多くブロック内でも情報交換の必要性を感じた。

【中部ブロック】
第 1 回中部ブロック研修会を、平成 22 年 8 月 28 日（土）に福井赤十字病院で開催しました。テーマは「高精細モニタワークショップ in 赤十字－改正 JESRA　X-0093 への対応－」
で、第一部フィルムレス環境におけるモニタ精度管理、第二部モニタの現状報告（施設発表）、第三部ワークショップという構成で行いました。第 1 回目は準備期間も短く、各施設への案内も遅くなり参加人数の心配をしておりましたが、9 施設（福井・富山・金沢・安曇野・高山・岐阜・浜松・名古屋第 2・神戸）29 名の参加がありました。
　研修会終了後、情報交換会を開催し、これからの中部ブロック活動について活発な意見交換を行いました。

【近畿ブロック】
　平成 22 年 2 月 27～28 日、第 18 回近畿ブロック研修会が神戸にて開催されました。心配された雨も無事上がり、気持ちも晴れやかに、スタッフ一同開催に望みました。参加者計 77 名となった本会のメインテーマは、2 次救急における放射線技師の役割です。当院放射線科森副部長の基調講演に引き続き、当直中の検査で遭遇した症例というシチュエーションで、あなたなら(自施設なら)何を疑って、次は何の検査を予想して準備するか？というグループディスカッションを行いました。施設をかためず、ランダムに分けたため、それぞれのグループ内でいろいろな意見が出、他施設の状況も垣間見ることができたので、非常に面白い企画となりました。また、会員研究発表は 10 年未満の会員限定で、12 演題の発表がありました。非常に活発な質疑応答（関西ならではの厳しい突っ込み？）も見られ、発表者にとっては大変だったと思いますが、ぜひ今後の糧にしてもらいたいと思います。

【中・四国ブロック】
1 月 15 日、この冬一番の寒気が訪れた岡山で中国四国ブロック医療モニタ管理講習会が、岡山赤十字病院研修センターで開催されました。参加施設は 11 施設(松江・鳥取・広島・庄原・山口・松山・徳島・高知・神戸・名古屋第二・岡山)27 名の参加がありました。
第一部はフィルムレス環境におけるモニタ精度管理と題して、共催の株式会社ナナオ　技術部　斉藤氏ご講演をいただきました。汎用モニタと医療用高精細モニタの違いなど基礎の話から、JESRA ガイドラインの修正のポイントなどわかりやすい講演でした。

第二部は液晶モニタ品質管理と実際と題して、各施設のモニタ管理状況を、真野晃浩氏(名古屋第二)、松村光章氏(神戸)、加藤秀之氏(松江)に講演していただきました。実際のモニタ管理の話を聞くと、目からうろこと思えることや、いろいろ苦労されていることが分り大変参考になりました。
第３部は４グループに分れて、不変性試験を行いました。

【九州ブロック】

開 催 日：平成 22 年 9 月 25 日(土)～26 日(日)
開催場所：日本赤十字社九州ブロック研修センター『アソシエート』（熊本県）
当番施設：長崎原爆病院、長崎原爆諫早病院
参加人数：39 名（10 施設）

研修内容：第 1 日目：特別講演 2 題、ブロック代表者会議
第 2 日目：会員研究発表 3 題、教育講演 1 題

平成 22 年 9 月 25 日(土)～26 日(日)の日程で当番施設の長崎原爆病院、長崎原爆諫早病院のご協力のもと、日本赤十字社研修センター『アソシエート』におきまして九州ブロック研修会を開催しました。
この研修会も今回で 11 回目を迎え、講演・研究発表ともに多岐にわたるものとなり内容も充実してまいりました。特に、長崎原爆病院　朝長万佐男院長をお招きした講演では、原爆被災地長崎の当時の状況～現在までを原爆放射線の人体影響「生涯持続性のメカニズムを考える」という内容でお話され、原爆の恐ろしさ・人体への影響を再認識させられました。また、代表者会議・懇親会では、同じ赤十字施設で働く者として情報交換などが活発になされ、九州ブロックとしての絆がより一層深まりました。
次年度は、初めて開催場所を当番施設(佐賀県唐津市)に移して行う予定です。各施設のご協力のもと、より良い研修会にしていきたいと考えています。

【　第二号議案　】

１１．平成 22 年度決算報告

平成22年度一般会計決算報告書

平成23年3月31日現在　金額(円)

収　入　の　部

科目	22年度予算額	22年度決算額	増減	備考
会費	3,780,000	3,861,000	81,000	3,000×1,287名
入会金	20,000	69,000	49,000	1,000×69名
雑収入	10,000	740	△9,260	預金利息
学術研修会費	880,000	872,000	△8,000	8,000×109名
HP広告収入	1,100,000	1,130,000	30,000	広告協賛23社
セミナー収入	0	600,000	600,000	3社
前年度繰越金	2,585,667	2,585,667	0	
合計	8,375,667	9,118,407	742,740	

(収入9,118,407－支出5,483,706＝3,634,701残金)

支　出　の　部

科目	22年度予算額	22年度決算額	増減	備考
総会費	200,000	113,785	△86,215	総会運営費
会議費	2,000,000	1,990,971	△9,029	全国理事会、常任理事会費
役員活動費	98,000	94,500	△3,500	3,500×27名
ブロック活動費	700,000	439,955	△260,045	100,000×6ブロック
表彰費	250,000	236,395	△13,605	賞状額縁・活動費
学術部費	300,000	123,800	△176,200	活動費
財務部費	50,000	31,310	△18,690	活動費
組織調査部費	15,000	10,892	△4,108	活動費
広報部費	200,000	71,160	△128,840	活動費
企画部費	300,000	265,746	△34,254	活動費
事務局費	300,000	255,639	△44,361	活動費・慶弔費
学術研修会費	880,000	738,553	△141,447	会場費494,000は21年度決算済み
サーバ管理費	252,000	252,000	0	
HP管理運営費	400,000	189,000	△211,000	
基金積立費	100,000	100,000	0	
予備費	2,330,667	570,000	△1,760,667	23年度学術総会会場費
合計	8,375,667	5,483,706	△2,891,961	

残金　3,634,701 円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会　会長　益井　謙(印)

財務部　前川　栄寿(印)

平成22年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

平成23年3月31日現在

科目	金額	備考
前年度繰越金	50,000	
定期預金利息	61	平成22年度分
22年度積立金	100,000	一般会計より繰り入れ
合計	150,061	

上記の通り報告いたします　日本赤十字放射線技師会　会長　益井　謙

【　第三号議案　】

１２．平成 22 年度監査報告

監 査 報 告 書

平成 23 年 4 月 22 日（金）午前 10 時より、日本赤十字社 203 会議室において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

１・平成 22 年度特別積立金
２・平成 22 年度会誌特別会計
３・平成 22 年度業務研修決算
４・平成 2 年度一般会計決算
５・平成 22 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した。

監事

鈴木利男 印

中里 明 印

【　第四号議案　】

平成 23 年度事業計画案（総括）

母なる海を汚し母国の大地を穢した、東日本大震災に因る原子力発電所事故は、従来の救命救護の支援の在り方を一変した。その放射線や放射能の毒牙は、健康被害を救護活動と為り得る可能性を秘め、救護班の放射線管理の専門家として、診療放射線技師の活動をその被災地に拡大するであろう。被災現地が、放射線被曝の撹乱と疲弊と焦燥の阿鼻叫喚の地で在り続ける限り、我々赤十字の放射線技師は総力戦で支援し続ける事になると思われる。

我々のユビキタス技師会は、災害拠点病院として石巻赤十字病院が奮闘した様に、また被災地で広島原爆病院や長崎原爆病院の同志が、救護施設の人心の安心立命に寄与した様に、それぞれの健闘の意志を継いで、犠牲者の弔い合戦に積極的に参加し続けなければならない。

一方で、この有事の最中でも学術活動は連綿として向上させなければならない。赤十字医学総会や他の学会の軒先を借りてでも、若い学徒を育て、実践の場の研究者を評価し続けなければならない。救援救護の修羅場と、学術研鑽の啓育環境をユビキタスと合理的に結び付けて、その知行合一の機能性に拍車を掛けなければならない。赤十字の放射線技師の存在感を示す為にも、各施設のリーダーの協力と、時代が求める会員個々の意気と覇気を期待したい。

１．学術教育活動計画案

（1）日本赤十字放射線技師学術総会の充実を目指します。

学術総会という名に恥じないような、内容の充実を目指します。講演会の充実、会員研究発表の質の向上、活発な討議等、会員に研究発表することが誇りに思えるような会に発展させていきたいと考えております。

（2）分科会活動の活性を推進いたします。

3 月末の任期満了に伴い、分科会世話人が大幅に入れ替わりました。現在までのところ、決して活発な活動を行っているとは言えませんが、リフレッシュしたメンバーで、会員の皆様に有用な情報を提供できるよう、まずはホームページ上で積極的な活動を推進してまいります。

CT 分科会	加賀　久喜	大阪
	細川　博明	松山
	大竹　覚	成田
	河本　勲則	京二
MRI 分科会	金澤　裕樹	京一
	宇田　暢樹	小川
	佐藤　統幸	大田原
	浅見　肇	深谷
乳房画像分科会	尾形　智幸	さいたま

	西関　剛	長浜
	梶迫　絵美	京都第二
	井出　愛子	大森
医療情報分科会	西村　英明	福井
	加藤　秀之	松江
	西小野　昭人	熊本
核医学分科会	荻野　真博	旭川
	星野　洋満	前橋
	長瀬　光臣	足利
放射線治療分科会	小山　登美夫	長野
	上田　真吾	松山
	簾谷　和男	足利

２．災害医療案

東日本大震災被災地に対し、関連機関と協議しながら人的支援及び機器の貸し出し等の支援を継続する。また災害医療分科会を設立し、国内外の災害医療及び緊急被ばく医療などに関する情報を提供し、赤十字放射線技師の特色でもある災害医療支援の強化を図る。

災害医療分科会世話人メンバー（敬称略）

代表世話人　駒井　一洋　（名古屋第二赤十字病院）
世話人　口井　信孝　（日本赤十字社　和歌山医療センター）
世話人　中田　正明　（神戸赤十字病院）
世話人　坂井　征一郎（唐津赤十字病院）

３．文書管理案

昨年同様、業務に関係する諸文書や情報を提供することを目指します。

文書管理は皆様から文書やご意見等を頂きながら熟成する部門ですので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

４．広報部活動案

平成 22 年度広報活動は、ホームページの積極的な活用を行い、更なる電子化へ邁進してまいります。その一つとして、これまで発刊してきた内容を、時事に即し部門 CMS を利用し、ホームページに展開してまいります。また、メールニュースの時事による配信を行い、ホームページ更新時の最新の情報を、会員各位へ提供してまいります。

二つ目として、バナー広告の追加募集を実施し、ホームページを管理運営する経費の礎と考えると共に本会運営経費の礎とも考え、協賛企業へ継続的なご支援をお願いしてまいります。

三つ目として、ホームページの展開は会員諸氏の閲覧が不可欠であり、他部門と協議し更に閲覧していただけれような内容の充実を図ってまいります。

以下に広報活動の本幹を示します。

　１）部門 CMS 利用による本会の情報発信を実施いたします。

　２）メールニュースの時事に即した配信を実施いたします。

　３）バナー広告の維持推進を実施いたします。

５．福利厚生案（総務部・事務局）

(1)本社医療事業部と連繋を密にし、赤十字事業(大型機器購入、医療安全推進、災害支援など)の展開に、我々が関与協力できる態勢の充実をより推進したい。

(2)HP の充実を図り、情報交換の窓口としての利便性の向上を推進したい。

技師長・課長 ML の登録を促し、意見交換の場として機動性の向上を目指したい。

(3)会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規定に則り、速やかな対応を促したい。

６．企画部活動案（企画部）

平成22年度は、本会の電子化は終了し、完全電子化した状態で新年度を迎えることになる。本年度は、ホームページ（HP）およびメーリングリスト（ML）と言った情報媒体を駆使することによりユビキタス技師会としてさらなる発展を期待される。

具体的な活動内容を以下に記す。

１．HPおよびMLを活用した技師会活動の機能的運営の推進

　・広報部と連携し、HPを活用した電子広告の機能的な運用を企画推進する。

　・学術部と連携し、HPを活用した分科会活動の機能的運営を推進する。

　・組織調査部と連携し、MLとHPを活用したアンケート調査等の効率的運用を推進する。

　・MLの活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させる。

２．ユビキタス技師会発展のための新企画の推進

時代の流れを察知し、会員の関心を引きつける企画を提案する予定である。

７．組織調査活動案（組織調査部）

1.平成 23 年度も継続して全国赤十字病院施設へ会員台帳確認の調査を行います。

平成 23 年４月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）及び会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

2.会員台帳調査に合わせて技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）の未登録技師長へ登録促進を継続します。

3.ホットクロス ML と日赤 ML の登録管理を引き続き行います。

4.技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）を活用して各施設の抱える問題について定期的にその状況調査を進めます。

８．表彰部活動案

今回の表彰からは、在職者も功労賞表彰対象に含めました。今までは、基本的に退職者を対象にしていました。これでは総会時に出席できない方が多く、会員の前で表彰することができないため１年前倒しで進めました。次年度も在職中に表彰できるよう、継続していきたい。

【　第五号議案　】

9. 平成 23 年度予算（案）

平成23年度一般会計予算(案)

金額(円)

収入の部					支出の部				
科目	22年度予算額	23年度予算案	増減	備考	科目	22年度予算額	23年度予算案	増減	備考
会費	3,780,000	3,870,000	90,000	3,000×1,290名	総会費	200,000	200,000	0	総会運営費
入会金	20,000	30,000	10,000	1,000×30名	会議費	2,000,000	2,000,000	0	全国理事会・常任理事会
雑収入	10,000	2,000	△8,000		役員活動費	98,000	98,000	0	3,500×28名
学術総会費	880,000	0	△880,000		ブロック活動費	700,000	1,050,000	350,000	150,000×7ブロック
HP広告収入	1,100,000	1,200,000	100,000	バナー広告掲載料	表彰費	250,000	250,000	0	賞状額縁・活動費
前年度繰越金	2,585,667	3,634,701	1,049,034		学術部費	300,000	300,000	0	活動費
					財務部費	50,000	50,000	0	活動費
					組織調査部費	15,000	15,000	0	活動費
					広報部費	200,000	200,000	0	活動費
					企画部費	300,000	250,000	△50000	活動費
					事務局費	300,000	300,000	0	活動費・慶弔費
					学術研修会費	880,000	0	△880,000	
					サーバー管理費	252,000	252,000	0	セキュリティ管理費
					HP管理運営費	400,000	400,000	0	
					基金積立費	100,000	100,000	0	
					予備費	2,330,667	3,271,701	941,034	
合計	8,375,667	8,736,701	361,034		合計	8,375,667	8,736,701	361,034	

以上、日本赤十字放射線技師会　平成23年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会　会長　益井　謙(印)

財務部　前川　栄寿(印)

【　その他　】　　　役員改選　選挙管理委員会報告

平成 23 年 4 月 10 日

日本赤十字放射線技師会
会員各位　　殿

日本赤十字放射線技師会
選挙管理委員長
鈴木　　繁

平成 23、24 年度　役員改選について

平成 23、24 年度役員（会長、副会長、監事）の選挙にあたり、平成 22 年 12 月 14 日付けで立候補の告示を行ないましたところ、下記の方より立候補および推薦立候補の届出があり受理および資格審査を行なった結果、日本赤十字放射線技師会役員選挙規定第 4 章１１条により、候補者が役員定数を超えないため、無投票で下記 6 名の立候補を当選と認めます。

ここに平成 23、24 年度役員（会長、副会長、監事）改選に関わる選挙管理委員会の報告と致します。

記

会　長	清水文孝	深谷赤十字病院
副会長	久保田利夫	前橋赤十字病院
副会長	石田智広	福井赤十字病院
副会長	辻　秀憲	京都第二赤十字病院
監　事	中里　明	足利赤十字病院
監　事	山縣徳治	水戸赤十字病院

以上

10. ブロック活動案

【北海道ブロック】

平成 23 年度 技師長・課長（職務代行者） 会議

開催日時：平成 23 年 5 月 14 日

開催場所：未定（札幌市）

第 21 回北海道地区会総会並びに研修会

開催日時：平成 23 年 10 月 1、2 日（土、日）

開催場所：日本赤十字社北海道支部（札幌市）

【東部ブロック】

第 24 回東部ブロック学術研修会　　成田赤十字病院担当

【中部ブロック】

第 2 回中部ブロック研修会　　高山赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第 20 回近畿ブロック学術研修会　京都第一赤十字病院担当

【中・四国ブロック】

第 2 回中・四国ブロック研修会　松山赤十字病院担当

【九州ブロック】

第 12 回九州ブロック研修会

開 催 日：平成 23 年 10 月 1 日(土)～2 日(日)

開催場所：唐津赤十字病院（佐賀県唐津市）

当番施設：唐津赤十字病院

研修内容：未定

平成24年

第59回定期総会資料

日　　時　　平成24年5月31日(木)　午後4時より

会　　場　　東京国際フォーラム　ホールD-5

総会次第

開会の辞

会長挨拶

表　　彰

総会議事運営報告

議長選出

議事録署名人選出、書記及び採決係任命

議　　事

【第一号議案】　平成23年度事業経過報告

【第二号議案】　平成23年度決算報告

【第三号議案】　平成23年度監査報告

【第四号議案】　平成24年度事業計画（案）

【第五号議案】　平成24年度予算（案)

【第六号議案】　その他

議長解任

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表　彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会　　　長　清水　文孝
表彰委員長　戸口　豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

１．功労賞（第 2 条の 1）

大橋正男	長岡赤十字病院
金子　弘孝	長岡赤十字病院
宇野　二三代	成田赤十字病院
福島　良	小川赤十字病院
引屋敷　聖晴	武蔵野赤十字病院
柳澤　信男	長野赤十字病院
川嶌　剛	長浜赤十字病院
益井　謙	松江赤十字病院
重松　味津雄	松山赤十字病院
滝　健次	徳島赤十字病院
田原　徳建	高知赤十字病院
赤澤　武	熊本健康管理センター

（敬称略　順不同）

２．奨励賞（第 2 条の 2）

【個人】　該当者なし
【施設】　該当者なし

３．感謝状

【第一号議案】平成 23 年度事業報告

１．総括

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は、地震のみならず大津波と化し、何もかも呑み尽くすように地を這い、ビルや住居を破壊し、山自体を崩して内陸まで到達した。そして、想定外の原発の事故が追い討ちをかけ、復興の妨げになったのは周知の事実であろう。その様な中、益井前会長、久保田副会長を筆頭に災害医療分科会の世話人の方々の獅子奮迅の活躍は推して知るべし。

本会は、この震災の余波を受け、非常事態宣言を発し学術総会の中止を決定した。そして、それに替わるものとして web 総会、書面決済の選択を行なった。何分にもはじめてのこと、役員は慣れない手順に翻弄されながらも無事終えたことに安堵した。ただ、ホームページを介した質疑応答では、今回の手技についての問合せや匿名メールでの批判をいただいたが、関心を持っていただけたことに感謝したい。

この様な最中、新たな執行部の船出であったが、余波をもろに受けての出帆であり、これまで築いてきたことを踏襲するのみに留まってしまったように見受けられる。しかし、本会をご支援いただいている本社医療事業部、物心両面にてご支援をいただいている各メーカー、そして、本会の基盤を支えていただいている会員諸氏の期待を裏切らない活動を続けて行きたい。会を預かる当方の持論は、「役員は会員のために何が出来るかを考え、会員は会の事業に積極的に参加していただく」、「会の活性化は、ブロックの活性化、分科会の活性化がその礎となる」の 2 点である。そのための手法を取ってきたが、周知はなかなか難しい面もあり、今後の課題と考える。

以上を基に役員各位のご支援をいただきながら、会の運営を担って行くことをお約束とし、平成 23 年度の総括とする。

２．総務部事業報告

（１）平成 23 年度役員は次の通りである。

役　職　名	氏　　　名	施　設　名
会　　　長	清水　文孝	深谷赤十字病院
副　会　長	久保田　利夫	前橋赤十字病院
副　会　長	石田　智広	福井赤十字病院
副　会　長	辻　秀憲	京都第二赤十字病院
常任理事（総務）	山本　晃司	高知赤十字病院
同（事務局）	浅妻　厚	神戸赤十字病院
同（学術部／分科会）	竹安　直行	日本赤十字社医療センター
同（学術部／学術総会）	安彦　茂	仙台赤十字病院
同（財務部）	前川　栄寿	成田赤十字病院
同（組織表彰）	戸口　豊宏	大分赤十字病院
同（IT 推進／広報）	荒井　一正	武蔵野赤十字病院
同（IT 推進／ホームページ）	牧内　正史	諏訪赤十字病院
ブロック理事（北海道）	大沼　孝司	浦河赤十字病院
同（東北）	新田　仁	盛岡赤十字病院
同（東部）	尾形　智幸	さいたま赤十字病院

同 （ 中 部 ）	山口 忠夫	高山赤十字病院
同 （ 近 畿 ）	高津 安男	大阪赤十字病院
同（中国四国）	西田 史生	松山赤十字病院
同 （ 九 州 ）	吉見 公作	鹿児島赤十字病院

役 職 名	氏 名	施 設 名
監 事	山縣 徳治	水戸赤十字病院
監 事	中里 明	足利赤十字病院

役 職 名	氏 名	施 設 名
ブロック委員（北海道）	川井 明彦	函館赤十字病院
同 （ 東 北 ）	横山 高広	仙台赤十字病院
同 （ 東 部 ）	星野 洋満	前橋赤十字病院
同 （ 東 部 ）	若月 栄介	長岡赤十字病院
同 （ 中 部 ）	山下 光弘	高山赤十字病院
同 （ 中 部 ）	満間 啓二	富山赤十字病院
同 （ 近 畿 ）	福田 勤也	京都第一赤十字病院
同 （ 近 畿 ）	谷口 憲二	舞鶴赤十字病院
同（中国四国）	梶谷 努	岡山赤十字病院
同（中国四国）	安部 一成	高松赤十字病院
同 （ 九 州 ）	嶋田 三賀佐	嘉麻赤十字病院

（２）会議開催状況

①第 58 回日本赤十字放射線技師会定期総会

第 58 回日本赤十字放射線技師会定期総会は、東日本大震災の影響により、全国理事会の承認を得て web 開催および決議となった。

（議長 小川赤十字病院 古川富男氏）

②常任理事会を 3 回、全国理事会を 1 回下記の通り開催し、検案事項および提案事項について審議決定し、議事録を作成した。

第 1 回常任理事会

平成 23 年 7 月 8 日（金）東京国際フォーラムＧ604 会議室

第 2 回常任理事会

平成 23 年 10 月 21 日（金）福井市地域交流プラザ 501 号会議室

第 3 回常任理事会

平成 24 年 2 月 17 日（金）日本赤十字社 202 号会議室

平成 23 年度全国理事会

平成 24 年 4 月 20 日（金）東京国際フォーラムＧ507 号会議室

（3）東日本大震災による会費免除申請の取り扱い

平成 23 年度の会費免除措置を第 2 回常任理事会にて決定し、東北ブロック 11 施設に対し会費免除の案内を送付した。1 施設 1 名から申請があり、常任理事会にて承認した。

（4）会費免除に関する規定改定案の策定（日本赤十字放射線技師会会費納入規定 第 5 条）（資料参照）

会員の被災や病養、育休等による会費の免除の取り扱いについて、規定第 5 条の改定案の策定を行った。

（5）ブロック設置規定の一部変更

ブロック理事・委員の職務の明瞭化。

病院名変更及び新規加入（徳島ひのみね総合療育センター）に伴うブロック所属変更。

（6）日本赤十字社医療施設職員によって構成される各団体及び学会の登録申請を行った。

上記について平成 24 年 3 月 23 日付で申請し、3 月 30 日に承認された。

（7）医療事業通信「情報エキスプレス」の医療安全知恵の輪―放射線技術編を各施設に執筆依頼し、投稿を開始した。

3．会員動向報告

会員数　1265 名　（平成 24 年 4 月 30 日現在）

平成 23 年度退会者数　59 名

平成 23 年度入会者数　80 名

4．福利厚生報告

慶弔規定に基づき、祝電 2 通、弔電 3 通を送付した。

物故者　小成田 文郎 氏（名誉会員 前橋）

5．学術部活動報告

（1）学術総会での学術活動

平成 23 年度日本赤十字放射線技師学術総会は、東日本大震災のため開催中止となりました。演題を申し込んでいただいた方に、日本赤十字医学会総会（福井）への発表の振替を提案し、6 題中 3 題の演者に発表していただきました。尚、HP での発表については、希望者はありませんでした。

演者	施設名	演題名	日赤医会
宇山　浩文	庄原赤十字病院	4 列 Multi detector row に搭載されたインジェクタ同期システムの検討	
西村　憲治	名古屋第一赤十字病院	冠動脈 CT での呼吸停止不良時に対する単一心拍画像再構成の有用性	発表
髙橋 なつみ	松山赤十字病院	直接変換型 FPD マンモグラフィ装置の使用経験～ポジショニングを中心に～	発表
渡辺　良彦	広島赤十字・原爆病院	Daily QA3 における X 線エネルギー特性と平坦度について	発表

鷹野　潤寛	京都第二赤十字病院	当院における血栓溶解療法（t-PA）の使用報告	
坪井　孝達	浜松赤十字病院	心筋 defect の大きさ及び small heart による心機能解析値への影響	

（2）ホームページ活動

① 情報提供／施設紹介　【CT 分科会】

② 情報提供／医学総会参加報告　【学術部】

③ 情報提供／逐次近似法を使いこなそう　【CT 分科会】

④ 情報提供／システムマップ　【医療情報分科会】

⑤ 掲示板／造影剤使用同意書

（3）平成 23 年度　分科会活動報告

【CT 分科会活動報告】

CT 分科会世話人　京都第二赤十字病院　河本勲則

平成 23 年度 CT 分科会活動は、松山日赤　細川、大阪日赤　加賀、成田日赤
大竹、京二　河本の 4 名で行いました。

分科会世話人でメール会議を開催し、日赤技師会 HP 掲載内容や活動方針につき意見交換を行い、HP 上で CT 業務における情報交換の場を提供しました。

また、日赤医学会では放射線部門の座長として参加させていただきました。

HP には、施設紹介（各施設の CT 装置のスペック、CT 室検査運用状況やスタッフの配置など）現在大阪、松山、成田、京都第二赤十字病院が掲載されています。

また、新しい CT 技術の話題提供として「逐次近似を使いこなそう」をテーマに各メーカーより資料を提供していただき、HP 用に編集して画像再構成の理論や画質の向上と被曝低減について特集掲載しました。現在 GE、東芝、フィリップス、シーメンスが掲載されています。

只今、新たな企画を考案中です。

CT 分科会では、CT 検査の内容や日常業務において困っていること、疑問、運用面など、また HP 掲載資料についての質問等会員間で気軽に情報交換ができるようにと考えています。会員皆様からの活発なご意見、ご質問を賜りますようお願いいたします。

CT 分科会へメール送信してください。今後も日常業務に活かせる話題を取り上げ活動していきたいと世話人一同考えています。

ご協力、ご支援よろしくお願いいたします。

CT 分科会世話人

河本　勲則　　京都第二

加賀　久喜　　大阪

細川　博明　　松山

大竹　覚　　成田

【MR 分科会活動報告】

MR 分科会代表世話人　京都第一赤十字病院　金澤　裕樹

MR 分科会は、新世話人が発足し活動を開始した。電子メール会議を中心に活動をし、平成 23 年 6 月と平成 24 年 2 月の 2 回開催された。

第 1 回の議題は、“平成 23 年度の活動方針”について議論した。多くの活発な意見がでて議論されたが、“拡散強調画像（diffusion weighted imaging; DWI）の臨床”に決定した。その内容は、近年ハードウェアの向上に伴い，DWI が撮像部位に限定されることなく臨床で使用されており、日本赤十字放射線技師会の多くの会員に対して、各施設の撮像条件・使用部位・使用目的など情報を集約し、Web で情報共有出来ることを目標にした。この目標は、 2 年間の計画とした。さらに、世話人の宿題として、DWI に対して MR 分科会として、どのような情報が発信できるか、さらに会員の活動をとりまとめ論文化できないかを次に持ち越した。

第 2 回の議題は第 1 回の議題内用を具体化したものとなった。まず, 世話人施設の各部位毎の DWI 撮像条件の提示があった。頭部は比較的に短い撮像時間（1 分以内）であるのに対し、その他の部位では撮像時間を要する結果となった。その要因を調査すると、加算回数の増加による因子が最も大きく、呼吸同期の併用，繰り返し時間（TR）などが関与していた。しかし、撮像条件の設定については、エコー時間（TE）・受信コイルの特性・撮像枚数・スライス厚などの設定により様々であった。また、b value の設定に関しては、b = 1000 sec/mm² の設定が最も多く、上腹部では b = 500 ‐ 1000 sec/mm² に設定する場合が多かった。参考文献を中心に、具体化かつ最適化することが必要であると考える。この稿を書いている時点においても、まだ議論は続いているため。この撮像条件に関してはここまでに留めることにする。次回に報告したい。

最後に、MR 分科会より、研究計画があるので紹介したい。研究課題は、“拡散強調画像における受信コイル特性（仮）”を計画中である。研究目的は、各種受信コイルにおいて、信号雑音比（SNR）・見かけの拡散係数（ADC）の特性を調査することである。方法として、硫酸銅で満たした均一な球体ファントムを、表在コイル・QD コイル・アレイコイル・頭部専用多チャンネルコイルを使用して、撮像条件を同一（e.g. TE, TR, b value）に設定して画像収集する。収集した画像の設定した点の信号値から SNR を算出する。次に同点の ADC を測定する。さらに、加算回数を変化させ、SNR および ADC の変化量を測定する。以上が、研究計画である。まだまだ荒削りな研究計画ではあるが、今後検討および議論を重ねて論文または学術発表にて結果を公開することを来年度の目標としたい。また、この研究に参加したい方またはご教示頂ける方は、MR 分科会世話人までご一報頂ければ幸いである。

MR 分科会世話人

金澤　裕樹	京都第一
宇田　暢樹	小川
佐藤　統幸	大田原
浅見　肇	深谷

【医療情報分科会活動報告】

医療情報分科会　世話人代表　松江赤十字病院　加藤秀之

新メンバー3人（福井；西村、熊本；西小野、松江；加藤）により活動方針をメールにより協議しました。協議の結果、本会の特色を生かした現場で役立つ情報の公開と情報交換の場を提供することとしました。

世話人間では様々な情報交換もありましたが、その多くは活動に関する協議が中心でした。本会に対しての具体的な分科会活動としてはシステムマップの調査および公開に留まりました。しかしながら、システムマップの公開は前任者から受け継いだ活動でもあり、形として公開できた意義は大きいと言えます。

現在、より簡便な情報交換の方法について分科会担当理事の竹安理事にも協議に加わっていただき模索中です。今後はシステムマップの充実と改善とともに、これを基にした情報交換等の活動が活発になるよう次年度に繋げたいと考えています。

最後に、システムマップの作成にご協力いただいた施設の方々に世話人一同、紙面をかりてお礼申し上げます。

医療情報分科会世話人

加藤　秀之　　松江

西村　英明　　福井

西小野　昭人　　熊本

【核医学分科会活動報告】

核医学分科会　代表世話人　旭川赤十字病院　荻野真博

昨年は東日本大震災による福島原発事故や甲府での小児過剰投与事件など、放射能という言葉が一般メディアに多く登場した一年でした。

小児過剰投与事件を受け、清水会長より各赤十字病院での投与に対する現状把握のアンケートの提案をいただきましたが、世話人での数回メール会議を重ねた結果、実施するまでに至りませんでした。その理由の一つとして、アンケート結果を一般の方々も閲覧可能なHPに載せて良いものか懸念があったのも事実です。

結局、核医学分科会として、今年度報告できる具体的活動ができなかったことを会員皆様に深謝いたします。来年度は、活動方針に掲げました核医学の基礎知識やデータ等についてHPに掲載することを目標に少しずつ前進したいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたしします。

核医学分科会

荻野　真博　　旭川

星野　洋満　　前橋

長瀬　光臣　　足利

【乳房画像分科会活動報告】

乳房画像分科会　代表世話人　さいたま赤十字病院　　尾形　智幸

今期の乳房画像分科会活動として、機器装置の更新に役立つかもしれない「撮影検査室ビフォー・アフター」「機種選定への道」「検査法紹介」等 HP を利用した活動を中心に展開していきたいと考えていますが、スロースタートの当分科会では今年度まだ活動に着手できておりません。来年度こそはこれらの活動をスタートさせたいと思っております。よろしくお願いいたします。

乳房画像分科会

尾形　智幸	さいたま
西関　剛	長浜
梶迫　絵美	京都第二
出井　愛子	大森

６．災害医療部活動報告

東日本大震災被災地への機器貸出支援を継続しました。また放射線被ばく医療に関する人的支援活動報告をホームページに掲載しました。詳細は以下のとおりです。

（１）2012 年 1 月末時点での被災地への貸出医療機器状況は、ポータブル型超音波装置 5 台、ポータブル型 X 線装置 4 台、FCR システムと画像表示装置を組み合わせたものを 3 セット、X 線防護用プロテクター2 枚及び高精細モニター7 台です。

（２）2011 年 6 月 22,23 日、日本赤十字社岩手県支部の要請により、日本赤十字本社に寄贈された可搬型 FDP＋ポータブル型 X 線システム設置の為、名古屋第二赤十字病院　駒井一洋氏（災害医療分科会代表世話人）が岩手県陸前高田市仮設診療所に派遣されました。23 日には盛岡赤十字病院　岩井貢氏とともに設置作業を行った。

（３）分科会世話人を含む会員の放射線被ばく医療に関する人的支援活動報告を以下のようにホームページに掲載しました。

2011 年 8 月 8 日　「福島原発一時帰宅者スクリーニング活動報告」掲載

2011 年 9 月 26 日「福島第一原子力発電所医務室における医療支援活動報告」

（４）日本赤十字社長崎原爆病院　森幹司氏を 23 年度第 2 回理事会の承認を得て新たに災害医療分科会世話人に任命し、災害医療分科会の機能強化を図った。

（５）第 47 回日本赤十字社医学会総会にて駒井氏（名二）が「東日本大震災における日本赤十字放射線技師会の取り組み」と題して震災支援活動を発表しました。

（６）2 月 11 日、兵庫県災害医療センターにて震災支援活動の総括や今後の活動について分科会世話人会議を開催しました。

（７）東日本大震災の災害医療支援活動を電子会誌に掲載しました。

７．文書管理担当報告

平成 23 年度ホームページ文書管理に掲載した諸文書は以下のとおりです。

2011 年 9 月 30 日「独立行政法人　医薬医療機器総合機構の紹介」

2012 年 2 月 1 日　「厚生局による適時調査・個別指導」

８．IT 推進部（広報担当）活動報告

（１）日本赤十字放射線技師会電子会誌第 3 号を作成した。

（平成 24 年 5 月 1 日　技師会ホームページに掲載予定である）

９．IT 推進部（ホームページ担当）活動報告

（１）ホームページのシステム改善を検討した。

第 1 回 IT 推進研修会（7 月 8 日　第 1 回常任理事会内）

第 2 回 IT 推進研修会（10 月 21 日第 2 回常任理事会内）

①現在のホームページ利用状況

・ Web サイト利用者月間約 784 名

・ページビュー数　月間約 5500 ページ

・ML 利用登録数　ART 会員数 198 名

　　　　　　　　ホットクロス登録施設数 94 施設

②現在の問題点

・会員間のコミュニケーションが難しい。

・バナー広告業者が、自社の広告を閲覧できない。

③第 3 回常任理事会（2 月 17 日）にて、SNS 導入を検討したが、予算面での再検討のため次年度に持ち越しとなった。

１０．組織調査部報告

（１）平成 23 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。

（２）新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。

（３）技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。

（４）日本赤十字放射線技師会メーリングリストの登録作業を行った。

１１．表彰部報告

（１）平成 23 年 12 月 6 日に HP 上で表彰者推薦の依頼を掲載した。

（２）平成 23 年 12 月 8 日に各ブロック理事に、各ブロックの対象者の方を報告し推薦の取りまとめをお願いした。また同日、技師長・課長 ML に表彰該当者依頼文書を送信した。

（３）昨年度は、東日本大震災の影響で学術総会が中止になったので、福井で開催された日本赤十字医学会総会時に、表彰式並びに意見交換会を行った。

（４）平成 23 年度の全国理事会で、表彰者を下記のとおり決定した。

功労賞（第 2 条の 1）

長岡赤十字病院	大橋正男
長岡赤十字病院	金子　弘孝
成田赤十字病院	宇野　二三代
小川赤十字病院	福島　良
武蔵野赤十字病院	引屋敷　聖晴

長野赤十字病院　柳澤　信男
長浜赤十字病院　川嶌　剛
松江赤十字病院　益井　謙
松山赤十字病院　重松　味津雄
徳島赤十字病院　滝　健次
高知赤十字病院　田原　徳建
熊本健康管理センター　赤澤　武　（敬称略　順不同）

奨励賞　（第 2 条の 2）
個人　施設　該当者なし

感謝状
東日本大震災時、日本赤十字放射線技師会を支援していただいた企業

企業名	支援の内訳	
株式会社　保科製作所	防護用エプロン	
日本電気硝子株式会社	防護用衝立	
株式会社日立メディコ	ポータブル型 X 線装置	5 台
	ポータブル超音波装置	5 台
株式会社　ナナオ	高繊細モニタ	19 台
富士フイルムメディカル株式会社	FCR システム＋画像表示装置 3 セット	
コニカミノルタヘルスケア株式会社	CR システム＋画像表示装置 3 セット	

１２．ブロック報告

（１）北海道ブロック活動報告

第 21 回北海道地区会総会並びに研修会が 10 月 1 日（土）～2 日（日）にわたり北海道支部会議室にて開催されました。昨年に新装成った北海道支部での念願の開催であり（札幌駅とすすきのの中間点という好立地）、道内 10 施設から 24 名の参加がありました。

研修会の内容についてはすでにお知らせしておりますが､毎年決められたテーマについて各施設それぞれの視点からコメントする｢技術情報交流｣､｢会員研究発表｣、特別報告として「東日本大震災救護活動参加報告」、超音波検査についての「レクチャー･技術講演」など時間押し捲りの討論がなされました。

尚、平成 24 年度の活動予定は以下の通りです。

5 月 12 日　道内赤十字放射線技師 技師長職場長代行者会議
9 月 29～30 日　北海道赤十字放射線技師会北海道地区会研修会総会

（２）東部ブロック活動報告

平成 23 年度東部ブロック研修会を成田赤十字病院が担当し、千葉県成田市内のＵシティホテルにおいて参加施設 14、参加会員数 49 名の会員の皆様の御出席頂き開催をいたしました。

最初に、日本赤十字放射線技師会、清水会長に『日赤放射線技師会活動・新たな船出』ということで御講演を頂き現在の日赤放射線技師会の活動状況、今後の技師会の方向性について具体的に示して頂きました。

（３）中部ブロック活動報告

平成 23 年度中部ブロック研修会を、平成 23 年 8 月 20 日（土）に高山赤十字病院で開催しました。今回は、東日本大震災を踏まえての診断モニタの節電、耐震方法や、災害救護における放射線技師の果たす役割などをテーマにして、講演や討論を行いました。「災害救護における放射線技師の果たす役割」の発表の中では、中部ブロックからも多数の放射線技師の方が救護班として出動されており、身近な話題でもあり活発な討論となりました。

休憩時間には、会場の一部を利用して（株）ナナオの電子カルテ画像表示モニタ（2MP カラーモニタ、3.7MP カラー液晶モニタ）や医用画像表示モニタ（4MP 液晶モニタ）の展示をしていただき、最新のモニタを体感することが出来ました。

参加者は 9 施設（金沢・福井・諏訪・安曇野・岐阜・名古屋第 1・名古屋第 2・山田・高山）29 名でした。

研修会後の談話会では、来年度の研修会開催場所を安曇野赤十字病院に決定しました。来年度の研修会も決まり、昨年度からスタートした中部ブロック研修会もようやく軌道に乗ってきました。

開催プログラムは以下の通りです。

平成 23 年 8 月 20 日（土）

日本赤十字放射線技師会　中部ブロック

平成 23 年度業務研修会 at 高山赤十字病院

12:30～13:00　受付　進行　山口忠夫（高山）

13:00～　挨拶　日本赤十字放射線技師会 常任理事 牧内正史（諏訪）

13:10～14:10　メーカー講演　座長　石田智広（福井）

「モニタの精度管理と省電力設定・耐震に対する考え方」

株式会社ナナオ　企画部　商品技術課　課長　森脇浩史

14:15～15:00　施設報告「診断モニタの管理状況　～昨年からの経過報告～」

福井赤十字病院　放射線科部　西村英明

15:00～15:30　　休憩と機器見学

15:30～16:15　　会員報告　　　　　　　　　　　　　座長　片山典明（金沢）

・「災害救護班活動に参加して」

高山赤十字病院　放射線科部　中井良則

・「災害救護班活動での放射線技師の果たす役割」

福井赤十字病院　放射線科部　安藤剛一

・「災害救護班活動での放射線技師の果たす役割」

名古屋第二赤十字病院　放射線科部　猪岡由行

16:15～16:45　　ディスカッション

16:50～17:20　　談話会（今後の中部ブロック活動について）

司会　日置竹志（名古屋第二）

17:30～　　　施設見学（自由参加）

平成24年度の活動として第3回目となる中部ブロック研修会を、安曇野赤十字病院で開催予定です。日程については 8 月下旬を予定しております。今回は、研修会に先立ち各病院の技師長・課長会議も予定しております。

（4）近畿ブロック活動報告

平成24年3月3日（土曜日）4日（日曜日）の 二日間、平成23年度日本赤十字放射線技師会第20回近畿ブロック研修会が、京都第一赤十字病院担当のもと京都市中京区のコープイン京都において開催され、12施設64名の参加を頂きました。当院 依田院長 河野副院長 佐藤放射線診断科部長 日本赤十字放射線技師会 清水会長の御出席を頂き盛況のうちに終了しました。

イブニングセッションでは、会員の親睦を深め、 施設代表会議では各施設間の有意義な情報交換が出来ました。

（5）九州ブロック活動報告

平成 23 年 10 月 1 日（土）13:00～2 日（日）に渡り、会場を唐津赤十字病院　講堂で開催いたしました。研修会内容は、

特別講演「重粒子線がん治療の現状と今後」

九州大学大学院医学研究院　重粒子がん治療学講座 教授 塩山 善之 先生

特別講演「脊椎変性疾患の診断と治療」

唐津赤十字病院 整形外科部長 生田 光 先生

特別講演「これからの日本赤十字放射線技師会」

日本赤十字放射線技師会 会長 清水文孝先生

と各講演がありました。

2 日目は会員研究発表が 4 題なされ、最後に教育講演「緊急被ばく医療」－患者受け入れの実際　唐津赤十字病院　放射線技術課第一係長　坂井　征一郎氏が講演された。

尚、平成２４年度のブロック研修会は、以下の予定で開催致します。

日　時	平成 24 年 9 月 8 日（土）13 時 20 分～17 時 00 分
	平成 24 年 9 月 9 日（日） 9 時 00 分～12 時 00 分
会　場	アソシエート
	〒869-1404　熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 4369-1
研修内容	未定

【第二号議案】　平成 23 年度決算報告

平成23年度 一般会計決算報告書

平成24年3月31日現在　金額（円）

収入の部					支出の部				
科目	23年度予算額	23年度決算額	増減	備考	科目	23年度予算額	23年度決算額	増減	備考
会費	3,870,000	3,936,000	66,000	3,000×1,312名	総会費	200,000	0	△200,000	総会運営費
入会金	30,000	75,000	45,000	1,000×75名	会議費	2,000,000	1,931,127	△68,873	全国理事会、常任理事会費
雑収入	2,000	662	△1,338	預金利息	役員活動費	98,000	105,000	7,000	3,500×30名
学術研修会費	0	0	0	学術研修会中止	ブロック活動費	1,050,000	633,671	△416,329	5ブロック
HP広告収入	1,200,000	1,350,000	150,000	広告協賛27社	表彰費	250,000	221,682	△28,318	賞状副賞・活動費
前年度繰越金	3,634,701	3,634,701	0		学術部費	300,000	88,658	△211,342	活動費
					財務部費	50,000	47,325	△2,675	活動費
					組織調査部費	15,000	12,313	△2,687	活動費
					広報部費	200,000	20,185	△179,815	活動費
					企画部費	250,000	0	△250,000	活動費
					事務局費	300,000	243,235	△56,765	活動費・慶弔費
					学術研修会費	0	0	0	
					サーバ管理費	252,000	252,000	0	セキュリティ管理費
					HP管理運営費	400,000	231,000	△169,000	定期刊行物更新,バナー追加費
					基金積立費	100,000	100,000	0	
					予備費	3,271,701	770,455	△2,501,246	24年度学術総会会場費,災害医療支援費
合計	8,736,701	8,996,363	259,662		合計	8,736,701	4,656,651	△4,080,050	

（収入8,996,363ー支出4,656,651＝4,339,712残金）

残金　4,339,712 円は次年度に繰越し
日本赤十字放射線技師会　会長　清水　文孝（印）

財務部　前川　栄寿（印）

平成23年度　特別積立基金決算報告書

平成24年3月31日現在

科目	金額	備考
前年度繰越金	150,061	
定期預金利息	25	平成23年度分
23年度積立金	100,000	一般会計より繰り入れ
合計	250,086	

上記の通り報告いたします。 日本赤十字放射線技師会　会長　清水　文孝

【第三号議案】　平成年 23 度監査報告

監査報告

日本赤十字放射線技師会会則第２５条に基づき、平成２４年４月２０日会長、副会長、財務担当等役員立会いの下、平成２３年度の監査を実施した。

１、総括

平成２３年３月１１日に大震災、大津波の被害は原子力発電所の事故発生を誘発し、その余波は留まるところを知らず、各種学会の中止や延期に追い込まれた。本会も学術総会の中止、定期総会のｗｅｂ総会に移行し書面決済より新たな執行部が誕生し、苦難の船出となった。その後１年が経過し、執行部もたゆまぬ努力において本会の活動・運営に多大な寄与をしていただけたことに、心より感謝申し上げる。

また、震災後の救護活動に従事した会員、医療機器支援における災害医療分科会の世話人の皆様や益井前会長、清水会長、久保田副会長、福島原発の管理棟での医療活動へ参加された皆様、更に震災直後より医療活動を繰り広げた石巻赤十字病院や東北ブロックの施設の皆様、多くの皆様に心より感謝申し上げたい。

２、事業

本会の事業は、震災の余波を受けたものの執行部の努力にて平成２３年度の事業計画に基づき、遂行されたものと考える。その中でも震災後の救護活動、災害医療分科会の活動は分科会が立ち上がってまもなくということであったが、大いに活躍された事は特記されることと考える。

余波を受けたことはそれとして、本会の活動・運営をしていく上でホームページの重要性は周知の通りであるが、更新が滞っているように見えることから更なる充実を望む。ホームページにおいては、各企業のご支援をいただいたバナー広告は、多くの賛同を得た結果であり、各企業の期待を裏切らない活動の展開を望む。

今年度の事業は、内容・質共に震災の影響があったことから少なからず満足の行くものではなく、次年度に向けての課題として欲しい。

３、会計

会長、副会長、財務担当等関係役員立会いの下、金銭出納簿、各種請求書及び領収書、預金通帳等を照らし合わせた結果、出納簿等関係書類が適正に処理されている事を確認した。

平成２４年４月２０日

日本赤十字放射線技師会　監事　中里 明　印

日本赤十字放射線技師会　監事　山縣 徳治　印

【第四号議案】　平成 24 年度事業計画案

１．総括

早いもので、震災から 1 年が経過した。我々ユビキタス技師会の発展は、如何だったろうかと省みることから進むこととしたい。揺らぎの中から歩き出したものの、確実に一歩を踏み出そうともがいていた。そして、その揺らぎを止めていただけたのも、役員各位の言動であったと思う。それを糧に、平成 24 年度の活動を会員諸氏にお約束したい。

平成 24 年度は、これまで築き上げてきたユビキタスのインフラを、更に利用し利便性の高い手技としたい。それには、時代を見据え流れを呼び込んでいかなければならないであろう。それには、ホームページの改訂を行なう、若しくは準備を行なっていかなければならない。そして多くの議論をぶつけ、よりベターな選択しなければならないだろう。また、分科会の活動スキルを一段でも二段でも上げ、会員に多くの情報を付与できるようにしていかなければならない。ブロック活動もその一環にて、活性化を上げて行きたい。その為には、情報を共有できるホームページの充実が最優先である。情報を己だけで持ったとしてもひとつの情報であるが、情報は共有してこそ倍化し更に生命力を上げて行くに違いない。それこそが、93 施設のスケールメリット利用した情報網であり、媒体がホームページということに他ならない。また、7 分科会の活性化を図るべく担当常任理事を配置しとこと、ブロックの活性化を図るべく副会長を総括とし、常任理事をブロックに配置したことも活性化の手段である。本年度は、更に充実させて行きたい。

本会の活動は、我々を支援していただいている本社医療事業部、物心両面にて支援していただいている各メーカー、それらを裏切らないひとつの手段であると考える。更に、役員が活発に動き、考え、会員諸氏にフィードバックできる活動、そして会員が事業に積極的に参加できる環境を整え横の繋がりを強くする、そんな会の運営を目指すことをお約束したい。

２．総務部事業計画案

（１）平成 24 年度日本赤十字放射線技師会学術総会および第 59 回定期総会の開催

平成 24 年度日本赤十字放射線技師会学術総会（平成 24 年 5 月 31 日、6 月 1 日）および第 59 回定期総会（平成 24 年 5 月 31 日）を開催するにあたり、スムーズに会が運営できるよう心がける。

（２）平成 24 年度の常任理事会および全国理事会を開催し、検案事項および提案事項について審議決定し、議事録を作成する。

第 1 回常任理事会	平成 24 年 7 月 13 日（金）	日本赤十字社　203 小会議室　13:00～17:00
第 2 回常任理事会	平成 24 年 10 月 26 日（金）	会場未定
第 3 回常任理事会	平成 25 年 2 月 15 日（金）	会場未定
平成 24 年度全国理事会	平成 25 年 4 月 19 日（金）	会場未定

３．学術活動計画案

（１）日本赤十字放射線技師学術総会の開催

平成 23 年度は、東日本大震災で開催が中止となりました。平成 24 年度は、「災害と医療安全」

をテーマに掲げ、災害講演を石巻赤十字病院　及川先生に、医療安全講演を大阪大学医学部付属病院　中島先生にしていただきます。また、災害分科会にも活動報告をお願いしており、日赤技師会ならではの内容となっております。

研究発表は 11 題予定されており、今後日赤医学会や技術学会などの全国学会で発表する足がかりになればと考えております。

（２）分科会活動の推進

ホームページ上での活動が主になりますが、そのほかにも各分科会で活動内容を立てております。また、分科会世話人代表の方にホームページへの書き込みの権限を委譲し、活発な分科会活動を推進していきます。

詳細は、平成 23 年度の各分科会活動報告をご覧ください。

（３）メーリングリスト（ML）・掲示板の利用を推進する

日赤は全国的な組織展開をしており、ML や掲示板を活用することが必要となっていますが、現状では十分に利用されていません。各分科会とも協力しながら、更なる ML・掲示板の利用の活性化を図っていこうと考えております。

分科会の皆様からは、分科会単位のメーリングリストや掲示板を作ってほしいという要望が出ています。

ホームページのリニューアルや変更の際に、各分科会と協力をしながら、この要望を盛り込んでいく方向に動いていきたいと考えております。

４．災害医療支援部活動計画案

東日本大震災被災地への医療機器貸出支援を継続する。また、国内外の災害医療及び放射線被ばく医療などの災害医療支援への啓蒙活動を継続する。これらの活動をより一層強化するために、災害医療分科会を災害医療支援部に改める。これに伴い、従来の「災害医療分科会世話人」の名称を「災害医療支援部委員」とする。

今年度の具体的活動案は以下の通りです。

（１）平成 24 年度学術総会において医療機器貸出支援活動の報告を行なう。

（２）緊急放射線被ばくを含む災害支援活動の全国的調査の実施とその結果を報告する。

（３）東日本大震災被災地への医療機器の貸出支援を継続する。

（４）その他災害支援に必要な活動を行なう。

５．文書管理活動計画案

業務に関係する諸文書や情報を提供する。今年度は、「緊急放射線被ばくに関するマニュアル」（仮称）作成を目指します。文書管理は、赤十字というスケールメリットを活かし熟成する部門ですので、会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

６．IT 推進部（広報担当）活動計画案

（１）ホームページ掲載内容充実に向けて、アンケート調査を行いホームページ内容の見直しを行う。

（２）24 年度　第 4 号電子会誌を作成する。

７．IT 推進部（ホームページ担当）活動計画案

（1）会員の HP 活用の推進を目的として、SNS 導入を検討する。
（2）サーバ管理会社と連携して、情報のセキュリティーのさらなる強化を図る。
（3）総務部、学術部、組織部と連携して、HP の機能的な運用を図る。

8．組織調査部活動計画案

（1）平成 24 年度も同様に会員台帳の調査を行い、新入会員者・退会者と施設毎会員数の現況把握を行います
（2）技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行います。
未登録施設 2 施設
（3）日本赤十字放射線技師会メーリングリストの登録推進とその管理を行います。
以上、会員の皆様のご協力をお願い致します。
（4）学術総会についてのアンケート調査を行います。

9．表彰部活動計画案

日本赤十字放射線技師会表彰規定に則り本会に功績のあった会員の表彰を、各ブロック理事と連携を取りながら行います。
また、会員皆様の情報（特に奨励賞）が重要ですので、ご協力をお願いします。

【第五号議案】平成 24 年度予算（案）

平成24年度一般会計予算(案)

金額(円)

収入の部					支出の部				
科目	23年度予算額	24年度予算案	増減	備考	科目	23年度予算額	24年度予算案	増減	備考
会費	3,870,000	3,960,000	90,000	3,000×1,320名	総会費	200,000	100,000	△100,000	総会運営費
入会金	30,000	30,000	0	1,000×30名	会議費	2,000,000	2,000,000	0	全国理事会,常任理事会
雑収入	2,000	2,000	0		役員活動費	98,000	112,000	14,000	3,500×32名
学術研修会費	0	880,000	880,000	8000×110名	ブロック活動費	1,050,000	1,050,000	0	150,000×7ブロック
HP広告収入	1,200,000	1,400,000	200,000	バナー広告掲載料	表彰費	250,000	250,000	0	賞状副賞・活動費
前年度繰越金	3,634,701	4,339,712	705,011		学術部費	300,000	300,000	0	活動費
					財務部費	50,000	50,000	0	活動費
					組織調査部費	15,000	15,000	0	活動費
					広報部費	200,000	200,000	0	活動費
					IT 推進部費	250,000	250,000	0	活動費
					災害医療支援部費	0	200,000	200,000	活動費
					事務局費	300,000	300,000	0	活動費・慶弔費
					学術研修会費	0	880,000	880,000	
					サーバー管理費	252,000	252,000	0	セキュリティ管理費
					HP管理運営費	400,000	400,000	0	定期刊行物更新、バナー追加
					基金積立費	100,000	100,000	0	
					予備費	3,271,701	4,152,712	881,011	
合計	8,736,701	10,611,712	1,875,011		合計	8,736,701	10,611,712	1,875,011	

以上、日本赤十字放射線技師会　平成24年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会　会長　清水　文孝(印)
財務部　前川　栄寿(印)

平成２５年

第 60 回定期総会資料

日　時　平成 25 年 6 月 6 日(木)　午後 3 時 30 分より

会　場　東京国際フォーラム　ホール D-5

総会次第

開会の辞

会長挨拶

表　彰

総会議事運営報告

議長選出

議事録署名人選出、書記及び採決係任命

議　事

【第一号議案】　平成 24 年度事業経過報告

【第二号議案】　平成 24 年度決算報告

【第三号議案】　平成 24 年度監査報告

【第四号議案】　平成 25 年度事業計画（案）

【第五号議案】　平成 25 年度予算（案）

【第六号議案】　その他　本会名称変更案

諸規定変更報告

【第七号議案】　平成２５・２６年度役員改選について

議長解任

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表　彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会　　　長　清水　文孝
表彰委員長　戸口　豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

１．功労賞（第 2 条の 1）

盛岡赤十字病院	岩井　貢	
仙台赤十字病院	高橋　和義	
水戸赤十字病院	海老沢　平司	
足利赤十字病院	茂木　常男	
前橋赤十字病院	鈴木　繁	
小川赤十字病院	小川　清	
長岡赤十字病院	捧　和雄	
長野赤十字病院	八町　淳	
安曇野赤十字病院	関　利明	
浜松赤十字病院	北野　光浩	
舞鶴赤十字病院	谷口　憲二	
京都第一赤十字病院	河原　貴史	
京都第二赤十字病院	辻　秀憲	
姫路赤十字病院	上水　徹也	
広島赤十字・原爆病院	田中丸　芳樹	
松山赤十字病院	西田　史生	
長崎原爆諫早病院	小楠　弘幸	（敬称略　順不同）

２．奨励賞（第 2 条の 2）

個人の部

深谷赤十字病院	清水　邦昭	
伊勢赤十字病院	大山　泰	
高槻赤十字病院	渡邊　良彦	
庄原赤十字病院	宇山　浩文	
松山赤十字病院	高橋　奈津樹	（敬称略　順不同）

施設の部

那須赤十字病院

３．感謝状（第 2 条の 3）

石巻赤十字病院

福島赤十字病院

前橋赤十字病院
さいたま赤十字病院
飯山赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
伊勢赤十字病院
京都第二赤十字病院
神戸赤十字病院
広島赤十字・原爆病院
高松赤十字病院
唐津赤十字病院
日本赤十字社長崎原爆病院　（順不同）

4．60 周年記念事業　感謝状

東洋メディック株式会社
EIZO 株式会社
GE ヘルスケアジャパン株式会社
エーザイ株式会社
キャノンライフケアソリューションズ株式会社
ケアストリームヘルス株式会社
コヴィディエングループジャパン
コドニックス・リミテッド株式会社
コニカミノルタヘルスケア株式会社
シーメンス・ジャパン株式会社
テルモ株式会社
ユーロメディテック株式会社
株式会社 AZE
株式会社栗原医療機器店
株式会社千代田テクノル
株式会社島津製作所
株式会社日立メディコ
丸文通商株式会社
第一三共株式会社
中外テクノス株式会社
朝日レントゲン工業株式会社
東芝メディカルシステムズ株式会社
日本メジフィジックス株式会社
日本メドラッド株式会社
日本電子硝子株式会社
富士フイルムＲＩファーマ株式会社

富士フイルムメディカル株式会社
富士製薬工業
石黒メディカルシステム株式会社
有限会社ムツダ商会　　　　　　　　　　　　（順不同）

【第一号議案】　平成 24 年度事業経過報告

1. 総括

震災 2 年。爪痕は、未だ復旧、復興に障害として残り、遅々として進まぬ状況を呈しているようである。そして、年末の選挙にて政権が替わり、経済政策など様々な手法を繰り出そうとしているが、その歩みは本当に災害地に向いているか、一抹の不安を覚える。また、原発も終息の域を出ていないことは、抑え込めないもどかしさだけが影を落としているかもしれない。避難されている大勢の方々のお気持ちを思うと、一刻も早い終息宣言が待たれる。

本会の活動は、余波の影響も少なからず残っているが、役員各位の努力の下速やかに運営されたと思っている。そして、この 2 年間は、「継続と躍進」、「連携と連動」をテーマに会の運営を実施してきた。そのテーマを実践する根幹につながる当方の持論として、「ブロックの活性化」、「分科会の活性化」があった。それらは、本会の運営や本会の活性につながるものとの考えの中、役員諸氏の努力をいただいた。そのような中、全国 7 ブロックでの研修会が年度内に全てにおいて開催されたことは、これまでなかったことであり、大いに喜ばしいことであった。ブロック理事、開催施設の皆様に感謝申し上げる。そして、施設の枠にとどまらない会員間の交流ができたことは、本社の方針にもある「もっとクロス」ではなかったかと思っている。また、今年度は、北海道ブロック以外の 6 ブロックにて、お話をする機会を与えていただけたことは、会の方針をお話できる場でもあり、学術総会でのアンケートの報告もお話しできたことは大いに有意義であったと思う。更に、会員諸氏のご意見を伺える機会でもあり、今後もブロック研修会への招聘をお願いしたい。

分科会活動は、如何だろうと自問する。結論としては、未成熟な状況を打破できていないとの結論に達する。その課題は山積し見えてきていることを踏まえ、それには役員の頑張りが必要であり、分科会世話人の方々の後押しができるよう、次年度以降の対応をしっかりして行かなければならないと思っている。
本会の最大の事業である学術総会では、多くの会員の参加のもと盛大に開催できたこと、医療安全知恵の輪への投稿では滞ることなく執筆をいただけたこと、すべてにおいて会員諸氏に感謝申し上げたい。しかし、ユビキタス技師会の本幹であるホームページの運用は、止まってしまっている感があり、今後の最大の課題となるものと思っている。

いずれにしても、揺れるから始まった 1 年であり、そして躍ると題したこの一年は、なかなかスムーズに躍ることができなかったと思うが、牛歩のごとくではあったが進むことができたと思っている。しかし、まだまだ未熟な運営であったことは否めず、一つの結果と捉え、役員各位の、会員各位へ感謝を述べたい。

最後に、ブロック研修会の中でお話しさせていただいていることであるが、「施設の一員ではなく赤十字の御旗に集いし約 60,000 人の職員の一人であること」を会員の皆様に周知していただき、平成 24 年度の総括とする。

2.　総務部活動報告

（1）　第 59 回日本赤十字放射線技師定期総会の開催

第 59 回日本赤十字放射線技師定期総会を平成 24 年 5 月 31 日（木）東京国際フォーラム D－5 にて開催した。清水会長挨拶の後、先般亡くなられた当技師会の名誉会員である小成田様、瀬山様、また東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を祈って、全員で黙とうが捧げられ、その後表彰へと続いた。議事に先立ち定期総会は、会員参加者 118 名、総会委任状 1087 名、総計 1205 名を得ており、成立することを確認した。議長には原町赤十字病院　萩原健氏、熊本健康管理センター　長野勝廣氏の 2 名が選出され、平成 23 年度事業経過報告、決算報告、監査報告、平成 24 年度事業計画案、予算案について全てが審議され承認決議した。

（2）　理事会、定期総会の設定及び議事録の作成

常任理事会を 3 回、全国理事会を 1 回、下記のとおり開催し検討事項及び提案事項について審議決定し、それらについて全て議事録を作成した。

第 1 回常任理事会

平成 24 年 7 月 13 日（金）13：00～17：00　日本赤十字社本社　203 号会議室

第 2 回常任理事会

平成 24 年 10 月 26 日　（金）13：00～17：00　神戸赤十字病院　研修室

第 3 回常任理事会

平成 25 年 2 月 8 日（金）13：00～17：00　日本赤十字社本社　202 号会議室

平成 24 年度全国理事会

平成 25 年 4 月 19 日（金）13：00～17：00　浜松町トラスト会議室

（3）　医療安全対策部会

今年度より発足した、本社医療事業部医療安全課管轄の医療安全対策部会に本会の久保田副会長が参加し、医療安全推進について協議また検討を行った。

第 1 回部会

平成 24 年 9 月 3 日（月）14：00～16：00　日赤本社 304 会議室

第 2 回部会

平成 25 年 1 月 25 日（金）13：30～15：30　日赤本社 202 会議室

3.　会員動向報告

会員数 1352 名　（平成 25 年 3 月 31 日現在）

平成 24 年度退会者数 46 名

平成 24 年度入会者数 87 名

4.　福利厚生報告

慶弔規定に基づき、祝電 2 通、弔電 2 通を送付した。

久保田副会長が八町氏（長野赤十字病院技師長）の葬儀に参列、弔問した。

5.　学術部活動報告

（1）　平成 24 年日本赤十字放射線技師学術総会開催

平成 24 年 5 月 31 日（木）、6 月 1 日（金）の 2 日間、東京国際フォーラム ホール D-5 において、会員 118 名の出席の元、平成 24 年日本赤十字放射線技師学術総会を開催した。以下に内容を示す。

本社講演「赤十字病院の現状と課題」

医療事業部 次長 飯嶋 喜史　様

特別講演「東日本大震災における石巻赤十字病院の対応」

石巻赤十字病院 第 1 放射線技術課長　 及川　順一 様

教育講演「チーム医療におけるノンテクニカルスキルの重要性」

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 部長・病院教授

中島 和江 様

会員研究発表

第一部（4 演題）座長 宇田 暢樹 氏（小川）

第二部（3 演題）座長 加藤 秀之 氏（松江）

第三部（4 演題）座長 細川 博明 氏（松山）

＊　会員研究発表　最優秀賞・優秀賞受賞者

最優秀発表賞：松山赤十字病院　高橋　奈津樹様

優秀発表賞：深谷赤十字病院 富田　欣治様、武蔵野赤十字病院 藤岡　由紀様

分科会報告

災害医療：駒井 一洋 氏（名古屋第二）、坂井 征一郎氏（唐津）、森　幹司 氏（長崎原爆）

CT：河本 勲則 氏（京都第二）

医療情報：加藤 秀之 氏（松江）

（2）　ホームページ活動

学術関連の資料・報告をホームページに掲載した。内容は以下の通り。

2012 年 04 月 14 日　【CT 分科会】逐次近似法を使いこなそう

2012 年 06 月 12 日【学術部】平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会
イブニングセミナー　スライド掲載

2012 年 06 月 17 日【学術部】平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会
ランチョンセミナー①のスライド掲載

2012 年 08 月 03 日【掲示板】台風 4 号による電源喪失

2012 年 09 月 21 日【学術・総会】平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会　研究発表　座長集約および後抄録、特別講演「 東日本大震災における石巻赤十字病院の対応 」の講演資料掲載

2012 年 10 月 31 日【放射線治療分科会】標準計測法 12

2012 年 11 月 06 日【学術・総会】第 48 回日本赤十字社医学会総会に参加して

2012 年 11 月 19 日【学術・総会】「医学会総会に参加して」

2013 年 03 月 07 日【掲示板】授乳中患者さんの造影検査について

（3） 分科会報告

【CT 分科会】

①ＨＰに、“逐次近似法を使いこなそう”を掲載

②24 年度学術総会にて、分科会活動での発表

③ジェネリック造影剤の使用状況の調査を行っている

④ワークステーションに関する企画を検討した

⑤CT 検査被ばく線量を評価するシステム（WAZAARI）を検討し、HP に掲載予定

【MRI 分科会】

拡散強調画像に関する研究を推進中

【医療情報分科会】

① 24 年度学術総会にて、分科会活動での発表

② 医療用画像モニターの観察実験による評価を推進中

【乳房画像分科会】

① マンモグラフィー認定施設の掲載更新

② 各施設の業務状況のアンケートを検討中

【核医学分科会】

具体的な活動はできませんでした

【放射線治療分科会】

“標準測定法 01 と標準測定法 12 の違い“の HP への掲載

6. 災害医療支援部活動報告

東日本大震災被災地への医療機器貸出支援を災害期間終了の平成 25 年 3 月末まで継続しました。また、国内外の災害医療及び放射線被ばく医療などの災害医療支援への啓蒙活動を実施しました。詳細は以下の通りです。

（1） 契約条件である『災害期間』の 3 月末終了に伴い、貸出支援を収束中

①超音波装置は、3 月上旬貸出先の医療機関が買い上げました。

②ポータブル型 X 線装置＋FCR システムと画像表示装置の 1 セットについては、これら装置を 4 月以降も使用しながら、貸出先の仮設診療所が買い上げを検討中です。

（2） 平成 24 年学術総会において、分科会報告を実施

医療機器貸出支援活動、放射線被ばく医療支援活動および災害医療アンケート報告を分科会活動として、駒井・森・坂井委員が報告しました。

（3） 委員による災害医療支援に係る講演活動

①『3.11　日本の危機に私たちができたこと』神戸赤十字病院　中田正明

平成 24 年 7 月 7 日（土）会場：江南厚生病院 講堂　愛知県厚生連放射線技師会

②『緊急被ばく医療　患者受け入れの実際』唐津赤十字病院　坂井征一郎

平成 24 年 8 月 25 日（土）会場：安曇野赤十字病院　　中部ブロック研修会

③『3.11　日本の危機に私たちができたこと～DMAT における診療放射線技師の役割』

神戸赤十字病院　中田正明

平成 24 年 10 月 20 日（土）会場：仙台市産業・情報プラザ　東北ブロック研修会

④『災害医療における放射線技師の役割』名古屋第二赤十字病院　駒井一洋

平成 25 年 1 月 26 日(土)　会場：名古屋大学保健学科　日本放射線技術学会中部部会

7.　文書管理活動報告

（1）　緊急放射線被ばく対応マニュアルを作成中

上記マニュアルを作成しておりますが、3 月末現在まだ完成しておりません。

（2）　その他 HP 掲載した記事無し

8.　広報部活動報告

（1）　日本赤十字放射線技師会　2011 年度電子会誌の発行

2012 年 5 月 1 日にホームページへ掲載した。

（2）　赤十字社リポジトリへ電子会誌の登録

2012 年 8 月に電子会誌 1 号～3 号を赤十字リポジトリへ登録・掲載した。

（3）　ホームページリニューアルに向け 2012 年 10 月より、「ホームページに関する意識調査アンケート」を、九州ブロックを先駆けとし実施した。その後全国赤十字病院へも実施し、2013 年 1 月をもって終了とした。回答率は 56.8％であった。

（4）　2012 年度日本赤十字放射線技師会電子会誌を 2013 年 5 月 1 日付で掲載予定。現在編集中である。

9.　IT 推進部活動報告

（1）　ホームページ変更

①　定款・規約のアップを行った。

②　各分科会のホームページへの掲載を行った。

③　トップ画面のファビコンの設置を行った。

④　カテゴリーの整理を行った。

⑤　全国日赤施設の更新作業を行った。

（2）　新ホームページ更新作業

①　新ホームページ更新のための概要作成を作成した。

②　概要に合わせた、予算の作成を行った。

（3）　レンタルサーバ導入

①大容量データの理事間での共有化の構築を行った。

②新システムのための、試作ページを構築した。

10. 組織調査部活動報告

（1） 平成 24 年 4 月に全国赤十字技師長・課長宛に会員台帳の調査を実施し、総会までに今年度の新入会会員（予定者）・退会会員を調査し施設毎会員数の把握をおこなった。

（2） 平成 24 年日本赤十字放射線技師学術総会に於いて、総会のあり方に関するアンケートを行い、結果を HP に掲載した。

（3） 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。

（4） 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）の変更並びに管理を行った。

（5） 日本赤十字放射線技師会会員（Art　ML）の登録作業を行った

11. 表彰部活動報告

（1） 平成 24 年 11 月 6 日、HP 上で表彰推薦の依頼を掲載した。

（2） 平成 24 年 11 月 7 日、各ブロック理事に、各ブロックの対象者の方を報告し推薦の取りまとめをお願いした。また、同日、技師長・課長 ML で表彰該当者依頼文書を送信した。

（3） 平成 24 年度の全国理事会で、功労賞表彰者を決定した。

（4） 学術部と協議し奨励賞（個人・施設）を決定した。

（5） 平成 24 年度の全国理事会で、バナー広告 29 社 60 周年記念事業として、感謝状を贈呈することを決定した。

12.　ブロック活動報告

【北海道ブロック】

（1） 会議及び研修会総会

① 平 24 年度全道赤十字施設放射線技師長・課長・職務代行者会議

平成 24 年 5 月 12 日　北海道支部看護大学サテライト室

② 第 22 回全道赤十字放射線技師会研修会及び総会

平成 21 年 4 年 9 月 29～30 日北海道支部会議室

総会にて一部規約改正を行った。

また、会議室を 2 つのセクションに分けて討論を行った。

【東北ブロック】

（1） 東北ブロック研修会の実施

東北ブロック会員の資質向上のため、平成 24 年 10 月 20 日、仙台市産業プラザにてブロック研修会を開催した。研修内容は以下の通りである。

① 教育講演 1

「　3.11 日本の危機に私達ができた事～DMAT における診療放射線技師の役割～　」

② 会長講演

「　もっとクロスしませんか　日本赤十字放射線技師会　」

③ 教育講演 2

「　FPD 装置の現状と将来　」

【東部ブロック】

日本赤十字放射線技師会　第 25 回　東部ブロック研修会

期日：平成 24 年 11 月 23 日（金）・24 日（土）

当番病院：深谷赤十字病院

会場：キングアンバサダーホテル熊谷

参加者：17 施設　70 名

特別講演「国際女医会長の旅した世界と国連総会の経験」では埼玉医科大学名誉教授・国際女医会前会長の平敷先生の講演で、百ヵ国以上を旅し、任務をこなしてこられたバイタリティには感服した。また、講演開始、終了後の挨拶一つとっても聴く者に対する礼儀・配慮が素晴らしく人間的にも非常に尊敬できる先生の講演であった。また、研修会二日目の「荻野吟子　波乱の生涯」妻沼郷土史研究会理事　鈴木先生の講演とも関連があり、企画にも配慮が見られた。

パネルディスカッションⅠ（業務改善）

パネルディスカッションⅡ（放射線被ばくに関する取り組み）

テクニカルディスカッション（ワークステーションの活用法）

が行われ、いずれかのディスカッションにすべての東部ブロック施設が参加して行われた。

参加型研修会としてとても参加施設の親睦もはかれ画期的な企画である。

一般演題は 5 演題であった

【中部ブロック】

（1）　技師長・課長会議の開催

平成 24 年 8 月 25 日（土）午前 10 時より中部ブロック技師長・課長会議を開催しました。中部ブロック 19 病院のうち、13 病院からの出席をいただき、今後の中部ブロックの活動について話し合いました。また、平成 25 年度のブロック理事の決定も行いました。

（2）　平成 24 年度中部ブロック業務研修会を開催

平成 24 年 8 月 25 日（土）13 時から安曇野赤十字病院（長野県）で第三回目となる中部ブロック業務研修会を開催しました。

当日の業務研修会は冒頭に清水文孝会長の講演があり、最初から大変盛り上がりました。また、緊急被ばく医療のテーマでは、唐津赤十字病院の坂井征一郎様が遠い所から講演に来ていただき、中部ブロックの会員は大変驚いていました。今回は中部ブロックから 13 施設 32 名の参加がありました。

年々参加施設も参加者も増加しておりますので、業務研修会も軌道に乗りつつあると思われます。

【近畿ブロック】

（1）　ブロック研修会の実施

2 月 23・24 日、大津赤十字病院にてブロック研修会を開催した。研修内容は以下の通りである。

①　特別講演 1『食のバランス』ｳﾞｫｰﾘｽ記念病院 事務長　澤谷久枝先生

②　特別講演 2『心のバランス』大津赤十字病院 心理判定員 瀬崎千津江先生

③　特別講演 3『ワークライフバランス』大津赤十字病院 放射線科部 沢尾誠先生

④　会長講演『もっとクロス！一歩前進』日本赤十字放射線技師会会長 清水文孝先生
⑤　教育講演『トモセラピーについて』大津赤十字病院 放射線部長 芥田敬三先生
⑥　会員研究発表 10 演題

（2）　近畿ブロック施設代表者会議の実施
近畿ブロック理事会及び施設代表者会議を以下の通り開催した。
①　第 1 回 平成 24 年 11 月 24 日(土) 京都第二赤十字病院　C 錬 6 階ホール
②　第 2 回 平成 25 年 2 月 24 日(日) 大津赤十字病院　会議室

【中国・四国ブロック】
（1）　中四国ブロック研修会の実施
中四国ブロック会員の資質向上のため、3 月 16 日、岡山赤十字病院　研修センターにてブロック研修会を開催した。研修内容は以下の通りである。
①福島第一原発災害医療に携わって
　　　　　　　津山中央病院　山本　一雄
②福島の現状と除染への取り組み
　　　　　　　千代田テクノル　山崎　和也
③サーベイメーターの扱い方（実習）
　汚染の測定手順　　千代田テクノル　山崎　和也
　松山赤十字病院　高本　研二

【九州ブロック】
（1）　九州ブロック研修会の実施
九州ブロック会員の資質向上のため、9 月 15 日（土）16（日）、日本赤十字社九州ブロック研修センター　『アソシエート』にてブロック研修会を開催した。10 施設から 48 名の参加で、以下のプログラムの内容で研鑽しました。
開会挨拶　担当施設　熊本健康管理センター　長野　勝廣
会長挨拶　清水　文孝　会長
①　特別講演 1「聴くことの力、話すことの力」京都大学非常勤講師　佐藤泰子先生
②　特別講演 2「パーソナルカラーについて」カラーコーデイネータ三村　弘美先生
③　会員研究発表
「冠動脈 CT におけるコアベータの使用経験」唐津赤十字病院　　立川　圭彦
「64 列 CT による大動脈弁口面積測定の検討」大分赤十字病院　　中島　浩二
「PET-CT 検診の現況と成績」 熊本健康管理センター　　中島　佳子
「PET-CT 検診が有効だった症例」熊本健康管理センター　　荒木　洋明
④　施設紹介　熊本赤十字病院　総合救命救急センター・こども医療センター
　　　　　　熊本赤十字病院　　山室　勇太
⑤　教育講演　「医療安全と機器管理について」
　　　　　　GE ヘルスケアジャパン　佐藤　哲也　先生
総評　　久保田　利夫　副会長

【第二号議案】　平成 24 年度決算報告

平成25年3月31日現在　金額(円)

収　入　の　部				
科目	24年度予算額	24年度決算額	増減	備考
会費	3,960,000	4,083,000	123,000	3,000×1,361名
入会金	30,000	88,000	58,000	1,000×88名
HP広告収入	1,400,000	1,580,000	180,000	広告協賛32社
学術研修会費	880,000	952,000	72,000	8,000×119名
セミナー収入	0	700,000	700,000	3社
雑収入	2,000	872	△1,128	預金利息
前年度繰越金	4,339,712	4,339,712	0	
合計	10,611,712	11,743,584	1,131,872	

支　出　の　部				
科目	24年度予算額	24年度決算額	増減	備考
総会費	100,000	86,400	△13,600	総会運営費
会議費	2,000,000	1,766,880	△233,120	全国理事会、常任理事会費
役員活動費	112,000	108,500	△3,500	3,500×31名
ブロック活動費	1,050,000	898,955	△151,045	7ブロック
表彰費	250,000	172,618	△77,382	賞状副賞・活動費
学術部費	300,000	82,420	△217,580	活動費
財務部費	50,000	43,645	△6,355	活動費
組織調査部費	15,000	5,060	△9,940	活動費
広報部費	200,000	42,330	△157,670	活動費
IT推進部費	250,000	19,111	△230,889	活動費
災害医療支援部費	200,000	160,683	△39,317	活動費
事務局費	300,000	123,164	△176,836	活動費・慶弔費
学術研修会費	880,000	1,000,310	120,310	会場費５７０,０００は２３年度決算済み
サーバ管理費	252,000	252,000	0	セキュリティ管理費
HP管理運営費	400,000	225,750	△174,250	定期刊行物更新、バナー追加費
基金積立費	100,000	100,000	0	積立て基金へ繰り出し
予備費	4,152,712	0	△4,152,712	
合計	10,611,712	5,087,826	△5,523,886	

（収入11,743,584－支出5,087,826＝6,655,758残金）　残金　6,655,758 円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会　会長　清水　文孝（印）
財務部　前川　栄寿（印）

平成２４年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

平成２５年３月３１日現在

科目	金額	備考
前年度繰越金	250,086	
定期預金利息	63	平成24年度分
２４年度積立金	100,000	一般会計より繰り入れ
合計	350,149	

上記の通り報告いたします　日本赤十字放射線技師会　会長　清水　文孝（印）

【第三号議案】　平成 24 年度監査報告

監査報告

日本赤十字放射線技師会会則第２５条に基づき、平成２５年４月１９日会長、副会長、財務担当等役員立会いの下、平成２４年度の監査を実施しました。

１、　総括

役員幹部・理事各位に於いては年４回の理事会以外にも理事会メールにて多種多彩な事案をやり取りし、その回数は９００通を超え、本会の活動・運営に多大な寄与をしていただけたことに、会員と会の運営を見守る監事として感謝申し上げます。

さらに日本赤十字放射線技師会が、平成２４年３月３０日付けで「日本赤十字社医療職員によって構成される団体及び学会等の登録」に承認されました。本会の活動・運営が本社医療事業部に認められたことは、ひとえに執行部の努力と特に事務局の浅妻理事が多忙の中、迅速に必要書類を作成・提出していただいたことによるものであり、また、日本赤十字社医学図書館ホームページ内のインターネット上から利用できる新規機能（赤十字リポジトリ）へ本会の会誌を掲載登録するにあたり、過去の会誌も含め校正等、ご尽力いただいた広報部の荒井理事にも重ねてお礼申し上げます。

悲しい出来事は、放射線医学及び日本赤十字放射線技師会、特に CT 分科会の基礎を立ち上げていただくなど、多大なる功績を残された長野赤十字病院の八町淳さんが不慮の事故により、他界なされました。謹んでお悔やみ申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。

２、　事業

本会の事業は、日常の職務を全うしながらも執行部の努力にて平成２４年度の事業計画に基づき、遂行されたものと考えます。総括で記載した事柄にとどまらず、ホームページの更新については、HP 担当の竹安理事を中心に執行部一丸となって「閲覧頻度」「活用頻度」「使い勝手の向上」を目指し、協議検討を行っていることは、「ホームページに関する意識調査」の結果からみても会員の期待に応える事業として、邁進していただきたく思います。

経済状況の厳しさは医療情勢にも影響が出ており、バナー広告協賛を辞退されたメーカーがあったことは残念でありますが、新たに賛同されたメーカーもあったことから、ホームページの更新により、会員が望むコンテンツの提供をさらに強化し、各メーカーの賛同を得られることと協賛勧誘は執行部役員のみならず、技師長・課長からも情報をいただきたく、この場を借りてご協力をお願いいたします。

次年度は、新規理事も選任されることから課題解決のアプローチも増え、更なる活動の展開を望みます。

３、　会計

会長、副会長、財務担当等関係役員立会いの下、金銭出納簿、各種請求書及び領収書、預金通帳等を照らし合わせた結果、出納簿等関係書類が適正に処理されている事を確認いたしました。

平成２５年４月２３日

日本赤十字放射線技師会　監事　山縣徳治　印

日本赤十字放射線技師会　監事　中里明　印

【第四号議案】　平成 25 年度事業計画案

1. 総括

政局が替わり、どのような発展をするか不明な状況であるが、経済的には一抹の光が照らしているように見える。復旧も復興も一段と加速し、被災者へ手当が順当に進むことを期待したい。そして、本会においては、会員諸氏のご意見を糧に、平成 25 年度の計画を進めていくことを会員諸氏にお約束したい。

本会は、これまでどおり開催する学術総会、ブロック研修会、分科会活動を本幹として見据え、運営を担って行くこととする。また、ホームページにおいては、会員諸氏に還元できるよう、利便性の高いものに改訂してくことが必要不可欠である。そこで、本年度は、昨年度まで議論してきたホームページの改訂に着手し、多くの会員にアクセスいただけるようなホームページとしていきたい。更に、93 施設のスケールメリットをどのように生かしていくかを検討課題として、技師長・課長メーリングリスト、会員メーリングリストを有用に活用し、会員相互の情報網の構築を実施して行く。

本会の会員数は、飛躍的な伸びを示している中、会の運営も会員諸氏の要望に即した対応をしていかなければならず、情報網を駆使し、情報の共有、情報の配信を心掛けていくことをお約束したい。

本会の活動は、我々を支援していただいている本社医療事業部、物心両面にて支援していただいている各メーカー、それらを裏切らないひとつの手段であると考える。更に、役員が活発に動き、考え、会員諸氏にフィードバックできる活動、そして会員が事業に積極的に参加できる環境を整え横の繋がりを強くする、そんな会の運営を目指すことを役員一同にてお約束し、平成 25 年度の事業計画案の総括とする。

2. 総務部活動計画案

（１）　平成 25 年日本放射線技師学術総会および第 60 回定期総会の開催

平成 25 年日本放射線技師学術総会を平成 25 年 6 月 6 日（木）、6 月 7 日（金）に、第 60 回定期総会を平成 25 年 6 月 6 日（木）に東京国際フォーラム D-5 で開催予定である。

（２）　平成 25 年度の日本赤十字放射線技師常任理事会および全国理事会

平成 25 年度の日本赤十字放射線技師常任理事会 3 回および全国理事会 1 回を開催し、検案事項、提案事項について審議し、それらの内容について議事録を作成する。

第 1 回常任理事会　平成 25 年　7 月 5 日（金）／日本赤十字本社　203 小会議室
第 2 回常任理事会　平成 25 年 10 月中旬開催予定　／会場未定
第 3 回常任理事会　平成 26 年　2 月中旬開催予定　／会場未定
平成 25 年度全国理事会　平成 26 年　4 月中旬開催予定　／会場未定

（３）　医療安全対策部会の活動報告

日本赤十字本社にて開催される、医療安全対策部会の活動を、HP を通じて継続的に報告していく。

3. 学術部活動計画案

（1） 日本赤十字放射線技師学術総会の開催

平成 25 年 6 月 6・7 日の 2 日間東京国際フォーラム において開催予定。内容は、教育講演、日本赤十字放射線技師会 60 周年記念講演、分科会シンポジウム、分科会講演、会員研究発表等を行う予定。

（2） 分科会活動

会員の皆様にホームページ上で有用な情報提供を行うことを主たる活動とする。また、学術総会においてシンポジウム等を行う。

【CT 分科会】CT 装置の特徴や新しい検査技術を取り上げその内容について紹介、解説を HP 上でまとめて掲載しようと言うことを現在委員間で検討中です。

河本　勲則（京都第二)、加賀　久喜（大阪)、細川　博明（松山)、大竹　覚（成田）

【MRI 分科会】拡散強調画像に関する研究を HP に掲載する予定

宇田　暢樹（小川)、佐藤　統幸（那須)、浅見　肇（深谷）

【乳房画像分科会】各施設の業務状況のアンケートを検討

尾形　智幸（さいたま)、西関　剛（長浜)、梶迫　絵美（京都第二)、出井　愛子（大森）

【医療情報分科会】 ①システムマップの改訂の検討

②医療用画像モニターの観察実験による評価の検討

西村　英明（福井)、加藤　秀之（松江)、西小野　昭人（熊本）

【核医学分科会】

星野　洋満（前橋)、長瀬　光臣（足利)、小池　克己（さいたま）

【放射線治療分科会】治療分科会としての会議・講習会をおこないたいと考えている。

小山　登美夫（長野)、上田　真吾（松山)、簾谷　和男（足利）

4. 災害医療支援部活動計画案

（1） 貸出支援の円満な収束

医療機器貸出終了にあたり、貸出先に大きな負担にならないよう尽力します。

（2） 災害医療支援啓蒙活動の継続

ブロック研修会等を通じて、啓蒙活動を継続します。

（3） 災害医療支援体制の基礎つくり

長期的展望に立って以下のことを継続的に行ないます。

① 放射線被ばくを含む災害時における診療放射線技師の活動のための教育プログラムを検討し、その研修会の開催を目指します。

② 災害時における放射線技術部門へ支援のあり方を検討し、その構築を目指します。

5. 文書管理活動計画案

（1） 前年度に引き続き緊急放射線被ばく対応マニュアルを作成し、その完成を目指します。

（2） 改正放射線障害防止法の施行に伴い、予防規程の見直しが必要となってまいりましたので、予防規程の試案作成を目指します。

6. 広報部活動計画案

（1） 平成 25 年度電子会誌の作成

（2） 平成 24 年度電子会誌の赤十字リポジトリ登録

（3） ホームページの見直し・更新

① 24 年度に実施したアンケート調査を基に､会員の意見を取り入れホームページのリニューアルを行っていきたい。

② ホームページ内容の充実

7. IT 推進部活動計画案

（1） ホームページ内容の充実

会員の情報共有のため、従来よりホームページの活用を推進してきたが、本年度は以下の事業を進めることにより、さらなる充実を図っていきたいと思います。

① ホームページ上での分科会活動を活性化させる。

② 広報と連携して、レスポンスの良いホームページへの掲載。

③ できる範囲の画面構成の変更。

（2） ホームページ　リニューアルを推進。

① ホームページアンケート（広報が行ったもの）を盛り込んだホームページの作成。

② SNS の導入を含んだホームページの検討を行う。

③ 動的（イベント参加の申し込みなど）な画面構成の検討を行う。

8. 組織調査部活動計画案

（1） 平成 25 年度も同様に会員台帳の調査を行い、新入会会員・退会会員の施設毎会員数現状把握を行います。

（2） 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）の管理を行います。

（3） 日本赤十字放射線技師会会員メーリングリストの登録促進とその管理を行います。

以上、会員の皆様のご協力お願いします。

（4） より良い学術総会を目指し、総会に関するアンケート調査を行います。

9. 表彰部活動計画案

（1） 日本赤十字放射線技師会表彰規定に則り本会に功績のあった会員・施設の表彰を各ブロック理事・学術担当理事と連携を取りながら行います。

会員皆様の情報が重要ですので、ご協力お願いします。

10. ブロック活動計画案

【北海道ブロック】

（1） 会議及び研修会総会

① 平成 25 年度全道赤十字施設放射線技師長・課長・職務代行者会議
平成 25 年 5 月 11 日　北海道支部看護大学サテライト室予定

② 第 23 回全道赤十字放射線技師会研修会及び総会
気管支模型の制作、肝臓の区域研修予定

【東北ブロック】

（1） 東北ブロック研修会の継続的な実施

平成 24 年度に東北発のブロック研修会を実施することができたため、会員の更なる資質向上と各病院の交流を深めるため、本年度からも引き続き東北ブロック研修会を開催していきたい。

① ブロック研修会の大まかな運用方針については、研修会開催時に各施設の代表者が集まり会議を行い、決定する。

② 次回開催場所と担当施設においても、上記の会議にて決定する。

（2） 東北ブロック理事・委員等担当施設の決定

現在、東北ブロックにおいて理事・委員の選出決定方法は定まっておらず、ブロック規約なども存在していないため、次回研修会開催時の代表者会議において決定したい。

【東部ブロック】

第 26 回東部ブロック研修会を平成 25 年 11 月 23 日～24 日　中野サンプラザにて開催予定。
（当番病院　武蔵野赤十字病院）

【中部ブロック】

（1） 第 4 回中部ブロック業務研修会　開催予定

平成 25 年度より、一泊研修会を企画しております。

平成 25 年 9 月 7 日（土）～8 日（日）に伊勢赤十字病院が主幹になりまして、第 4 回中部ブロック業務研修会を開催予定です。今回のテーマは「中部ブロックの仲間を知ろう」「診療放射線技師による読影」「救急医療」「地域医療」としています。

【近畿ブロック】

（2） 第 22 回近畿ブロック研修会を開催する。

平成 26 年 2 月に京都第二赤十字病院にて開催予定である。

（3） 近畿ブロック施設代表者会議を開催する。

各施設間で情報交換及び情報共有し、業務内容の資質向上を図る事を目的として年 2 回開催予定である。

【中国・四国ブロック】

（1） ブロック研修会の充実

本年度はブロック研修会を継続し、さらなる充実を図っていきたい。

① 中四国ブロック各施設間の情報を共有する。

② 中四国ブロックでの技師長、課長会議等の計画。

【九州ブロック】

（1） 平成 25 年度九州ブロック活動（案）

開催時期 9 月末明

開催場所 日本赤十字社九州ブロック研修センター『アソシエート』

担当施設 今津赤十字病院・嘉麻赤十字病院・鹿児島赤十字病院 合同で開催予定

【第五号議案】平成 25 年度予算（案）

金額（円）

	収入の部			
科目	24年度予算額	25年度予算案	増減	備考
会費	3,960,000	4,110,000	150,000	3,000×1,370名
入会金	30,000	70,000	40,000	1,000×70名
HP広告収入	1,400,000	1,500,000	100,000	バナー広告掲載料
学術研修会費	880,000	880,000	0	8,000×110名
セミナー収入	0	600,000	600,000	2社
雑収入	2,000	2,000	0	
前年度繰越金	4,339,712	6,655,758	2,316,046	
合計	10,611,712	13,817,758	3,206,046	

	支出の部			
科目	24年度予算額	25年度予算案	増減	備考
総会費	100,000	100,000	0	総会運営費
会議費	2,000,000	2,000,000	0	全国理事会,常任理事会
役員活動費	112,000	112,000	0	3,500×32名
ブロック活動費	1,050,000	1,050,000	0	150,000×7ブロック
表彰費	250,000	370,000	120,000	賞状副賞・活動費
学術部費	300,000	300,000	0	活動費
財務部費	50,000	50,000	0	活動費
組織調査部費	15,000	10,000	△5,000	活動費
広報部費	200,000	200,000	0	活動費
IT 推進部費	250,000	250,000	0	活動費
災害医療支援部費	200,000	200,000	0	活動費
事務局費	300,000	300,000	0	活動費・慶弔費
学術研修会費	880,000	880,000	0	
サーバー管理費	252,000	252,000	0	セキュリティ管理費
HP管理運営費	400,000	400,000	0	定期刊行物更新、バナー追加
基金積立費	100,000	100,000	0	
予備費	4,152,712	7,243,758	3,091,046	
合計	10,611,712	13,817,758	3,206,046	

以上、日本赤十字放射線技師会 平成25年度予算（案）を報告します

日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝（印）

財務部 前川 栄寿（印）

【第六号議案】そ　の　他

(ア)本会名称変更について

現在、本会の名称は、「日本赤十字放射線技師会」と称しております。今回、この名称を「日本赤十字社 診療放射線技師会」と改定いたしたいと考えます。

その理由として、診療の冠は、我々診療放射線技師の正式の名称であり、法律もこの名称にて立法されております。また、現状の業務の中、各種の機器を扱うことが我々の業務のような感覚になってしまっているようにも見受けられ、診療を忘れてしまっているようにも思えて仕方がありません。「診療」とは、医療に携わることであり、「診療」とは。チーム医療の一員となることであり、「診療」とは、医療安全の推進に寄与すること、と考えます。「診療」の二文字の意味、重みを自覚し、職制の発展につなげていきたいと思います。

また、災害医療や被ばく医療においても、診療放射線技師であり日本赤十字社の社員として、必要不可欠な業務と捉えており、本会の発展に寄与するものと考えております。

(イ)表彰規定変更報告

【第七号議案】　平成 25・26 年度役員改選について

日本赤十字放射線技師会
選挙管理委員会

日本赤十字放射線技師会平成２５・２６年度役員選挙　審査報告書

開催日時　：　平成２５年４月７日（日）　13時20分～14時00分
開催場所　：　神戸赤十字病院　第一研修室
出席者　：　選挙管理委員　松井久男（長浜）、佐々考章（岐阜）、佐々木昌俊（浜松）
奥出隆夫（長浜）、平川益三（京都第一）
事務局　浅妻厚（神戸）
報告日　：　平成２５年４月１９日（木）
報告者　：　選挙管理委員長　松井久男

審査内容　：
１）立候補者届けの確認
立候補者は下記の６名であった。

記

会長	清水文孝	（深谷赤十字病院）	立候補
副会長	久保田利夫	（前橋赤十字病院）	立候補
	石田智広	（福井赤十字病院）	立候補
	戸口豊宏	（大分赤十字病院）	推薦候補 推薦人　清水文孝（深谷）
監事	山縣徳治	（水戸赤十字病院）	立候補
	牧内正夫	（諏訪赤十字病院）	推薦候補 推薦人　清水文孝（深谷）

推薦者届における候補者の同意を確認し、役員選挙規定第5章第12条の会費完納確認については、事務局にて行い問題なかった。

２）当選の確認
立候補届及び推薦者届が定数を超えなかった為、役員選挙規定第4章第11条により、上記の立候補者を当選とする。

以上

名誉会員　創立 60 周年記念寄稿

60 年誌発刊をお祝いして

名誉会員　板橋　保

　このたび、創立 60 周年を迎えられて記念誌を発刊されますことを心よりお慶び申し上げます。当時 150 名にも満たない有志が設立した技師会も先輩達の並々ならぬ努力によって、現在では 1300 名を越える技師会に成長し発展していることは、このうえない喜びであります。会員の皆さんが放射線技師職の確立と技師会発展の為に努力してきた成果だと思います。これからは組織発展のために「技師会は何をしてくれるか」ではなく「あなたは技師会のために何ができるか」を考え行動して下さい。申し上げるまでもなく。近代医療は国民の高齢化が急速に進むなかで限りなく高度化し大きな変革が求められています。特に患者中心の医療が要求され質の高い医療技術の提供が求められています。また医療の高度化、細分化が進む程各職種間のチーム医療が重要になってまいります。皆さんは新しい時代の医療人として今後飛躍するために、更に認識を深め社会から信頼される診療放射線技師として、国民医療の向上と発展に貢献できるよう頑張って下さい。赤十字放射線技師会はチーム医療推進のため、職制委員会を作り組織改革に取り組んできましたが、いまだに実現していない事を残念に思います。全国の病院で「放射科部」と云う組織は赤十字だけです、日本赤十字社の考えだけで現状を続けるのではなく、組織の在り方を検討すべきだと思います。私は今年喜寿を迎えることができました、しかし 3 月 11 日東日本大震災では未曾有の被害をもたらし、福島原発事故では放射能汚染のため多くの人たちがいまだに郷里に帰ることのできない現状を思うと胸の痛む毎日です。また地球温暖化が豪雨災害や大型台風の原因ではないかとも云われています。私達は未来の子供達のために、いま何ができるか真剣に考えなければなりません。私の座右の銘「温故知新」古きを訪ね新しきを知る、この言葉を今一度深く噛み締め更に新しい歴史を作るよう頑張ってください。

　最後に本会のますますの発展を期待しお祝いの言葉といたします。

60 周年の刊行に寄せて

名誉会員　横山幸夫

創立以来変遷する時代を克服し、ここに 60 周年を迎え、記念誌が刊行されますことをお慶び申し上げます。

創立当時(昭和 28 年)120 余名の会員数が今では 1300 余名とのこと感無量です。

これもひとえに会長はじめ会員皆様方の努力の賜物と思います。

　私は、常々診療放射線技師は、真面目な職業人の団体と思います。時代と共に、仕事内容も変化発展し、想像の付かない分野を勉強し、研究し短時間の間に身に付け、寝食を惜しんで没頭した。

医療分野の発展に追い付け、追い越せと、日々生活をした職種だと自負しています。

激動期・軌道期・形成期・壮年期とも表現されますが、私は、形成期・壮年期はこれからと思っています。

　医療技術の進展に伴い、放射線業務も、細分化し、煩雑化し、高度化し、教育なくしてはと、卒後再教育し、臨床実習し、教育システムも、専修学校・医療短大・4 年制大学、大学院も設置され発展してきました。

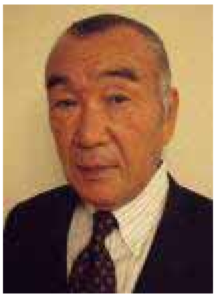
　日本赤十字社放射線技師会も 60 周年を迎え、年度特別講演も内容重厚な講演を年 2～3 例を 60 回、何よりも素晴らし会員研究発表の数と内容の重厚豊富さは、尊い成績と会発展に寄与した証と、会に籍を置いた者としての誇りと自負する次第です。これも現役の会員のご努力と感謝する次第です。

　今年も、新たな年を迎え反省するに・・・昨年は、漢字のグランプリは「輪」でした。

2020 年に東京オリンピック決定、富士山世界遺産登録等、日本中が輪になって湧いた年でした。他方政治経済の面では、成り行き不透明なアベノミクスの動向、貧富格差の増長、超高齢社会への突入、汚染水や廃棄物等原発事故処理の問題などが山積したまま新年を迎えることになりました。きっとこれからは、穏やかな年が来ることを念じる次第です。

最後に、日本赤十字社放射線技師会の益々の発展と活躍を祈念して、創立 60 周年のお祝いの挨拶とします。

60周年記念に寄せて



名誉会員　　星野保郎

日本赤十字社診療放射線技師会創立６０周年おめでとうございます。

私が足利赤十字病院に入職したのが丁度５０年前１９６３年でした。現在赤十字病院に勤務している放射線技師の７割くらいの方はまだ生まれていなかったでしょう、当時の赤十字本社は木造２階建て建設時期は覚えていませんが現在残っていれば国の重要文化財に指定されるような重厚な建物でした。１９６３年はアジアで初めてのオリンピックが開催されるため、数年前から東京に限らず日本中建築ラッシュで活気に溢れていました。東海道新幹線、東名高速道路、首都高速道路等、オリンピック開催に間に合うよう突貫工事で建設されていたことをよく覚えています。

私は入職と同時に赤十字社診療放射線技師会（当時はエックス線技師会）設立発起人である、上司の故瀬山吉久名誉会員に勧められ入会しましたが、当時の会員数は５００人に満たなかったと思います。年一回の研修会は会設立時から脈々と引き継がれ、現在も活発に開催されている事は発起人の方々の喜びであり会員の恩返しでもあると思います。

現在の若い会員には死語となっていると思いますが、タングステン酸の増感紙、タンク現像の時代に入職し何年か後に希土類感材、自動現像機の出現に目を見張って放射線技師も暗室作業が半分以下になったと喜んでいましたが、１９７５年イギリスのレコードメーカーがコンピュータトモグラフィーを開発したとの発表に、医学会全体が吃驚しました。当時としては超高額機器の為、総合病院とは言え地方の足利日赤には当分入らない高根の花と思ってみておりましたが、医師からの要望が強く数年後には足利日赤にも導入され診療に革命を起こしました。この頃からエックス線写真にもデジタル化が進み、ＣＲ画像の目覚ましい進歩、デジタル化が遅れていた透視部門にもフラットパネルの開発により一気にデジタル化が進んだもの思います。記憶媒体の開発はパソコンでも分かりますが、１０数年でメガバイトからギガ、テラバイトまで開発が進み医療関係も十分な恩恵を受けています。今では大病院から地方の診療所までモニター診断が主流となっていますが、モニターを前で画像を見ている放射線技師の姿を見ると、５０年前の放射線技師と現在の放射線技師では撮影のスイッチを押す以外は別の職種と思うほどに変化しています。日毎に進歩している医療機器に遅れることなく診療に貢献している若い技師を目の前にすると隔世の感が除けません。

院内勉強会、地域勉強会、赤十字放射線技師研修会、赤十字医学会、等研修の場は充分にあると思います。今後益々進歩するであろう医療界で切磋琢磨し、病院における診療放射線技師の存在を益々高めて頂きたいと思います。

６０周年記念号のお祝いの言葉とは成らず、老会員の思い出話になってしまいましたが、日本赤十字診療放射線技師会の益々の発展、及び会員諸氏の健勝を祈願しお祝いの言葉といたします。

60 周年記念寄稿

日本赤十字社医療センター
医療技術部放射線課　常勤嘱託
名誉会員　鈴木利男

　日本赤十字社診療放射線技師会、創立 60 周年おめでとうございます。
昭和２６年技師法が制定され、その２年後の昭和２８年には本赤十字技師会を発足させた先輩諸兄の熱意と決断には只々敬服する次第であります。
　また、会員数も１３００余名となり、日本を代表する職域団体と成長・発展できたことは、赤十字病院が国民に信頼されている証でもあります。その職場に従事する技師も、赤十字を愛し、放射線業務が好きで医療の向上に寄与しているという満足感を持っているからだと信じます。
　私は平成２４年３月に医療センターを定年退職して、現在再雇用制度により常勤嘱託として
勤務しています。診療放射線技師としての４０年間、常々心の糧としてきた他院勤務先輩技師（小林輝雄氏）の言葉を一部抜粋してご紹介したいと思います。
それは、『どのような職業でもその仕事に携わる人の適正というものがある。先ずその仕事が好きということでその仕事に興味をもつとか格好がいいとか、自分に合っているという理由などで自分自身で決めることができるが、次にその仕事を遂行する能力をもっているということは、社会環境や対象者の要望に応じて発展する職業に対応する能力を維持することで、これは研修などの生涯教育という自分自身に課せられる**掟**である。仕事の内容を他人が認めるということは、その仕事を行っている人の姿、つまり言葉や行動は**心**から発するという**心**が主体となる**人格**そのものが評価の対象となる。従ってより高い評価を受けるためには、自ら常にいつでも取り出せる応用できる能力を**心**に整理しておかなければならないし、仕事がより好きになり、仕事を愛せるようになれば自分に不足していることを学ばなければならない。その努力がまたよい評価につながるが、評価というものは、自分が求めて得られるものではなく、相手が受ける価値観によって決まるということも忘れてはならない。』という彼の言葉の一部抜粋です。
『心・人格・掟』などチョット古いよと言われそうですが、それが不思議と歳を重ねてくると「そうだよなぁ」と納得してしまいます。知人の言葉でしたが、皆様の**心**の片隅に置いていただけると幸いです。
　最後に、貴会の益々の発展を祈念して、創立６０周年のお祝いの言葉とします。

平成 25 年日本赤十字放射線技師学術総会開催報告

日本赤十字社診療放射線技師会
学術担当理事　安彦　茂

平成 25 年日本赤十字放射線技師学術総会が平成 25 年 6 月 6 日・7 日の 2 日間、東京国際フォーラム D5 で開催されました。今回は、北海道や沖縄などの全国の施設から 126 名の会員に出席して頂き、盛会のうちに終了いたしました。

本社講演を、日本赤十字社　事業局　医療事業部　医療課課長　猪狩　浩佳様にしていただきました。

医療情報分科会のシンポジウムが開催されました。また、臨床画像を実際にモニタの実機を使って展示していただきました。

教育講演は、「職場におけるコミュニケーションの重要性について」（株）プラネットファイブ　代表取締役　田中　和彦　先生に、楽しいグループワークを交えたお話をしていただきました。

ＣＴ分科会講演「ＣＴの被ばく低減を考える」を京都第二赤十字病院 河本 勲則 先生にしていただきました。

研究発表は 13 題あり、最優秀発表賞に、「透析サポートチームでの放射線技師の役割」　庄原赤十字病院　安井　哲士様が選ばれました。また、優秀発表賞は、深谷赤十字病院　成田 麻美様，伊勢赤十字病院　山中　敬之様，広島赤十字・原爆病院　湯門　慎治様の 3 名が選ばれました。

平成25年日本赤十字放射線技師学術総会プログラム

6月6日（木）

9:15～9:45　受付

9:45～9:55　連絡事項
開会式　開会の辞　日本赤十字放射線技師会会長　清水　文孝（深谷赤十字）

9:55～10:40　本社講演　座長　日本赤十字放射線技師会会長　清水　文孝
「平成 25 年度運営方針について」
日本赤十字社　事業局　医療事業部　医療課　課長　猪狩　浩佳　様

10:50～12:00　日本赤十字放射線技師会60周年記念式典　司会　牧内　正史（諏訪赤十字）
① 会式の辞
② 会長挨拶
③ 来賓挨拶
④ 来賓紹介
⑤ 表彰（震災関連施設表彰、感謝状）
⑥ 閉式の辞

12:15～13:00　ランチョンセミナー　①　座長　高津　安男（大阪赤十字）
「肝臓疾患の診断に有用な GE の製品技術のご紹介」
GE ヘルスケア・ジャパン
中村　健　先生　日比野　茂　先生　仲野　孝一　先生　柴草　高一　先生

13:20～13:50　CT 分科会講演　座長　加賀　久喜（大阪赤十字）
「CTの被ばく低減を考える」　京都第二赤十字病院　河本　勲則　先生

14:00～14:50　研究発表　I　座長　西小野　昭人（熊本赤十字）

1. ERCP施行時における放射線防護シートの有用性について
松山赤十字病院　福岡　知宏
2. 外来患者向け CT・MRI 説明書の見直し
那須赤十字病院　石崎　充
3. ワイヤレス FPD 搭載ポータブル装置を導入して
福井赤十字病院　二口　亮
4. 透析サポートチームでの放射線技師の役割
庄原赤十字病院　安井　哲士
5. 当院のCT業務におけるヒヤリハットの意識改善
深谷赤十字病院　成田　麻美

15:00～17:00　60周年記念講演、定期総会　　　　司会　山本　晃司(高知赤十字)

15:00～15:30

Ⅰ．60周年記念講演　　鈴木　利男名誉会員　　　　座長　日本赤十字放射線技師会会長　清水　文孝

15:30～17:00

Ⅱ.総会

① 開会の辞

② 会長挨拶

③ 表　彰(功労賞・奨励賞、バナーメーカー)

④ 総会議事運営報告

⑤ 議長選出

⑥ 議事録署名人選出、採決係り任命

⑦ 議事

第 1 号議案　平成 24 年度事業経過報告

第 2 号議案　平成 24 年度決算報告

第 3 号議案　平成 24 年度監査報告

第 4 号議案　平成 25 年度事業計画(案)

第 5 号議案　平成 25 年度予算(案)

第 6 号議案　その他

第 7 号議案　平成 25・26 年度役員改選について

⑧ 選挙管理委員長による選挙結果報告

⑨ 議長解任

⑩ 退任役員挨拶、新任役員挨拶及び紹介

⑪ 閉会の辞

17:30～19:30　情報交換会

6月7日(金)

9:00～ 9:40　研究発表 Ⅱ　　座長 加賀 久喜 (大阪赤十字)

6. FPD 搭載型血管造影装置コーンビーム CT の条件変化による画像特性
名古屋第一赤十字病院　平井 丈温
7. 連続回転収集 SPECT を用いた 123I-IMP 脳血流シンチにおける投与量減量の検討
伊勢赤十字病院　村田 達紀
8. X 線 CT を用いた大腿骨前捻角計測方法の標準化について
伊勢赤十字病院　山中 敬之
9. 80 列 CT 装置における頭部単純 CT 検査での低ｺﾝﾄﾗｽﾄ分解能の基礎的検討
神戸赤十字病院　齋藤 優子

9:50～10:30　研究発表 Ⅲ　　座長 尾形 智幸(さいたま赤十字)

10. 健診胃透視における画質改善
武蔵野赤十字病院　波田野 絢加
11. 線量計算アルゴリズム Acuros XB における不均質補正の線量計算精度についての検討
伊勢赤十字病院　大岩 和由
12. DT 法でのキャリブレーション誤差の検討
広島赤十字・原爆病院　湯門 慎治
13. ステレオガイド下マンモトーム生検におけるスケーラーの作成
日本赤十字社 和歌山医療センター　松村 瞳

10:40～12:00　医療情報分科会シンポジウム
「医用モニタ管理の現状と課題」
座長 西村 英明(福井赤十字)、西小野 昭人(熊本赤十字)

1. 医用モニタ管理の現状と課題ー導入から3年を経てー　加藤 秀之(松江赤十字)
2. 6 年間の経験から学んだモニタ管理の重要性　真野 晃浩(名古屋第二赤十字)
3. モニタの劣化と LED バックライトの有用性　橋本 憲幸(EIZO 株式会社)

12:15～13:00　ランチョンセミナー②　　座長 安彦 茂(仙台赤十字)
「乳癌検診 ーMR マンモグラフィを中心にー 」
バイエル薬品(株)ラジオロジー＆インターベンショナル事業部 水内 宣夫 先生

13:20～15:20　教育講演　　座長 戸口 豊宏(大分赤十字)
「職場におけるコミュニケーションの重要性について」
株式会社プラネットファイブ 代表取締役 田中 和彦 先生

15:20～15:30　最優秀発表・優秀発表、閉会式

2013.6.6　日本赤十字社診療放射線技師会学術総会　　CT 分科会講演

ＣＴの被曝低減

ＣＴ分科会世話人
京都第二赤十字病院　河本　勲則

Lancet の論文発表により日本医療におけるＸ線検査被曝、特にＣＴ検査における被曝線量が問題視されて以来、ＣＴ装置の被曝低減システムの開発は急加速した。
ＣＴ被曝低減の歩みは、各施設、個人の経験から条件を決定することから始まり、その後 CT-AEC（自動露出機能）が開発された。初期の AEC は、検者の体系や体厚を認識したもので、次に体系と部位（頭、腹、足）を認識する、近年、各スライス面で形状認識するもの（ＸＹ面）から、1 スライス(ローテーション)前のデータをもとに各スライス面とＺ軸方向の補正も行い管電流を決定、画像データ収集を行う方式が開発されて被曝も 30~40％まで軽減されるようになった。（図 1～図 4）
また画像構成 System から、逐次近似による画像再構成法の開発（hybrid 型逐次近似）によりさらに被曝が軽減されるようになり、最近では、逆投影（FBP）画像構成ではなく直接逐次近似画像構成法を用いることで画質の向上と更なる被曝の低減が可能となる。しかし、この逐次近似画像構成法はまだ開発段階でもあり、問題点もある（処理能力の高いコンピュータシステムが必要で普及にはまだ時間がかかると言われている）が、1,2 年後には主流となるであろう。

＊CT―AEC　System の開発

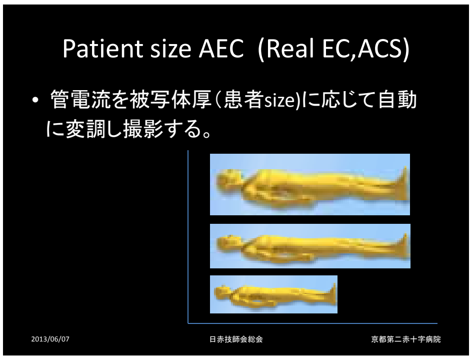


図 1

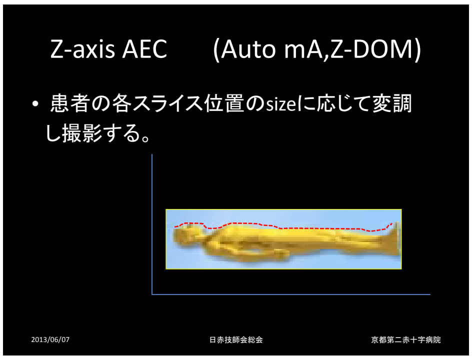


図 2

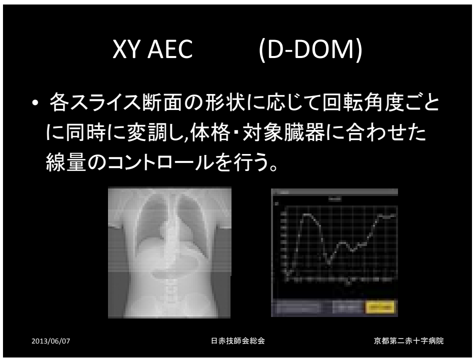


図 3

図 4

ＣＴ分科会実験報告

―テーブルの高さで何が変わるか―

平成 25 年度ＣＴ分科会世話人施設のＣＴ装置、京二：Aquilion 64CX（東芝）, 松山：Aquilion 64CXL（東芝）,大阪：750HD（GE)、成田：DefinitionＡ ＋（シーメンス）による CT-AEC システムの動作確認テスト結果報告。

＊ＣＴにおける自動露出制御(Auto Exposure Control 以下 CT-AEC)がテーブルの高さによりどのような動作特性を示すかを把握する。

1. 実験の方法

図 5,6 に示す方法にて CT-AEC の動作特性を収集する。

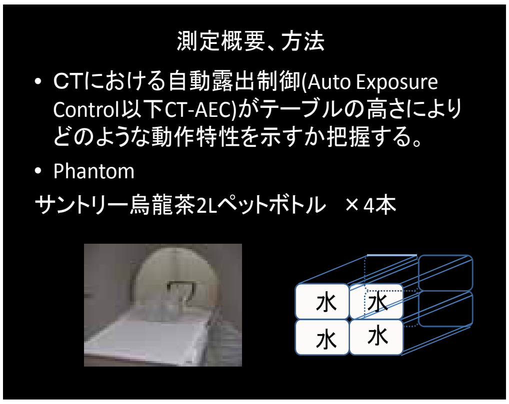


図 5

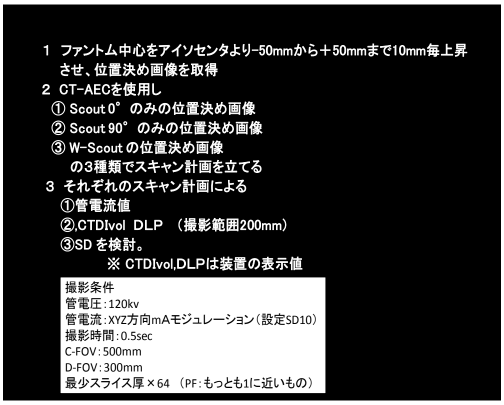


図 6

2. 測定結果

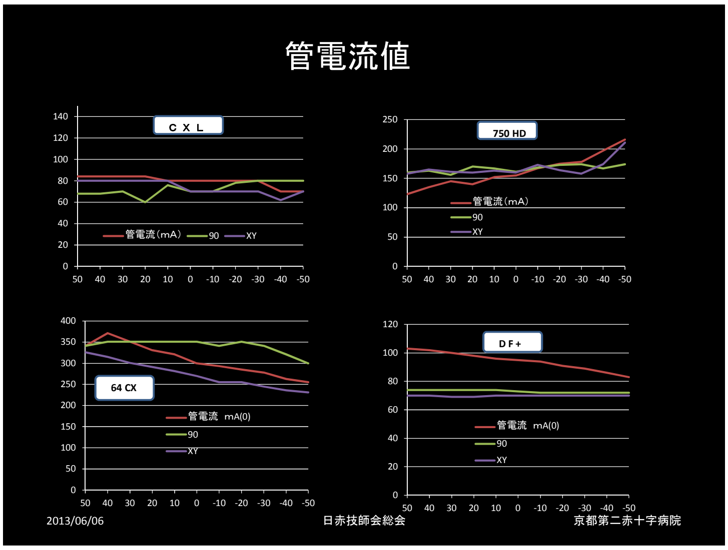


図 7

<管電流値>

Scout(0)：CXL,DF(+),CX はテーブルが高くなると高値、
750HD は低値となった。

Scout(90、W)：CXL,750HD,DF(+)は高さに関係なく一定値、
CX は高くなると高値を示す。

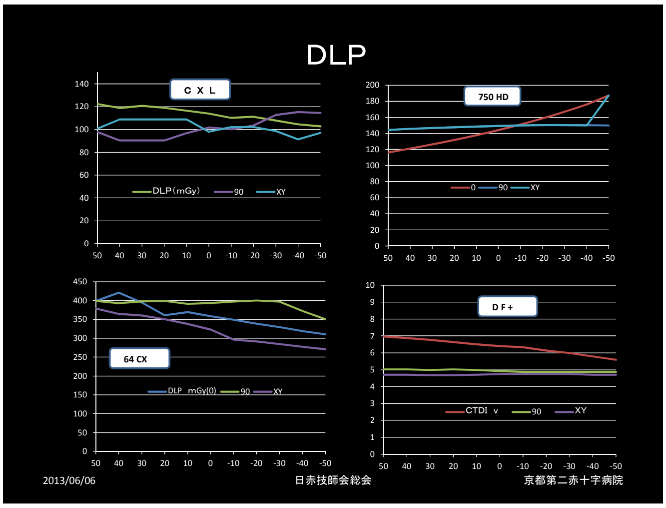


図 8

＜DLP 値＞

Scout(0)：各装置、テーブル中心から上下すると DLP は変動している。

Scout(90、W)：CXL，750HD，DF(+)はテーブル高さに関係なく一定値に制御されている。CX は、（90°）で一定値を示すが、（W）ではテーブル上下で変動があった。

＜SD 値の変化＞

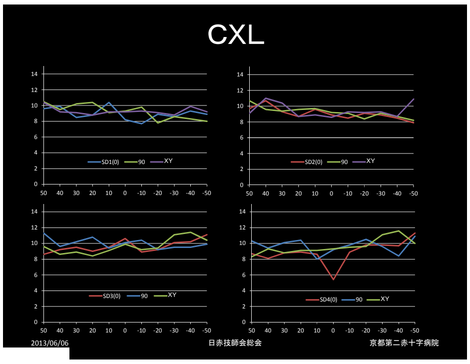


図 9

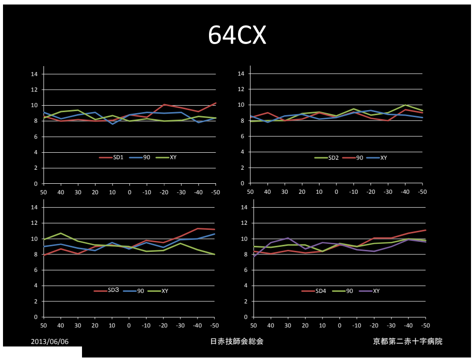


図 10

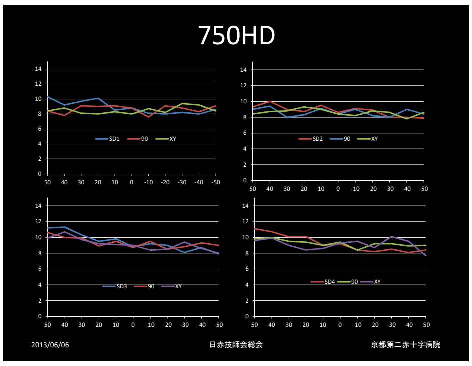


図 11

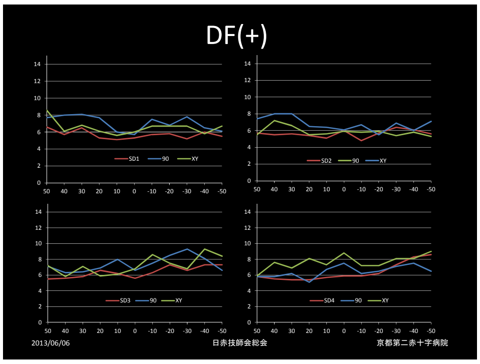


図 12

CXL:テーブル中心から上下すると FOV 中心付近は一定値であるが境界域では変動が見られる。

CX:テーブル中心より下方で変動が見られる。

750HD:中心より上方にて変動が見られる。

DF(+):テーブル下方、FOV の境界での変動が見られる。

3. 結果要約

テーブル中心から高く位置付けする

・DLP、管電流は中心より高値に設定された。

・SD は低値となり画質も向上するが FOV の境界では高くなる。

＊装置間で AEC の感度差が見られ,SD 測定値にも変化が見られる。

4. 結語

・被曝低減と被写体間の画質の均一化を図るために CT-AEC システムは有用である。

・装置の特徴や感度を理解し使用することで被曝軽減や画質も均一化する。

・検査時のポジショニングは、基本に忠実にセンターポジションで位置付し検査する。

（CT テーブル中心から下位での検査では、管電流が低く設定され被爆は軽減されるが SD が上昇画質も低下する傾向を示す）

・逐次近似再構成を用いることでさらに画質の向上、被曝の低減が可能である。

参考文献

村松禎久（2004）: CT 用自動露出機構（CT-AEC）の性能評価斑最終報告

日赤技師会ＣＴ分科会ＨＰ掲載資料（2013）: 東芝メディカル、GE Medical Systems、シーメンス旭メディテック

フィリップスエレクトロニクスジャパン

第 49 回日本赤十字社医学総会報告

第49回日本赤十字社医学会総会が10 月17・18 に和歌山で開催されました。
参加された会員の声をお届けします。

医学総会に参加して（第 49 回医学会総会報告）

日本赤十字社和歌山医療センター　　小林　弘幸

開会式

10 月 17 日（木）、18 日（金）和歌山市において第 49 回日本赤十字社医学会総会が開催されました。私は、2 日目の一般口演での発表のため参加させていただきました。

山中教授ビデオメッセージ

初日の特別講演では、京都大学 iPS 細胞研究所から川口義弥先生をお招きし「多能性幹細胞を用いた糖尿病治療開発の展望」を講演していただきました。講演では、ノーベル医学賞受賞で一躍時の人となった、山中伸弥先生からのビデオメッセージもあり、注目度の高い総会であったと感じられました。

放射線技術部門

私が参加させていただいた一般口演放射線技術部門では、当センターから撮影部門、CT 部門、治療部門から各 1 題ずつ、計 3 題の発表がありました。他施設の放射線技術部門の発表も聴きかせていただきました。どの発表も、これからの日常業務に活かせる、興味深いものばかりでした。

要望演題発表風景

発表終了後に他施設の演者の先生と、日常業務での気になる事など情報交換させていただき、とても充実した機会となりました。

このような機会を与えていただいた事に感謝し、今後の日常業務に活かしていきたいと思います。

ポスター会場

平成 25 年度　分科会活動報告

平成 25 年 11 月 23 日（土）日本赤十字社　会議室 202 号室にて日本赤十字社診療放射線技師会第 1 回分科会世話人会議を分科会世話人 15 名、常任理事 7 名の参加者にて開催した. 分科会の活動状況を把握し、分科会活動の活性化について討議した.

【CT】世話人：河本勲則（京二）、加賀久善（大阪）、細川博明（松山）、
大竹　覚（成田）

１．　施設紹介
神戸赤十字病院（HP 掲載）
２．平成 25 年総会にて：テーマ「CT の被曝低減」として検討を行った.
メーカ、装置における AEC システムの応答性能を比較検討
３．会員からの CT 装置、検査に対する質問等の回答やアドバイスを行った.
４．　CT の AEC システム動作について発表した.

【MRI】世話人：大澤哲平（八戸）、宇田暢樹（小川）、佐藤統幸（大田原）
浅見　肇（深谷）

設置状況および調査を合わせてアンケートを作成した.
1．全国の赤十字施設のMRI設置状況
２．現在話題となっている、「MRI対応ペースメーカ」に対する各施設の対応についての調査

【治療】世話人：小山登美夫（長野）、上田真吾（松山）、簾谷和男（足利）

１．放射線治療品質管理におけるアンケートを実施した、全国の赤十字病院の中から放射線治療施設のみ郵送でアンケートを送付したが、回収状況は極めて高く、90％を超える回答であった．アンケート結果は集計中であるが、最終的には今回のアンケート結果をふまえ、放射線治療品質管理体制の充実などを本社に要望したいと考えている.

【核医学】世話人：小池克己（さいたま）、坪井孝達（浜松）、星野洋満（前橋）
岸本義幸（神戸）

１．第 1 回核医学世話人会を神戸で開催し、活動計画を立案した.
各施設の装置状況を含め下記内容アンケートの作成中.
導入機器データベースの修正
機器ごとのワークフローを共有化
関係書類のフォーマットの共有化

【医療情報】世話人：加藤秀之（松江）、西村英明（福井）、西小野昭人（熊本）

１．平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会にて医療情報分科会シンポジウムを行った.
２．平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会での医療情報分科会シンポジウムの発表内容およびモニタ管理に関するアンケートの結果をホームページに掲載した.
３．盛岡赤十字病院から医用画像情報領域のアンケートへの協力依頼があり、Web アンケートの実施を中心に対応した.
４．システムマップの更新について検討を行った.

【乳房画像】世話人：尾形智幸（さいたま）、西関　剛（長浜）、梶迫絵美（京二）
出井愛子（大森）

１．機器の使用ユーザーコメントを HP に掲載する準備をした.
（技師会ホームページ刷新に備えるため）

平成 26 年度　分科会活動計画案

１．分科会活動の活性化を図るため、分科会組織の充実と強化を目的とする.
このことは、各施設より其々の分科会員を選出して頂くことにより、分科会から発信するあらゆる情報を各施設は共有できるものと考える.
２．技師会 HP を有効活用する.
３．第２回分科会世話人会議を開催する.

【CT】世話人：河本勲則（京二）、加賀久善（大阪）、細川博明（松山）、
大竹　覚（成田）

１．継続活動
各施設の CT 室紹介（装置、検査数、運用等掲載用ひな形で行う）
２．CT 装置や検査内容に関する新しい話題や TOPIX をメーカと共同で HP 掲載内容検討し資料を作成する（各メーカの逐次近似画像の特徴についてファントム実験を含め資料を集める）.
３．新機種（被曝低減、逐次近似再構成システム掲載）の稼働状況について調査（アンケート方式も視野に入れて）を行う.

【MRI】世話人：大澤哲平（八戸)、宇田暢樹（小川)、佐藤統幸（大田原）
揚出泰弘（秋田）

設置状況および調査を合わせてアンケートの実施を行う.
1. 全国の赤十字施設のMRI設置状況
２．現在話題となっている、「MRI対応ペースメーカ」に対する各施設の対応についての調査

【治療】世話人：小山登美夫（長野)、上田真吾（松山)、簾谷和男（足利）

1. 平成26年度全国日本赤十字社診療放射線技師会総会学術大会における分科会報告
2. 品質管理アンケート結果を日本赤十字社医学会総会にて報告
3. ホームページへのトピックスや資料の掲載
治療分科会の将来構想は会員の顔が見える会にすることである、年に1回程度治療分科会独自の会合・研修会の開催を目指す.

【核医学】世話人：小池克己（さいたま)、坪井孝達（浜松)、星野洋満（前橋）
岸本義幸（神戸）

1. 第2回の世話人会の開催.
2. 各施設の装置状況を含めアンケー実施および報告.
導入機器データベースの修正
機器ごとのワークフローを共有化
関係書類のフォーマットの共有化

【医療情報】世話人：加藤秀之（松江)、西村英明（福井)、西小野昭人（熊本）

１．リニューアルされるWebサイトを有効利用して医療情報分野の情報交換を活発にする。
２．医用画像情報の交換に関する運用について検討する.
外部保存を含めたPACSのリプレースについて検討する.
３．システムマップについて他の分科会とも協力して充実をはかる.

【乳房画像】世話人：尾形智幸（さいたま)、西関　剛（長浜)、梶迫絵美（京二）
出井愛子（大森）

１．本技師会HPを充分に活用し、機器の使用ユーザーコメントをHPに掲載する.
２．世話人会議を開催する.

平成 25 年度ブロック活動報告

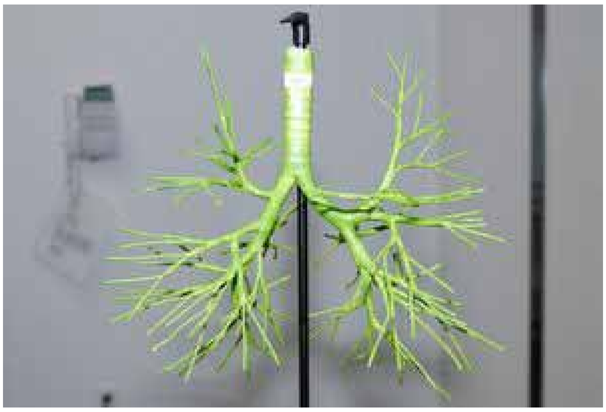
第 23 回北海道地区会総会並びに研修会報告

浦河赤十字病院
北海道ブロック理事　大沼　孝司

第 23 回北海道地区会総会並びに研修会が平成 25 年 9 月 28 日（土）〜29 日（日）にわたり、日本赤十字社北海道支部会議室にて開催されました。道内 10 施設から 22 名の参加がありました。

研修会の内容についてはすでにお知らせしておりますが、今年は 28 日「会員研究発表」、富士フィルムメディカルから最新情報を、赤十字社診療放射線技師会会長の清水会長をお招きしまして“時代をつなぐもっとクロス“という内容で特別講演をしていただきました。

29 日は気管支模型を作成し、情報交換会の次の日にもかかわらず、一生懸命に作成に取りかかっておりました。とても半日では作成出来ず持ち帰っていただきましたが、飛行機で来られた方は危険物と見なされそうなので、機内持ち込みはできないなと嘆きもありました。申し訳ありません。
来年も何か作成出来るものと思っておりますが・・・。



総会では事務局より 1 年間の事業・会計報告、今年度の計画発表などが承認されました。
来年度の計画の中で、道内の会員を全国研修会へ北海道ブロックより派遣することが承認されました。
ただし、26 年度より 5 年間の計画となります。未だ全国への研修会へ参加したことがない施設の会員より優先して派遣したいと思っております。また、北海道ブロックは今年役員改選の時期でしたが諸事情により 1 年間だけ延期させていただき、26 年度は今の体制で行くことを承認されました。何はともあれ無事終了いたしました。
皆さんお疲れさまでした、また来年もよろしく。

日本赤十字社診療放射線技師会　北海道地区会
第２３回総会並びに研修会　日程表

開催日時　：　平成２５年９月２８日（土）　１２：００～１８：００
　　　　　　　平成２５年９月２９日（日）　　９：００～１２：００
開催場所　：　日本赤十字社　北海道支部　会議室
　　　　　　　〒060-0001　札幌市中央区北１条西５丁目
　　　　　　　(Tel)011 - 231 - 7126

第１日目　平成 25 年 9 月 28 日（土曜日）

12:30　～　13:00　　受付・参加登録
13:00　～　14:40　　会員研究発表・メーカーより最新の話題
座長・・・・浦河赤十字病院　藤村　仁

会員研究発表

（１）冠動脈 CT 検査における短時間型β遮断剤の使用経験
北見赤十字病院　○樽見　悠也
相澤　幹也　高柴　裕司

（２）乳房 A 領域病変描出のポジショニングの検討
北見赤十字病院　垂水　昌子

（３）当院における人工関節全置換術後下肢静脈エコー検査の現況と有用性
伊達赤十字病院　穴澤　英樹

（４）逐次近似法を応用した画像再構成法に対する基礎的検討
釧路赤十字病院　○山田　佑介
小林　央　山岸　寿義

（５）当院におけるＡｉの現状と試み
旭川赤十字病院　川口　裕二

メーカーより　最新の装置について

「富士最新 FPD とトレンド IT システム製品のご紹介
～（マンモグラフィ、ＦＰＤ一体型回診車、モバイル端末ビューワー）～」

富士フイルムメディカル株式会社　ＭＳ販売促進部　東日本センター　金田　和幸
富士フイルムメディカル株式会社　北海道地区営業本部　札幌支店営業部　小山　清太郎

14:50　～　16:15　　**特別講演**
座長　・・・・・浦河赤十字病院　大沼　孝司
「時代をつなぐ＝もっとクロス＝」
日本赤十字社　診療放射線技師会会長
深谷赤十字病院　清水　文孝　先生

16:30　～　17:30　第 23 回総会
19:00　　　　懇親会

第２日目　平成 25 年 9 月 29 日（日曜日）

09:00　～　12:00　　**特別講演　実技**

座長　・・・・・浦河赤十字病院　三浦　康成

「気管支模型を作ろう！！」

講師　　市立小樽病院　　富田　伸生　先生

12:00　　　　解散

平成25年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会開催報告

福島赤十字病院　放射線科　今野　英麻呂

平成25年東北ブロック研修会は、平成25年9月28日（土）（13時30分　～　17時30分）に八戸赤十字院・日赤ホールにおいて31名のご参加をいただき、一般演題6題・教育講演・施設見学など内容の濃い研修会が盛会裏に開催されました。

【会場風景】

今回は6題の演題発表がありました。
それぞれの地域性と各病院の特色が反映した演題発表でした。

１、八戸赤十字病院　根城昴尚

２、八戸赤十字病院　古村茂樹

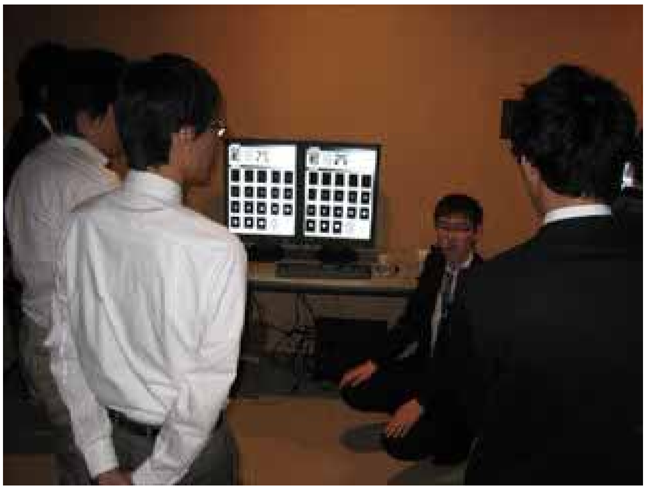
３、福島赤十字病院　佐藤勝行

4、　福島赤十字病院　阿部直人

5、盛岡赤十字病院　安達廣司郎

6、石巻赤十字病院　長本圭祐

【教育講演】「モニターの基礎と品質管理概要～　関連する最近のトレンド（LED・ブルーライト）」
EIZO 株式会社　森脇浩史　先生



【座長】

福島赤十字病院　佐藤　勝行

八戸赤十字病院　松倉　裕次

八戸赤十字病院　大澤　哲平

【施設見学】

【集合写真・感想】

今回は、二回目の東北ブロック研修会の開催でした。東北ブロックは、秋田赤十字病院、八戸赤十字病院、盛岡赤十字病院　石巻赤十字病院、仙台赤十字病院、福島赤十字病院の６施設による構成となります。
東北地区の広域性とそれぞれの病院の事情から多くの会員の参加が難しい状況にありますが、内容の濃い研修会であり懇親会においても互いの施設の情報交換等、おおいに盛り上がりました。
今後は共通の課題をもうけるなど考えております。
最後に、八戸赤十字病放射線科の皆様には大変お世話になりました。

平成25年度日本赤十字社診療放射線技師会

東北ブロック研修会プログラム

日時：平成25年9月28日（土）
場所：八戸赤十字病院　別館2F　日赤ホール
〒039-1104　青森県八戸市田面木中明戸2
TEL：0178-27-3111　　http://www.hachinohe.jrc.or.jp/

13:00　受付

13:30　開会

13:35　一般演題　　座長　福島赤十字病院　佐藤　勝行

演題1「X線TVによる鉛防護の有用性」　八戸赤十字病院　根城　昂尚

演題2「リニアック精度管理の均てん化、効率化について」
八戸赤十字病院　古村　茂樹

演題3「福島赤十字病院におけるホールボディカウンターの現状」
福島赤十字病院　佐藤　勝行

演題4「当院におけるVSRADの現状とVSRADplus・VSRADadvanceの比較（解析時間・Zスコア）」
福島赤十字病院　阿部　直人

演題5「東日本大震災でのMRI装置の被害調査について（岩手県の場合）」
盛岡赤十字病院　安達　廣司郎

演題6「一般撮影マニュアルを作成したことによる撮影業務への影響について」
石巻赤十字病院　長本　圭祐

14:40　施設見学・休憩

15:25　教育講演　　座長　八戸赤十字病院　大澤　哲平

「モニターの基礎と品質管理概要　～関連する最近の技術トレンド（LED、ブルーライト）～」　EIZO株式会社　森脇　浩史　先生

17:05　施設代表者会議

17:25　集合写真撮影、閉会

第26回日本赤十字社診療放射線技師会　東部ブロック研修会　開催報告

日時：平成25年11月23日（土）～24日（日）
当番病院：武蔵野赤十字病院
会場：中野サンプラザ
出席者数：東部ブロック20施設中16施設80名

《主な内容》
教育講演「救急ＣＴの読影」
特別講演「モノクロモニタの特徴と管理」
教育講演「胸部Ｘ線写真～内科医はこう読んでいる」
教育講演＆グループワーク「心を贈るコミュニケーション」
教育講演「最近の放射線治療について」
一般演題：10題

第 26 回 日本赤十字社診療放射線技師会 東部ブロック研修会 プログラム

日時 平成 25 年 11 月 23 日（土）・24 日（日）

大会長：荒井 一正
実行委員長：櫻井 和明
総合司会：藤田 寛之

11 月 23 日（土）

12:00～ **受付開始**

13:00～13:05 **開会式** **開会挨拶** 大会長 荒井 一正
武蔵野赤十字病院 病院長挨拶 病院長 丸山 洋

13:05～13:25 **日本赤十字社診療放射線技師会 会長挨拶**
「時代をつなぐ＝もっとクロス＝」 会長 清水 文孝

13:25～14:05 **教育講演「救急 CT の読影」** 座長 櫻井 和明(武蔵野赤十字病院)
講師 姫野 佳郎(武蔵野赤十字病院 放射線科部長)

14:05～14:15 **休憩**

14:15～14:55 **一般演題Ⅰ** 座長 柏木 正人・遠藤 俊(武蔵野赤十字病院)

1.「ワイヤレス型 FPD を用いた移動型 X 線撮影装置の導入について」
三品 優美(さいたま赤十字病院)

2.「FPD における消去性能の検討」
新井 貴之(足利赤十字病院)

3.「体内遺残ガーゼ検出のための撮影条件及び画像処理パラメータの検討」
萩原 鈴絵（前橋赤十字病院)

4.「当施設におけるトモシンセシスの使用経験」
水石 岳志(大森赤十字病院)

5.「マルチディテクタ CT における逐次近似画像再構成法」
千木埼 信介(水戸赤十字病院)

6.「体幹部 CT スキャン時の上肢の位置によるアーチファクトの検討」
大井 基弘(横浜市立みなと赤十字病院)

15:05～15:25 **特別講演「モノクロモニタの特徴と管理」** 座長 稲垣 哲人(武蔵野赤十字病院)
講師 嘉陽 浩和(EIZO 株式会社)

15:25～15:35 **休憩**

15:35～16:35 **教育講演「胸部 X 線写真～内科医はこう読んでいる」** 座長 荒井 一正(武蔵野赤十字病院)
講師 吉澤 正文(武蔵野赤十字病院 呼吸器科部長)

16:40～17:10　**施設代表者会議**　進行　荒井　一正(武蔵野赤十字病院)
議長　東部ブロック理事　尾形　智幸(さいたま赤十字病院)

18:00～　**情報交換会**

11月24日（日）

8:45～　**開場**

9:00～10:40　**教育講演・グループワーク「心を贈るコミュニケーション」**　司会　川原　明世(武蔵野赤十字病院)
講師　日下　隼人(武蔵野赤十字病院　小児科)

10:40～10:50　**休憩**

10:50～11:15　**一般演題Ⅱ**　座長　安廣　哲・川原　明世(武蔵野赤十字病院)

7.「FPDを用いたエネルギーサブトラクションの検討」
臼井　謙太(日本赤十字社医療センター)

8.「拡散強調撮像における磁場均一領域の検討」
佐藤　統幸(那須赤十字病院)

9.「PET/CTにおける呼吸運動の影響の軽減について」
飯田　友紀(横浜市立みなと赤十字病院)

10.「脳血流シンチグラフィの3D処理化　～3D-CTAとのFusion画像処理の検討～」
中筋　誉志男(武蔵野赤十字病院)

11:15～11:55　**教育講演「最近の放射線治療について」**　座長　鈴木　一考(武蔵野赤十字病院)
講師　星　章彦(武蔵野赤十字病院　放射線科部長)

11:55～11:58　**次回当番病院挨拶**
手塚　章一(那須赤十字病院)

11:58～　**閉会式**　大会長　荒井　一正

H25 年度中部ブロック業務研修会　大盛会開催

平成 25 年度中部ブロック業務研修会が平成 25 年 9 月 7 日（土）、8 日（日）の二日間に渉って伊勢赤十字病院にて開催されました。
今年で第 4 回目の研修会となりましたが、これまでの日帰り開催を見直し、1 泊 2 日の研修会を行いました。
　管内からは 72 名の参加を得て、盛り沢山のテーマを基に議論を行い、夜の宿泊では「中部の仲間を知ろう！」に会員相互のコミュニティを高めることが出来ました。

　次年度開催は代表者会議で「名古屋第二赤十字病院」に決定致しました。

１．MRI装置の最新技術と安全性

『MRI最新技術と安全性　-GEヘルスケア・ジャパン（株）-』

Tipアプリケーション部　　　　大野　俊秀、福原　大輔
MRセールス&マーケティング部　　　　池田　陽介

MRI最新技術

ＧＥ 社では２０１３ 年の秋にDiscovery MR 750 /750 w 3 .0 T、Optima MR 450 w 1 .5 Tの新しいモデルであるExpert（DV24）をリリースし、さらなる診断精度の向上、快適性の向上、検査効率の向上を目指して多彩な新機能が開発されました。

今回は、数ある新機能の中から、①局所励起技術であるFOCUS、②「音のしないMRI」として注目を集めているSILENT SCAN（※検査環境音+3dB以下）について概説します。

　尚、本稿は映像情報メディカル増刊号　ROUTINE CLINICAL 2014 BOOK[1)]に掲載された記事を基にしております。

＜①FOCUS　（Fov Optimized and Constrained Undistorted Single-shot）＞

FOCUSは局所励起技術を用いて従来よりも歪の少ない、空間分解能の高いDWI-EPI（以下、DWI）を可能とする技術です。ここではFOCUSについて概説します。

FOCUS は 2D RF Excitation と呼ぶ特殊な RF 励起法[2)]を用いています。「2D」の意味はスライス方向と位相エンコード方向の 2 方向において所望する選択領域を励起することを意味しています。

通常の MRI の撮像ではスライス方向のみ選択的に励起を行っています。代表的な 90°パルスでいえば、Z 軸方向に傾斜磁場を印加し、同時にフリップアングル 90°の RF が一般に Sinc 波形の単一パルスとして印加されることはよく知られています。次に、2D RF Excitation では、図 1 のように小さな複数の RF パルスから成る、特殊な RF 波形を用いており、それぞれの小さな RF パルスに呼応する傾斜磁場パルスが撮像領域の位相方向（Gpe）にかかっています。位相方向に傾斜磁場がかかった状態で RF が印加されるため、位相方向の特定領域だけが励起されることになります。

つまり、この小さな RF パルスの波形により、位相エンコード方向の励起形状が決まります。

　次に撮像領域のスライス方向（Gss）にも傾斜磁場が小さな RF の印加された後にブリップ状にかかっています。このスライス方向の傾斜磁場によってスライス位置による横磁化の位相差が生じます。ここで、小さな RF はそれぞれ振幅が異なっています。これはフリップアングルが異なることを意味しており、かつ間欠的に印加されています。

この全体的な RF パルスの包絡線の波形により、スライス方向の励起形状が決まります。

　このような RF と傾斜磁場下では、水と脂肪の磁化はちょうど binominal パルスと同じように個々の RF と傾斜磁場の影響を受けます。それぞれの効果の総和として空間的な影響を見てみると、小さな RF パルスすべてがかかり終わった時点で所望のスライス位置の水成分と同じ位相をもつ複数の場所（違う位置の水や脂肪）が離散的に励起されます。つまり、図 1b のように位相エンコード方向（図の PE 方向）に対しては水色（水）、緑色（脂肪）の線の長さ部分のみが、スライス方向（図の SS 方向）に対しては水と脂肪が離散的に繰り返し励起されるパターンを作ります（水色、緑の線が SS 方向に対して繰

り返し出現している)。ここで 180°リフォーカスパルスを所望のスライス位置だけにあてることで、結果として位相方向の局所励起、スライス選択、そして脂肪抑制の 3 つの効果を同時に達成することができます。なお、水と脂肪に関しては、小さな RF パルスの間隔に応じて(自然に)位相差が生じ、所望するスライスの水(水色)と脂肪(緑色)は図 1b のように SS 方向に分離された状態となります。

実際の FOCUS の設定では、FOV と Phase FOV の値を入力することで励起される領域(形)が決まります。例えば FOV が 10cm で Phase FOV が 1 ならば、10cm FOV の正方形領域を選択的に励起しますし、FOV が 20cm で Phase FOV が 0.5 ならば図 1c のように位相方向に対して 1/2 の範囲のみを短冊状(20×10cm)に選択した領域が励起されます。もちろんどちらの場合も FOV の外側に被写体があったとしても折り返しアーチファクトはまったく生じません。

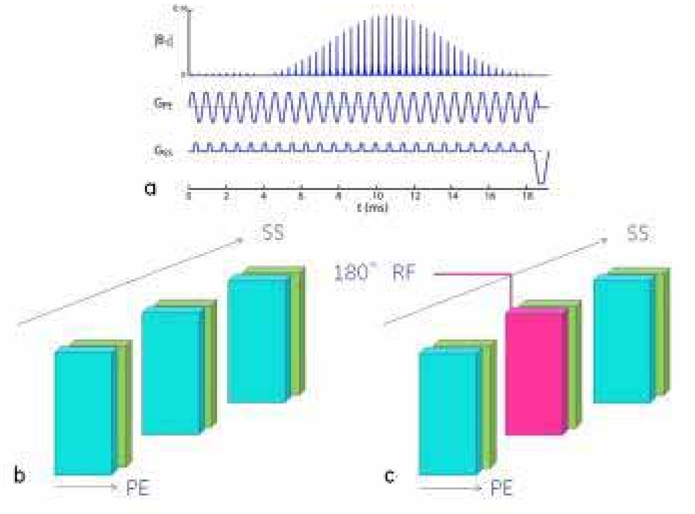


図 1　2D RF Excitation の原理図[2]

FOCUS のよい適応として臨床応用に期待されるのが DWI です。DWI の課題としては EPI によるデータ取集に起因する画像の歪の低減や空間分解能の改善が挙げられます。EPI の特性として歪に関していえば、位相方向の FOV が小さいほど 1 ステップ分の位相エンコード量が大きくなるため、B0 不均一やケミカルシフトによる位相分散の影響が相対的に小さくなり、歪みが小さくなります。また、Kx 方向のデータ収集スピードが速いほど(BW が高いほど)歪が小さくなります。つまり、観察したい関心領域が膵臓や脊髄などのように短冊状の FOV にちょうど収まる撮像は FOCUS のよい適応の 1 つといえます(図 2)。

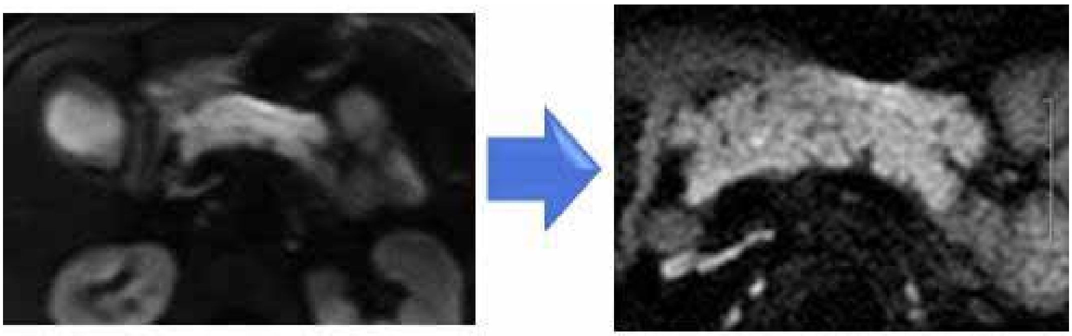


図 2　通常の DWI と FOCUS を用いた DWI における膵臓の例

左図：通常の DWI における膵臓の例(b=600 FOV=40cm)

右図：FOCUS を用いた DWI における膵臓の例(b=600 FOV=20×10cm)

また、Small FOV で撮像するのもよい適応といえますが、この場合は Kx 方向のデータ収集スピードに留意しながら撮像条件の設定を行います。最適な FOV、Phase FOV、マトリクス（周波数／位相）設定を用いることで従来に比べて、歪の少ない、かつ空間分解能の高い DWI を撮像することが可能です（図 3）。

なお、FOCUS を S/N の観点からみた場合、通常の励起法とまったく同様にボクセルサイズに依存します。よって折り返しは気にしなくてよいですが、FOV を絞るほど S/N は低下することは念頭に入れておく必要がります。FOCUS は DWI の他、DTI（拡散テンソル画像）（図 4）に応用可能です。

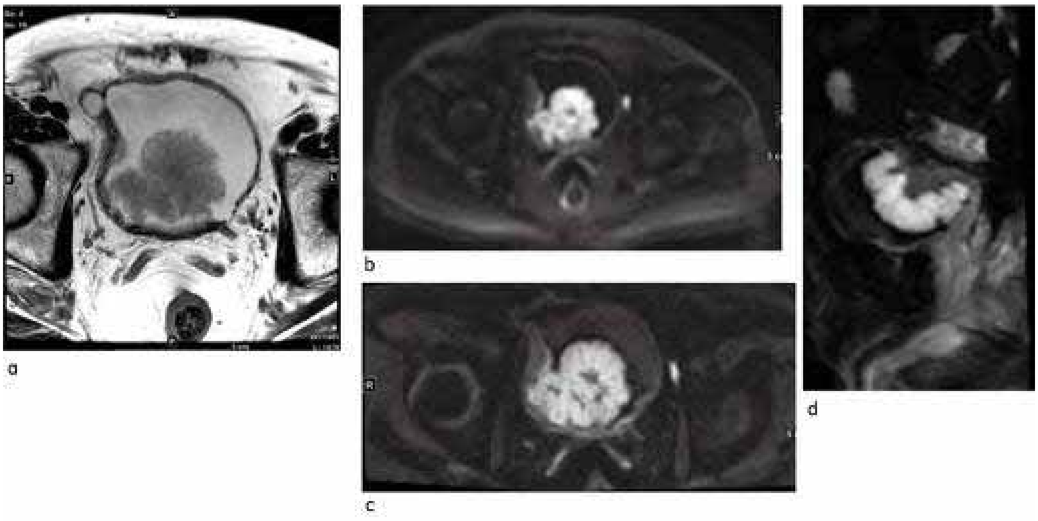


図 3　最適な FOV、Phase FOV、マトリクス（周波数／位相）設定による DWI 撮像

a：T2 強調画像

b：通常の DWI, b=800／FOV 40cm, 128×160（ピクセルサイズ：3.13×2.5mm）

c：FOCUS による DWI, b=800／FOV 24×12cm, 160×80（ピクセルサイズ：1.5×1.5mm）

d：FOCUS による DWI, b=800／FOV 24×12cm, 160×80（ピクセルサイズ：1.5× 1.5mm）

サジタル撮像
※聖隷浜松病院殿のご厚意による

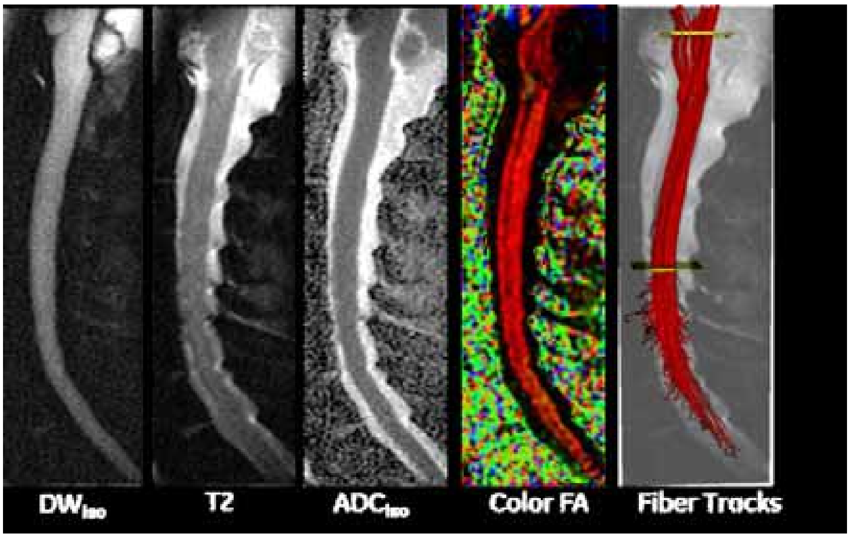


図 4　DTI（拡散テンソル画像）

＜②SILENT SCAN＞

MRI 検査と聞いて、多くの人が思い浮かべるイメージは、「狭いトンネルの中で、撮像中大きな音のする装置」かもしれません。この MRI の撮像時に発生する「音」 =「グラディエントノイズ」を低減する手法は以前からさまざまな方法が考案されてきました。それらの多くは発生する音をいかに遮蔽するかが技術の中心でしたが、今回の SILENT SCAN は「音を発生させずに撮像する」という発想から開発されました。

誌面では残念ながら音の実際を体感いただくことはできませんが、SILENT SCAN の撮像音は検査環境音 +3dB 以下であり、これは撮像中もヘリウム冷凍機のコンプレッサの音の方がよく聞こえる、というレベルです。耳栓を必要としない他、寝台に不快な振動がまったくないため、今までの MRI 撮像とはいい意味でまったく異質です。特に 3T 装置での静音化は従来技術ではなかなか対応が難しいですが、SILENT SCAN はこれを高いレベルで実現しています。下記 URL にて SILENT SCAN の音をご体感頂けます。

http://www3.gehealthcare.co.jp/ja-JP/Products/Categories/Magnetic_Resonance_Imaging/SILENT_SCAN

ここで、そもそも MRI の音は何故するのかを考えてみます。MRI では生体内のプロトンの総和からなる磁化ベクトルを信号源としていますが、X 線 CT と異なり機械的可動部分のない MRI では撮像断面の選択（スライス選択）、並びに受信した信号が生体のどこから来たものかを識別するために位相エンコード、および周波数エンコードが行われます（2D FFT の場合）。これらは主に傾斜磁場（グラディエント）の仕事であります。傾斜磁場を作り出すハードウエアである傾斜磁場コイルは、必要な時だけ電流を on-off（逆方向への on-off）する常電導コイルであり、これが超電導マグネットの内側に収まっています。傾斜磁場コイルに流れる電流はパルスシーケンスに依存しますが概ね 100～3,000Hz のさまざまな周波数が混在した「交流」といえます。この磁場下に置かれた常電導コイルに交流が流れている

構造はオーディオ装置のスピーカーとよく似ています。スピーカーが音声信号（交流）に合わせてスピーカー内部のコイルが振動し、その振動をコーン紙が空気の振動に変えて音が鳴るように、MRI ではパルスシーケンスに合せて傾斜磁場コイルが振動し、その振動をコイルが巻かれている筐体が空気の振動に変えて音を出しています。しかも、家庭用のオーディオセットとは桁違いの磁場強度、電流であるため非常に大きな撮像音が装置から発生します。

次に SILENT SCAN についてです。

SILENT SCAN においても信号を収集する際に傾斜磁場は使用します。しかしながら、SILENT SCAN では傾斜磁場コイルに先の電流の on-off（逆方向への on-off）の頻回なスイッチングをまったく行わず、κスペースの 1 ラインの収集においては極性の変わらない、いわば直流を傾斜磁場コイルに流して信号収集を行っている状態に近い状態です（図 5）。

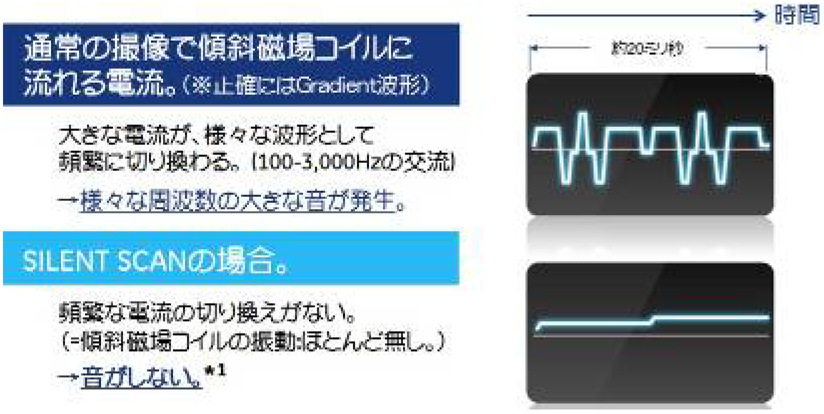


図 5　SILENT SCAN の“音がしない”仕組み

傾斜磁場コイルは振動しないため結果として撮像中に音を発生させないことが可能となります（※検査環境音 +3dB 以下）。このように、今までの傾斜磁場の使用法とはまったく異なる SILENT SCAN は MRI の新しい信号収集方法と呼ぶこともでき、弊社ではこの技術を“Silenz”と呼んでいます。なお、この Silenz のκスペースのトラジェクトリーが図 6 左です。SILENT SCAN を行うための必要な要素技術は図 6 の通り、3 つ挙げられ、ソフトウェア技術として前述の Silenz、傾斜磁場コイルへ安定した電流を供給するための電源システム、そして RF コイルにおける Ultra-Fast RF Switching です。

SILENT SCAN では通常よりもきわめて短い RF 印加による励起が行われ、RF 励起後次の瞬間から信号の受信が始まります。この時 RF コイル側は送信時のモードから受信時のモードへマイクロ秒オーダの高速切り換えが必要となり、これを行うことを Ultra-Fast RF Switching と呼んでいます。実際、SILENT SCAN では TE はほぼ「ゼロ」msec となります。

図 6　MRI（ソフトウエア・ハードウエア）に求められる新たな資質

SILENT SCAN の代表的な画像を掲載します。
図 7 は T1 強調画像における通常の撮像（BRAVO : 3D Fast SPGR）と SILENT SCAN の比較です。良好な T1 コントラストがほぼ同じ撮像時間で得られています。図 8 は SILENTSCAN を用いた 3D MRA です。TE=ゼロ msec のため、Flow によるボクセル内の位相分散に強い特性を有し、屈曲部での信号の抜けが少ない画像が得られています。なお、SILENT SCAN の画像コントラストはプリパレーションパルスを用いています。前述の T1 強調画像では IR プリパレーションが、MRA では ASL の技術を用いています。よって SILENT SCAN はプリパレーションパルスによるコントラスト生成部、続いて Silenz によるデータ収集部というシーケンス構成です。

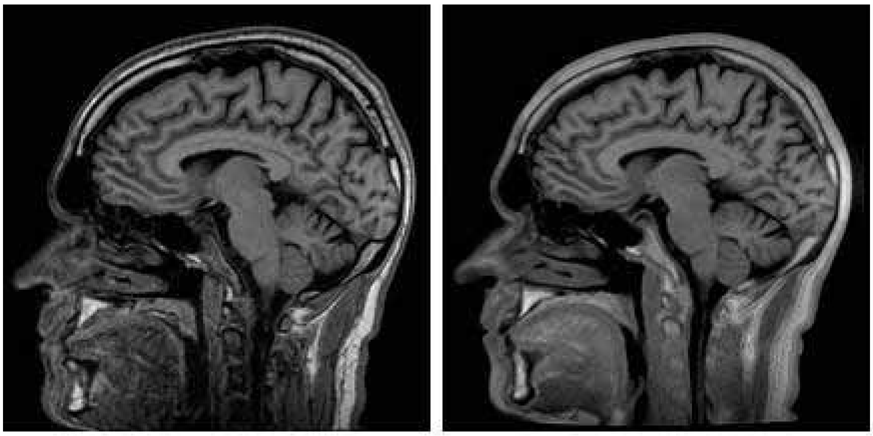


図 7　画像比較-1
左図：通常の撮像,　3D T1 強調画像（BRAVO）, 3mm ReformatScan Time : 4:10
右図：サイレントスキャン, 3D T1 強調画像（Silenz）, 3mm ReformatScan Time : 4:31

図 8　画像比較-2

左図：通常の 3D MRA, 3D Time of Flight, TE=3.5msec

右図：サイレントスキャンの MRA（Silenz は、TE=0 により Flow の影響を受けにくい）

SILENT SCAN の臨床応用はまだ始まったばかりではありますが、小児への応用、脳ドックへの応用、その他の臨床現場にて、「患者さんに優しい」、快適な本技術が広がっていくことが期待されます。昨年の北米放射線学会におきましては、図 6 とは別の手法を用いて T2 強調画像ならびに FLAIR 画像においても静音化する技術も発表されました。

弊社では SILENT SCAN の適応を拡大していく方向性とともに、さまざまな技術を用いて検査トータルでの快適さを確立していく計画です。

参考文献

1) 映像情報メディカル増刊号　ROUTINE CLINICAL MRI 2014 BOOK:136-145

2)　Saritas EU et al: DWI of the spinal cord with reduced FOV single-shot EPI. Magn Reson Med 60(2): 468-473, 2008

医療機器認証番号 221ACBZX00095000

薬事認証上の販売名 ディスカバリー MR750

医療機器認証番号 223ACBZX00061000

薬事認証上の販売名 ディスカバリー MR750w

医療機器認証番号 223ACBZX00032000

薬事認証上の販売名 オプティマ MR450w

MRI の安全性

はじめに

MRI 装置は電離放射線を使用せず、また、造影剤を使用せずに血流情報等が得られる他、近年のアプリケーションの高度化により多様な形態情報および機能情報が短時間で得られ、一般的には低侵襲の画像診断機器としてその普及が進んでいます。日本国内での 2012 年末の稼働台数は 6,000 台を突破し、人口あたりの台数は OECD 加盟諸国平均の 3 倍以上、米国の 2 倍弱となっています。6,000 台のうち、1.5T が 3,500 台と 6 割を占め、3T は 500 台弱ですが近年、3T 装置の台数は急増の傾向にあります。一方、MRI 装置は、強力な磁場（静磁場及び傾斜磁場）と電波（電磁波）を用いて画像化を行い、また、超電導タイプでは冷却機構に液体ヘリウムを使用するなど、他の画像診断機器とは原理、機器の構成等が大きく異なるとともに、その安全を確保することが非常に重要です。

医療機器の安全確保に関する行政からの通知や MRI 対応の金属デバイスの増加、震災等の非常時への対応など、MRI 検査をとりまく状況も大きく変化しており、このような変化を踏まえて常に最新情報を収集し、それに迅速に対応していくことが今後重要になると思われます。

MRI の安全に関する規格

MRI の安全に関する規格は、JIS 規格（JIS Z 4951 磁気共鳴画像診断装置－基礎安全及び基本性能）がその根本となっています。JIS Z 4951 は、世界規格である IEC60601-2-33 の一致規格であり、現在第三版まで改定されています。磁場や電波、騒音等各種の規制値が定められている他、取扱説明書に記載すべき注意事項等が詳細に記載されています。製品の開発や FDA、日本国内での薬事の申請にあたっては、この規格に準拠していることが必須要件となっています。

JIS Z4951 は 1999 年に第一版が発行され、2004 年の第二版で 3T 装置が第一次水準モードとして使用可能となるなど改定され、さらに 2012 年の第三版では 3T 装置が通常操作モードで対応可能となり、また、従来禁忌とされてきた体内埋込物（インプラント）も条件付で認められるなどの改定が行われました。

因みに 1999 年 JISZ4951 の制定以前は、厚生省（当時）の実務連絡に沿って国内での薬事認可等が行われていました。また、JIS 規格の制定及び改定から準拠までは開発期間等考慮し、一定の猶予期間が認められています。なお、JIS 規格は、JISC（日本工業標準調査会）のホームページで検索し、閲覧することが可能です。

（JISC　http://www.jisc.go.jp/）

医療機器の安全管理体制に関する行政からの通知

平成 19 年 3 月 30 日に、厚生労働省から「医療機器に係る安全管理のための体制確保に係る運用上の留意点について」 という通知が、都道府県経由で各医療機関に送付されました。3 か月の猶予期間を以って「医療機器安全管理責任者」の配置が義務付けられたもので、その責務として、

１）医療機器の安全使用のための研修実施と記録

２）保守点検計画の策定と適切な実施

３）医療機器安全使用

のための情報収集と改善方策の実施（添付文書、取扱説明書の保管等含む）が義務付けられました。

既に各施設において医療機器安全管理責任者の配置は完了していると思われますが、平成24年には、医療事故に関連して、研修を実施しなかった医療機器安全管理責任者の臨床工学技士が書類送検されたという報道もあり、この通知の遵守、医療機器の安全管理体制の確保は非常に重要です。

MRI 装置における安全上のリスク

前述したとおり、MRI 装置は、強力な磁場（静磁場及び傾斜磁場）と電磁波を用いて画像化を行い、また、超電導タイプでは冷却機構に液体ヘリウムを使用するなど、他の画像診断機器とは原理、機器の構成等が大きく異なるので、まずはその内容とリスクを事前に正確に把握しておくことが重要です。以下に、全てを網羅できませんが、超電導タイプ MRI 装置の安全上のリスクとその原因を列挙します。

１）静磁場

・静磁場のリスクは、ペースメーカー等体内に埋め込まれた金属物及びその人体への影響と MRI 撮影室に外部から持ち込まれる酸素ボンベ等の金属物が人体や MRI 装置等にもたらす影響（吸着事故、ミサイル効果ともいう）とに分けられます。

・吸着事故について、吸着される物品は多種多様ですが、点滴スタンド、酸素ボンベ、ストレッチャー、車椅子が半数以上を占めると思われます。近年、パワーアンクル（筋トレ用の重り）などが増加しています。吸着した物体を無理に引き剥がすことは、怪我やマグネットの破壊にもつながる可能性があるので注意が必要です。磁場を落とす必要がある場合には、再度立ち上げまでの装置の使用不可やヘリウム代、保守作業費など施設側の負担も大きいものとなります。

・静磁場自体の人体への影響については、JIS Z4951 で通常操作モードとして認められている 3T までは生体への影響に関する科学的根拠がないとされています。

２）傾斜磁場

・MRI 装置では撮像断面の選択にあたり、傾斜磁場を非常に短時間で急速に変化させています。

磁場の急激な変化が人体内部で微小電流を発生させ、末梢神経を刺激する可能性があり、傾斜磁場の変動は、時間あたりの磁場変動 dB./dt としてその規制値が設定されています。

・また、傾斜磁場の短時間の急激な変化により、傾斜磁場を発生させるコイルが振動し、空気を震わせて騒音の原因となります。騒音の規制値も設定されていますが、耳栓などの対策が必要となる場合もあります。騒音が、頭痛や難聴、検査への不安の訴えに繋がる場合も多いです。

３）電磁波（RF 電波）

・MRI 装置では画像信号の取得に高周波の電波を使用していますが、この影響は、人体内部の神経の刺激と発熱です。MRI で使用される電波の出力に関しても比熱吸収比 SAR としてその規制値が設定されています。発熱に関しては、人体内部での温度上昇、発汗など人体そのものへの影響と、体内金属や金属を含むアイシャドーや刺青及びコイルや人体のループ等に影響し起電力を発生、火傷に至るケースがあります。近年、保温や静電防止のため、金属や導電糸が縫いこまれた肌着や寝間着などの事故も報告されており、注意が必要です。

４）クエンチ

・超電導 MRI では、磁場を発生させるコイルの超電導状態を維持するために、液体ヘリウムを使用しています。超電導状態が何らかの原因で失われると、液体ヘリウムが急速に気化し、室外、又は室内に大量に漏れ出すことがあります。

・液体ヘリウムそのものは無味無臭で無害ですが、室内に急速に漏れだした場合、酸欠を引き起こす可能性があり対処には充分な注意が必要です。

・室外に漏れだした場合、近隣住民などが気化したヘリウムを煙、火事と誤認し、消防に通報し、消防隊が突入したケースなどもあり、施設の管理者や警備関係者、住民への事前の啓蒙、通知も必要です。

MRI 装置の事故の発生度合と原因

MRI 装置による事故は、どのくらいの件数、割合で発生しているのでしょうか？
2010 年に日本放射線技術学会の「MRI 装置の安全管理に関する実態調査班」が大規模なアンケート調査を実施し、その結果が、日本放射線技術学会雑誌、第 67 巻 8 号（2011 年 8 月）に
「MRI 装置の安全管理に関する実態調査の報告　―思った以上に事故は起こっている―」
として公表されましたので、詳細については、是非、こちらを一読頂きたいと思います。
この報告によると、酸素ボンベなどの大型の吸引事故を約 4 割の施設が経験しており、その内訳は点滴スタンド、酸素ボンベ、ストレッチャー、車椅子、パワーアンクルの順であったとのことです。
また、その約５分の１は時間外、業者を呼んだ事例が 37%、完全に消磁した事例が 16%であったとのことです。スタッフや患者が持つ小型の金属物の吸引事故はさらに多く報告されています。
検査中に患者が火傷を負う事故も 12%の施設で経験されているとのことであり、まさにタイトルのとおり、思った以上に事故は起こっており、その対策は急務です。
弊社にも事故が発生した際に施設より連絡を受けますが、その件数も 2009 年以降増加傾向にあります。
弊社では、MRI の吸着に関する注意喚起のご案内（図 1 参照）をお客様へ配布し、吸着を未然に防ぐ活動に取り組んでおります。

季節としては春頃の事故が多く、これは、操作担当者の交替も影響していると推測されます。
2001 年にはニューヨークで MR 検査中の６歳の男の子の頭部を酸素ボンベが直撃し、死亡するという痛ましい事故が起こっていますが、このような事故は二度と起こしてはなりません。

図 1 MRI の吸着に関する注意喚起のご案内

MRI の安全に関する最新のトピックス

・MRI 対応デバイスの増加

前述したとおり JIS Z4951 規格の第三版の改定により、従来禁忌とされてきた体内埋め込み物について、条件付でその MRI 対応が可能となりました。これは、従来 MR 検査が行えなかった不整脈でペースメーカーを装着した患者さん等に大きな福音をもたらしますが、その適応については、非常に慎重な対処が必要です。

実施の検討に際しては、まず、該当 MRI 対応デバイスの添付文書の規定を充分に確認、理解することが重要です。磁場強度や SAR、dB/dt、空間勾配磁場、撮像範囲の制限などは、デバイスごとに異なっており、また、トレーニングの受講、マニュアルの作成、関連学会が施設基準を設けている場合などもあるのでそれらに沿った対応が必要です。

・小児における MRI 検査時の鎮静に関する共同提言

2013 年 5 月に、日本小児外科学会等関連 3 学会が共同で、「MRI 検査時の鎮静に関する共同提言」を作成、公開しました。小児の MRI 検査では、騒音等への対応として鎮静が必要となりますが、小児外科学会が 2010 年に実施した調査で、回答を寄せたうちの 37%の施設で鎮静による合併症の経験をしていることが判明し、関連学会で検討の結果、その対応、注意点等が提言として出されたものです。

弊社が開発した SILENT SCAN などはまさに、このような要求に沿えるものと期待されます。

・災害時における MRI 装置の安全管理に対する提言

2011 年 3 月に起きた東日本大震災の直後、3 月 15 日に、磁気共鳴医学会から「災害時における MRI 装置の安全管理に対する提言」が公開されました。これは、被災状況を確認し、どのように安全に装置の復旧を確認するか、また、災害の混乱時に吸着事などの二次被害をいかに防ぐかなどの指針が示されたものです。東日本大震災の教訓を受け、また、東南海や首都直下型地震への備えとして、国や都道府県及び各医療施設においても、災害等緊急時の対応が検討されており、この内容を把握して、確認、準備をしておくことが求められると考えられます。

MRI 装置の事故の防止策

事故の防止策としては、継続的な啓蒙、教育と仕組み作りの２点に尽きると思われます。

啓蒙と教育の対象者は、MRI を操作する担当者、放射線・検査部門だけでなく、MRI 室に立ち入る可能性のある全ての人、患者、付添人、看護師、医師、事務・設備関係者及び経営者等全てです。

永年 MRI 装置を使用してきたからという慣れや、担当・責任者の異動、ローテーション時などの注意も必要です。また、啓蒙、教育においては、万一、事故が発生した際の対応、連絡体制等についても確認をし、また、緊急停止ボタン等の確認、事前シミュレーションを行っておく必要があります。

啓蒙、教育だけでなく、事故を防ぐ仕組み・マニュアル作り、撮影室に立ち入る際のチェック体制、操作担当者が出入りを確認しやすいレイアウト、警告表示版（テープ、コーン等）の設置等も併せて検討しておくことが必要です。

MRI の安全に関する情報の入手先

上述しましたとおり、MRI 検査をとりまく状況は大きく変化しており、いかに早くその情報を入手し、それに沿った対応、準備を進めるかが重要です。装置メーカーや、技師会、技術学会等関連学会は勿論ですが、それ以外に有用と思われる情報源、Web サイト、書籍を紹介します。

Web サイト

厚生労働省（医療安全情報）

http://www1.mhlw.go.jp/kinkyu/iyaku_j/iyaku_j/anzenseijyouhou.html

PMDA（医薬品医療機器総合機構）　（医療安全情報）

http://www.info.pmda.go.jp/anzen_pmda/iryo_anzen.html

磁気共鳴医学会　安全性情報　http://www.jsmrm.jp/modules/other/index.php?content_id=1

磁気共鳴専門技術者認定機構　安全情報

http://plaza.umin.ac.jp/~JMRTS/html/tab_menu/A_anzenjyouhou.html

日本医療機能評価機構　医療事故等収集事業

http://www.med-safe.jp/contents/report/analysis.html

JIRA （日本医療画像システム工業会・法規安全部会）

http://www.jira-net.or.jp/anzenkanri/top/index.html

書籍

「ＭＲＩ安全性の考え方」　編：　日本磁気共鳴医学会・安全性評価委員会
発行　：学研メディカル秀潤社

「医療安全学　医療事故防止と最適な放射線診療業務のために」
監修：日本放射線技術学会　　編著：熊谷孝三　　発行：医療科学社

「診療放射線業務の医療安全テキスト --- いざというとき困らないための必携ガイダンス」
編集：天内　廣（前・横浜市立大学附属市民総合医療センター放射線部技師長）
発行：文光堂

MRI 装置メーカー及び業界団体 JIRA の対応

MRI 装置を提供する私たちメーカー及び業界団体である JIRA（日本画像医療システム工業会）としても、装置を安全かつ適正に使用して頂くための情報提供及び啓蒙は、その重要な職務と考えており、弊社では以下のような対応を進めています。

・MRI 装置納入時の添付文書の説明と確実な配布
・MRI 装置納入時の安全講習の実施とその記録
・MRI 装置納入前のトレーニングセンターでの基礎研修、装置納入時の実地研修
・メールマガジンや Web サイト（GE ヘルスケア・ジャパンホームページ及び GE MRI ユーザー専用サイト“Signa・る)、ユーザー会等を通じた継続的な安全情報、最新情報のご提供
・高速電話回線を用いたシステムやマグネット等のリモートサポート
・コールセンター等を通じた電話による問い合わせ、画面共有、訪問によるサポート等

また、業界団体の JIRA では、各社の医用画像診断装置等に共通する標準化や安全情報の通知、啓蒙を行っていますが、その一環として MRI 検査の補助等を行う看護師の方への情報提供として、日本看護協会へ申し入れを行い、日本看護協会を通じた MRI の安全確保に関する啓蒙も進めてもらっています。また、MRI の安全に関するポスターやビデオを制作、販売し、各施設での MRI 安全管理の一助となるような活動も行っていますので、是非、これらの情報やツールも活用して頂きたいと思います。

＜GE MRI ユーザー専用サイト“Signa・る”の MRI 安全関連事項の掲載例＞

弊社では GE MRI ユーザーが様々な情報を入手できるサイトとして“Signa・る*（しぐな・る)”を開設しています（図 2 参照。*ユーザー登録制)。“Signa・る”では撮像アプリケーションの操作手順を紹介したクイックガイドから、お客様から頂いた撮像方法のテクニック（Tips)、毎年 12 月に開催されている Signa 甲子園の模様に至るまで幅広い情報を掲載しています。“Signa・る”の中で、MRI 安全関連のページも設けており、関連情報を発信しています。近年、MRI 対応デバイスの添付文書に記載されている MRI 用語に関するお問い合わせが増えており、MRI 関連用語に関して簡単な解説と共に掲載しています。

特にお問い合わせの多いものとして空間勾配（Magnetic Field Gradient）があります。
空間勾配は漏洩磁場の空間的な変化量を表す指標であり、各装置の操作説明書に掲載されていますが、その用語自体が普段なじみの少ないものです。“Signa・る”には空間勾配の概念と各装置のスペックを掲載しています（図 3 参照)。

今後も各施設で安全な MRI 検査を実施して頂けるように“Signa・る”等を通して、情報発信していく予定です。

図 2 “Signa・る”トップページ（ 2014 年 1 月現在）

図 3 MRI の安全（空間勾配について）

MRI 装置の最新技術と安全性

東芝メディカルシステムズ株式会社　営業本部 MRI 営業部
山本貴雄

はじめに

近年、3T MRI 装置の設置台数は増加しており、3T MRI がもつ臨床有用性の認識は広まっている。3T MRI は研究目的だけではなく、より多くの臨床現場で使用されている。高い SNR、磁化率効果の強さなど磁場強度が高くなることによる利点がある一方、高磁場・高周波がもつ問題として、B_1 磁場不均一、検査音増大などといった課題もある。本稿では、3T MRI の利点をいかしたアプリケーション、3T MRI の課題を克服した技術、高磁場の安全性について述べる。

図 1　東芝メディカルシステムズ（株）製　Vantage Titan™ 3T システム装置外観

3T MRI の利点を生かしたアプリケーション

3T MRI の最大の利点は、1.5T と比べ SNR が最大 2 倍となることである。そのため、1.5T より高い面内分解能・薄いスライス厚での撮像が可能となる。3D 撮像も現実的な時間での検査が可能となり、MPR による多断面再構成画像での観察も可能となる。

SNR の高さを生かしたアプリケーションのひとつに Arterial Spin Labeling（以下、ASL と略す）がある。ASL は、目的とする箇所の上流血流を Labeling し、一定時間後に目的箇所を撮像することにより標識血液の灌流を観察する非造影 Perfusion 撮像法である（図 2)。
3T は 1.5T に比べ T1 値が延長することが知られており、Labeling された血液信号の持続時間が延長する。そのため、ASL は 3T の利点、高い SAR、T1 値の延長の恩恵を受けるアプリケーションといえる。ASL 法は、造影剤を使わずに血液そのものを内因性トレーサーとし、画像化することにより灌流画像情報を得ることができる [1)]。造影剤を用いないため、非侵襲的に繰り返し検査が可能であり、例えば腎機能が低下して造影剤が投与できない患者さんや小児の検査などに対しても簡便に撮像できるといった利点がある。臨床応用として、虚血性心疾患や富血管性腫瘍等にも活かされている（図 3)。

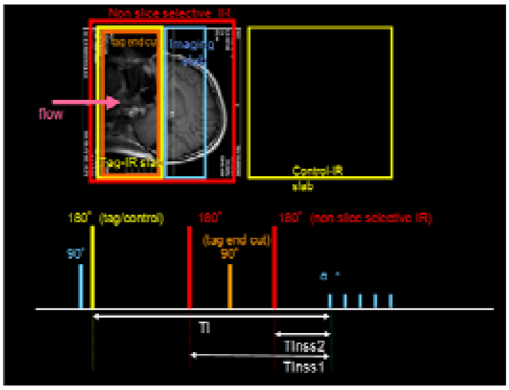


図 2　ASL のシーケンスチャート

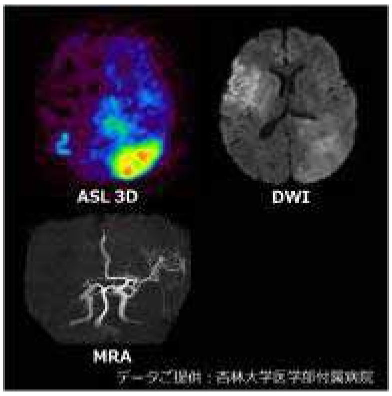


図 3　脳梗塞と脳腫瘍

東芝独自の磁化率効果を強調する手法として FSBB（Flow Sensitive Black Blood）がある。FSBB は磁化率の強調と同時に流れの遅い末梢血管の描出が可能なアプリケーションである[2)]。T2*画像等で従来あまり観察できなかったような微小な出血の描出、微細な血管を描出することができ（図 4）、穿通枝動脈の描出が可能である（図 5）。通常 MR Angiography として用いられている Time of flight (TOF)法と比較し、FSBB 法が lenticulostriate artery (LSA)の描出に優れていた[3)]ことが報告されており、微細な構造の描出だけでなく、今後の診断への貢献も期待される。

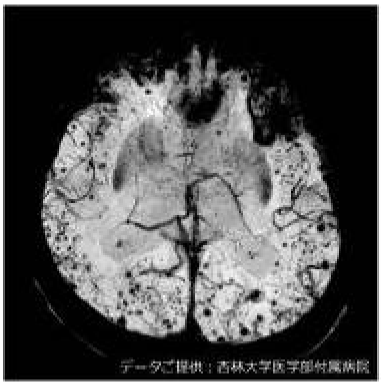


図 4　アミロイド血管炎による black dot

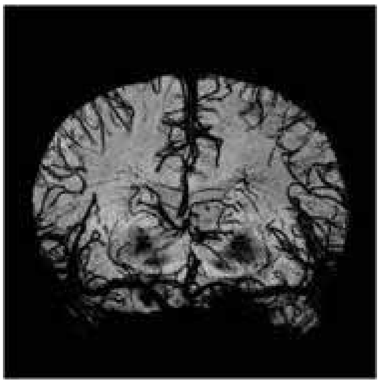


図 5　FSBB:　T2*強調像をベースにした MRA

高磁場、高周波の課題克服技術

3T になり SNR が高くなる、磁化率効果が強くなるなど利点がある一方で、磁場強度が高くなることにより B_1 磁場不均一に起因する信号ムラといった問題がでてくる。その解決のため、東芝 3T 装置では“Multi-phase Transmission”を搭載している。

一般的には信号ムラの原因は、形状と組成に依存した「人体内部での RF 磁場変動によるムラ」として挙げられている。補正方法は、独立した 2 つの電源（2Amp）で電流の位相、振幅を変化させることで RF 分布を変え、B_1 磁場の均一度補正をする方法がとられている。しかし 2Amp での制御のみでは、同一患者であっても呼吸や心拍により、RF 分布が変動し安定しない。その変動を抑える方法として、送信コイルに 4 箇所（4Port）から電流を給電する方法が挙げられる。2port システムでは、給電されてから WB 内を流れる距離が長くなるため電流が大きく変動してしまう。4Port システムでは、給電され

てからの距離が短くなるだけでなく、対象の給電位置にて 180°の位相差を担保出来るため、人体挿入時の電流変動を低減させることができ、RF 印加精度を向上させることが可能になる（図 6）。Multi-Phase Transmission は、2Amp・4Port とすることで、検査部位に合わせた精度の高い B_1 磁場を印加することができる。

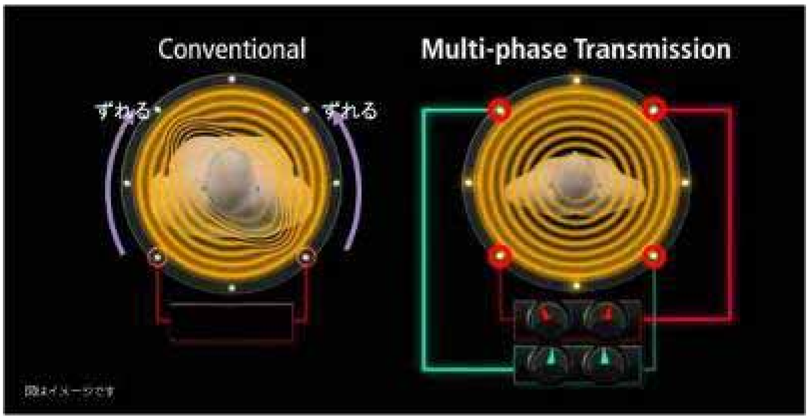


図 6　RF 送信機構　Multi-phase Transmission

高磁場の安全性について

磁場強度が高くなるに従い、検査時の撮像音は増大することが知られている。IEC (International Electrotechnical Commission:国際電気標準会議)では 99dB(A)を超える場合、耳栓やヘッドホンなどの聴覚保護を義務付けるよう規格化されている。また、この撮像時の騒音は検査を受ける方だけでなく、例えば検査を待っている方、近くで診療を行なっている診療科など、その周囲にいる方々にも影響がある。東芝では、これら騒音対策として“MRI 装置での根本的な騒音対策”を行なっている。

東芝の根本的な対策とは、撮像時の騒音の元となる傾斜磁場コイルを真空封入し、音の伝播を最小限に抑制する機構である [4]（図 7）。この 1.5T から培ってきた東芝独自の静音化機構 Pianissimo™ を 3T 装置でも搭載し、検査時の騒音を聴感上で最大 90%低減した [5]。

Pianissimo™ 機構は、音の元となる傾斜磁場コイルへの根本対策であり、最大の利点はすべての検査・撮像に対して有効であり、3T MRI においてもストレスの少ない検査を提供できることである。

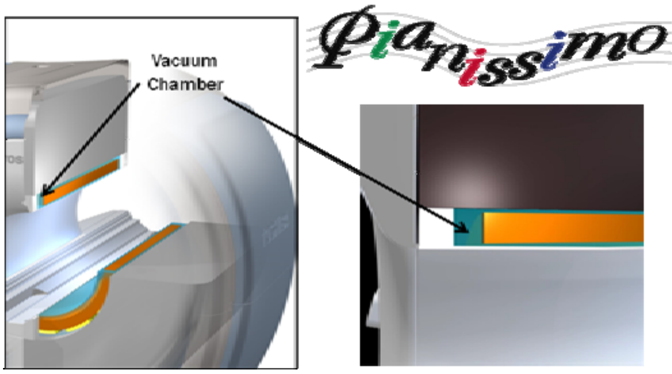


図 7　東芝独自の静音化機構 Pianissimo™

また近年のシールド技術の進歩によって、漏洩磁場は 1.5T と比べても大きく変わらないようになっており、1.5T とほぼ同等の設置性をもつといえる。しかしその反面、磁石そのものに近づいたときの磁場の立ち上がりが 1.5T に比べ、急になる（図 8）。そのため磁石に磁性体を近づけた際の吸引力はより大きくなる。公益財団法人日本医療機能評価機構より公表されている医療事故情報収集等事業第 33 回報告書[6]によると、平成 16 年 1 月から平成 25 年 3 月までに MRI 検査室への磁性体（金属製品など）の持ち込みの件数は 26 件であった。検査室内に磁性体を持ち込まないという注意事項は、3T でも 1.5T でも変わらないが、ストレッチャーや車椅子などの周辺機器の検査室内の持ち込みに関して、撮像者だけでなく関係者全員の細心の注意がより重要になる。この報告書に、事例が発生した医療機関の改善策として、入室時の行動ルールの見直し・再確認、医療従事者全員への教育、他職種が関わるような場合での体制構築、清掃契約の作業範囲、清掃計画の確認、医療機関の職員の立会いや事前オリエンテーションの実施などが挙げられている。施設によっては、検査室前に磁性体チェックゲートなどを用いて磁性体の確認を行ない、吸着事故予防の対策を実施している。

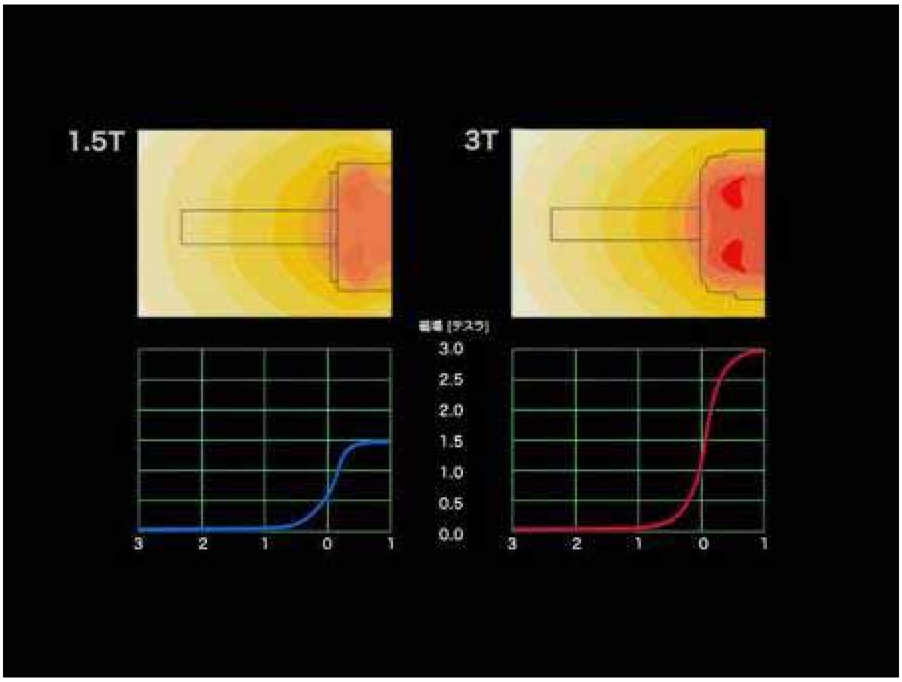


図 8　磁石付近の磁場の立ち上がりの比較（左 1.5T、右 3T。当社比。）

まとめ

以上、本稿では、3T MRI の利点を生かした東芝独自のアプリケーション、高磁場、高周波の課題克服技術、そして高磁場の安全性について紹介を行った。東芝はこれからも診断に有用な画像情報を提供するための技術革新を行っていく。

参考文献

[1]. 木村徳典 Modified STAR using asymmetric inversion slabs (ASTAR)法による非侵襲血流イメージング. 日本磁気共鳴医学会誌 第 20 巻 8 号 374-385 (2000).
[2]. 木村徳典：非造影 MR Angiography—脳神経領域を中心として一。MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY Vol.27 No.2:97-102, 2009.
[3]. Gotoh K et al: Visualization of the lenticulostriate artery with flow-sensitive black-blood acquisition in comparison with time-of-flight MR angiography. J Magn Reson Imaging. 2009 Jan;29(1):65-9.
[4]. 吉田智幸ほか:革新的な静音化を実現した MRI システム EXCELART™. 東芝レビュー. 54, 11, 1999, p62-65.
[5]. 金澤仁ほか:有用性と快適性を追及した 3 テスラ MRI 装置 Vantage Titan™3T. 東芝レビュー.66, 7, 2011, p20-p23.
[6]. 公益財団法人日本医療機能評価機構. 医療事故情報収集等事業 第 33 回報告書. 2013.

<u>MRI 装置の最新技術と安全性</u>

1．3.0T MRI 装置の技術特長　―次世代パラレルイメージング dS SENSE―

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
MR Modality Specialist
井上 泰吉

本稿ではコイル革命とアルゴリズムの改良が誘う、高速撮像法である SENSE が更に進化した次世代パラレルイメージング dS-SENSE について解説する。

1-1.　はじめに

世界初の Parallel Imaging 法である SENSE (Sensitivity Encoding)を搭載した Intera1.5T の発売から 15 年が経とうとしているが(図 1)、今そのパフォーマンスに大きくかかわる受信コイルに新たな革命が生まれた。デジタルコイルと呼ばれるその技術は、収集した信号を即座にデジタルに変換する事で大幅な SNR(Signal to Noise Ratio)の向上をもたらす。同時に、エレメントの数だけ必要としたデータ転送ケーブルを 1 本の光ファイバーケーブルでまかなうため、コイルの多チャンネル化時代において革命的な効率化と将来の拡張性をもたらした(図 2)。

図 1　Intera1.5T

図 2　デジタルコイル搭載 Ingenia3.0T

この無制限の拡張性を備えたハードウェアをベースに、SENSE アルゴリズムも一新された。撮像部位とコイルの位置関係、関心領域の大きさ、そしてパラレルイメージングの倍速設定に応じた、最も効果的なエレメントの組み合わせを選択するアルゴリズム、Smart Select、更にコイルのキャリブレーションエラーに起因したアーチファクトの影響を最小限に抑える Minimal Artifact Factor(MAF) アルゴリズムが導入されている。

1-2. デジタルコイル

近年導入されはじめているデジタルコイルは、マルチコイルの全てのコイルエレメントの中にアナログデジタル変換器(ADC)を組み込むことで、信号のデジタル化を最も測定対象に近づけ全身の高画質化を図ったコイルである。これによりアナログ信号処理過程で起こる信号ロスを最小限に抑え、SNR を大幅に高める事に成功した。それにより従来の常識的な設定を大幅に上回る SENSE の倍速を設定する事ができるようになった。その利点を主とした高速撮像法を“dS-SENSE”と呼ぶ。

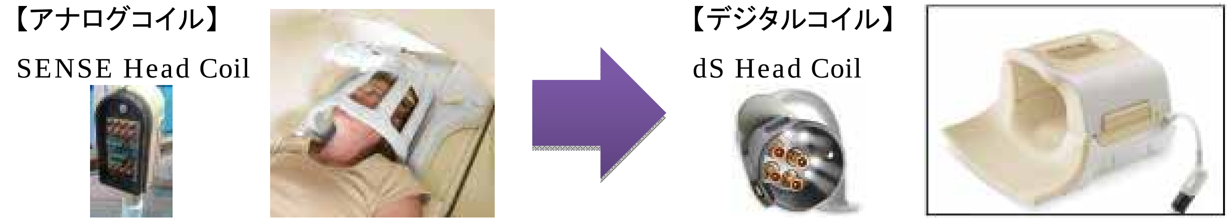


図 3　アナログコイルとデジタルコイルの比較

1-3. SENSE アルゴリズムの改良

アルゴリズムの改良には、コイルエレメントの配列やアーチファクトなど新たに考慮する要素を従来の SENSE アルゴリズムに組み入れた、以下に記載する一貫性のあるスマートな方法を用いている。

1) 従来型 SENSE のノイズを考慮したアルゴリズム: MRI スキャンに必ず存在するノイズを考慮
2) g-factor を考慮し最大 SNR となるエレメント自動選択アルゴリズム: Smart Select
3) 新しい展開アルゴリズムによる展開エラーの軽減技術:MAF-SENSE
4) レギュラリゼーションの改良

特に 4)に関して、測定対象の信号分布範囲をリファレンススキャンで把握し、対象領域を背景ノイズ領域から分離して SENSE の展開を行っているが（レギュラリゼーション)、改良したレギュラリゼーションにより、不適切な撮像ポジショニングを用いても展開エラーを軽減する事が可能となる。

1-4. dS-SENSE の応用

デジタルコイル、Smart Select の SENSE への拡張、MAF アルゴリズム、更には改良されたレギュラリゼーションを組み込んだ dS-SENSE は、今まで以上の高速撮像が可能となる。
図 4 では、従来は撮像時間が長いため、臨床検査で用いるのが難しかった頭部 3D FLAIR 撮像であるが、9 倍速を用いる事により 1.1mm の等方ボクセルのデータを 3 分 46 秒で撮像している。また図 5 では、体幹部領域の mDIXON 画像であるが、4 倍速で収集する事により FOV448mm という広範囲撮像をコイルを載せ替えする事なく僅か 17.8 秒で撮像している。このようにデジタルコイルと次世代パラレルイメージング法である dS-SENSE を併用する事により様々な領域でルーチン検査の高空間分解能化と高速撮像化を両立している。

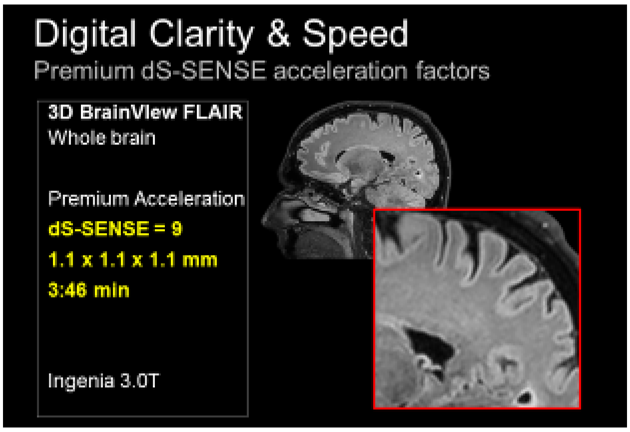


図 4　SENSE9 倍速 頭部 FLAIR 像

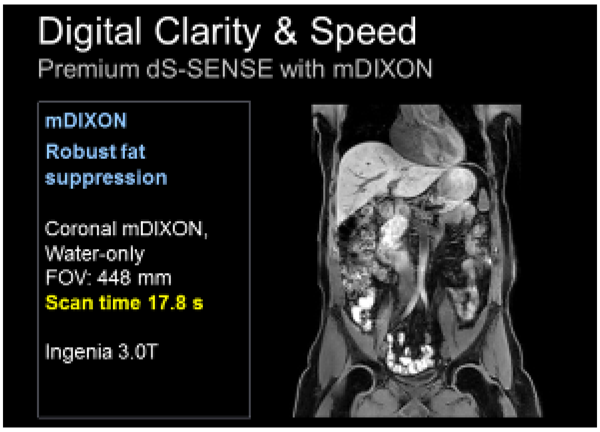


図 5　SENSE4 倍速 腹部 mDIXON 画像

1-5. おわりに

dS-SENSE は革新的なハードウェアの進歩に従来 SENSE アルゴリズムの改良を加えた、次世代のパラレルイメージングである。従来型 SENSE のパフォーマンスはコイルのポジショニングやコイルエレメントの選択、あるいは折り返しに注意した FOV の設定など、ユーザーに依存する部分が大きかった。dS-SENSE は、ユーザーがコイルのポジショニング、患者の呼吸動を気にすることなく、完全に自動でコイルキャリブレーション、dS-SENSE スキャン、dS-SENSE 画像再構成を行い、アーチファクトのない画像を提供する。術者の負担軽減、スループットの向上、新しいアプリケーションの開拓に役立てば幸いである。

２．MRI 装置の安全性及び運用方法に関して

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
関東リージョン西東京ブロック
伊藤　千尋

Magnet Resonance Imaging(MRI)が画像診断に登場して 20 年以上が経過し、国内においても多くの装置が稼働している。近年、3T 装置の導入が増加し、その安全性について改めて検証する必要性が出てきた。ここでは弊社装置の安全性及び検査時の注意点に関して改めて記述する。

2-1．MRI 装置の安全性

静磁場

本装置は、静磁場を発生するため、患者は、めまい、ふらつき、口内の金属味などを感じることがある。患者に磁場内では静止しているよう勧告すること。（MR装置内で患者が頭部を急速に動かした場合、特にその影響が増大する可能性があるため）

比吸収率（SAR）

本装置は、高周波磁場を使用しているため、患者の体温が上昇する可能性がある。特に2.0W/kgを超えるSAR撮影ではその可能性が高まるため、以下の事項を厳守すること。

－身熱の放散を妨げるもの（毛布や厚手の衣類等）を取り除くこと。特に、毛布等の保温性の高い覆いによって患者の体温が上昇するなどこれらの条件を超えた場合は、SARが2.0W/kgを越えないこととし、患者の状態を監視すること。

－SAR撮影では途中に休憩を組み入れること。（熱が体内に蓄積されるのを避けるため）

－患者空間の換気システムが十分に機能しているのを確認すること。

傾斜磁場

本装置は高レベルの傾斜磁場を発生するため、以下の事項を厳守すること。

－末梢神経刺激（PNS）が生じる可能性があること、PNSの発生位置や特性は患者により異なること、PNSはチクチクするような感覚や表皮が痙攣するような感覚であることを患者に説明しておくこと。

－患者が両手を握らないように注意すること。（導電ループが形成され、火傷を引き起こすおそれ）

－末梢神経刺激が生じる可能性を軽減するため、患者は腕を身体と平行にすること。

体温上昇および皮膚の火傷の危険

－電流ループを起こすような皮膚と皮膚の接触が生じないよう、絶縁材（気泡ゴムなど）を脚や腕の間に配置すること。（高電流ループが形成されて、火傷を起こすおそれ）

－RF信号の発生する領域では、コイルのケーブルがループを作ったり、2本のケーブルが交差しないように注意すること。

－ケーブルは患者の体から2cm以上離すこと。（接触していると火傷のおそれあり）

騒音による危険

－患者には必ず騒音減衰率25dBA以上の耳栓を着用させ、耳を保護すること。麻酔下の患者では許容度が通常よりも低い可能性があるため、耳栓を省略してはならない。

－操作者は防音具を適切に装着するためのトレーニングを受けること。幼児および高齢者の場合は、不安の増加によって、承認されている音圧レベルでも問題になる可能性がある。

－制限区域内の騒音レベルは、作業時の騒音に関する規制に従うこと。

クエンチによる危険

　超伝導磁石はクエンチが偶発的に発生するが、クエンチ発生時には対応手順を施設として明確にしておく必要がある。

－検査室からの速やかな退出と入室禁止の処置

－火災等への誤認・誤報防止の為、院内関係者及び消防署への連絡

－カスタマーサポートコールセンターへの連絡

2-2.吸着事故への対策

　2013年度、弊社装置使用御施設様での吸着事故の発生件数は年間約30件であった。吸着させてしまった物の多くは、酸素ボンベ・点滴台・ストレッチャー・清掃器具等による大型の物がほとんどであるが、近年患者のリハビリやトレーニング用で装着しているパワーアンクル等、小型の物の吸着事故も数件ある。MRI装置で使用している高い磁場では、マグネットに近づくほど、特にマグネット開口部近辺が最も高いと考えられる。MRI検査室へ患者を入室させる際は、金属探知機を用いた磁性体所持の有無確認、口頭による注意喚起等、細心の注意が必要である。

立入制限区域（5ガウスライン内）

－立入制限区域内では、鉄や他の磁性体を含む物体が引きつけられる危険性、これらの金属体に回転力が及ぶ危険性、および立入制限区域内に偶然入った人がペースメーカのような医療用の体内埋込物の故障によって影響を受ける危険性があるため、立入制限区域内への立入りを制限する管理規則を定めること。

－いかなる場合においても検査室内に磁性体を持ち込まないこと。

－入室する際はMRI用のストレッチャー・点滴台・車椅子を使用すること。

2-3. 管理・運用方法

弊社 MRI システムでは、近年マグネットの性能向上に伴い、1.5T と 3.0T の両方で、液体ヘリウムの減らない、ゼロボイルオフを実現している。
この為、1.5T と 3.0T では、日常の管理・運用方法に関して特に大きな違いは無い。
以下に記すのは、1.5T と 3.0T の両システムにおける、一般的な日常管理での確認項目となる。

2-3-1. 操作卓（オペレーターコンソール）での確認項目

－ファントムを用いたテストスキャン
スキャンが止まらない事、アーチファクトが無い事を確認。
－液体ヘリウムのレベル測定
日々の液体ヘリウムの変化を記録。
ゼロボイルオフシステムを持つ MRI では、液体ヘリウムレベルに変化が無い事を確認、記録。
－チラー（室外機）の遠隔操作パネルにて、エラー表示の有無を確認。

2-3-2. 機械室での確認項目

－冷凍機システム（コンプレッサー）の動作圧を確認
コンプレッサーの圧力計を確認。
－エアコン
冷風が出ている事を確認し、フィルタが汚れている場合は清掃を実施。
－除湿機
電源が入り、稼働している事を確認。

2-3-3. 検査室での確認項目

－冷凍機システム（コールドヘッド）の動作音を確認
コールドヘッドの動作音が一定の周期を保っている事、音の大小が無い事を確認。
－エアコン
冷風が出ている事を確認し、フィルタが汚れている場合は清掃を実施。
－寝台の上下・水平方向への動作確認
ファントムを用いたテストスキャンを行う際、ファントムを乗せた寝台が、
所定の位置にセット出来る事を確認。
－照明の点灯確認
検査室内の照明を確認し、電球切れが無い事を確認。
－周辺機器の動作確認
インジェクター等、周辺機器の動作確認。
－RFコイルの状態確認
RFコイルを主磁場に対して垂直に配置しないこと。
ライトバイザーのレーザー光を見つめないこと

2-4. 導入後の注意点

2-4-1. 停電への備え

MRI は機械室、検査室、操作室すべてに 24 時間通電している。

落雷による突発的な停電や、電気工事等で予定されている、計画停電に備え、

事前に MRI の電源遮断方法と復旧方法を熟知しておく必要がある。

2-4-2. 緊急事態への備え

吸着事故やクエンチ発生を想定し、発生した場合の対応と、院内の連絡体制を、

事前に周知徹底する必要がある。

2-4-3 .データ管理

データの消失を防ぐ為には、撮影した検査画像を、速やかに院内 PACS へ転送する、

または、DVD 等の保存媒体に記録する必要がある。

2-4-4. ウィルス対策

MRI に限らず、院内すべてのコンピュータ端末には、最新のウィルス対策ソフトウェアの

インストール及び更新を行うこと。

また、外付け USB 等の保存メディアも同様にウィルス対策を行うこと。

2-4-5. 検査時の注意点

－検査室のドアが開いた状態で検査を実施しないこと。

－音に対する耳への保護等の手段を講じること。

－コンタクトレンズについて

カラーでは無いコンタクトレンズでも、安全性や画質への影響面から、基本的には外すこと。

－妊婦（胎児を含む）の患者について

胎児に対する安全性が確認されていないため、医師の判断を仰いで検査すること。

特に、器官形成器である妊娠 4 ヶ月までの MRI 検査は控えた方が良い。

－小児の患者について

必要に応じて医師の判断を仰いでから検査を施行すること。

－体内金属のある患者について

MRI 対応の金属である事が確認出来ない場合は、原則禁止となる。

MRI 対応金属か否かの確認は、体内金属製造企業に問い合わせること。

－歯科用インプラントの患者について

MRI 対応のインプラントであるかどうかを確認すること。

確認出来ないようであれば、医師の判断を仰いで施行すること。

また、磁石型のインプラントは、検査を施行する事で、磁石の機能が低下する場合がある。

－化粧について

基本的には、全て落とすこと。特に、目の周囲には注意すること。

－皮膚に貼り付ける貼付薬について

皮膚に貼り付ける物は、発熱、火傷の可能性があるため外すこと。

－頭部検査時の検査着への着替えについて

金属物の吸着や磁気カードのデータ消失等の問題に繋がる可能性があるため、

基本的には、着替えた方がより安全に検査を施行できる。

－入れ墨のある患者について
火傷の危険性がある為、基本的には検査できない。
－体内にシリコンが入っている患者について
問題ない。

注：上記の内容に関して、担当医師が患者への臨床的メリットが、危険性を上回ると判断した場合には、検査を行う事が可能である。

MRI の”ズーム撮像” *syngo* ZOOMit の原理と臨床上のメリットについて

シーメンス・ジャパン株式会社
MR ビジネスマネージメント部
石川 啓介

【はじめに】

シーメンスは北米放射線学会 2011 年大会において、臨床用 MRI 装置に搭載可能な製品としては初となる、関心部位を選択的に励起して画像化するアプリケーション syngo ZOOMit を発表した。これは従来の MRI 撮像の原理から派生する、長い撮像時間の増大や各種アーチファクトによる画質への影響の低下などの、様々な問題を解決する可能性のある新技術である。本稿においては、この関心のある局所を選択的に励起し画像化する syngo ZOOMit の技術原理を解説し、またそれによって可能になる様々な画像上・臨床上のメリットを紹介する。

【局所選択励起の原理】

局所励起の概念図を図 1 に示した。通常は 1 軸方向のグラジエントと RF パルスを用いて行うスライス選択に対して、もう 1 軸方向のグラジエントと RF パルスを加えることによって 2 軸方向からのスライス選択を行い 1)、矩形の領域を励起するというのが、局所励起の基本的な概念である 1)。図 2 には実際の局所励起で印加される RF とグラジエントの一例を示す。一見しても分かるとおり、従来の 1 つの sinc 関数 RF パルスとグラジエントでのスライス選択と比較して、非常に複雑な印加が必要となる。図 2 の最上段は RF の強度を表す。断続的に印加される RF パルスは一つ一つが sinc 関数の形状をしており、これは図 1 の RF1 に該当する。またそれらの RF は強度が段階的に変化しているが、その変化の形状はそれ自体が sinc 関数の形状に類似しており、これは RF2 に相当する。また 3 段目と 4 段目はそれぞれ Gradient1 と Gradient2 に該当する。更に図 2 の 2 段目は RF の位相変化を表している。が、任意の部位を局所的に励起するための位相の操作に加えて、B1 シミングを行うことを目的として 2 つのポートから印加される RF の位相差をコントロールするため、位相もまた複雑に制御されている。なお横軸は時間軸である。結果的に、2 つのポートから印加される RF は強度も位相もそれぞれ独立に制御されて送信されることとなり、このそうした送信方法は特にパラレル送信と呼ばれる。

この局所励起ならびにズーム撮像が行えるを行う syngo ZOOMit は、MAGNETOM 3T MRI（MAGNETOM Skyra、MAGNETOM Prisma）をプラットフォームとしてに搭載が可能であとなっている。MAGNETOM Skyra、Prisma には DirectRF 機構と呼ばれる、従来は機械室にあった送信ユニットと受信ユニットが装置本体のガントリーの中に隣接して搭載されているという、RF 波送信及び RF 受信信号のデジタル制御機構によってシステムが構築されている。こうした複雑な RF のパラレル送信を行うために DirectRF 機構は大きな役割を果たしており、それは受信ユニットから得られた情報をすぐさま送信ユニットにフィードバックすることで送信 RF をリアルタイムに最適にデザインすることもが可能である。ことであり、また送信ユニット・RF ボディコイル・受信ユニット間の制御が極めて高い時間分解能で厳密に行えることである。

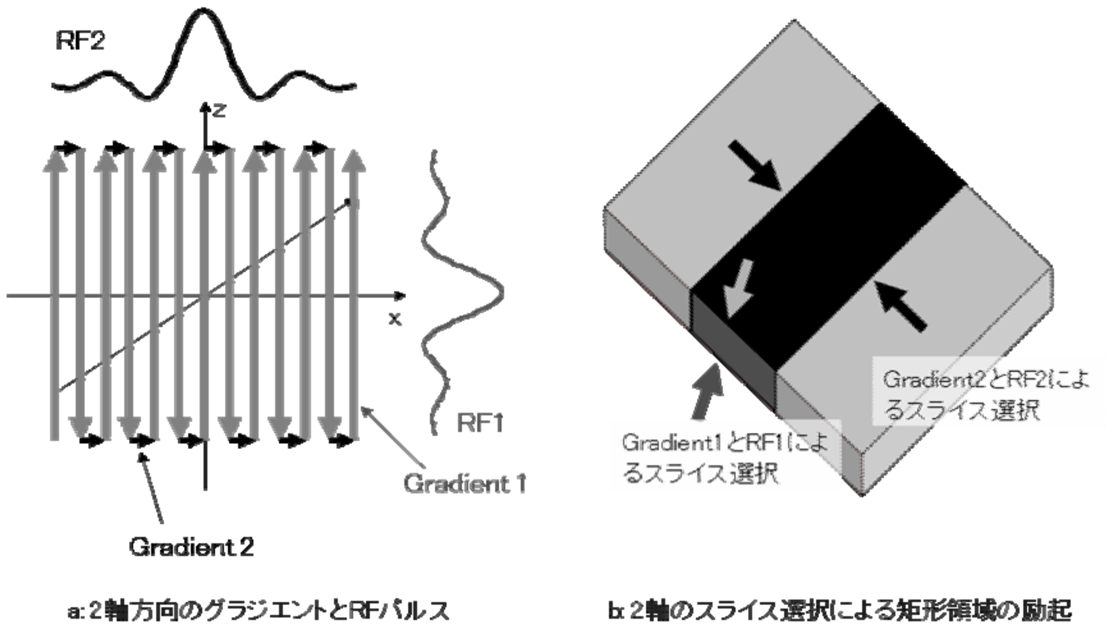


図1 局所励起の基本原理

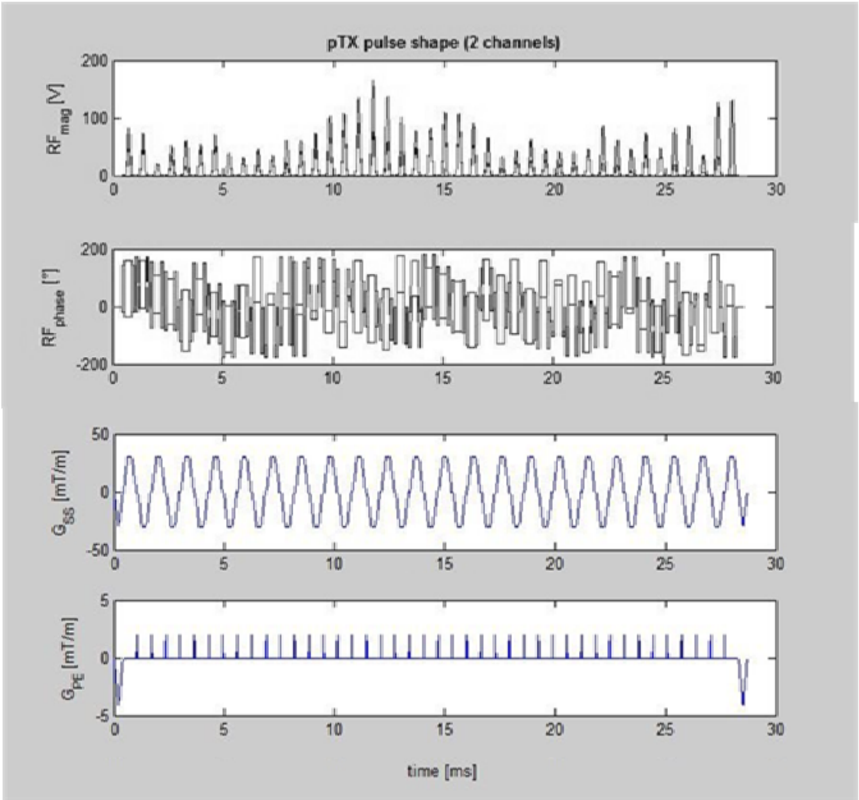


図2: 印加RFとグラジエントの一例

【ズーム撮像のメリット】

高度に制御されたパラレル送信のメリットを活用した syngo ZOOMit による局所励起・ズーム撮像には、次のような利点がある。

･空間分解能の向上：局所励起した体積のみ位相エンコードをすれば良く、従来法と同じマトリクスサイズであれば、空間分解能が向上する。

･スキャン時間の短縮：従来法と同じ空間分解能のためには、位相エンコード数を少なくできる。折りかえりを防ぐための位相エンコードオーバーサンプリングも不要。

･ブラーリングアーチファクトの低減：従来法と同じ空間分解能のためには、エコートレイン数を短くできる。

･モーションアーチファクトやフローアーチファクトの低減：関心領域外を励起しないため、アーチファクトの混入が減る。

･B0 補正：パラレル送信による柔軟な RF 位相制御により、B0 不均一を補正する。

･フォーカス B1 シミング：B1 シムの最適化を局所励起した体積に狙って行えば、精度が向上する。

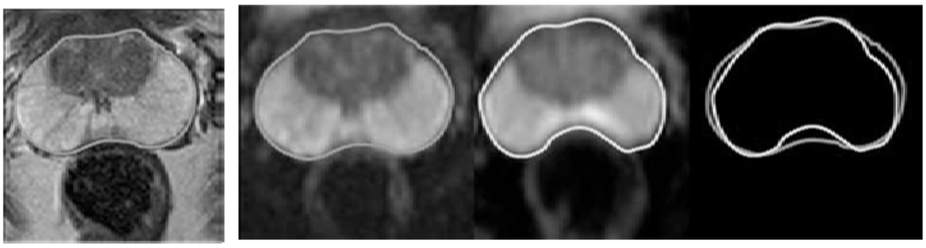
･B1 ミティゲーション：静的な B1 シミングでも解決しきれない B1 不均一を、パラレル送信により改善する。SAR の低減：アーチファクトを防ぐために従来加えられていた SAT パルスが不要となる。

【syngo ZOOMit の撮像機能】

局所励起アプリケーション syngo ZOOMit では、現在は次の 2 種類の撮像方法が可能である。

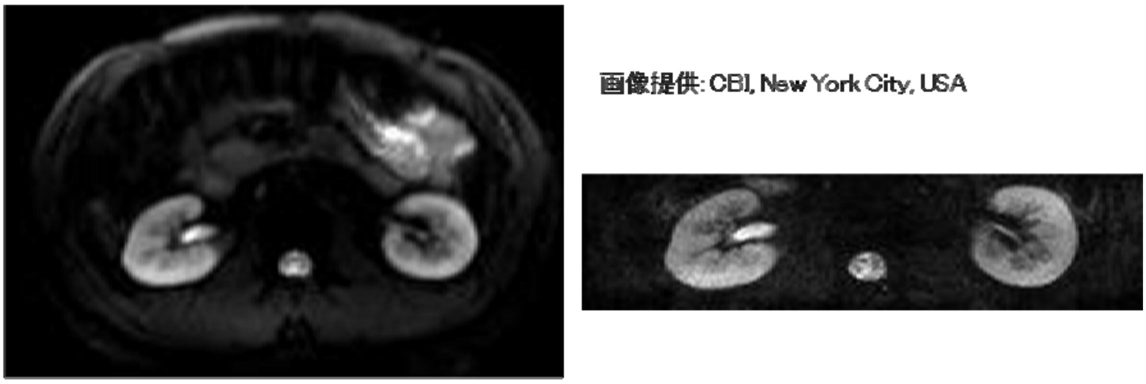
１．１、EPI： 局所励起による撮像によって EPI Diffusion ではデータサンプリング時間を短縮することが可能となり、位相分散が小さくなることでゆがみの少ないが小さい画像を得ることができる。前立腺など、解剖学的画像と拡散強調画像（DWI)を重ね合わせて診断する部位においては、DWI のゆがみが少ない小さくなることで診断能の向上が期待される（図 3)。また、より面内分解能のより高い DWI が可能となり、腎臓では従来法の最適化されたプロトコルに比べて 30%程度空間分解能を上げることが可能である（図 4)。腎臓の場合においては心拍および呼吸のアーチファクトを低減すさせられるメリットもあり、更には画像のブラーリングも低減されている。また脳機能画像（fMRI）ではスライス全体を励起した場合と比べて、賦活領域の信号強度変化増強がより明瞭になる。（図 5）

２．２、3D TSE （syngo SPACE）： syngo ZOOMit では EPI だけでなく解剖学的画像をも撮像できるところが特徴的である。Variable Flip Angle 法による 3D TSE 撮像アプリケーションである syngo SPACE は従来の 3D TSE と比較してより短時間で T2 ブラーリングを抑えた高分解能の 3D 高分解能撮像が可能である。図 6 に示した腰椎の 3D TSE 画撮像では、同一分解能での撮像においてであるが FoV をズームすることにより撮像時間が３分の２2/3 に短縮された。さらに MPR によるコロナル像 MPR を比較すると、ズーム撮像においての方がブラーリングがより小さく高精細な画像が得られていることが分かる。エイリアシング回避のために大きな領域を撮像する必要がなくなるため、ルーチン検査における 3D 撮像の時間が短縮されることはメリットが大きい。関節や骨盤腔では 3D 高分解能撮像のメリットが広く認識されていることから、局所励起の技術により臨床検査において 3D 撮像をより気軽に使用可能となり、3D 撮像の臨床メリットを実際に享受しやすくなることが期待される。また、今後は様々なアプリケーションへの応用が計画されている。



T2WI　DWI with ZOOMit　DWI Conventional　輪郭線の比較

図3: 前立腺DWI例。ZOOMitによるDWIは、形態画像と輪郭線が良く一致している。
一方で従来法では前立腺がんの主な好発部位である辺縁領域で特に歪みが見られる。

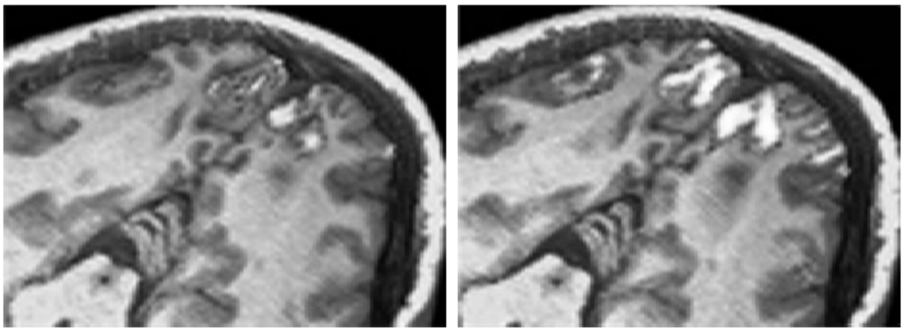


画像提供: CBI, New York City, USA

conventional DWI
面内分解能2.1×2.1 mm

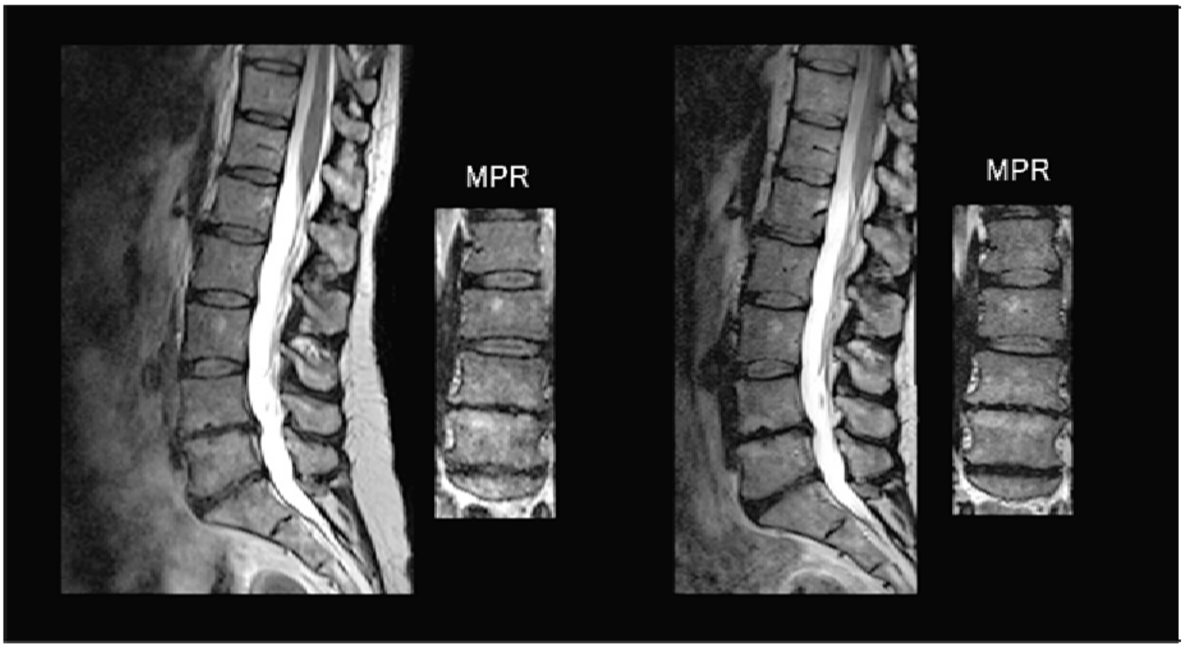
syngo ZOOMit DWI
面内分解能1.4×1.4 mm

図4: 腎臓DWI例。ZOOMitの例では面内分解能が約30%向上している。



conventional　*syngo* ZOOMit

図5: fMRI例。ZOOMitによる例では賦活信号の向上が得られている。



Conventional(撮像時間約6分)　ZOOMit (撮像時間約4分)

図6. 腰椎の *syngo* SPACE(3D TSE)例。撮像時間が3分の2になり、ブラーリングも低減されている。

【おわりに】

シーメンスは他各社に先駆けて、関心領域を選択的に励起し撮像するアプリケーション syngo ZOOMit を製品化し、紹介することができた。この画期的な技術により、従来の MRI 撮像で問題となっていた高空間分解能化に伴う撮像時間の延長や、呼吸やフローアーチファクト、EPI DWIDiffusion でのひずみの問題のなどを低減およびしたり、解決したりすることが可能である。このアプリケーションでは EPI シーケンスに加えてのみならず、syngo SPACE による 3D TSE 撮像によって解剖学的形態画像も得られるところが臨床上重要であり、今後は様々なアプリケーションへの応用が計画されている。こうした仕様上の特長から、中枢神経領域や関節領域、腫瘍学領域を始めとする様々な臨床領域において、より空間分解能高く、よりアーチファクトの小さくより空間分解能の高い、臨床価値の高い画像を提供することが可能になったと考える。今後も様々なイノベーションを通じ、当社は臨床的な付加価値の高い製品を提案し続けたいと考えている。

SIEMENS

シーメンス・ジャパン株式会社
ｻｰﾋﾞｽｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ本部　川崎　亮

【吸着事故レポート】

1. 最近の動向

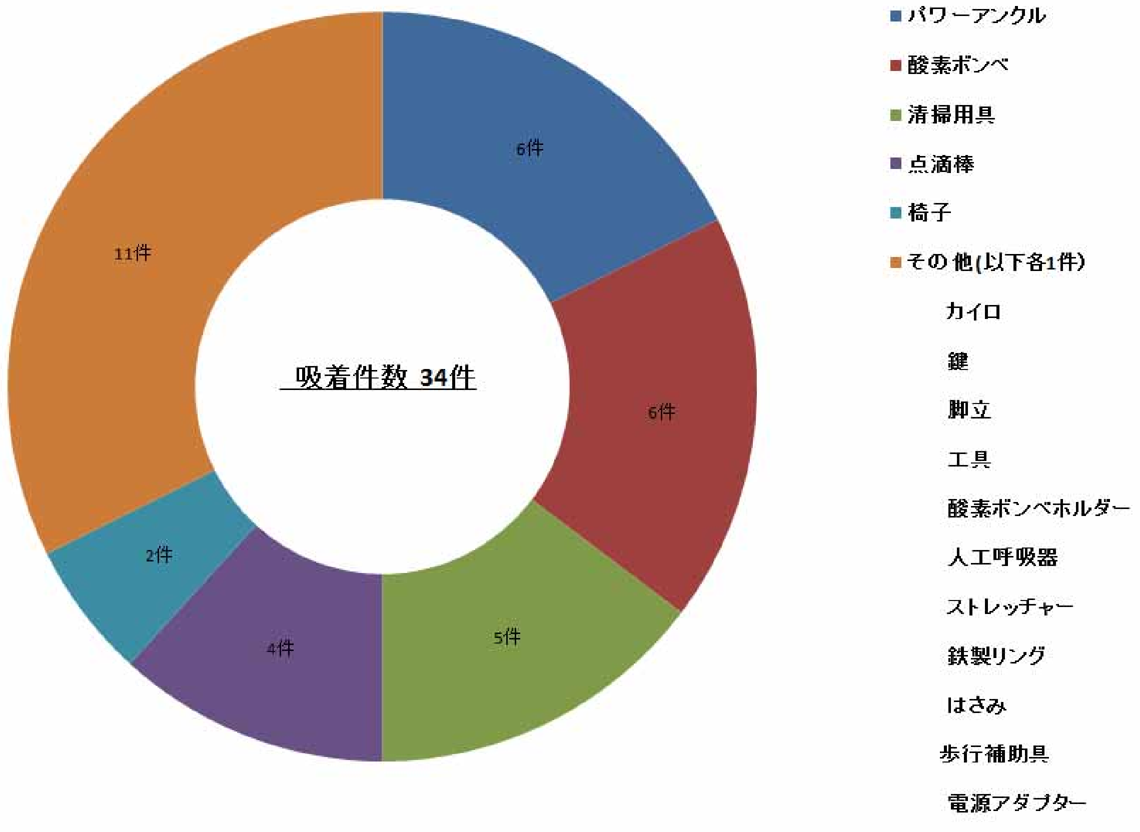
MR 装置使用時の磁性体吸着事故の報告件数は、日本画像医療システム工業会（JIRA）によると 2004 年度には約 45 件程度であった吸着事故が 2011 年度には 200 件を超える件数になり、現在は横ばいの状況です。

一方、シーメンス・ジャパンでは 2013 年に報告を受けている吸着事故の件数は 34 件で、吸着物おおび当事者の内訳はグラフ 1 およびグラフ 2 に示す内容になっております。

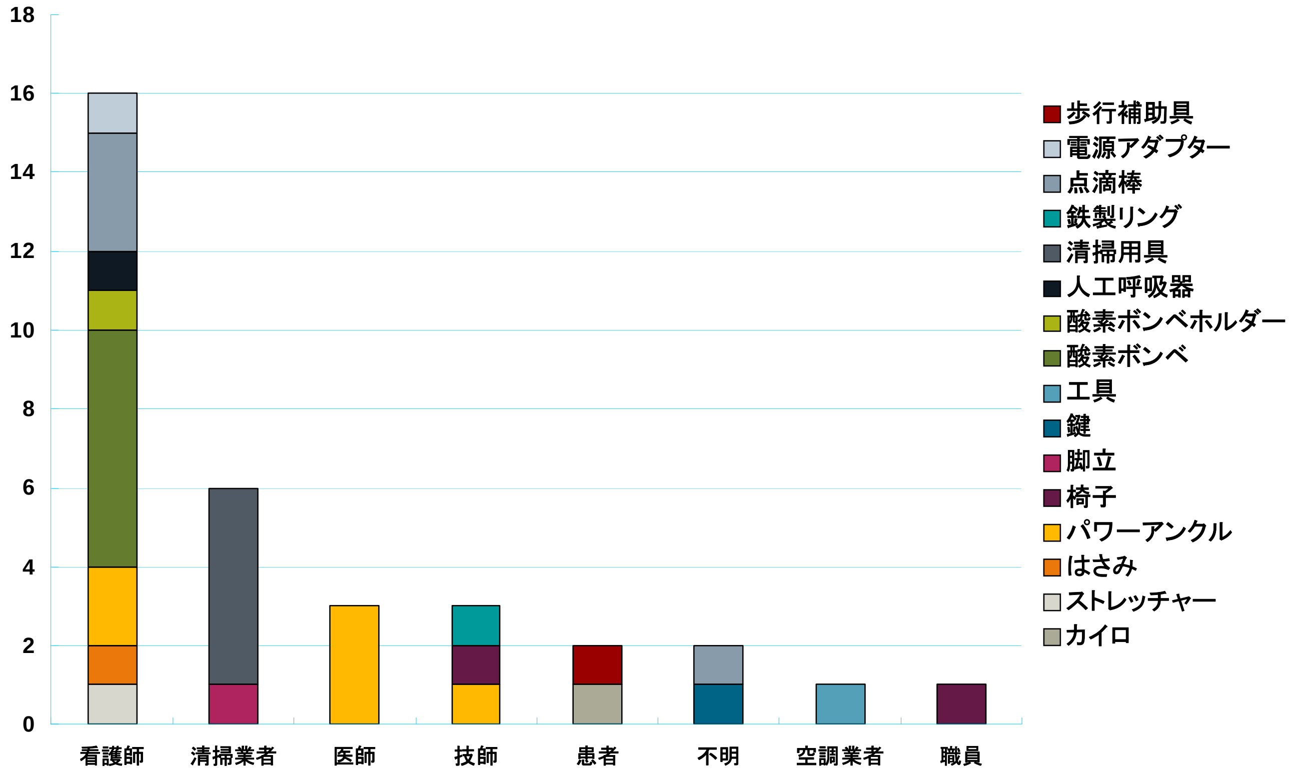
2013 年で特徴的なのは、パワーアンクルの報告が酸素ボンベ、清掃用具と並んで多く、当事者は医師、看護師といった放射線科ではない職員に多くみられます。

また酸素ボンベ、清掃用具の吸着の報告も多く、緊急検査の際や MR 従事者以外の方が MR 検査室に入室される際に吸着事故が発生しています。

さらに最近では、高磁場化（3 テスラ装置）およびショートマグネットタイプの装置が増えており、マグネットの近くで急激に磁場が強くなるため、旧型の 1.5 テスラ装置や低磁場装置になどと比べ MR 検査室内の磁場環境が大きく異なっているのも吸着事故の原因と考えられます。



グラフ 1.　吸着事故の内訳（2013 年シーメンス・ジャパンへの報告分）



グラフ 2.　吸着事故の当事者別吸着物内訳

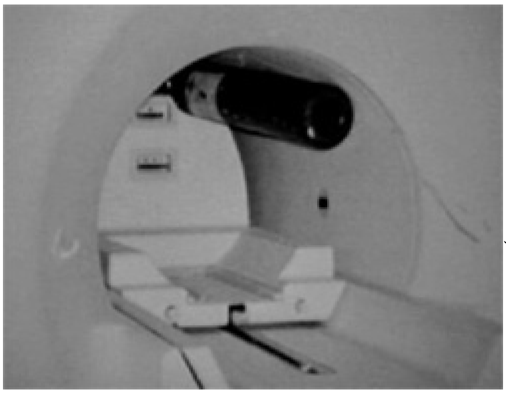
SIEMENS

2. 具体的な重大事故の事例

【日時】2001 年 7 月 31 日

【場所】米国ニューヨーク州ニューヨーク市

【発生場所】Westchester Medical Center



MR 検査を行っていたところ、MR 室内にあった酸素ボンベが MR 装置に引き付けられ、検査を受けていた 6 歳の男児に衝突して死亡した。

【事象】

脳腫瘍の摘出手術を行ったこの 6 歳の男児が、術後の検査のために MR 検査室にいた。 摘出手術は 1 週間ほど前に行われており、MR 検査は術後に行う検査としては一般的なものであった。MR 検査中は、身体が動いてはならないので、この男児には麻酔が与えられ、MR 装置内に横たわっていた。

このとき室内には何らかの理由で持ち込まれ放置されていた酸素ボンベがあり、またこの酸素ボンベが磁性体金属であったために、検査中の MR 装置内の磁石に引きつけられ、装置内にいた男児の頭部を直撃し、この男児は 2 日後に亡くなった。

酸素ボンベは消火器程度の大きさであったが、磁化されたことにより時速 32～48km（20～30mph）で引きつけられたと考えられる。

【経過】

解剖の結果、この男児の死亡原因は鈍器による頭部への損傷、それによる頭蓋骨骨折、および脳内出血であることが判明した。

このような事故が起こった場合、24 時間以内に報告することが義務付けられていたため、 Westchester Medical　Center は State Department of Health（保健省）に事故を報告した。これを受けて事故調査団が派遣され、 この病院および Westchester 地方検察庁も独自の事故調査を開始した。Westchester Medical　Center は事故直後の会見で、この事故の責任が全て病院側にあることを認めた。

【原因】

この事故の原因は検査室にあってはならない金属性の酸素ボンベが持ち込まれていたことである。 MR 装置内には強力な磁石が使用されており、強い磁場を発生させる。磁性体である 金属は MR 装置に引きつけられてしまうので持ち込むことができない。

MR の検査技師は高度な訓練と教育を受けているはずで、検査室内に金属製品が置かれていないことを徹底しなくてはならないが、それが遂行されなかったのが事故の原因と考えられる。

（MRI検査装置に引きつけられた酸素ボンベ（この事例とは無関係）提供：Mariel NessAiver, ph.D

http://www.simplyphysics.com/flying_objects.html#)

3. 吸着事故予防の観点

MR 検査室内に入室する前には金属を含む医療機器等がないか確認を行う事が重要になります。万が一、金属を持ち込むと MR 装置への吸着、故障、破損、火傷等が起こるおそれがあります。

また事故防止にむけ患者はもちろんのこと MR 室に出入りされる全ての方々への注意喚起が吸着事故予防には重要です。

なお、高磁場 MR 装置では重大な事故の可能性がありますので、より注意が必要です。

万が一吸着事故が起こった場合に想定される代表的なリスクとしては下記が挙げられます。

日本画像医療システム工業会（JIRA）HP より引用

想定される代表的なリスクとして

1. 吸着した物体が患者、病院スタッフの方に衝突する事により、死亡事故を含む、人身事故が発生する可能性があります。
2. 吸着事故（物損事故）の際、前後のカバーを始め、MRコイル類（Bodyコイルを含む）の破損が発生する可能性があります。
3. 吸着事故の状況によっては（人身、物損を問わず）磁場消磁、励磁作業が必要となります。
4. 稀に、磁場消磁、励磁作業の際に、液体ヘリウムの異常蒸発（クエンチ）が発生する可能性があります。（状況により液体ヘリウムの緊急補充も必要となります。）

※ 磁場消磁、励磁作業は事故発生より検査可能となるまで、数日を要する場合があります。

※ 吸着事故復旧作業はシーメンス･ジャパンの製品保証及び保守契約の対象外の作業になります。

なお、吸着事故発生時は吸着物を無理に取り除こうとすることで 2 次的な事故の発生の危険もあるので、必ず MR 装置メーカーに連絡をすることが大切です。

人命に関わる場合で急を要する場合は強制的にクエンチさせて、磁場を落とさなければなりません。

関連情報

NPO法人と日本画像医療システム工業会（JIRA）が協力して作成した、吸着事故防止の為のDVDが発売されています。

http://www.jira-net.or.jp/commission/houki_anzen/fr_topics_03_25.html

日本画像医療システム工業会（JIRA）のMR室入出前チェックリスト

http://www.jira-net.or.jp/anzenkanri/02_seizouhanbaigo/02-03.html

２．MRI 対応ペースメーカ・ICD について

BIOTRONIK 社 条件付き MRI 対応植込み型デバイス

～ ペースメーカ / ICD / CRT-D / CRT-P ～

バイオトロニックジャパン株式会社
マーケティング部
小霜　彰

■はじめに

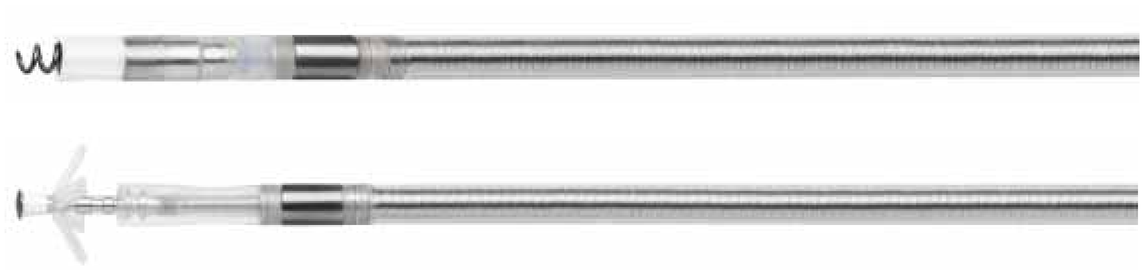
従来、ペースメーカ植込み患者に対する MRI 検査は禁忌であったが、近年の技術革新により MRI 対応製品が開発され、国内においても「条件付き MRI 対応ペースメーカ」が導入されている。現在では、弊社を含む複数のペースメーカ製造販売会社（以下、メーカー）が条件付き MRI 対応ペースメーカを販売しているため、国内における新規ペースメーカ植込み手術においては、条件付き MRI 対応製品が優先的に選択されるようになったといっても過言ではない。そして 2013 年 10 月、弊社はついに国内初の条件付き MRI 対応 ICD（植込み型除細動器）、および CRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）を発売した。更に、2014 年 1 月には、条件付き MRI 対応 CRT-P（両室ペースメーカ）を発売した。

■BIOTRINIK 社 条件付き MRI 対応植込み型デバイスの開発コンセプトについて

2003 年、BIOTRONIK 社は「MRI 対応」のペースメーカ（画像 1）、ICD、CRT-D、CRT-P の開発に着手した。MRI 対応と引き換えに、別の何かを犠牲にしないことを目指し、「これまで通りのデバイス本体とリード」を開発コンセプトとした。具体的には、デバイス本体の大きさ、リードの太さや硬さを犠牲にしない。また製品ポートフォリオにもこだわり、ペースメーカはデュアルチャンバ型とシングルチャンバ型の両タイプを、ペースメーカ用リードについてもスクリュー型とタインド型をラインアップ（画像 2)、更には ICD や CRT-D、そして CRT-P へと MRI 対応デバイスの製品ポートフォリオを拡大することで、循環器医師が「これまで通りの心臓デバイス治療」をできることにこだわった。

画像 1　 BIOTRONIK 社条件付き MRI 対応ペースメーカ「エヴィア Pro シリーズ」

画像 2　BIOTRONIK 社条件付き MRI 対応ペーシングリード「ソリアシリーズ」(6Fr シース対応)



■BIOTRONIK 社 条件付き MRI 対応植込み型デバイスシステムの製品ラインアップについて

2014 年 1 月現在、弊社が国内で販売している条件付き MRI 対応ペースメーカ、ICD、CRT-D、CRT-P と各リードを表 1 に示す。なお、これらの各製品は、弊社が規定する特定の組み合せで接続される必要がある。

表 1

【条件付き MRI 対応ペースメーカシステム】

	対象モデル
ペースメーカ本体	エヴィア DR-T Pro エヴィア SR-T Pro エステラ DR Pro エステラ SR Pro
リード	ソリア JT、ソリア T、ソリア S

【条件付き MRI 対応 ICD システム】

	対象モデル：シングルチャンバーICD DF4
ICD 本体	イレスト 7 VR-T DF4 Pro
右室リード	プロテゴ ProMRI SD 65/18
	対象モデル：シングルチャンバーICD DF-1
ICD 本体	イレスト 7 VR-T DX Pro
右室リード	リノックス スマート ProMRI S DX 65/15
	対象モデル：デュアルチャンバーICD DF4
ICD 本体	イレスト 7 DR-T DF4 Pro
右房リード	ソリア S 45 / ソリア S 53 / ソリア S 60
右室リード	プロテゴ ProMRI SD 65/18
	対象モデル：デュアルチャンバーICD DF-1
ICD 本体	イレスト 7 DR-T Pro
右房リード	ソリア S 45 / ソリア S 53 / ソリア S 60
右室リード	リノックス スマート Smart ProMRI SD 65/18
	リノックス スマート ProMRI S 65

【条件付き MRI 対応 CRT-D システム】

	対象モデル：DF-1
CRT-D 本体	イレスト 7 HF-T Pro
右房リード	ソリア S 45 / ソリア S 53 / ソリア S 60
右室リード	リノックス スマート ProMRI SD 65/18
	リノックス スマート ProMRI S 65
左室リード	コロックス ProMRI OTW 85
	コロックス ProMRI OTW-S 85
	コロックス ProMRI OTW-L 85

【条件付き MRI 対応 CRT-P システム】

	対象モデル
CRT-P 本体	エヴィア HF-T Pro
リード	ソリア JT、ソリア T、ソリア S、コロックス ProMRI OTW シリーズ

■BIOTRONIK 社 条件付き MRI 対応デバイスシステムの撮像可能条件について

現時点において、BIOTRONIK 社の全ての MRI 対応植込み型デバイスは撮像可能条件が共通している。デバイス管理者と MRI 検査関係者のそれぞれが確認、遵守する条件を次に示す。

＜植込み手術前後の担当医 / デバイス管理医師の確認事項＞

・患者の身長が 1.4 メートル以上であること。
・遺残リードやアダプタ類など、MRI 非対応の植え込み機器等が体内にないこと。
・BIOTRONIK 社の条件付き MRI 対応デバイス本体と同リードが、特定の組合せで接続されていること。
・前述したデバイスシステムが胸部に植込まれていること。

＜デバイス管理医師の確認事項（MRI 検査当日）＞

・患者が条件付き MRI 対応デバイス専用の確認カード(ID カード)とデバイス手帳の両方を所持していること。（図 1）
・条件付き MRI 対応デバイスシステムが植込まれてから 6 週間を経過していること。
・MRI 検査前の患者に発熱がないこと。（37.8℃未満）
・MRI 検査前のペーシング閾値が 2.0V（パルス幅 0.4ms）以下であること。（左室を除く）
・MRI 検査前リードインピーダンス値が 200~1,500Ω の範囲内であること。
・十分な残存電池容量があること。
・MRI 検査前に MRI 設定（MRI mode 設定）を行い、検査後に解除すること。

＜MRI 検査関係者の確認事項＞

・1.5T 円筒型ボア装置であること。[1]

・最大傾斜磁場スルーレートが 1 軸あたり 200T/m/s 以下であること。

・局所送受信コイルを使用しないこと。

・一度の MRI 検査におけるスキャンタイムが 30 分以内であること。[2]

・累積スキャンタイムが 10 時間以内であること。[2]

・SAR（比吸収率）が、頭部 3.2W/Kg 以内、全身 2.0W/Kg 以内であること。[3]

・撮像時の体位は仰臥位であること。

・MRI 検査中は、心電図モニター、パルスオキシメーターのいずれか 1 つの機器を用いて患者の心拍を連続的に監視すること。

・近接した部屋に体外式除細動器を備え、必要な時に直ちに使用可能であること。

・アイソセンタへの配置可能領域を遵守すること。（図 2）

■条件付き MRI 対応ペースメーカ、ICD、CRT-D、CRT-P の撮像可能条件と遵守事項とは？

現時点において国内外に存在する全ての MRI 対応ペースメーカ、ICD、CRT-D、CRT-P は、特定の使用条件下では危険のない、「MR Conditional（条件付き MR 対応）」である。当該デバイス植込み患者の MRI 検査は、関連学会[4]が策定した施設基準を満たした医療機関でのみ実施され、かつ実施条件を遵守しなければならない。更に、各メーカーが規定している撮像可能条件を遵守することが求められる。**撮像可能条件は各社各様であるため、患者の安全を確保するためにも関連学会[4]が監修した各メーカーの WEB トレーニングを受講し、修了する必要がある。**各植込み型デバイスの撮像可能条件を正しく理解して遵守することは、MRI 検査関係者にとっては非常にストレスフルなことであり、受け入れ難い点が多い。しかしながら、医師国家試験に頻出されるなど、これまで医療現場では常識だった「MRI 検査は禁忌」のバリアを取り除くのである。そのため、患者のベネフィットと安全確保のために理解と協力をいただけると幸いである。

弊社の条件付き MRI 対応デバイスシステムの場合、現時点において、MRI 検査関係者に遵守いただく撮像可能条件は、デバイスの種類による差はなく同一である。ただし、MRI 検査に伴う患者のリスクを最小化するための遵守事項は、徐脈治療デバイス（ペースメーカ等）と頻脈治療デバイス（ICD 等）では相違があるため後述する。

■条件付き MRI 対応 ICD と CRT-D に限定した遵守事項について

先述したとおり、弊社は 2013 年 10 月、国内初の条件付き MRI 対応 ICD と CRT-D を発売した。徐脈性不整脈を適応疾患とするペースメーカとは異なり、ICD と CRT-D は致死的心室性不整脈等を有する患者に植え込まれるため、心室頻拍や心室細動を自動検出し、電気的除細動や抗頻拍ペーシングによる治療を行う機能を搭載している。そのため、MRI 検査を実施するにはペースメーカ同様、検査前に MRI 設定にプログラムする必要があるが、同時に MRI 検査に伴うオーバーセンシング等による不適切作動（外部ノイズが原因の不適切な電気的除細動や抗頻拍ペーシング）を回避するため、心室頻拍や心室細動の自動検出、および電気的除細動や抗頻拍ペーシング機能は「OFF」になる。即ち、条件付き MRI 対応 ICD と CRT-D については、MRI 設定を行ってから解除するまでの期間において、心室頻拍や心室細動への治療機能が OFF になるために一定のリスクを伴うことになる。そのため、患者の安全

を確保するための方策について、弊社は関連学会[4]に相談し、後述する「遵守事項」を周知することとなった。

■条件付き MRI 対応 ICD と CRT-D 植込み患者の安全確保のための遵守事項

＜MRI 検査に伴う人員配置＞

・循環器医師 1 名と、BLS 以上のトレーニング習得者 1 名以上を必ず配置すること。

＜MRI 検査の事前準備＞

・AED 等、心肺蘇生に必要な体外式除細動器を隣接する部屋（前室や操作室）に用意し、直ちに使用できるように備えること。(注)

・プログラマを立ち上げた状態で隣接する部屋（前室や操作室）に用意し、直ちに使用できるように備えること。

（注）弊社による検証では、プログラマを使用した植込み機器による除細動よりも、AED 等による除細動の方が短時間で行えたため、**緊急時の除細動は、AED 等の体外式除細動器を必ず使用する**こととした。

＜MRI 検査中の患者監視について＞

・MRI 検査中は、原則としてパルスオキシメーターと心電図モニターの両方を用いた心拍の連続監視をすること。

・心電図モニターによる連続監視が行えない場合で、パルスオキシメーターにてパルスレスの状態が確認された場合は、必ず AED 等に搭載されている自動解析機能を使用し、直ちに治療へ移行できるように備えること。

＜MRI mode の設定と解除について＞

・必ず隣接する部屋（前室や操作室）にてプログラム変更を行うこと。

・MRI mode の設定および解除を行う際は、循環器医師 1 名と、BLS 以上のトレーニング習得者 1 名以上が必ず同席すること。

■ 条件付き MRI 対応デバイスの X 線 CT 装置等の留意点

条件付き MRI 対応デバイスは、強磁性体の最小化を始めとする様々な工夫により、特定の条件下における MRI 検査を可能にした。しかしながら、条件付き MRI 対応デバイスは、X 線束を照射する「X 線 CT 装置等」の検査まで可能にした訳ではない。従来の心臓用植込み型デバイス同様、条件付き MRI 対応デバイス植込み患者に対して X 線 CT 装置等を使用した検査を実施する際は、デバイス本体植込み部位に X 線束を 5 秒以上連続照射しないように注意する必要がある。やむを得ずデバイス本体植込み部位付近に X 線束を 5 秒以上連続して照射する検査を実施する場合には、「両腕挙上」をさせるなどして、デバイス本体植込み位置を照射部位から遠ざけることができないか検討していただきたい。

■おわりに

条件付き MRI 対応ペースメーカは国内に導入されて以来、ペースメーカのゴールドスタンダードになったといっても過言ではない。発売して間もない条件付き MRI 対応 ICD、CRT-D および CRT-P についても、ペースメーカ植込み患者よりも低心機能で心房細動のリスクが高い、即ち心原性脳梗塞の発症リスクがより高い患者に植え込まれることが多いことを考えると、ゴールドスタンダードになる可能性が十分あると思われる。

人口 100 万人あたりの MR 装置普及台数が世界トップ[5]の我が国において、この潮流は至極当然であり、MRI 対応植込み型デバイスが今後ますます普及していくことが予想される。

その一方、導入初期である現在、特に MRI 検査関係者において大きな混乱が生じていることは想像に難くない。この混乱を解消する最も良い方法は、各メーカー、ならびに各デバイス間の撮像可能条件が統一されることであろう。メーカー各社は厳しい競争環境下、製品開発にしのぎを削っているが、医療現場の混乱回避は患者の安全確保に繋がるため、弊社としては条件が統一されるようにドイツ本社の製品開発、およびマーケティングチームへのフィードバックを継続し、MRI 検査関係者の混乱とストレスを速やかに解消するよう努める所存である。

（脚注）

1. 静磁場強度1.5Tの装置限定。
2. スキャンタイムとは、RF パルスを印加して撮像を行っている時間。MRI 検査室滞在時間ではない。
3. SAR は通常操作モードの範囲内。
4. 日本医学放射線学会、日本磁気共鳴医学会、日本不整脈学会
5. OECD Health Data 2012

BIOTRONIK 社 MRI 対応製品に関するコールセンター

0120-810-513（24 時間対応※）

※平日の 18 時～翌朝 9 時の時間帯、および土・日・祝日については、
休日・夜間専用のコールセンターにて対応します。

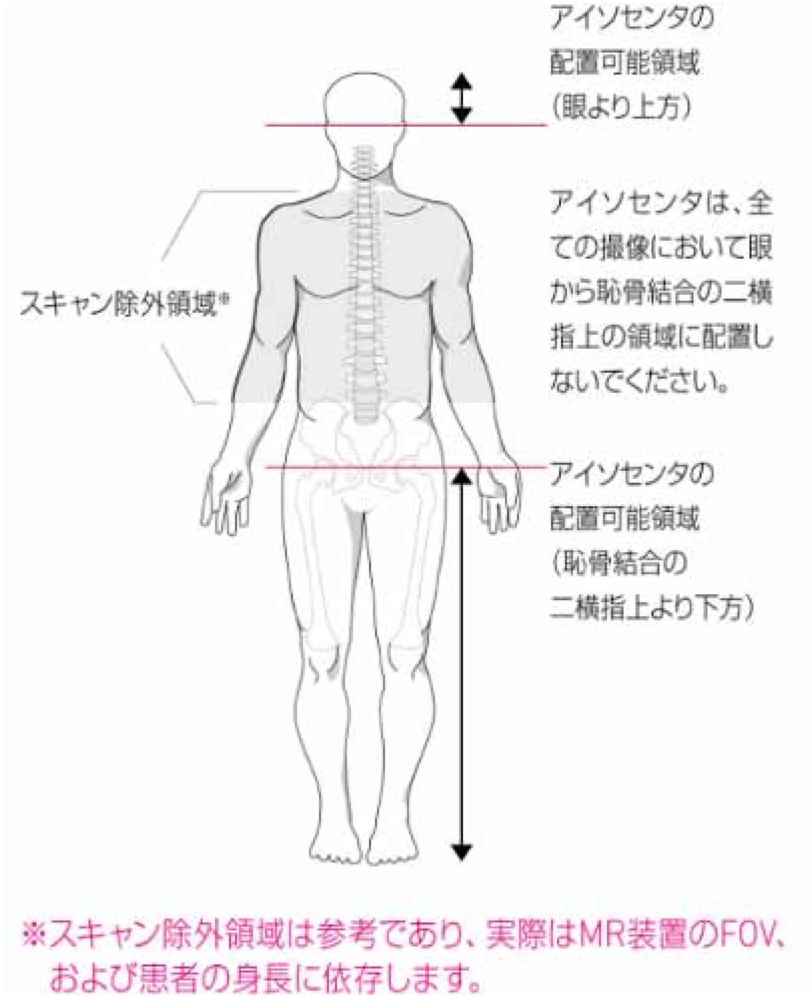
BIOTRONIK 社 MRI 対応デバイスのトレーニングサイト

www.pro-mri.jp

図１　確認カード

デバイス手帳

図２　アイソセンタへの配置領域



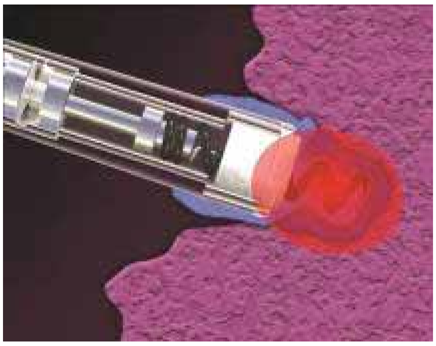
Medtronic 社製条件付き MRI 対応ペーシングシステムについて

日本メドトロニック株式会社　CRDM 事業部　マーケティング部

この度、MRI の全身スキャンを可能としたペースメーカが発売されました。10 年以上に及ぶ研究・開発期間を経て世界で初めてのシステム(SureScan®ペーシングテクノロジー)です。
※SureScan®はメドトロニックの条件付き MRI 対応システムのブランド名です。

従来のペースメーカで MRI 検査を行った場合の危険性

MRI に対応していない従来のペースメーカ患者に MRI 検査を行った場合、下記のようなリスクが挙げられます。



- RF 磁場による電流がリード先端に流れることによる温度上昇
  →閾値の上昇、ペーシング不全、焼灼によるスカー、心筋壊死
- 傾斜磁場と RF 磁場によるノイズが刺激電位となり心臓を刺激
  →心室性不整脈の誘発またはラピッド心房ペーシング
- ノイズをオーバーセンスし、刺激を抑制
  →出力停止、不適切作動、または非同期ペーシング
- リードスイッチ等の磁性体の故障
  →マグネットモードから抜け出せない、プログラマが動作しない
- MRI 実施中に突然リセットが発生し、モードが自動的に切り替わる
  →オーバーセンスの発生
- テレメトリー回路の受信コイルに電流が流れる
  →電池の早期消耗やリセット

Medtronic 社製条件付き MRI 対応ペースメーカ(Advisa MRI)及び、専用の SureScan®リード(Capsure FIX MRI ﾘｰﾄﾞ，Capsure Sense MRI ﾘｰﾄﾞ)は実績と信頼に裏打ちされたメドトロニックのリードとペースメーカのプラットフォームをベースに、磁気共鳴画像法（MRI）検査における安全性確保のために特別に設計されたメドトロニックにおける最先端のペーシングシステムです。本システムにより、患者様はペースメーカ治療を受けながら、MRI 検査が可能となります。Advisa MRI 及び専用の SureScan®リードは世界で唯一 FDA の承認を得ている条件付き MRI 対応ペーシングシステムです。（2013 年 12 月現在）

条件付き MRI 対応ペーシングシステムの特徴（従来製品からの主な変更点）

デバイス設計のソリューション（従来品からの主な変更点）

- 入力回路の最適化
- 相互に干渉しない回路設計
- MRI 検査時の専用ペーシングモードSureScan® の採用

・ Advisa MRI® SureScan®ペーシングシステムは、臨床評価、薬事審査を経て、国内の薬事承認取得を完了しており、MRI 検査条件下で使用した際の、安全性を保証しています。
・ 植込みシステムは、メドトロニック社製Advisa MRI® Model – A3DR01およびCapSureFix MRI® Model 5086MRIリード、CapSureSense MRI®Model 4574/4074 MRIリードに限られます。

多角的な安全設計
・ プログラム上で条件付きMRI対応ペーシングシステムの識別が可能です。
・ バッテリーやリードが正常であることを自動的に確認し、安全性のチェック機能が働きます。
・ SureScan®モードにより、パワーオンリセットへの対策・保護が行われます。

リードの発熱に対するデザイン（5086MRIリード）
・ リードの内部伝導コイルのデザイン変更によりリードの発熱を軽減します。
・ ４本のフィラー（ワイヤ）を２本に変更することでインダクタンスを増加しRFの伝導を妨げ、発熱を抑制します。
・ 材質は従来品*と同一です。
・ Model 5086 MRI リードは2007年2月に植込みが開始して以来、全世界でこれまでに約20万本が販売されています。（2013年12月現在、社内データ）

信頼性の高いプラットフォームをベースにMRI 検査のために設計されたSureScan® MRIリード

CapSureFix MRI®5086 MRIリードは、今日までに世界で100万人を超える患者様に植込まれてCapSureFixシリーズをベースに、MRIの環境下における安全性の確保するために改良設計されたMRI専用リードです。

Capsure Sense MRI® は、7年間で99.4%と優れた長期使用成績を持ち、世界で10年以上にわたり42万本以上使用されているCapsure Senseをベースに開発されたMRI専用タインドリードです。

<u>施設基準：条件付き MRI 対応ペースメーカ患者様に対して MRI 検査を行える施設</u>
（2014/1/8 改訂）
・ 放射線科と循環器内科あるいは心臓血管外科を標榜し、MRI 検査を実施するための四者※が揃っている
・ 条件付き MRI 対応 CIEDs の使用説明書に記載された条件で検査が行えること
・ 磁気共鳴専門技術者あるいはそれに準じる者が配置され、MRI 装置の精度および安全を管理していること

・　CIEDs の十分な診療経験があり、デバイス管理が可能であること
・　関連学会が監修し製造販売会社などが開催（提供）する所定研修を四者が受講していること

※　四者の定義
① 常勤もしくは非常勤の放射線科医師（放射線診断専門医・放射線専門医の資格を有する）
② 常勤の MRI 検査を行う診療放射線技師や臨床検査技師（MRI 専門技術者もしくはそれに準ずる経験を有する）
③ 常勤の循環器医師（植込み型デバイスの十分な診療経験を有する）
④ 常勤の臨床工学技士（植込み型デバイスのプログラミングに精通している）

<u>MRI 検査を行う際の手順とチェック項目</u>

➢　ペースメーカに関する条件

① 患者様の事前確認（スクリーニング）と MRI 検査予約

□患者様の植込みシステムが SureScan®であること

（ペースメーカ本体とリード 2 本全てが SureScan®テクノロジーを採用している事）SureScan®システムの識別には、条件付き MRI 対応カードを使用します。

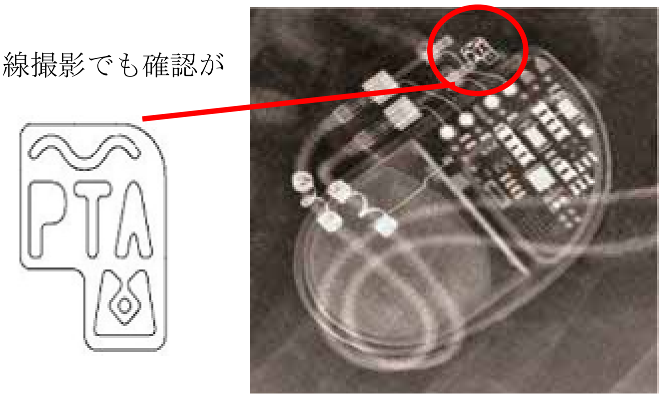
<サンプル>

表

裏

※条件付き MRI 対応カードは、ペーシングシステムが SureScan®システムで構成されていることが確認された場合に発行されます。

※波型の X 線不透過マーカにより、単純 X 線撮影でも確認が可能です（添付写真参照）。



□SureScan®システム以外の MRI 非対応植込み機器（遺残リード含む)、アダプタ、アクセサリ等）を体内に有していないことを確認する

② ペースメーカ管理医師の診察とペースメーカ関連のチェック

・ ペースメーカ植え込み後 6 週間以内でないこと
・ ペースメーカは胸部植込みであること
・ リードインピーダンスが 200Ω以下または 1500Ω以上ではないこと
・ ペーシング閾値が 2.0V/0.4ms 以上ではないこと
・ 5.0V/1.0ms で横隔膜ツイッチングがないこと
・ リード損傷がないこと

③ MRI 検査前のプログラミング

・ ペースメーカ管理医師の指示のもと、ペースメーカの SureScan®モードを ON に設定する

④ MRI 検査に際しての条件

・ MRI 検査は、所定の研修を修了した医療従事者が立ち会う
・ 1.5 テスラ円筒型ボア MRI 装置であること
・ 1 軸あたりの傾斜磁場スルーレートが 200T/m/s 以下
・ SAR（非吸収率）は 2.0W/kg 以下、頭部平均 SAR は 3.2W/kg 未満
・ 心電図、パルス酸素濃度計などによる血行動態モニタリングを行う
・ 側臥位による撮影は禁止
・ 受信コイルの制限はなし
・ 送受信コイルに関しては、ホールボディコイルは制限なし、その他の送受信コイルは投影にペースメーカが被らない事

⑤ MRI 検査後のペースメーカの再設定

・ ペースメーカの SureScan®モードを OFF にし、検査前の設定に戻す

⑥ ペースメーカ関連の最終チェック

・ リードインピーダンスに顕著な変動がないこと
・ ペーシング閾値に顕著な変動がないこと

<u>CT・パルス透視が照射できる X 線装置への対応</u>

条件付きにて MRI 撮像可能なペースメーカの注意点について上記してきたが、CT・パルス透視が照射できる X 線装置への対応は、従来通りの基準での実施に変更なし。

※ <u>厚生労働省からの使用上の注意を添付</u>

<u>X 線 CT 装置等と植込み型心臓ペースメーカ等の相互作用に係る「使用上の注意」</u>

① 植込み型心臓ペースメーカ

本品を植込んだ患者の X 線 CT 検査に際し、本体に X 線束が連続的に照射されるとオーバーセンシングが起こり、本品のペーシング出力が一時的に抑制される場合があるので、本体に X 線束を 5 秒以上照射しないように十分に注意すること(「相互作用」の項参照)

② 植込み型除細動器

本品を植込んだ患者の X 線 CT 検査に際し、本体に X 線束が連続的に照射されるとオーバーセンシングが起こり、適切な治療の一時的な抑制又は不適切な頻拍治療を行う可能性があるので、本体に X 線束を照射しないよう十分注意すること(「相互作用」の項参照)

③ X 線 CT 装置等

植込み型心臓ペースメーカ又は植込み型除細動器の植込み部位に X 線束を連続的に照射する検査を行う場合、これらの機器に不適切な動作が発生する可能性がある検査上やむを得ず、植込み部位に X 線を照射する場合には、植込み型心臓ペースメーカ又は植込み型除細動器の添付文書の「重要な基本的注意事項」の項及び「相互作用」の項等を参照し、適切な処置を行うこと

X 線診断装置等と植込み型心臓ペースメーカ等の相互作用に係る「使用上の注意」

① 植込み型心臓ペースメーカ

本体の植込み部位にパルス状の連続した X 線束が照射されるとオーバーセンシングが起こり、本品のペーシング出力が一時的に抑制される場合があるので、本体の植込み部位に X 線束を照射しないように十分に注意すること(「相互作用」の項参照)

② 植込み型除細動器

本体の植込み部位にパルス状の連続した X 線束が照射されるとオーバーペーシングが起こり、本品が適切な治療の一時的な抑制又は不適切な頻脈治療を行う可能性があるので、本体の植込み部位に X 線束を照射しないよう十分注意すること(「相互作用」の項参照)

③ X 線診断装置等

植込み型心臓ペースメーカ又は植込み型除細動器の本体の植込み部位にパルス状の連続した X 線束を照射する検査を行う場合、これらの機器に不適切な動作が発生する可能性がある。検査や処置上やむを得ず、本体の植込み部位に X 線束を照射する場合には、植込み型心臓ペースメーカ又は植込み型除細動器の添付文書の「重要な基本的注意」の項及び「相互作用」の項等を参照し、適切な処置を行うこと

医政総発 0924 第 3 号　薬食安発 0924 第 5 号　薬食機発 0924 第 4 号　　平成 21 年 9 月 24 日
厚生労働省医政局総務課長　　厚生労働省医薬食品局安全対策課長
厚生労働省医薬食品局審査管理課医療機器審査管理室長

MRI検査条件、SureScan®ページングシステムの使用及びプログラミングに関する指針及び制限事項については、SureScan®専用ウェブサイト（www.mri-surescan.com）を参照、または、メドトロニック社のMRI専用ダイヤル（0120-001-228）までお問い合わせください。

日本メドトロニック株式会社

CRDM 事業部

105-0021 東京都港区東新橋 2-14-1

Tel.03-6430-7021

販売名/医療機器製造販売承認番号
メドトロニックAdvisa MRI/22400BZX00131000
キャプシュアーFIX MRIリード/22400BZX00132000
キャプシュアーSENSE MRIリード/22400BZX00458000

「MRI（Magnetic Resonance Imaging：磁気共鳴画像法）対応のペースメーカについて」

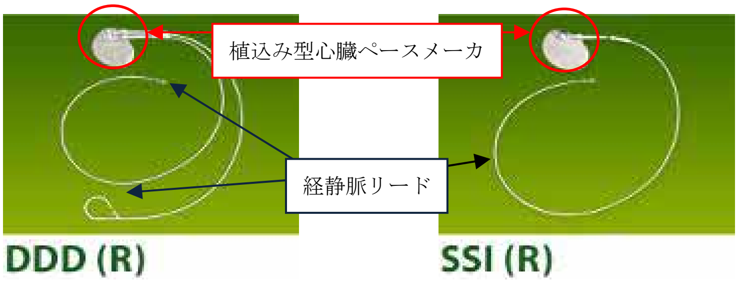
セント・ジュード・メディカル株式会社
フィールド・クリニカル・エンジニア
青木　公也
小西　正人

・はじめに

従来、植込み型心臓ペースメーカでは、MRI 検査は絶対禁忌とされてきましたが、セント・ジュード・メディカル社では、2013 年 7 月から“条件付き MRI 対応”ペースメーカ「アクセント MRI DR RF」、8 月から「アクセント MRI SR RF」「アクセント MRI SR」の販売を開始しました。

本稿では、条件付き MRI 対応ペースメーカ「アクセント MRI」では、どのように MRI 検査を可能としたのか、撮像条件、撮像フローなどをご紹介させていただきたいと思います。

植込み型心臓ペースメーカと経静脈リード

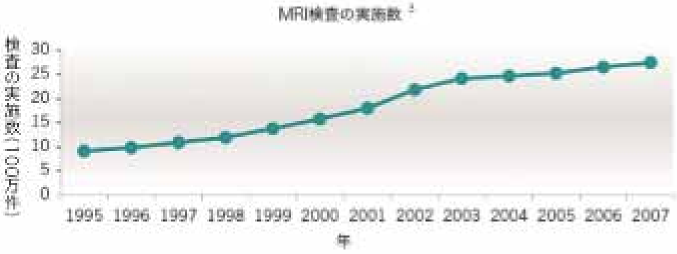


・背景

世界中で毎年 100 万台のペースメーカが植込まれており（日本国内におけるペースメーカ植込み症例数：59,441 例（2012 年度デバイス工業会調べ））、ペースメーカ植込み患者様の 75%が、MRI 検査を受ける可能性があると示唆する発表もみられます [1]。また実際に、ペースメーカ植込み患者様の 17%に対して、12 か月以内に医師が MRI 検査をリクエストしている可能性があります [2]。

・MRI 画像診断の重要性・必要性

MRIイメージング は、高解像度イメージングと低放射線リスクにより、脳卒中・がん・脊椎疾患・神経疾患に対する優れた診断ツールとして、急速に導入され、好んで用いられる診断法となりつつあります。



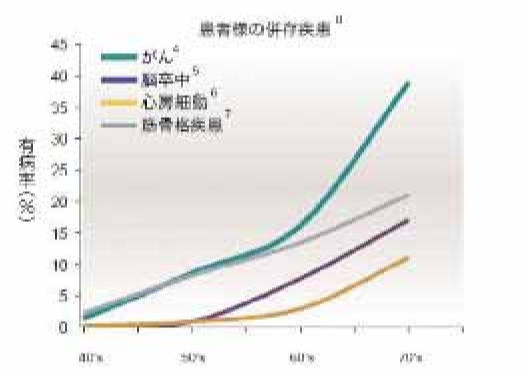
・疾患と MRI

若いペースメーカ植込み患者様は、生涯においてMRIが必要となる可能性が高く、高齢のペースメーカ植込み患者様は、しばしばMRI 検査を要する疾患を併せ持ちます。

✓ がんの77%が55歳以上で診断されます[4]。

✓ 脳卒中の75%が65歳で発生します[5]。

✓ 心房細動は脳卒中のリスクを5倍に高めます[6]。

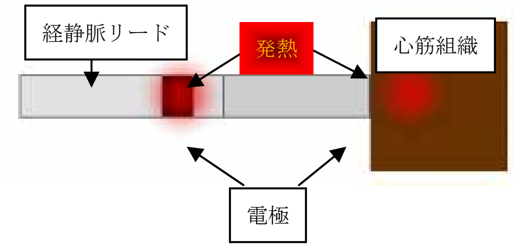


・MRI のペースメーカへの影響

しかし、従来の一般的な植込み型デバイス（ペースメーカ、除細動器、両室ペースメーカなど）が植込まれた患者様のMRI検査は、傾斜磁場やRF（Radio-Frequency：無線周波、ラジオ波）による影響により生じる以下の問題（✔）により禁忌とされてきました。

✓ リードの発熱

リードの発熱による心筋組織を加熱する問題です。これはペーシングリードがアンテナの役目を果たし、照射される電波エネルギーを熱に変えてしまうために発生します。



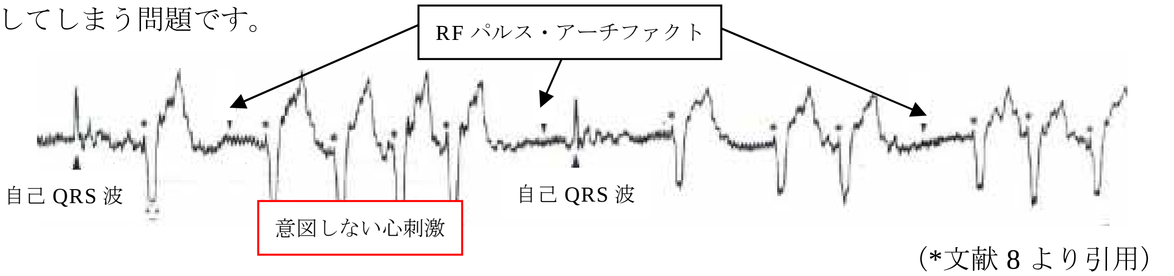
リード内部で発生したエネルギーは接している心筋の抵抗により先端のチップ付近で発生します。この熱により、心筋が加熱され、ペーシング閾値を上昇させることがあります。

MRI 対応のテンドリル MRI リードは、この発熱の問題に対して、リード内部に発熱防止のためのフィルタを設置し、リード内部で発生した熱が電極へ伝わらないようにしています。

✓ **意図しない刺激**

次に意図しない心刺激です。

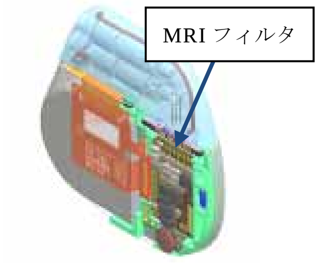
これは決められたペーシングレートでペーシングをするものではなく、突然心筋をキャプチャしてしまう問題です。



（*文献 8 より引用）

なぜこのようなことが起きるのでしょうか？

それは、照射される電波である、RF パルスがペースメーカ回路を通過されることで整流され、それがリードに流れていきます。また、傾斜磁場は強力な磁力により電圧を発生させます。原理は発電機と同じです。これが心臓をキャプチャするのに十分なエネルギーになると意図しないタイミングで心臓を刺激してしまいます。スパイクオンＴなどのようにタイミングが悪ければ、これにより不整脈を誘発してしまいます。



そのため、アクセント MRI には、RF パルスにより発生した電流をリードへ送出されないようにフィルタが設置されました。

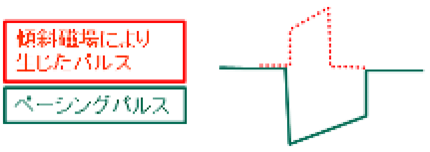
また、傾斜磁場により発生した電流も回路とリードの接続素子のフィルタ特性を変更することにより対応しています。

これにより意図しない心刺激のリスクを回避しています。

✓ **キャンセルパルスによる刺激抑制・オーバーセンシング**

次の問題点は、キャンセルパルスによるペーシング不全です。

傾斜磁場により発生した電流が、通常のペーシングパルスと同じタイミングで起きると、ペーシングパルスを減衰させてしまうことがあります。



そのためアクセント MRI では、この問題を回避する機能として MRI モード時には自動で高い出力に調整されます。

傾斜磁場と RF により、リードに電流が発生すると、ペースメーカが心臓の拍動と勘違いするオーバーセンシングが発生します。オーバーセンシングは、ペーシング抑制や頻拍エピソードの誤検出を引き起こします。

そのため、この問題に対応するため、MRI モードになるとセンシングをしません。VOO などの非同期モードになります。また、MRI モードではマグネットモードもなくなり、診断データの収集なども停止します。

- ✓ **デバイスリセット**

  文献では、MRI 磁場はデバイスリセットを引き起こすリスクがあることが報告されています[9]。そのため、本体の材質は非磁性体であるチタンを採用、さらに MRI モードにすると、通常、毎日行われているエラー修正機能が働き、デバイスを監視します。

  また、もしリセットが起きた場合は、VOO、レート 85ppm、5V、1.0ms の設定になります。

- ✓ **静磁場によるフォース、トルク**

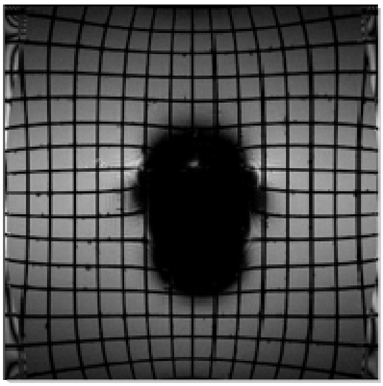
  静磁場による影響として考えられるフォースですが、その問題は実証されていません。ただし、患者様がデバイスが動くことを感じる程度は考えられます。

  トルクに関しても同様で影響を及ぼす問題は報告されていません

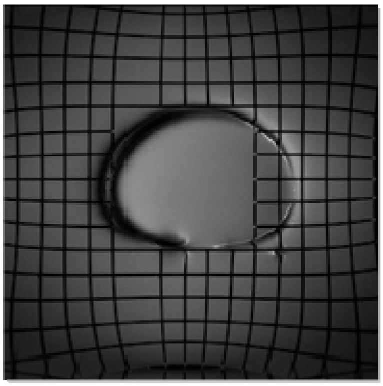
- ✓ **イメージアーチファクト**

  デバイス本体やリードが作るループにおいて、画像の歪みが生じます。

  左側はデバイス本体により画像の歪みが確認できます。また、リードも歪みを発生させていることが分かります。



アクセント MRI



テンドリル MRI

Note: Each square of grid 1 inch or 2.54cm – entire image 40 cm X 40 cm

・セント・ジュード・メディカル社の対策

MRI に対応するために改良された点のまとめです。

リードに発熱防止のためのフィルタを設置することにより、発熱リスクを回避します。

さらに、ペースメーカ本体にフィルタを追加し、意図しない心刺激を回避します。

また、MRI モード時には高出力、非同期モードになることによってキャプチャーロスやオーバーセンシングのリスクを回避します。

ただし、静磁場の影響によりデバイスが動き不快感を覚えたり、撮影された画像か歪むなどの問題はありえます。

・条件付き MRI 対応ペースメーカ「アクセント MRI」紹介

Clear Scan MRI & Full Scan

	PM2224	PM1224	PM1124
チャンバ	デュアル	シングル	シングル
サイズ(mm)H x W x T	53 x 52 x 6	53 x 52 x 6	44 x 52 x 6
重量 (g)	24	24	22
容積 (cc)	13.1	13.1	12
コネクタ規格	IS-1	IS-1	IS-1
理論寿命	9.1(60ppm,DDD 100%pace, 2.5V/0.4ms, 500Ω, SEGMs ON)	13.7(60ppm,VVI 100%pace, 2.5V/0.4ms, 500Ω, SEGMs ON)	14.2(60ppm VVI100%pace, 2.5V/0.4ms, 500Ω, SEGMs ON)
主な機能	Acap confirm, Auto Capture, AF suppression, VIP, Merlin@homeなど	Auto Capture, VIP, Merlin@homeなど	Auto Capture, VIPなど

・撮像条件

MRI撮像条件 ～まとめ～

	AccentMRI
身長	制限なし
ペーシングシステムの組合せ	MRI対応の自社製品のみ
遺残リード、アダプタ等MRI非対応品の体内留置	不可
植込み部位	胸部
「条件付MRI対応ペースメーカが植込まれています」と記されたカード	確認必須(関連学会要件)
植込み経過日数	6週間を経過すること
ペーシング閾値	2.5V(0.5ms)以下(Bipolar)
リードインピーダンス	リードインピーダンスの測定値が、設定したリードインピーダンスの限度値内
電池状態	ERIに入っていないこと
横隔膜刺激	5.0/1.0msでトゥイッチングがないこと
患者体温	制限なし
MRIモード	設定必要
MR装置	1.5Tトンネル型(JIS:Z4952に準拠)
傾斜磁場スルーレート(1軸)	200 T/m/s以下
アイソセンタ配置	制限なし
局所送受信コイル	PMシステムの植え込まれた部位に ローカル送信専用コイル/ローカル送受信コイルを配置しないこと
撮像時間(スキャンタイム)	制限なし
撮像時の体位	仰臥位のみ
SAR(比吸収率)	頭部≦3.2W/Kg、全身≦**4.0**W/Kg
検査中の患者(心拍)監視	パルスオキシメータまたはECGモニタ(関連学会要件)
除細動器の準備	準備必須(関連学会要件)

・施設認定

MRI 対応植込み型デバイス患者の MRI 検査の施設基準として、「放射線科医師と MRI 検査を行う放射線技師、ならびに循環器医師と臨床工学技士は“**所定の研修**”を修了していること」が各学会から求められております。“所定の研修”とは、各デバイスメーカが用意したオンライン・トレーニングを指します。アクセント MRI 撮像のための施設認定を得るためには、以下アドレスから、条件付き MRI 対応ペースメーカのトレーニングサイトにアクセスし、オンライン・トレーニングを受講してください。

セント・ジュード・メディカル社ホームページ ⇒ http://www.sjm.co.jp/

・撮像フロー

MRI 対応植込み型デバイス装着患者の MRI 検査は、以下のフローに従って検査を実施してください。

1. 所定の研修を修了した循環器科医師が MRI 検査の安全性を確認の後、この循環器医師が MRI 検査の依頼を行う。

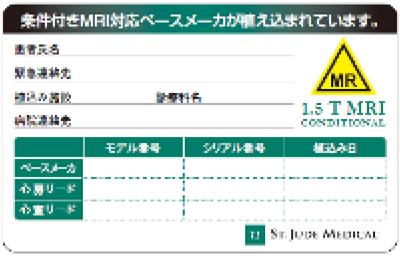
2. 患者は常に「MRI 対応植込み型デバイス」が明示されたカードを携帯し、MRI 検査の際にはペースメーカ手帳などとともに提示しなければ MRI 検査を受けることは出来ない。

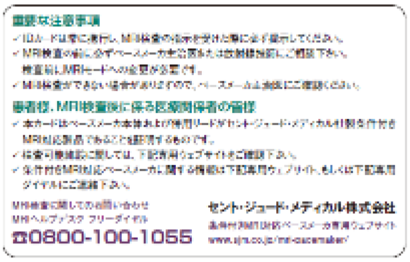
3. MRI 対応植込み型デバイス装着患者の MRI 検査マニュアルと遵守するとともに、MRI 検査依頼時から検査後までのチェックリストに従って検査を行う。MRI 検査直前の最終確認と検査後のデバイスのリプログラミングの確認は循環器科医師が行う。

4. 検査中はパルスオキシメーターあるいは心電図モニターを用いて心拍を連続的に監視する。また近接した部屋に電気的除細動器を備え、必要な時に直ちに使用可能なこと。

5. 不整脈発生など検査中の不測の事態に即座に対応できる循環器医師を含めた体制のあること。

・ペースメーカ手帳と条件付き MRI 対応カード





・参考文献

1. Kalin R and Stanton MS、Current clinical issues for MRI scanning of pacemaker and defibrillator patients. PACE 2005；28:326-8.

2. Strach K et al、Low-field magnetic resonance imaging: increased safety for pacemaker patients? Europace 2010；12:952-60.

3. 2007 MRI Market Summary Report.

4. American Cancer Society.

5. Strokecenter.org

6. 独立危険因子として

7. The burden of musculoskeletal diseases in the United States, http://boneandjointburden.org/.

8. Fontaine JM.,et al, Rapid Ventricular Pacing in a Pacemaker Patient Undergoing Magnetic Resonance Imaging. PACE 1998; 21: 1336-1339.

9. Sierra et al. “Magnetic Resonance Imaging in Patients with Implantable Cardiac Devices”. Reviews in Cardiovascular Medical. Vol 9, No 4, 2008.

X線CT装置等が植込み型心臓ペースメーカ等へ及ぼす影響について

・はじめに

以前から、ペースメーカや植込み型除細動器（ICD）に及ぼすX線CT装置（コンピューター断層撮影法（Computed Tomography）の影響が知られていますが、ここで改めて、その影響についてご紹介させていただきます。

・X線CT検査の影響と対策/措置方法

ア．植込み型心臓ペースメーカ

(a) 影響：オーバーセンシング

X線束が連続的に照射されるCT検査に際し，本体内部のC-MOS回路に影響を与えること等により，オーバーセンシングが起こり，植込み型心臓ペースメーカのペーシングパルス出力が一時的に抑制されることがある。

(b) 対策/措置方法

- ✓ 本体植込み部位にX線束を５秒以上連続照射しないようにすること。
- ✓ やむを得ず，本体植込み部位にX線束を５秒以上連続して照射する検査を実施する場合には，患者に“両腕挙上”をさせる等してペースメーカ位置を照射部分からずらすことができないか検討すること。それでも本体植込み部位にX線束を５秒以上連続的に照射することがさけられない場合には，検査中，競合ペーシングをしない状態で固定ペーシングモードに設定するとともに，脈拍をモニターすること。又は一時的体外ペーシングの準備を行い，使用すること。

イ．植込み型除細動器（ICD）

(a) 影響：オーバーセンシングによる不適切作動

X線束が連続的に照射されるCT検査に際し，本体内部のC-MOS回路に影響を与えること等により，オーバーセンシングが起こり，植込み型除細動器のペーシングパルス出力が一時的に抑制されたり，不適切な頻拍治療を行うことがある。

(b) 対策/措置方法

- ✓ 本体植込み部位にX線束を照射しないようにすること。
- ✓ やむを得ず，本体植込み部位にX線束を照射する検査を実施する場合には，患者に“両腕挙上”をさせる等して除細動器位置を照射部分からずらすことができないか検討すること。それでも本体植込み部位にX線束を照射する場合には，検査中，頻拍検出機能をオフにした後，脈拍をモニターすること。又は一時的体外除細動器や一時的体外ペーシングの準備を行い，使用すること。

・参考資料

医薬品・医療機器等安全性情報　No.221（2006年１月）

平成25年2月22日 Vol.57

医療安全・知恵の輪！

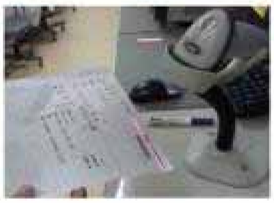
～放射線部門安全編～

松江赤十字病院　石田 知大
TEL 0852-24-2111　E-mail to_pin1414@yahoo.co.jp

平成19年から始まった、松江赤十字新病院建設工事ですが、昨年6月にようやく外来部門及び管理部門が入った本館が開業しました。
さて、ここ数年市内では、「松江おでん」や「全国おでんサミット」という言葉を目にします。市内でそんなにお店がある訳でもないし、おでんと言えば静岡とか姫路また香川のうどん店に多いのに何故？サミットの主催者によると、おでん屋の数が『人口比』でトップクラスだそうです。つまり人口約25万足らずの地方都市ですから、そこそこの店舗数があればそのようになるようです。松江おでんの特徴は、青菜も食べることだそうです。お越しになった際には是非ご賞味ください。

ウチの取り組み！

平成22年3月の新病院部分開業時よりスケジュール表に印字された院内共通の受付番号とバーコードによる患者確認を行っています。
患者さんが部門総合受付でスケジュール表を提示すると事務員は①バーコード（入院患者さんはネームバンドのバーコード）、で受付を行うと共に、お名前を確認し検査室へ案内します。検査室では②受付番号で呼び込みを行い、③患者さんに自らお名前を名乗って頂きます。そして、④スケジュール表のバーコードよりモダリティへ検査情報の登録を行います。
このシステムを始めてからは、基本的に撮影室での患者さんの取り違いは起こっていません。



これから！

当院には救命救急センターがあり、県都松江で唯一3次救急を受け入れています。現在当科には救急撮影認定技師が2名います。昨年は認定者が中心となり支部主催の赤十字救急法競技大会に出場したり、院内ICLSコースのスタッフ参加、及び科員の受講への呼びかけを行いました。今年度は全科員を対象としてG2010に準拠したBLS講習や、当直時を想定して検査中に患者さんが急変した場合の対処法のシミュレーションを企画し、万が一、検査室で急変が起きた場合でも確実に対応できるように訓練していきます。この中でも、医療安全を考慮しながら対応したいと考えています。

医療安全への取組みは、終わりのないものです。
ソフトとハードを上手く咬み合わせながら進めていこうと考えています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療安全課

次は 富山赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年3月1日　Vol.58

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

富山赤十字病院　放射線技術課　氏名　廣瀬　正

TEL　076-433-2222　E-mail　houshasen@toyama-med.jrc.or.jp

あいさつ・・・

当院は、東に立山連峰、西に神通川を望み快適な自然環境の中に立地しています。みなさまに信頼される病院をスローガンに掲げ、地域の中核的医療機関として活躍しています。

また、富山市内で２次救急指定病院に指定されており、当院を含む4施設を市内でほぼ等間隔になるように配置し、救急搬送時間の短縮を目指しています。

ウチの取り組み！

CT及びMRI操作室は読影室と同じ空間（以下、読影室）となるように設計されていますが、平成14年に増築された第２MRI室は別棟にて技師が一人で業務を行っています。この状況でも患者さんの急変時に素早く対応する為に、読影室に緊急用パトライトを設置して医師やスタッフがすぐに駆けつけることができるように工夫してあります。そして、この連携がスムーズに運用される様に医療安全管理者の立ち会いのもとで患者急変時のシミュレーションを行いました。

また、災害時のシステムダウン対応のシミュレーションや新人教育、造影剤によるショックを想定したシミュレーション等も定期的に行っています。

シミュレーションでは当事者が駆けつけたスタッフに指示を出すというシナリオにしましたが、スムーズな連携とは言えず多くの課題を発見しました。今後はスタッフ全員がするべき事を把握して、当事者をサポートできる体制を目指すことが必要だと思いました。

再発防止に向けて！

インシデントを減らすことを目標に、空き時間を利用して部署内でＫＹＴ研修を行いました。

初めて体験する人もいましたが、文字通り「危険予知」能力が身につくことを期待して今後も取り組んで行きたいと思います。

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は　武蔵野赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年3月8日　Vol.59

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

武蔵野赤十字病院　放射線科　櫻井　和明

TEL　0422-32-3111　E-mail　sakukazu@musashino.jrc.or.jp

私たち武蔵野赤十字病院は東京都のほぼ中央に位置する武蔵野市にあります。当院放射線科は平成24年4月現在、放射線技師32名、看護師13名、事務員8名というメンバーで、X線撮影装置6台、CT装置3台、MRI装置2台、透視装置4台、血管造影装置3台、歯科撮影装置1台、パノラマ撮影装置1台、乳房撮影装置1台、骨塩定量装置1台、ポータブル撮影装置5台、核医学装置2台、放射線治療装置1台で業務を行なっています 。

ウチの取り組み！

当課では2008年6月乳腺撮影(マンモグラフィ)装置の更新後、同等機種の装置を使用している他施設へ研修や、当院における勉強会を行い撮影技術の習得・向上に努めていましたが、7ヶ月間で意識消失4件（転倒1件含む）が起きました。このため転倒防止を目的に、医師・看護師（放射線科、外科、健診）・医療安全室・放射線技師のメンバーで「乳腺撮影転倒防止プロジェクト」を結成して活動を行い、2010年『医療と安全と質』学会において発表をしました。
活動内容としては患者状態を把握するため、痛み・食事・体調・不安（病気・痛み）等に関するアンケートを患者200名に行い、また急変時に技師が速やかに救急対応できるよう院内BLS取得の促進と、転倒事故後対策として撮影室床材の変更を関連委員会に提案し、変更しました。患者説明の統一化と不安軽減のため、マンモグラフィ検査の説明用紙を作成し、撮影患者に配布しました。また検査を受ける患者の気持ちを知ることと撮影技術標準化のため、職員による模擬撮影を計画したり、非定期のプロジェクト会議を行い、問題の共有化を図りました。結果、意識消失を起こす患者はいますが転倒事故は今現在まで起きていません。

再発防止に向けて！

放射線科では年1回、業者に協力いただき「造影剤の勉強会」を10年以上続けています。また院内BLS講習を行い放射線技師全員が資格を取得しています。平成24年2月に医療安全管理者の資格を取得し、より一層の活動を行っていきたいとともに、『医療と安全と質』学会での発表も予定しています。

チームワークと情熱のプロ集団として医療安全に取り組んでいただいています。5S活動やQCサークル活動にも熱心です。この写真は血管撮影室です。5Sですっきり使いやすくなりました。これなら医療事故も起こりにくいですね。

医療安全推進室長から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療安全課

次は　日本赤十字社長崎原爆病院 からお知恵拝借！！

平成25年3月15日　Vol.60

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

日本赤十字社長崎原爆病院　放射線科部　酒田　俊介
TEL　085-847-1511　　E-mail　sakata@nagasaki-med.jrc.or.jp

長崎原爆病院は360床、中核病院として地域医療へ貢献しています。
地域並びに被爆者の皆様へ良質な医療の提供を目指しています。

長崎では今年も中国色豊かな灯の祭典『2013長崎ランタンフェスティバル』が開かれました。
期間中は、長崎新地中華街はもとより、市内中心部に、約1万5千個にも及ぶランタン（中国提灯）が飾られ、各会場には、大型オブジェが所狭しと飾られます。機会があればぜひお越し下さい。

造影剤の副作用再発防止にむけて

当院では副作用が出た場合は、造影剤副作用カードを放射線科医師に記入してもらうことと、技師としては毎回確認出来るようにRIS上のメッセージで日にち・症状・造影剤の種類を記すようにしています。メッセージが記入されていると青色のアイコンがピンク色に変化するため、目に付きやすくなっています。また、造影剤副作用というチェック欄があり、チェックを入れることによりオーダーを開くと注意メッセージが毎回自動で出てくるようになっています。このような取り組みにより、造影剤による副作用の見落とし防止に役立っています。
検査の前に患者さんの前回の状況や副作用時の症状から放射線科医と検査方法について話し合っています。
患者さんに安全な検査を提供しながら、スムーズに検査が進むように心がけています。

ローテションで仕事をする中で、インシデント・アクシデントが起こった場合は、報告し、どのような状態で起こったのかをスタッフで話し合い、次に起こらないように情報を共有する場を設けています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療安全課

次は　日本赤十字社長崎原爆諫早病院 からお知恵拝借！！

平成25年3月22日　Vol.61

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

古河赤十字病院　放射線技術課 染谷　欣美

TEL 0280-23-7111　E-mail info@koga.jrc.or.jp

あいさつ ・・・

当院は関東平野のほぼ真ん中に位置し10月には毎年「関東ドマンナカ祭り」が開催され大勢の人で賑わっています。北には日光連山、東に筑波山、南に富士山が見え自然豊かで、東京へも電車で1時間と交通の便も良い所です。2010年に新病院が完成し日赤病院初のオール電化病院となりました。

古河の桃祭り

ウチの取り組み！

当院では未だＨＩＳ、ＲＩＳが構築されていないため患者情報は手入力でした。しかし当然の如く入力ミスが多く画像が電子カルテに反映されないと言う事態が多く起こりました。そのため撮影件数の多い一般撮影に関してはバーコードリーダーを導入し入力ミスを減らす事が出来ました。
またＭＲＩ検査についてはチェックリストで確認を行い原則的に検査部位を問わず、すべて検査着に着替えていただいています。これにより、うっかり持ち込み事故の防止策になっています。
さらに一昨年に発生した東日本大震災で得た教訓を生かし、課内のモニター-のすべてを固定することで、落下防止、またそれによる怪我防止、破損防止になっています。固定器具は100円ショップで購入したもので、安価で効果大です。

再発防止に向けて！

患者さんの間違え防止策として、必ずご本人にお名前と生年月日を言っていただき、本人を確認してから検査を行う様にしています。
また来月の新人研修の中では、昨年に引き続き、ＭＲＩについての安全講習会を行う予定です。

昨年4月より小児科が再開され、それまで以上に目配り、気配りが必要となりました。今後も、事故防止に向けて取り組んで行きたいと思っています。

係長から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 長野赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年3月29日 Vol.62

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

日本赤十字社長崎原爆諫早病院　放射線科　大町　繁美

TEL 0957-27-2122　E-mail ohmachi@isahaya.jrc.or.jp

あいさつ ・・・

長崎原爆諫早病院は平成17年4月1日に県立病院の移譲を受けて諫早市多良見町に開院しました。日赤病院のなかでは病床数140床の小規模病院で、
呼吸器科、消化器科、循環器科、放射線科の内科系疾患を中心とした病院です。
長崎県央・県南地域の被爆者医療、赤十字病院としての地域医療への貢献、
二次救急輪番病院としての救急医療への貢献、結核入院施設としての政策医療の継承、
人間ドックを主体とした健診事業の展開などを基本方針として診療を行っています。
技師4名で日常業務、奇数日と土日祭日の拘束・オンコール業務を行い、地域に密着した救急医療を行っています。
近くにはサッカーJ2に昇格したV・ファーレン長崎の事務所・ホームスタジアムがあります。
応援をお願いします
写真は玄関前の桜並木です。3月中旬ぐらいからきれいに咲いてきます。

ウ チ の 取 り 組 み ！

この知恵の輪でも患者誤認を防ぐためのいろいろな取り組みが紹介されました。
当院でも「患者確認の徹底」、「院内ラウンドによるKY（危険予知）活動」、「５S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動など安全環境提供のために職員一同取り組んでいます。また事故発生時のシミュレーションを行い、想定、対応訓練することにより問題点を把握し、体制の見直しをしてます。
3月11日、東日本大震災より2年が過ぎました。まだまだ難題が続きますが、被曝を経験した長崎県から微力ながら応援してます。当院では患者さんの被曝量を減らすべく、胸部CTの経過観察の線量を初診時の半分にして被曝量軽減に努めています。

再 発 防 止 に 向 け て ！

3月13、14、15日に病院機能評価Ver6.0の審査を受けました。半年前から各資料の点検もでき、業務マニュアル、画像検査の手順が再確認できました。

「心のゆとり」がほしいなという事で、放射線科受付前の水槽にはグッピーとめだかが泳いでいます。隣のコップには生まれたばかりの赤ちゃんめだかも泳いでいます。
患者さんも待ち時間に見に来て楽しんで帰られます。

4月は長崎港まつりがあります。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療安全課

次は 長浜赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年　4月　5日　　Vol.63

医療安全･知恵の輪！

～放射線部門安全編～

長浜赤十字病院　所属 放射線科部　氏名 勝間　明
TEL　0749-63-2111　E-mail　nrchr@nagahama.jrc.or.jp

ご挨拶・・・

当院は琵琶湖の東北、長浜市の市街地にあり、隣接する八幡神宮の緑に囲まれ、文化遺産である曳山や大通寺、長浜城歴史博物館、黒壁ガラス館でも有名な所であります。 また、病室からは伊吹山をはじめ四季おりおりの美しい山々を一望のうちに眺めることができる落ち着いた療養環境を有しています。

長浜城歴史博物館

黒壁ガラス館　　長浜曳山祭り

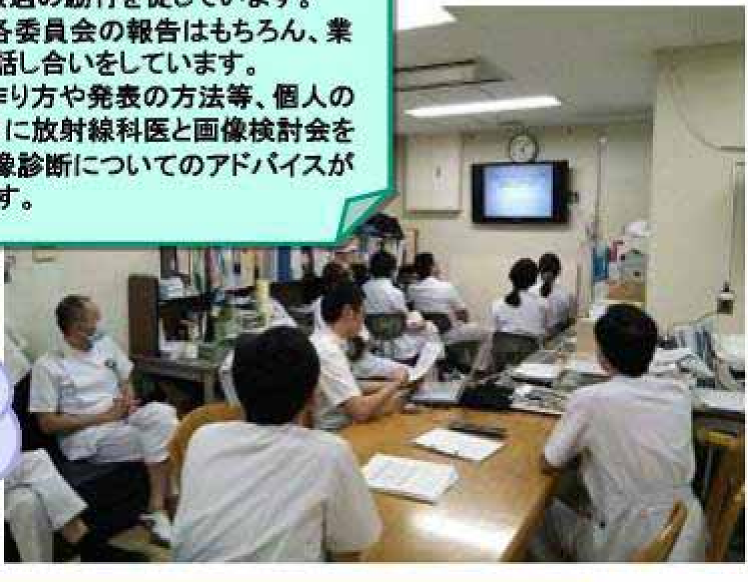
再発防止に向けて！

医療安全のため
患者確認は検査指示票を出して、名前（フルネーム）生年月日を本人に名乗ってもらい、検査部位（左右）と名前の漢字確認まで行っています。
また、ＣＴ・ＭＲや他の造影検査では問診票・同意書はもちろん、腎機能・血液データは必ず取り、検査や造影剤の副作用についての説明を口頭にて患者さんに説明し用紙を渡して理解を得ています。

現在、立体駐車場を含めた改築工事中です

ウチの取り組み！

朝のミーティングでは連絡事項と患者さんへの接遇の励行を促しています。
毎月、定例会議を診療終了後に行い、各部署･各委員会の報告はもちろん、業務改善に向けての検討事項についても遅くまで話し合いをしています。
さらに同時に2例の勉強会をもうけ、スライドの作り方や発表の方法等、個人のスキルを高めるようにしています。 また、別の日に放射線科医と画像検討会を行い、第3次救急病院として医師や看護師に画像診断についてのアドバイスが出来るよう読影補助能力の向上をはかっています。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　名古屋第一赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年4月12日　Vol.64

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

名古屋第二赤十字病院　所属 放射線科 氏名 猪岡 由行
TEL 052-832-1121　E-mail ioka@nagoya2.jrc.or.jp

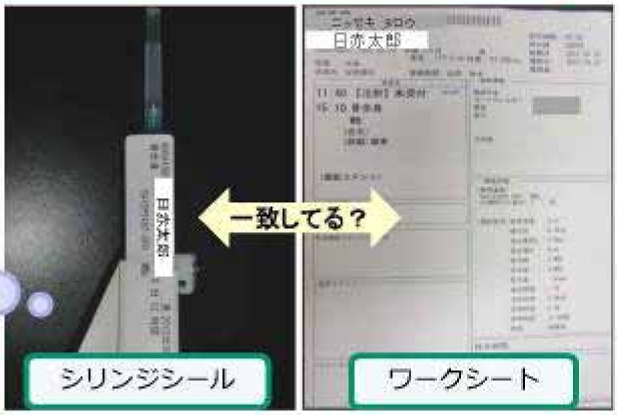
あいさつ ・・・

名古屋第二赤十字病院は愛知県名古屋市東部丘陵地帯に位置し、病床数812床の病院です。なお同院は昭和区八事にあることから「八事日赤」の名称で親しまれています。病院へは地下鉄名城線「八事日赤」駅のコンコースからエレベータで直結されており気象条件に左右されることなく来院いただけます。

ウチの取り組み！

核医学検査室で行っている放射性医薬品誤投与防止の取り組みについて紹介します。RI投与前に患者様に対してワークシートとシリンジシールの一致(名前、ID、検査名、投与量)を医師と放射線技師とで確認します。またシリンジシールを患者様に見せながら名前を名乗って頂きます。名乗れない患者様に対してはネームバンドによる確認を医師と放射線技師とで行っています。RI投与後は速やかに使用済みRIシリンジ、ワークシート、シリンジシール等を片付け、注射用ワゴン上は常に次の患者様の準備のみとなるように周知徹底しました。

放射線科医師以外のRI注射に不慣れな医師もRI検査室に来ます。放射線技師は注射の介助に必ずしも付けるとは限りません。そこでRI注射のマニュアルを作成し、RI注射前に一読して頂くよう薦めています。



再発防止に向けて！

当科では侵襲的な検査、治療の際にタイムアウトを導入して誤認事故防止に努めています。タイムアウトとはご存じのとおりその検査、治療に携わる全ての職員と患者様とで患者様名及び検査内容、治療部位の確認をする作業です。

また非侵襲的な検査ではワークシートを患者様に見せながら名前を名乗って頂いています。その際検査部位、内容の確認も併せて行っています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

次は 芳賀赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年4月26日 Vol.65

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

函館赤十字病院 放射線科部　　中村 ひろみ

TEL 0138-51-5315

函館は北海道南部に位置する港湾と観光の街です。「ミシュラングリーンガイド」でも三ツ星に輝いた函館山からの夜景はことのほか美しく、津軽海峡に浮かぶ漁火がそれに花を添えます。平成27年度には新幹線の乗り入れも予定されていますので「北の玄関口、函館」へ機会があればぜひ一度お立ち寄りください。

ウ チ の 取 り 組 み ！

院内では医療安全部会が毎月開催され、インシデント報告、症例検討を行って各部署での情報の共有、再発防止に努めています。部のミーティングにおいてはハット・ヒヤリ報告を実践することでニアミスに対する問題点を抽出し出来るだけの対策をとるようにしています。近年の報告内容ではRIS（未対応装置含）への手入力時の誤入力と、画像サーバへの転送内容ミスが大部分を占めており、ヒューマンエラーと分析されるものが多いので個人の気合い9割と環境改善1割で克服しようと日々奮闘しています。

再 発 防 止 に 向 け て ！

以前にMRで酸素ボンベ吸着のトラブルを経験しました。「まさかウチで!!」、その時の光景と押せども引けどもビクともしなかったボンベの感触は今も鮮明に記憶に残っています。
そこで再発防止策ですが、①酸素ボンベのMR対応品化、②備品のMR対応品であることの明示化、③MR用ストレッチャー、車いすの持ち出しの禁止、以上の徹底により再発防止に努めています。

医療安全への取り組みは「正確な情報を共有したうえで、意見を出し合い解決を探る」を念頭に取り組んでいます。終わることのない取り組みだと思いますので、地味ですが継続性を持って取り組んでいきたいと思っています❤

担当　中村から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

次は　秦野赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年5月10日　Vol.66

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

秦野赤十字病院　湯山浩司
TEL 0463-81-3721

秦野赤十字病院は、神奈川県中西部の秦野市にあります。東京・横浜・湘南海岸や箱根まで車では１時間位の所です。
市の面積の半分は山林で、丹沢の登山口。週末の朝になると前は、登山客でにぎわいます。
また、「秦野」という名前の小惑星もあります。

ウチの取り組み！

当院では、2002年の移設時からＲＩＳを使用しています。
このＲＩＳの機能の一つに、ＨＩＳからのコメントの他に、検査毎と患者毎の2種類のコメント書き込み機能があります。これを使い、検査の注意事項や禁忌事項、患者様への注意事項を伝言として科内で情報共有できるようになりました。
具体的には、アルコール綿・造影剤の使用が出来ない方・ペースメーカーを挿入されている方・検査内容の指示・予約時間に遅れてくる連絡まで、一度ＲＩＳに記録すれば、受付や他の技師にも情報が伝達できるようになっています。救急室からの優先度の高い緊急検査の場合や複数の検査室で検査をされる患者様の連絡や難聴の方・外国人の方・名前を呼んでも答えてもらえないときなどにも役立っています。ＲＩＳやＣＲコンソールのＰＣから情報の入力が可能です。

再発防止に向けて！

ＲＩＳの導入によりＣＴ・ＭＲＩ・血管撮影・Ｘ線ＴＶなどで患者氏名・ＩＤの手入力が自動化された為、誤字入力が無くなりました。ＰＡＣＳ内で画像が行方不明になることもありません。
また、患者取り違え防止対策として、入室後、患者様のファイルとＲＩＳ画面を照合し、患者様には、お名前と検査部位を確認するようにしています。

都心から近く、登山のコースが多い丹沢は、上級者から初心者まで楽しめる山です。家族でハイキングやキャンプにも、４月５月は、良い季節です。新緑の丹沢をおススメします。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

次は 八戸赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年5月17日　Vol.67

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

八戸赤十字病院　放射線技術課　松倉　裕次

TEL　0178-27-3111　E-mail　730co001@hachinohe.jrc.or.jp

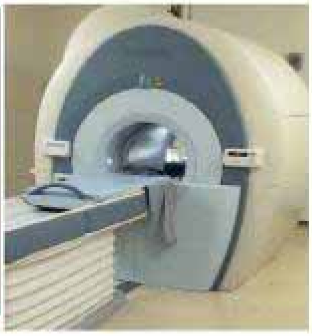
当院は病床数434床、診療科24科で、人口24万人の地方都市八戸市の西地区に位置し、JR八戸駅から車で5分の所にあります。技師は17名で、平均年齢32歳と非常に若くてピチピチしてます。

八戸は、夏は偏東風（ヤマセ）の影響を受け冷涼（最近はそうでもないですが）、冬は晴天が多く乾燥しています。ですから冬は非常に寒く、氷都八戸と呼ばれスケートやアイスホッケーが盛んな街です。

ウチの取り組み！

当院にてMRI検査室入室手前で「ペースメーカ挿入しています」と患者さんから申告され、難を逃れた事例がありました。

このため医療安全管理委員会の協力により、「MRI検査室チェックリスト」を作成し、外来・入院全てについて検査前の看護師の確認・サイン、検査時の技師の確認・サインをするダブルチェックで運用しています。



再発防止に向けて！

さらなる安全確立のため放射線技術課内での取り組みとして、わかりやすいイラストのついたチェックリストで入室直前に最終確認することにしました。

右図のようなイラストのついたチェックリストを用い、入室直前に最終確認するよう掲示し、周知しています。

ここ八戸はB1グランプリ発祥の地であり、北九州大会において念願の1位を獲得しました。せんべい汁とは、肉、魚、野菜、茸などのダシ汁に、鍋用のせんべいを割り入れ、煮込んで食べます。せんべいの硬さは好みにもよりますが、私のおすすめはアルデンテ状態です。皆様も機会があったら是非ご賞味ください。

課長（兄貴と呼ばれている）から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　浜松赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年5月24日　Vol.68

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

名古屋第一赤十字病院　放射線診断科部　大西　勝治　高橋　徳史

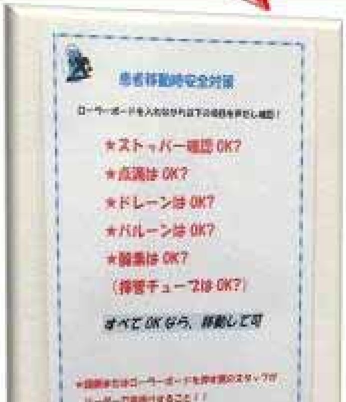
TEL　052-481-5111　E-mail　x-ray@nagoya-1st.jrc.or.jp

　名古屋第一赤十字病院は、名古屋市中村区に位置しており名古屋市営地下鉄駅と直結した８５２床の病院です。平成２５年３月、新たにバースセンター及び緩和ケアセンターが竣工しました。放射線部門では、同時期に最新のＤｕａｌ　ＣＴが稼働を開始します。
　地元では『中村日赤』の名で親しまれ、名古屋市西部と愛知県尾張地区をカバーする基幹病院として今後も発展し続けます！

３月竣工バースセンター外観

ウ チ の 取 り 組 み ！

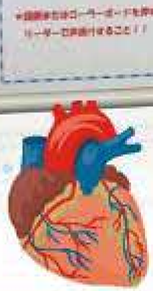
　検査室にベッドで入室する患者を検査台に移動させる際には、ローラーボードを使用します。実際の患者移動時に、輸液ルートやドレーンチューブをボードに巻き込み抜去してしまうトラブルが、放射線部門をはじめ様々な部署で発生してしまいました。
　安全意識の徹底と安全行動の実行を確認するために、放射線担当の看護師さんと協同で**写真**のような啓発ポスターを作り、検査室内に掲示しました。検査実施や介護の際には、必ず**複数人**で患者さんに対応することを原則とし、目視だけでなく、声出し・指差し確認のうえで行動するようにしました。検査数も多く、担当者には負担をかけてしまいますが、安全確保が第一です。
　安全確認は、**目視・発声・指差し**が非常に大切です。列車の車掌さんと同じですね！



ＭＲ検査を安全に実施する

　昨年秋には、当院循環器内科でもMRI対応ペースメーカーの埋め込みが始まり、絶対禁忌という『常識』が一部変わりつつあります。MR検査の現場では、患者さんはもちろん我々医療者側の勘違いやうっかりからも、トラブル・事故が発生しやすいのではないでしょうか。
　検査当日は、訪れた患者さんに待ち時間を利用してMR検査の内容と禁忌事項を確認できる、平易な内容の説明書を作成しお渡ししています。それにより、患者さん自身のみならず検査実施者や介護者も確認するようにして、起こりうるトラブルを未然に防止すべく努めています。

放射線部門では、新しい検査機器や造影剤等の最新情報があれば、定期的に開くミーティングや院内情報システムのメール機能を利用し、スタッフの専門知識を充実させて、患者サービス向上を目指しています。



知識・技術の向上と安全の徹底は医療サービスの要

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

次は　引佐赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療事業部 医療安全課

平成25年5月31日　Vol.69

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

浜松赤十字病院　放射線画像診断課　猿田　忠司

TEL　053－401-1111　E-mail　radiol-th@hamamatsu.jrc.or.jp

あいさつ　・・・当院のある浜松市は浜松餃子が有名で、餃子消費量2年連続日本一を達成しました。また、GWには凧揚げ合戦で知られる浜松祭りが行われ、市内ではラッパの音が鳴り、人出も多く見られます。
　浜松赤十字病院は2007年11月に、現在の浜北区に新築移転をしました。移転時のバタバタから気付けばすでに、5年半が過ぎました。今後も地域の中核病院として、住民の皆様の信頼に応えられるよう日々頑張っていきます。

ウ チ の 取 り 組 み ！

　当院では、頭部MRIについては夜間・休日問わず検査を行っています（頭部以外は担当者呼び出し対応）。時間外の検査は、普段MRIに携わらない放射線技師、看護師で行われます。
　このような状況下でも、当然事故を起こしてはなりません。そこで放射線技師以外の職種、主に看護師向けの研修会をMR担当者が開催しています。昨年度から始めたばかりですが、入室時の注意点やMR室に持ち込めないものの解説など、基礎的なことについて30分程度の研修を行いました。
　幸いにも当院ではMR室での吸着など大きな事故は発生していませんので、今後もこのような取り組みを行い、事故の起こらない体制作りをしていきたいと考えています。

事 故 防 止 に 向 け て ！

　当院ではMRI検査時の体内金属や装着品（補聴器等）のチェックを以下の順序で行っています。
　①医師がオーダ入力の際、ペースメーカ・体内金属の有無にチェックを入れる。
　②オーダ入力後、MRI問診票が印刷される。看護師がこの問診票に沿って装着品など詳細な項目をチェックする。
　③撮影前に放射線技師が、再度問診票で体内・体外金属のチェックを行なう。
　上記のように３回に渡ってチェックを行い、体内金属や装着品の見落としをしないように努めています。

　当課にも4月に新人技師が入職しました。撮影技術の継承はもちろんのこと、医療安全に関することも一緒に再確認していきたいと思います。

担当　猿田から一言

医療事業部 医療課

次は　姫路赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年6月7日　Vol.70

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

姫路赤十字病院　放射線技術部　畑中 宏基
TEL　079-294-2251　E-mail　kinkixp@hrc.hp.com

5月11日に第5回一病院フェスタを開催しました。放射線技術部では、「シルエットクイズ、何が写ってるんでしょうか？」と題してCTやMRIで撮影した果物や魚の名前を当てていただくブースを手作りしました。各部門で趣向を凝らしたブースを開き、多くの皆様に参加いただき大盛況でした。
　来年のNHK大河ドラマに姫路出身の「黒田官兵衛」が決まりました。来年度(H27年3月)には姫路城の平成の大天守保存修理も終了し、優美な姿がご覧頂けると思います。姫路にいらっしゃる時には、ぜひ姫路日赤にもお立ち寄りください。

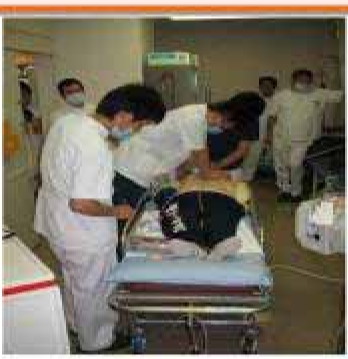
ウ チ の 取 り 組 み ！

造影剤の重篤な副作用の適切な対応が出来るように、医療安全講習会として「コードブルーシミュレーション」を行いました。前回のCTに続き、行動制限のかかるMRI室で実施しました。

医 療 安 全 に 向 け て ！

――肝臓MRI検査中、造影剤注入後患者が気分不良を訴え、担当技師・看護師が応対中に意識消失。
重篤な造影剤の副作用と思われ緊急コールを鳴らす――

麻酔科医師立会いのもと、看護師1名・技師3名・医師1名で放射線技術部造影検査(副作用)対応マニュアルに沿ったコードブルーシミュレーションを行い、その後反省会を実施しました。実際、今まで重篤な副作用が表れることはなかった為、少し忘れかけていた対応マニュアルを再認識することができました。参加者からは「MRI検査室で起こった患者の急変時の対応を理解することができ、大変勉強になった。」との意見が多くよせられ、好評でした。



（MRI準備室での心肺蘇生）

（コードブルーシミュレーション後の反省会）

本番さながらのシミュレーションです。今後はMRIだけでなくあらゆる部門で定期的に行う予定です。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 広島原爆赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年6月14日　Vol.71

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

引佐赤十字病院　放射線技術課　神谷守孝

TEL　053-542-0115　E-mail　info@inasa.jrc.or.jp

浜松市の最西端・浜名湖の北岸の明光風靡な場所に当院はあります。平成23年度に赤十字初？の全病床を、一般病床から療養病床に転換しました。最初は入院患者様も少なく、“大丈夫かな～”と心配しましたが、今は病床稼働94%と療養型の病院として地域に定着しています！

ウチの取り組み！

当院では地域性により、ご高齢の患者さまが多くいらっしゃいます。

そのため、撮影の際には撮影室への入室、撮影台への移動、撮影中の体位変換、退室等は常に患者さまから目を離さず、転倒等が起きないよう特に気を配っています。

また、放射線技師が１名しか居ないため、介助が必要な患者さまには必ず外来の看護師が付き添い、転倒や落下等の事故が起こらないよう注意して対応しています。

さらに、患者さま１人１人に必ず声をかけ、症状の確認等を徹底して行うことにより、伝票の記入ミスや患者さまの人違い等の撮影ミスを防いでいます。

MRIやCTといった検査においては、造影剤使用への問診票、体内金属等の問診票により医師と技師とで確認をして、安全に検査できるよう対応しています。

再発防止に向けて！

忙しくて気持ちにゆとりがないときや、仕事に慣れが生まれたとき等は、基本的な事がついつい忘れがちになってしまいます。その為、常に患者さまの立場に立って行動できるよう周知徹底し、心のゆとりを持って働ける職場づくりを大切にしていきたいです。
今後、益々高齢化が進んでいきますが、こういった小さな事の積み重ねが医療の安全につながっていくと思います。

療養病床に転換後は放射線技師１名でがんばっています。“１人しかいないから”という言い訳が通じる世界でないので、事故が起きないよう気を張っています！

放射線技師から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 福岡赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年6月21日　Vol.72

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

福岡赤十字病院　放射線科部　八波　誠一

TEL　092-521-1211　E-mail　housyasen@fukuoka-med.jrc.or.jp

福岡タワー
セタイルミネーション

食べ物もうまかよ～！

福岡赤十字病院は150万都市福岡市のほぼ中心部に位置し、博多駅からもバスで10分程度の距離で交通の便も非常に良い場所にあります。
当院は①24時間の救急体制（1次救急から3次救急まで）②災害対策拠点病院としての施設整備③健康管理のための健康管理センターの充実 を旗印に掲げ、2013年3月に511床（感染症病床2床含む）の規模にて新病院をグランドオープンしました。 新病院は、ICU・CCU・ECU・HCUを1フロアに集約し、ヘリポートも完備しています。放射線科においても、救急専用の撮影室・CT室を確保しています。また、健康管理センターには専用の胸部撮影室・マンモ撮影室・透視室を設置したことで、完結型のセンターとなりました。現在、放射線科職員は医師5名・診療放射線技師24名・看護師14名（内視鏡兼務）・受付4名で構成されています。

博多祇園山笠

博多もんは祭りが好いとーと！

ウ チ の 取 り 組 み ！

PACSが導入され3年が経過しました。当初は検像システムが十分に生かされず、左右反転像を送信してしまうなどのアクシデントが起こっていました。これを踏まえ、メーカーと共に検像（QA）システムの改善に取り組んできました。検像時、画像を確認する際のQAシステム画面上に患者名・撮影部位・反転マーク（画像が左右反転しているか）を表示させています。検像した画像は、未検像から検像済へと表示が変わる様にし、検像の見落としを無くしています。また画像を編集した場合も、未編集から編集済へと表示が変わる様にしています。この作業を1日4回程度（約2時間おき）責任者（主に技師長）が確認し、チェックシートにて確認した時間と氏名を記入する様にしています。今後は、依頼コメントや撮影コメントが表示されるようにしたいと思っています。

マークにてP⇒A方向で撮影した事が確認できる

内臓反転の患者

QA画面にて撮影部位、撮影方向、氏名、性別、年齢等の確認を行う

検像後は、未検像から検像済に表示が変わる

再発防止に向けて！

MRI検査に於いては、昨年、補聴器・時計・万歩計などの持ち込みによるアクシデントが数件起こり、従来からの問診・説明書・口頭でのチェックでは不十分と考えました。そこで、これまでの問診・説明書記入の他にまず病棟・外来から案内する際、医師か看護師にMRI室配布のチェック用の絵（図）を参照に患者さんの金属等の有無を確認してもらいます。次にMRI前室で担当の看護師が再度チェック、最後に検査室に入る直前に担当の放射線技師が専用のチェック表で1項目ずつチェックし、最終確認を行い確認者のサインをしてから検査室内に案内する様にしました。何重ものチェックは、患者さんにとって負担かと思っていますが、事故防止のためにご協力をお願いしています。

病棟用、MRI検査前チェック用の絵（図）

最終的なチェックシートMRI担当の、放射線技師が記入

今後新病院建築を検討されている方は、後で後悔しないよう複数人で会合へ積極的に参加し、毎回詳細な記録を取り、保存した方が良いかと…
（経過の資料は書面で残す事が大事です！！）
良い設計は良い医療安全にも通じると思います

新しか病院は気持ちよかば～い！

次は　福島赤十字病院 からお知恵拝借！！

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

平成25年6月28日　Vol.73

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

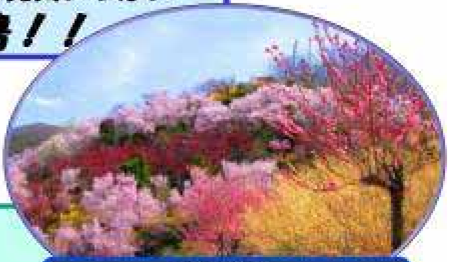
福島赤十字病院　放射線科部　三次　鏡太

TEL　024-534-6101

あいさつ ・・・

こんにちは!!当院は福島県福島市の中心地にあり、福島県県北地域の災害拠点病院として日夜活動しています。最近では、厚生労働大臣より救急車搬送件数が地域で最も多かったということで、表彰を受けました。近くには花見山や信夫山など、景色がとてもきれいなところや、飯坂温泉や土湯温泉といった観光地も近く環境にも恵まれています。

一昨年の原発事故で心配して下さった方も多いと思いますが、今は元気いっぱい毎日笑顔でがんばっています！　***がんばっぺ！福島！！***



花見山

ウチの取り組み！

当院では、
一昨年の福島原発の事故による放射能汚染・放射能被ばくの影響から、翌年の４月よりホールボディカウンタでの内部被ばくの検査を始めました。始めは影響の大きいと思われる小児と妊婦を対象とし、その後は少しずつ対象を広げていきました。

検査は立位式で、一人ずつ２分間の測定を行っています。日頃は２分間なんてほんの短い時間のように思いますが、実際に検査を行ってみると、ただ立っているというのはストレスも多く、とても長い時間のように感じます。

そのため、子供が検査する際はアンパンマンの曲を流しながら検査を行ったり、なるべく声をかけながら検査を行っています。

平成29年度には新病院が完成予定で、職員一同モチベーションを上げて取り組んでいます。
震災の影響はまだまだ消えませんが、これからも前向きにこれからも頑張っていきます。

放射線科一同

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　舞鶴赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年7月5日　Vol.74

丹後とり貝

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

舞鶴赤十字病院　放射線科　氏名　上田　一樹
℡　0773-75-4175　E-mail　x-ray@maizuruh.jrc.or.jp

岩牡蠣

あいさつ ・・・

京都の北部、鶴が羽を広げて降りた形の舞鶴湾を望むこの地は、細川幽斎の建てた田辺城の城下町「西舞鶴」と、日本で唯一の保安学校・海上自衛隊・造船の中、舞鶴・岸壁の母で有名な引き上げ桟橋を持つ「東舞鶴」、合わせて８６，０００人の街であります。昭和２８年の開院から、６０周年の今年回復期リハビリテーションに特化すべく、東館の増設工事も始まり、より一層地域に貢献出来る病院にと全職員取り組んでいます。

旬の魚介類も美味是非ともご賞味ください。

ウチの取り組み！

放射線防護の３原則。距離・時間・遮蔽。誰もが知ってる！
でも、内視鏡カメラの長さは決まってる（距離）。手技は複雑になり、時間は延びるばかり（時間）。じゃ今必要なのは、遮蔽でしょ。って事でかぶせてみました。ERCP専用防護カーテン、遮蔽率90%の優れもの。
医療従事者の安全（被爆の低減）も、守って行きましょう。

ちょっと使える小物！

当院ではＴＫＡ前検査（膝関節計測撮影）に１００mmのポイントマーカーを使用しております。通常テープにより固定していましたが、時折マーカーの落下で再撮が必要になっていました。再撮防止に、こんなものを作ってみました（右写真）。コンデジ用三脚を利用し、マーカーの保持台を制作しました。高さ調整も自在に出来て、便利です。特許は申請しておりませんので、皆様の施設でも御利用下さい。

９月１日より、新しい電子カルテシステムが稼働しオーダリングがスタートします！ペーパーレス運用になり環境がかなり変化しますので、事故が起きないよう本人確認・指示確認を再度徹底し、放射線業務（医療安全）に取り組みたいと思います。

技術係長　畑中　秀典

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　益田赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年　7月　12 日　Vol. 75

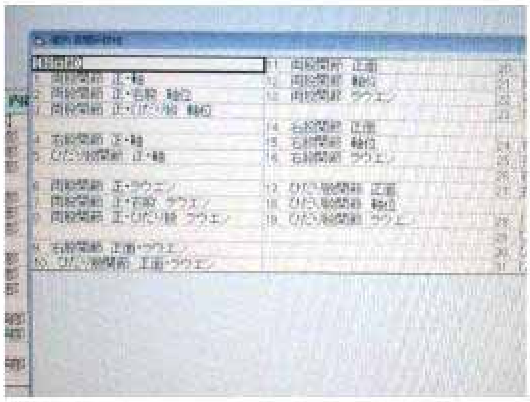
医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

広島赤十字・原爆病院　中央放射線科　山根　健二

TEL　082-241-3111

ご挨拶・・・
広島赤十字・原爆病院は広島市の中心部にあり、原爆ドームから1.6km離れた場所に位置しています。病床数598床、技師数は29人です。
広島のご当地グルメといえばお好み焼きです。先日『ミシュランガイド広島版』が発行され、病院の近くにあるお好み焼屋も紹介されていました。広島に来られた時は、探してみてください。

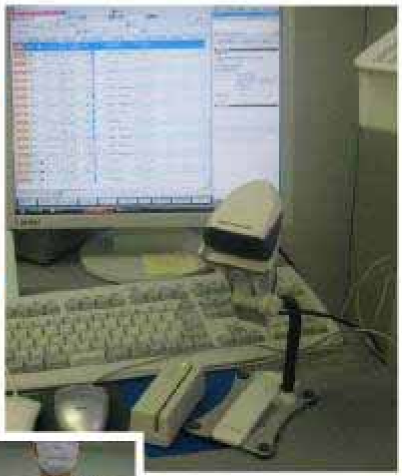


ウチの取り組み！

医師が検査オーダを出す画面にひと工夫をしています。『左』を『ひだり』で表現しました。
神戸赤十字病院さんもRISで同様の工夫をされてましたが、当院では電子カルテで行うことで、一画面に似た字が並ぶこと避け、『左』『右』を間違えるミスを少しでも防止できればと思っています。

再発防止に向けて！

以前は、当院でも検査時の患者間違えは時々起きていました。
3年前にRISを導入し、入室時に氏名を名乗って頂くことに加え、患者本人が持参した診察券（IDカード）を利用して、検査リストより患者を選択することで、現在では患者間違えはなくなりました。



なにか工夫出来ることがないか、キョロキョロしながら仕事してます。

診察券と私

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　松山赤十字病院からお知恵拝借！！

平成25年7月19日　Vol.76

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

松山赤十字病院　中央放射線室　高本 研二

TEL 089-924-1111

あいさつ ・・・

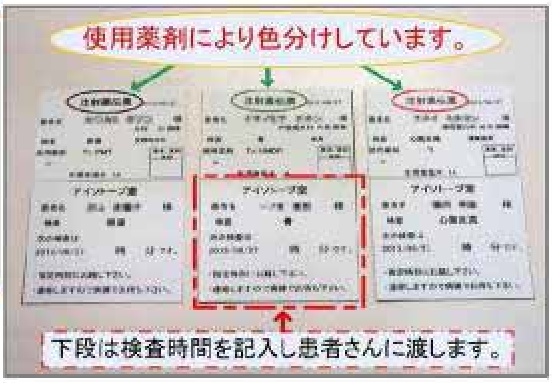
松山赤十字病院は四国の左上、愛媛県松山市にあります。文豪・夏目漱石が小説「坊ちゃん」の中で「温泉だけは立派なものだ」と絶賛している道後温泉の近くです。しかし、松山は「温泉だけ・・・」じゃありません。宇和海から瀬戸内の美味しい魚、果物、そしてお酒といろいろあります。みなさん、これらを堪能してみませんか。ぜひ松山に「おいでなもし！」

ウ チ の 取 り 組 み ！

放射線科では、患者さんから診察券受け取り、姓名・生年月日を言ってもらい本人確認をします。また、ＲＩＳの登録は必ずカードリーダーで診察券を読むことにしています。原則、診察券を用いることで、マウス操作やキー入力操作によるヒューマンエラーを無くすようにしています。
病院全体で患者さんの本人確認のために姓名・生年月日を言っていただくことが、職員だけでなく患者さんにも浸透してきたようです。以前は怪訝な顔をされる方も多くいたのですが、今では反応も良く、スムーズな流れで聞くことが出来ています。

再発防止に向けて！

ＲＩ室では、検査前日に患者情報を専用のデータベースに入力しています。初めは、記録簿等のＲＩ管理としての運用が目的だったのですが、今では患者情報を記した用紙を印刷し、看護師さんの確認のために役立てています。また、投与間違いを防ぐために、薬剤の種類によって文字色を変える工夫をしています。間違いを防ぐために様々な手を講じますが、慣れによる確認不足が生じてはいけません。確認を疎かにしないために、意識を持たせる工夫をしていきたいと思います。
「目でヨシ！手でヨシ！声でヨシ！指差し呼称」



松山赤十字病院は今年で開院100周年を迎えました。これからも皆さんに愛される病院であり続けたいと思います。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 水戸赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年7月26日　Vol.77

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

水戸赤十字病院　放射線科部　澤田 泰孝　海老沢 平司

TEL 029-221-5177　E-mail houshasen@mito.jrc.or.jp

あいさつ・・・

当院は、茨城県の県庁所在地である水戸市にあります。
水戸といえば黄門様。そして偕楽園が有名です。
「水戸を離れて東に三里、波の花散る大洗」
福島原発事故の影響より海水浴客が激減しましたが、
昨年より徐々に戻りつつあります。

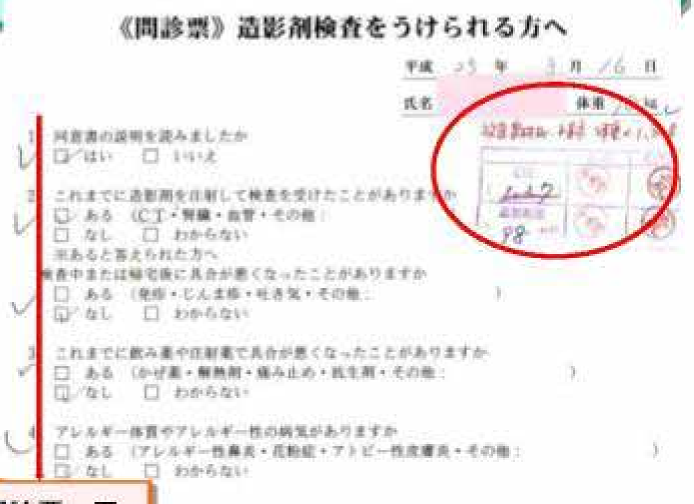
ウチの取り組み！

CT検査において、腎機能が低下した患者に対し適正な造影剤量を投与することは、造影剤腎症のリスクを低めることであります。しかし、指示の確認を怠ったことにより過剰投与の事例が発生したため、医療安全管理者・看護師・放射線技師で協議を行い、問題点と改善方法について検討しました。

事例は、放射線科医への1.2を超えたCRE値報告と、造影剤減量指示を担当する技師、それを再確認する看護師間の連携ミス。更に、インジェクターに入力する投与量の再々確認を怠ったことが原因でした。

問題点は、医師の指示が口頭のみで、技師・看護師も各々がカルテと問診票に記載するだけだったことでした。改善方法として、問診票に医師の指示を赤字にて明文化し、チェックリストの改善とCRE値記載・投与量の記載・入力量チェック後、各々が確認サインをする箇所を追加することにしました。

改訂



《問診票》造影剤検査をうけられる方へ

平成 25 年 3 月 16 日

氏名

1 同意書の説明を読みましたか　□はい　□いいえ

2 これまでに造影剤を注射して検査を受けたことがありますか　□ある（CT・腎臓・血管・その他）　□なし　□わからない

※あると答えられた方へ　検査中または検査後に具合が悪くなったことがありますか　□ある（発疹・じんま疹・吐き気・その他）　□なし　□わからない

3 これまでに飲み薬や注射薬で具合が悪くなったことがありますか　□ある（かぜ薬・解熱剤・痛み止め・抗生剤・その他）　□なし　□わからない

4 アレルギー体質やアレルギー性の病気がありますか　□ある（アレルギー性鼻炎・花粉症・アトピー性皮膚炎・その他）　□なし　□わからない

再発防止に向けて！

CTのみならず、造影剤を使用する検査では、問診票・同意書の確認を技師・看護師でダブルチェックしています。

また、モダリティに関わらず、定期的に三者協議を行い、確認項目の見直しや事務方を含めたスタッフ間で患者情報の共有化を図り、安全対策に努めていきたいと考えます。

技師長から一言

福島第1原発事故以降、放射性の塵（？）の付着により、CRのIPに異常斑点カブリが半年以上続きました。消去処理に苦慮したが、やっと落ち着いてきました。
しかし、毎朝の一次消去は続けています。

次は　横浜市立みなと赤十字病院 からお知恵拝借！！

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

平成25年8月2日　Vol.78

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

横浜市立みなと赤十字病院　放射線科部　藤野　香緒里
TEL　045-628-6100　E-mail　k-fujino.radio@yokohama.jrc.or.jp

当院は横浜中華街にほど近く位置し、横浜市より日本赤十字社が指定管理者に指名されている、全国の赤十字病院の中でも珍しい市立病院です。
救急車の受け入れ台数は年間1万台以上、全国でもトップクラスであり救急医療に力を入れてます。また、免震構造であり、船着き場・ヘリポートを有し、陸海空と地域の災害拠点病院としての使命を果たしています。
病院の最上階からは、みなとみらいの夜景が一望でき、夏には山下公園の花火大会を楽しむことができます。

ウチの取り組み！

当院では、マンモグラフィー装置を更新した際、操作に不慣れなこともあり、左右逆のマークをいれてしまうというインシデントが発生しました。
再発防止に向け、視覚的に分かりやすいように工夫を行いました。①　FPDの左右（図１）、②　操作コントロール（図２）　③　管球の左右支柱（図３）　の３ヶ所に左右で色分けしたシールを貼って、確認しやすくしています。

①

②

③

再発防止に向けて！

当院ではインシデントが発生した場合、インシデントレポートを提出し、その内容をまとめ、技師全員で共有しています。重要事項などは、院内メールにて即座に配信し注意喚起を行ってます。
また、最近では様々な医療機器の品質管理も医療の質を高めると考え、放射線科内で画像品質管理委員会を立ち上げました。特に、高精細モニターに関しては、病院内にある全てのモニターを半年に１回の頻度で品質管理が行えるようチェック表を作ったり、各モニターの使用時間を調べ、極めて使用時間が多かったモニターには電源をこまめに消すよう注意喚起を促すシールを貼る等しています。

今後は、理学療法士の方に、患者様の負担が少ない移動方法について講義を開いてもらうなど、他部署とも連携を図り、患者様により良い医療を提供するため日々努力をしたいと思っています。

担当者から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　三原赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年8月9日　Vol.79

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

三原赤十字病院　放射線科部　安藤能孝

TEL　0848-64-8111　E-mail　houshasen@mihara.jrc.or.jp

ごあいさつ

MIHARA RED CROSS HOSPITAL

当院のある三原市は、広島県東部に位置し、観光都市として有名な尾道市のお隣になります。山陽新幹線と在来線が乗り入れるJR三原駅から東へ10分間歩くと，平成22年10月に新しくなった三原赤十字病院に着きます。８人（女２，男６）の技師で赤十字理念のもと，さまざまな医療活動に取り組んでいます（＾＿＾）。
先月は病院機能評価（G3_Ver.1.0）を受審しました。
（病院HP　⇒　http://www.mihara.jrc.or.jp）

総合病院　三原赤十字病院
創立：昭和27年4月1日　病床数：226床

ウチの取り組み！　⇒確認の手間を惜しまない！

当放射線科部へ検査に来られる方は、**①受付時②撮影室へ呼び入れ時③撮影時**の計３回、名前を確認されることになります。しかも、本人に名乗って頂くことにしています。以前は診察券のみで確認しておりましたが，違う方の診察券を持って来られる事例が何回か続いたので、この方法を採用しております。
３回も確認するのは非効率かもしれません。しかし、**「安全推進に『効率性』と『見返り』はない！」**という理念を共有し、**手間を惜しまない**確認作業を行っているお陰で、確認ミスによる事故は起こっていません。

↑装置の確認画面も利用

こんな案内も(受付)→

再発防止に向けて！

← 検査室入り口に非磁性体点滴台を設置
わかりやすくテープを巻いてみました！

昨年、MRI検査において点滴台の吸着事故が発生しました。
当院のMRI室は、操作室側から入室する構造なので、技師による確認が容易となっています。しかし、装置画面の操作に気を取られ点滴台のチェックを怠ったのが原因で起きてしまいました。被験者に危害は及ばず、すぐに復旧できて事なきを得ましたが、反省会を開き、①安全確認の徹底と②非磁性体の点滴台を検査室入り口の目につきやすい場所に移動することにしました。
確認の手間を惜しまないことの重要性を再認識させられる事例でした。

料理でも何でも手間を惜しまず相手を想って
仕事をするのがプロと言うものよ！
安全推進に見返りは無いが，取り組む自分を
褒めてやることが長続きの秘訣かな？

三原名産の**タコ**さんから一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　盛岡赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年8月16日　Vol.80

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

盛岡赤十字病院　医療技術部放射線画像診断技術課　新田　仁

019-637-3111

あいさつ・・・

当院は、岩手県のほぼ中央にある盛岡市南部に位置し、東に北上川、北に岩手山を望みます。

盛岡といえば、「盛岡冷麺」「わんこそば」「じゃじゃ麺」の三大麺が有名です。

そして、一昨年世界文化遺産に登録された平泉の金色堂。自然に文化においしい食べ物が盛りだくさん。

皆さん是非一度遊びに来てください！！！

ウチの取り組み！

今の時代、電子カルテやRISにより、腎機能や造影剤使用履歴などはごく一般的に閲覧・管理されていますが、当院では平成10年から、自作自前のRISでCT・MRIのオーダーを予約管理してきました。その中に造影剤使用記録帳をリンクさせ、検査使用時に履歴やアレルギーの有無を確認し、技師と看護師で情報を共有して副作用軽減に努めてきました。

検査時も、丁寧な問診で副作用履歴が無いか確認してますが、最近某医薬品メーカーのサイトから『造影剤副作用カード』をダウンロードし、副作用が出た患者さんに渡すようにしました。これなら他の病院での検査も一目で分かりますね！！

P.S.昨年の11月に電子カルテが更新され、RISもパワーアップしました。

再発防止に向けて！

新人の看護師、看護助手等、不慣れな職員が過去にMRI非対応の車椅子にて入室しそうになった事例がありました。そこで、放射線科医師によるMRIの安全講習に加え、吸着事故を防ぐために、車椅子のみならず点滴架台等のMRI対応物には黄色のテープを貼り、明示しています。さらに、MRI室前の廊下や検査室のドアに注意喚起のポスターを貼り、安全なMRI検査に努めています。

当院のマスコット
"カルガモちゃん"
今年はなんと3家族もやってきて、計22羽のヒナが誕生しました。
患者さんだけでなく、職員の癒しの存在となっています★

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

次は　山口赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療事業部 医療課

平成25年8月23日　Vol.81

医療安全 知恵の輪！

～放射線部門安全編～

山口赤十字病院　放射線科部

TEL　083-923-0111　E-mail　houshasenbu@yamaguchi-redcross.jp

あいさつ・・・

大名・大内氏が京都にならって築いた町「西の京・山口」。日本三大火祭りのひとつとして知られる「山口七夕ちょうちんまつり」は、祖先を祀った大内氏の盆ちょうちんがいつしか庶民の間に広まった、幻想的なお祭りです。山口赤十字病院は、栄華を極めた大内文化が伝わる山口市で、中核病院として地域医療に貢献しています。

ウチの取り組み！

発生したインシデントに対して迅速に対応するため、週に一回のミーティングで、提出されたレポートを技師全員に紹介し、発生した要因や対策について話し合っています。必要ならば、担当している技師に勉強会やレクチャーを依頼することもあります。
先日も夜間救急時の造影CTで、造影剤が点滴ボトルに入ってしまったアクシデントが発生し、CT担当技師による造影剤のつなぎ方や三方活栓の確認の仕方の勉強会を開催しました。

再発防止に向けて！

当院では、昨年3月にオーダリングシステムが更新され、RISが導入されましたが、導入前より、患者間違いのミスが年間に数件発生していました。
そこで、患者受付の仕方を見直す良い機会であると考え、撮影リストから患者さんの名前を選択する（クリックする）動作を一掃し、必ずバーコードリーダーか、IDカードリーダーを用いて撮影患者を選択することを徹底しています。それにより、患者さんのお名前の聞き間違いや、同姓同名患者の間違いもなくなり、患者誤認ゼロを目指しています。

インシデントが発生したら、迅速な対応・対処が必要ですので、新人や若年の技師には、患者の安全を確保した上で速やかに上司へ報告するように指導しています。また、発生した問題に対しては、個人を責めるのではなく情報の共有や再発防止が目的であることを知ってもらい、報告しやすい職場づくりを目指しています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

次は　伊勢赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年8月30日　Vol.82

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

伊勢赤十字病院　医療技術部放射線技術課　大山　泰
TEL　0596-65-5337　E-mail　raidtec@ise.jrc.or.jp

あいさつ　・・・

当院は、平成24年1月の病院新築移転に伴い、「山田赤十字病院」（旧名称）から「伊勢赤十字病院」という新しい名称になりました。
「地域完結型」の医療を目標にし、『地域を一つの病院と考えた伊勢志摩病院構想』など、地域に根付いた医療を展開しています。

伊勢神宮

伊勢神宮

伊勢赤十字病院

ウチの取り組み！

「安心・安全な医療」を実現するため、診療放射線技師の全員が参加し、積極的に取り組んでいます。
たとえば、患者間違えを防ぐためにバーコードによる識別と、患者本人に「氏名と生年月日」を言って頂くことでダブルチェックを行い、より確実な本人確認を行っています。
また、検査部位や内容についても、項目ごとに「指差し呼称」で声に出して確認することで、ケアレスミスを防ぐ努力を行っています。

再発防止に向けて！

インシデントが発生した場合には、時間を空けず、診療放射線技師全員がインシデント分析に参加し、グループごとにＫＪ法や４Ｍ分析などの分析手法を行い、再発防止策を検討しています。
具体的な対策については、ＴＱＭの手法等も活用し、より確実な対策を講じて日々の医療安全を心がけています。
たとえば、検査時の不注意なミスを防ぐためのチェックシート代わりに、独自に「確認丸」というツール（右図参照）を作成し、各操作卓に置き、毎検査時に利用し、成果を上げています。

一般撮影の確認丸

すべてのモダリティーで活躍している
伊勢赤十字病院の「確認丸」です。

モダリティーごとに姿を変え、
「安心・安全な医療」のために、
日夜がんばっています。

確認丸

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　山梨赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年9月6日 Vol.83

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

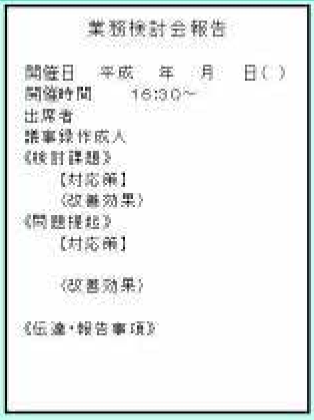
日本赤十字社和歌山医療センター　放射線技術第三課 放射線技術第二係長　川村 佳生

TEL 073-422-4171　E-mail wakayamamchousya@kankyo.ne.jp

日本赤十字社和歌山医療センターです。「暴れん坊将軍」でおなじみの八代将軍吉宗が、将軍になる前に藩主をつとめた和歌山城のすぐそばに位置します。平成24年８月、新本館および付帯工事が終了し、職員一同建物に負けないように頑張っています。

ウチの取り組み！

月に一度、業務検討会を行っています。出席者は放射線科部の部長・技師長・課長・係長、看護師長・係長の16名です。各係よりヒヤリハット報告が行われ、改善が必要と思われる案件については、問題提起や検討課題として対応策を考えます。そして、翌月には対応策に対する改善効果を確認しています。同時にそれぞれの部署や院内の伝達・報告事項を共有し、その内容はすみやかに「業務検討会報告」としてまとめられ、放射線科部の職員に供覧されています。

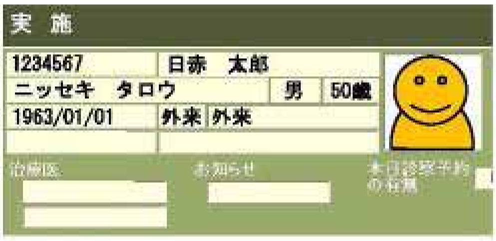


業務検討会報告

開催日　平成　年　月　日( )
開催時間　16:30〜
出席者
議事録作成人
《検討課題》
【対応策】
〈改善効果〉
《問題提起》
【対応策】
〈改善効果〉
《伝達・報告事項》

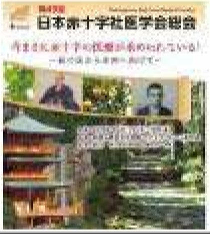
事故防止に向けて！

画像診断で使用するＸ線より、はるかに強い放射線を人体に照射する治療部門では、患者取り違えがあってはなりません。当センターでは、放射線治療開始の初回から５回目までは本人に名乗ってもらい、6回目以降、毎回患者さんと技師が治療RIS画面で「顔写真・氏名・生年月日」の確認を一緒にしています。



治療RIS画面の一部です

平成25年10月17日(木)18日(金)の二日間、第49回日本赤十字社医学会総会が和歌山で開催されます。皆様のお越しをお待ちしています。



詳しくは HPで　日赤医学会　検索

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 芳賀赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年9月13日　Vol.84

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

芳賀赤十字病院　放射線科部　係長　山田　隆幸

TEL　0285-82-2195　E-mail　haganissekixp@gmail.com

当院は、栃木県の南東部に位置し、東に連なる八溝山地、西に流れる鬼怒川を抱える自然環境豊かなところです。ここ真岡市は古くから、芳賀地方の政治、経済、文化の中心的役割を担い、江戸時代には「真岡木綿」の特産地として全国にその名が知られていました。現在では、ＳＬの走る里としてもよく知られるようになりました。一市四町で約15万人の医療圏となります。

ウ チ の 取 り 組 み ！

芳賀地区の二次救急医療の中心的役割を請け負っており、前年度の救急車の受入数を見ますと、月平均330台と県内4番目に多くの救急車を受け入れております。時間外は当直体制で対応してますが、ＭＲＩ・アンギオ等の特殊撮影は担当技師の呼出で検査を行っています。
また、院内の緊急呼出通報として、患者が検査等で急変した時に応援を要請する時は『ブルーコール』、職員に危害が及ぶような事態の時には『レッドコール』を設定し、いち早く職員が現場に急行出来る応援体制を整えています。

再 発 防 止 に 向 け て ！

業務上のインシデント・アクシデントは、無いに越した事はないのですが、自分が従事した検査で、院内初の『ブルーコール』を発令した事がありました。総胆管結石の患者の、内視鏡下の検査でＥＲＣＰを施行中に起きました。検査を始めてから1時間位が経ち、終盤に差し掛かるところでやっとカテーテルが挿入出来ましたが、検査初めから体動が激しく、鎮静剤を多く投与していました。体格が大きいこともあり、さらに鎮静剤を追加したところ、急変し心肺停止（CPA）状態となりました。検査には医師５名、看護師2名と自分が居ましたが、突然CPAとなったことから『ブルーコール』を発令しました。このあと救急室に移動後救命処置を続け、自発呼吸は戻りましたが意識は戻らず、後日大学病院に転院となりました。

このアクシデントが起きたのは、時間外の18:00頃の発生でしたが、研修会や資料の配布等により周知していたこともあり、『ブルーコール』の放送を聞いた職員が20数名が駆けつけてくれました。みんなが集合して頂き、大変心強く感じました。　<m(_)m>

やまだ　から一言

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　益田赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年9月20日　Vol.85

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

益田赤十字病院　放射線科部　技師長　増野　利政

TEL　0856-22-1480　E-mail　houshasenka@masuda.jrc.or.jp

あいさつ ・・・

当院は島根県の西の端に位置し、隣は萩市、又西の小京都、津和野町に接した自然豊かな場所にあります。
当院は平成２７年秋に開院をめざし、新築移転の計画が進行中です。
放射線科部でも、新病院で縮小される放射線科関連エリアの効率的な運用をめざし、新規及び移設する機器の選定をしています。限られた予算の中でオーバースペックにならないように現在の検査内容を確認しながら行っている最中です。

持石海岸

ウチの取り組み！

放射線科部では、職員の放射線被ばくの防止のために、今まで放射線科部以外で独自に購入管理していた放射線防護用プロテクターを、今年度より放射線科部の一元管理としています。定期的に破損状態を調べ、使用禁止措置や更新を行っています。
また、破損状態の確認には従来のX線透視ではなく、プロテクターに垂直にX線が入射し全体が一度に確認できるＣＴのＣＲ機能を利用し、撮影したＤＡＴＡをパソコンに保管しています。

その他の取り組み

最近、当院でもＭＲＩ対応ペースメーカーの埋め込みが行われるようになりました。休日夜間の急患への対応が必要と考え、循環器、放科各医師、ＭＥ、放射線技師がメーカーが行っているＷＥＢでの講習を受け、対応を行っています。過去に２～３名検査施行しました。

津和野町

とにかく現在は、通常業務に加えて新病院開院に向けて機種選定の為、メーカーにお願いしての勉強会や各撮影室・放射線科診察室・読影室・職員休憩室等のレイアウト決定など忙しくも楽しみながら行っています。
完成後、近くにお越しの際は、見学がてらお寄りください。

新病院

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　大森赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年9月27日　Vol.86

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

長野赤十字病院　中央放射線部　佐藤 浩一

℡ 026－226－4131　E-mail tyuhobu@nagano-med.jrc.or.jp

ウィンタースポーツ好きな貴方、温泉好きな貴方、山ガールの貴方、おそばが大好きな貴方、そんな貴方を満足させる場所、それは長野市。
善光寺のお膝元、長野市に当院はあります。白馬、志賀高原、戸隠などへ1時間程でアクセスできます。空気がおいしく、緑がいっぱいとても良いところです。

ウ チ の 取 り 組 み ！

当院は７００床あり、ポータブル撮影は一日約３０～４０件、多い日は６０件以上あります。
ポータブル撮影時の取り決めとして、

○必ず看護師に介助についてもらうこと。
○一人撮影ごとに手指の消毒、カセッテ、グリッドの消毒をする。
○同じ病棟内の場合、撮影の順番を看護師に確認する。

我々技師は患者さんの情報、状態等知らないことばかりです。
以上のことを徹底することにより、より安全に安心して苦痛も少なく撮影できますし、患者さんや、自分自身の感染予防にもなります。

再 発 防 止 に 向 け て ！

ポータブル撮影において、患者間違い、撮影部位間違い、二重曝射等の事例は、少ないですが起きています。
今年度秋にＦＰＤ（フラットパネルディテクタ）導入予定です。現在はＣＲで撮影を行っていますが、ＦＰＤで撮影を行うことで、患者間違いと二重曝射は起こりにくくなります。ゼロになるようがんばります。

～初心忘れるべからず～
物事に慣れてくると、慢心してしまいがちです。始めたときの新鮮で謙虚な気持ち、志を忘れずに努めていくことが大切であると思います。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 沖縄赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年10月4日　Vol.87

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

沖縄赤十字病院　放射線科部　氏名　上地　励

TEL　098-853-3134　治療室内線　(1189)

初めまして!
沖縄赤十字病院は、平成22年7月に病院、支部、血液センターの3施設の合同移転により機能を集約した「ゆいクロス」として生まれ変わりました。
「ゆいクロス」には、相互扶助を実践する沖縄の「ゆいまーる精神」と、人間の生命を守る活動を実践する赤十字を重ね、新しい赤十字の施設が「沖縄」と「世界」を結びつける施設になって欲しいという願いが込められています。
軌道に乗りつつある今、院長を先頭に職員一同、一丸となって地域で信頼される病院を目標に努力邁進して参ります。

ウチの取り組み！

当院放射線治療室では、患者・部位の誤認防止対策として、患者が放射線科受付に来てから照射に至るまでに最低6回の本人確認を原則としています。中でも特徴なのが、治療 - RIS端末に表示される治療サマリにて患者情報、顔写真、ポジショニング写真での確認が功を奏し、現在のところ治療室での取り違えはゼロです。

再発防止に向けて！

治療も終盤に差し掛かると患者さんと顔見知りになり、つい事務的な受付を怠り会話を交えて手作業での操作になりがちです。受付で取り違え、治療室に来て確認したら機械で照合されないということがありました。そこで、必ずバーコードで読み取り、ファイルの中身をチェックするということに心がけるようにしています。
いくら優秀なシステムでも、使用上必ずミスは起こるものだと心において、日々の業務に臨んでいます。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

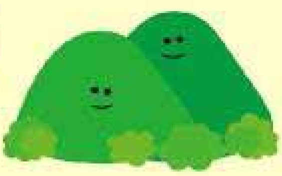
医療事業部 医療課

次は　栗山赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年10月11日　Vol.88

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～



栗山赤十字病院　放射線科　氏名片岸　賢

TEL　0123-72-1015　E-mail　housyasenka@kuriyama.jrc.or.jp

栗山町は人口約1万3千人の自然豊かな町で、道都札幌市や苫小牧港
新千歳空港からそれぞれ約1時間の道央圏に位置し、道内各地からの
アクセスの良さも魅力となっています。
当院は、一般病床96床、療養病床40床で内科・消化器科・外科・整形外科・
人工透析を中心に、一次救急の受け入れなど周辺地域の拠点病院となって
います。
放射線科は一般撮影をはじめCT・RI・エコー・X-TV等のモダリティーがあり、
4名の技師と1名の補助スタッフで構成されています。

栗山町
Kuriyama Town

ウチの取り組み！

栗山町も高齢化が進み、当院の患者様も高齢の方が増えてきております。そのような状況の中、転倒・転落のリスクも高くなっており、病院の基本設計も古いためなかなか対策をとれずにいました。今回、放射線科内での転倒・転落防止対策を行いましたのでご紹介致します。
まずは、撮影室の出入り口に段差があったため、これを撤去しバリアフリーとしました。
また、患者様の移乗に少人数でも安全に出来るよう、パットスライドを導入しました。
両対策とも患者様、スタッフともに好評を得ております。

再発防止に向けて！

当院もPACSを導入して約3年がたちました。当初は不慣れなモニターでの検像作業、さまざまな確認の不備がありましたが、その積み重ねにより「どこで」「何を」確認すれば効率よくミス無く出来るのか、形が出来上がってきました。日々の積み重ねの大切さですね。

高齢化が進み、年々介助が必要な方が多くなっていくように感じます。小さな町ですので、みんなが何かしら繋がっていると感じます。患者様に寄り添った安全対策を進めたいと思います。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は　庄原赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年10月18日　Vol.89

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

庄原赤十字病院　放射線技術課　松本 頼明
TEL　0824-72-3111　E-mail　yori_8592_8592@yahoo.co.jp

あいさつ・・・
庄原（しょうばら）市は広島県北東部に位置し、西日本最大級の面積に約四万人が暮らす、自然豊かな町です。また、中国山地にも属しており、市域の一部は豪雪地帯にも指定されるほど、冬の寒さが厳しい所としても知られています。（ホント寒い!!）

病床数は310床と中規模病院ではありますが、隣接する岡山、島根、鳥取県からも地域の急性期医療を担う中核病院「最後の砦」として、全職員使命感を持って日夜業務に取り組んでいる病院です。

完成した新棟の一部

ウ チ の 取 り 組 み ！

これまで放射線科部門では、インシデントおよびアクシデントの報告件数が他部門と比べ、少ない傾向にありました。その理由の一つに、報告書の記入形式が煩雑であり、全ての事例を記入しきれていないことが考えられました。そこで、報告書の記入形式を見直し、報告書の提出を徹底することで医療安全の重要性を再認識する機会を得たのでご紹介いたします。

まず、統一されていた報告書を、最もグレードの低いインシデント報告書とそれより高いグレードの報告書に分類しました。インシデント報告書は、各モダリティで発生しやすい事例を挙げ、それをチェックするだけの形式としました（事例外は手記入）。これにより記入の手間も省け、容易に報告書を提出することが可能となりました。一方、高いグレードの報告書は、発生の状況を時系列に記入し、その後の対応、発生の要因、防止策、所属長の指導の項目を設け、具体的かつシンプルな記入形式としました。

今 後 に 向 け て ！

報告書を改定した現在、インシデントの報告件数が大幅に増加しました。今後、部門内外でこの報告結果を分析し、検討することで未然にアクシデントを防ぎたいと考えています。

インシデントレポート

一般撮影　　　____年_月_日

- □ 名前 間違い
  - □ 修正無し
  - □ モダリティ内で修正
  - □ サーバーで修正
- □ 撮影部位 間違い
  - □ 修正無し
  - □ モダリティ内で修正
  - □ サーバーで修正
  - □ 再撮影
- □ マーカー・回転 間違い
  - □ 修正無し
  - □ モダリティ内で修正
  - □ サーバーで修正
- □ その他・気付き

二棟ある新棟も完成に近づき、機能性の向上も期待してるよ!!

地元のゆるキャラ（笑）

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

次は　大森赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年10月25日　Vol.90

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大森赤十字病院　放射線技術課　樋口　新一
TEL　03-3775-3111　E-mail　x-ray@omori.jrc.or.jp

大森赤十字病院は改築工事を2期に分けて行い、平成22年5月に第1期分の新病院が開院し、平成23年10月に344床で全面開院しました。
地域の医療の中で、一人でも多くの方に役立つ病院を目指しています。

大森には、京浜工業地帯として多くの工場があります。また、日本における考古学発祥の地である大森貝塚があります。
ご興味のある方はぜひ・・・

ウ チ の 取 り 組 み ！

当課では、造影ＣＴに５種類の造影剤を使用しています。また、造影剤のインジェクターへのセットは看護師が行っています。
造影剤をあける際に、技師と看護師で口頭での確認を行います。技師がRISの会計入力と台帳記入、看護師が薬品請求伝票の記入をしていましたが、業務終了時に使用数が合わない事が何度かありました。そこで、造影剤使用の際に看護師から技師へ造影剤の袋を手渡しし、所定の場所に残しておき、午前・午後の検査と分けて１日２回のチェックを行うようにしました。
前日の当直分の造影剤の袋も翌日の午前分として残してある為、現在のところ請求ミスはおきていません。

再 発 防 止 に 向 け て ！

一般撮影において色の違った２種類のＣＲカセッテがある為、写真のように左右で使い分けています。
目で確認することが可能なので、左右の間違いがほぼ無くなりました。
また、複数で撮影に入った際の、途中の撮影補助についても間違いが起こりにくくなっています。

その他、小児の撮影の際に正側・立臥位での使い分けも行っています。

ヒューマンエラーを無くすることは不可能です。いかに事故を減らすか。期限の無い課題ですが、他部署とも連携を密にし、医療安全に取り組んでいきたいと思います。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

次は 山梨赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年11月1日　Vol.91

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

山梨赤十字病院　放射線科　小谷 大介　東重 咲

TEL 0555-72-2222　E-mail　housyasenka@yamanashi-med.jrc.or.jp

あいさつ　・・・

私たちの山梨赤十字病院は、国内唯一の国立公園内にある病院です。富士山麓の自然豊かな環境に立地し、県内唯一の赤十字医療施設として、地域住民と共に歩みつづけています。

2次医療圏における夜間の救急医療を、隣接の市立病院と内科系・外科系１日交代で担うと共に、循環器系疾患患者の24時間受け入れ態勢の整備、NICUの開設など、質の高い安全な医療の提供を目指しております。

また、昨年より電子カルテとPACSを導入し、運用を開始しております。

ウ チ の 取 り 組 み ！

一般撮影室二台、CT一台、MR一台、血管撮影一台、X線TV二台、ポータブル二台、マンモ一台、検診車一台で業務を行っています。そして、平日休日に関わらず技師7名が交代で当直業務にあたってます。

昨年の10月に電子カルテの運用となり、放射線科でもRISの導入でフィルムレスに移行。一般撮影では撮影方法の統一化を図っています。

また、患者撮影の間違えを予防するために、外来患者の持つ基本票や入院患者のリストバンドに書いてあるIDと氏名、バーコードを撮影前に確認しています。

撮影する際には患者本人に氏名と生年月日を言って頂き、ダブルチェックをしています。

CT、MRでは、MWMから患者情報取得後、指さし確認なども行っています。

また、建物の設計上、患者様の状態や急変時などに対して各撮影室や廊下からの死角が多く、人数の把握や素早い対応ができませんでしたが、電子カルテ導入と同時にWEBカメラを設置し、一つのモニターであらゆる方向から患者様を把握できるようになり、緊急時の確認が早く対応可能になりました。

再 発 防 止 に 向 け て ！

5年前にMRIに車いすを入れてしまう事故が発生してしまい、再発防止に向けて技師一人ひとりの意識を高めるとともに、金属探知機を使ってのチェックや患者様への問診、検査前に注意事項をお配りして読んでいただいてます。また、金属探知機が必ずしも正確ではないので過信せず疑いがあるときなどは、頭部、胸部、腹部などのレントゲンを撮影し体内の金属、過去の手術（クリップ、脳動脈コイル、人工弁、ステントなど）がないことを確認して撮影にはいるようにしています。

また、体内金属が入っている患者様には、次回検査するとき技師全員が情報を共有できるようにRISに反映させるようにしています。

今年は富士山世界遺産登録年
これからも山梨赤十字放射線科をよろしくおねがいします。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
医療事業部 医療課

「院内感染対策　知恵の輪！」は先週号を以て、「医療安全・知恵の輪！～放射線部門安全編～」は今週号を以て最終回となります。感染管理担当者の皆様、日本赤十字社放射線技師会の皆様、ありがとうございました。

60周年記念誌編集後記

創立 60 周年の節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できますことを心よりうれしく思うところであります。無事に記念誌の発行ができ、ご協力いただいた皆様に感謝をいたします。

今回の記念誌作成にあたり 50 周年記念誌を参考にしながら、継続性を持たせる様に刊行の準備をいたしました。主に55周年から60周年の間の出来事を掲載しております。

特集といたしまして【MRIの最新技術と安全性について】というテーマでモダリティーメーカー4社とMRI対応ペースメーカーの国内販売をしている3社に、ご協力をいただき編集いたしましたので、各施設で参考にしていただければ幸いです。

日本赤十字社診療放射線技師会は、昭和 28 年に設立され日本赤十字社診療放射線技師会を支えた諸先輩方から、引き継がれ現在に至っております。諸先輩方の功績とありがたみを考えると、60年間の歴史の意義の大きさを改めて痛感しております。

最後に当記念誌の編集にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきました皆様方、記念誌作成に終始ご尽力いただいた編集委員に心から感謝申し上げます。

平成26年4月　武蔵野赤十字病院　荒井　一正

編集委員
佐藤　恒輔
安廣　春佳
高山　慎吾
齊藤　大輝